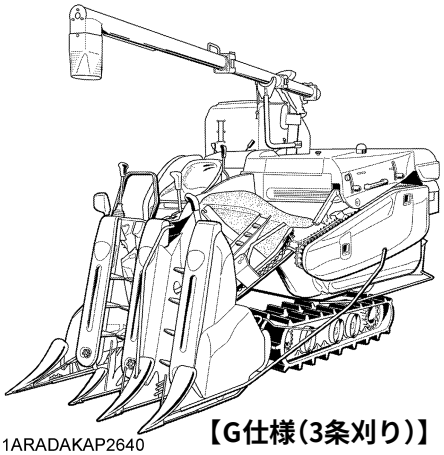
クボタコンバイン

取扱説明書

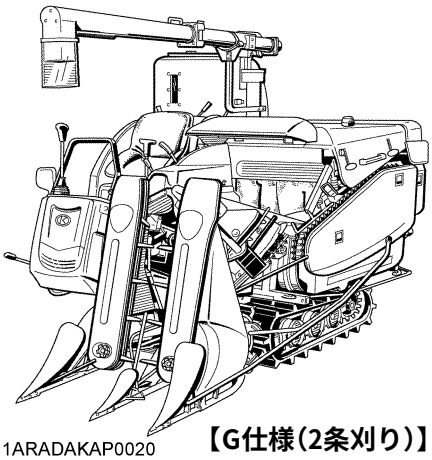
エアロスター ジョイカム

AR317

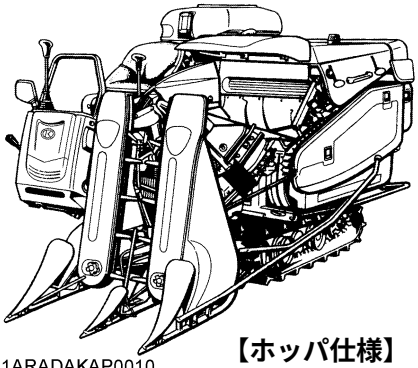
AR211・213・216・217



1ARADAKAP2640 【G仕様(3条刈り)】



1ARADAKAP0020 【G仕様(2条刈り)】



1ARADAKAP0010 【ホッパ仕様】

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

	ホーン
	エンジン回転数“**低回転**”
	エンジン回転数“**高回転**”
	ウインカランプ
	ヘッドランプ
	ヘッドランプと作業灯

	エンジン停止
	燃料

専門用語の説明

● **予熱**	エンジンの始動を容易にするためにエンジンをあたためること
● **パワーステアリングレバー**	機体の操向操作と刈取部の昇降を行なうレバー
● **デバイダ**	こくかんを分けすくい上げる部分
● **ドレーン（プラグ）**	エンジンオイル・トランスミッションオイルの排油栓，ラジエータの水を抜く栓
● **HST**	油圧式の無段変速装置
● **アジャスト**	調節を意味する
● **主変速レバー**	［前進］［後進］の切換え及びそのスピードをコントロールするレバー
● **スローブローヒューズ**	バッテリ近くに設けたメイン回路保護のためのヒューズ
● **１番スクリュ**	精選されたこく粒を横搬送するスクリュコンベア
● **２番スクリュ**	粗選されたこく粒やわらくずを横搬送するスクリュコンベア
● **チャフシーブ（選別板）**	こく粒を粗選する桟状の板
● **トウミ**	選別風を発生させるファン
● **チャフシーブ**	こく粒を精選するあみ体
● **送じん調節レバー**	こぎ胴内の作物移動速度を調節するレバー
● **排じん調節**	選別されたわらくずの排出に抵抗をかける板
● **こぎ胴**	脱こくするドラム
● **フィードチェーン**	稲を狭持搬送するチェーンコンベア
● **縦スクリュ**	精選されたこく粒を縦搬送するスクリュコンベア
● **こぎ胴オープン**	こぎ胴を上に上げる機構
● **揺動板（シーブケース）**	揺動運動してこく粒を選別する装置
● **アンローダ**	グレンタンクからもみを排出する筒

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は本製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され，お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになったあとも製品に近接して保存し，わからないことがあったときには取出してお読みください。なお，品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行なうことがあります。その際には，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ 危険	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警告	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注意	注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。
重要	注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足	その他，使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は，稲・麦の刈取・収穫用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は，保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確かめのうえ，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明は“AR217”を基本とし，“AR217”と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。従って，機種及び仕様区分によっては付いていない装置の説明もあります。

【例】　AR217　G　LW2　N
①　②　③　④

①エンジン出力（刈取条数）によって･･･
- [AR211]（２条刈り）
- [AR213]（２条刈り）
- [AR216]（２条刈り）
- [AR217]（２条刈り）
- [AR317]（３条刈り）

②
- グレンタンク仕様･･･････････････[G 仕様]
- ホッパ仕様･･･････････････････････表示なし

③クローラによって
- ・標準クローラ･･･････････････････表示なし
- ・330 ワイドクローラ･･･････････[W 仕様]
- ・330 ロングワイドクローラ････[LW 仕様]
- ・400 超ロングワイドクローラ･･[LW2 仕様]
- ・400 スーパーワイドクローラ･･[SLW 仕様]

④結束機搭載仕様
（この仕様以外は結束機を装着できません。）

※諸装置の仕様によって（別表参照）

諸装置＼型式		211	213	216	217	317	備考
自動化装置	自動こぎ深さ制御	○	○	○	○	○	
	自動エンジン停止装置	○	○	○	○	○	
	アンローダ自動旋回装置	―	―	○	○	○	G仕様
パワークラッチ〔刈取〕		○	○	○	○	○	
刈取りオートクラッチ〔刈取部上昇時搬送駆動停止装置〕		○	○	○	○	○	
刈取部横スライド装置〔スライドヘッダ〕		―	○	○	○	○	
集中注油装置		―	○	○	○	○	手動
刈取防じんカバー		―	―	―	○	―	

○：標準装備　―：非装備（後付け不可）

目　次

⚠安全に作業するために

1. 安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください..... 1
2. 安全作業するための表示ラベル 23
表示ラベルの内容・貼付位置 23
3. 表示ラベルの手入れ 37
表示ラベルをよく読み理解して,
安全注意事項を守る 37

サービスと保証について

小型特殊自動車について

装置の名称と取扱い

機体方向説明 4
装置の名称と各部のはたらき 5
メインスイッチ 13
アクセルレバー 13
非常エンジン停止レバー 13
主変速レバー・副変速レバー 14
ブレーキペダル（駐車ブレーキ）..... 14
パワーステアリングレバー 15
刈取下降ロックレバー 15
運転席（シート）..... 15
脱こく・刈取クラッチレバー 16
刈取変速レバー 16
左分草かん開閉レバー 16
エンジン停止スイッチ 17
チャフ調節レバー 17
刈取スライドスイッチ 18
刈取オートクラッチ 19
もみ排出クラッチレバー 19
メータユニット 20
コンビネーションスイッチ・
ホーンスイッチ 21

自動化装置の名称と取扱い

装置の名称と各部のはたらき 22
自動こぎ深さ制御装置 22
手動こぎ深さスイッチ 22
アンローダ自動旋回制御装置 23
アンローダレバー 24

運転前の点検

日常点検項目 27

移動走行と輸送

新車時の扱いかた 29
ならし運転について..... 29
エンジンの始動と停止のしかた 29
始動のしかた..... 29
停止のしかた..... 32
移動走行について 33
走行前の準備..... 33
発進のしかた..... 37
旋回のしかた..... 39
停車･駐車のしかた..... 39
道路走行について..... 40
輸送について 41
トラックとあゆみ板の準備..... 41
コンバインの準備..... 41
コンバインの積込み･積降しのしかた..... 41
トラック上での処置..... 43

収穫作業のしかた

作物とほ場の条件 45
作物の条件..... 45
ほ場の条件..... 45
ほ場の準備 46
ほ場の準備..... 46
コンバインの準備 47
準備のしかた..... 47
アンローダの折りたたみ・伸ばしかた..... 52
刈取作業のしかた 56
ほ場の出入りのしかた..... 56
刈取作業の手順..... 57
ほ場の刈りかたと旋回のしかた..... 61
刈取スライド装置の使いかた..... 68
湿田作業のしかた..... 70
作物に合わせた変速の選びかた..... 71
もみの排出のしかた..... 73
手刈り（枕刈り）脱こくのしかた..... 78
作業に合わせた各部の
調整･調節のしかた..... 80
メータユニットによる異常と処置..... 86

メンテナンス

各部のオープン（開閉）と脱着のしかた 89
エンジンルームオープン..... 89
こぎ胴オープン..... 90
カッタオープン..... 91
シーブケースの脱着..... 92
樹脂受けあみの脱着..... 96
カッタ切換えカバーのオープン..... 96
グレンタンクの脱着のしかた..... 97
各部の掃除と注油のしかた 98

目　次

各部の掃除 99
各部の注油 103
定期点検 110
オイル･フィルタ類の交換とチェーン･ベルト･クローラの張り調整 110
廃棄物の処理について 110
洗車時の注意 111
使用者が行なってはいけない修理 111
定期点検一覧表 112
給･注油（水）点検一覧表 117
燃料･オイル･グリースの点検･補給･交換 120
燃料 120
エンジンオイル 121
トランスミッションオイル 122
フィードチェーン駆動ケースオイル 124
こぎ胴駆動ケースオイル 124
ラジエータ冷却水の点検・交換 125
エアクリーナの点検･掃除･交換 126
パイプ･ホース類の点検･交換 128
防じんあみ，ラジエータフィン・オイルクーラフィンの掃除 129
フューエルフィルタアッシの交換 130
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 130
ミッション・HST オイルフィルタカートリッジの交換・ミッションオイルフィルタの洗浄・交換 131
各部ワイヤ・ロッドの点検・調整 133
駐車ブレーキ 133
パワーステアリングレバーの点検・調整 134
もみ排出クラッチワイヤ 135
各部ベルトの点検･調整 136
ファン駆動ベルト 139
走行（ミッション）駆動ベルト 139
刈取駆動ベルト 140
脱こく駆動ベルト 141
トウミ駆動ベルト 141
補助搬送（突起付）ベルト 141
こぎ胴駆動ベルト 142
1 番・2 番・揺動・フィードチェーン駆動ベルト 142
カッタ駆動ベルト 143
グレンタンク駆動ベルト 143
各部チェーンの点検･調整 144
引起しチェーン 145
株元供給チェーン 146
穂先供給チェーン 146
左株元チェーン・右株元チェーン・株元供給チェーン 147
左穂先チェーン・右穂先チェーン 147
フィードチェーン 147
刈刃の点検・調整 148
わら切刃の点検･交換 154
カッタ部の点検･調整 156
カッタ刃の交換 157
吐出口ブーツの点検･交換 160
バッテリの点検･交換 161
電気の各配線コード･各ヒューズの点検･交換 165
ランプ（電球）の点検･交換 166
ホーンスイッチの点検 166
パッカのトルクリミッタの調整 167
反射器の点検・交換 168
クローラの点検･調整 168
刈取スライドの点検･注油 169
スライドガイドの点検･注油 170
刈取作業後の手入れ 170
毎日の作業後 170
長期格納時 171

コンバインの不調と処置

わらが詰まる 173
自動エンジン停止装置がはたらいたとき 173
もみが詰まる 174
アンローダからもみが排出されないとき 174
泥やわらが詰まる 174
株元搬送通路の泥やわらの取除きかた 174
アンローダの旋回異常が発生したとき 175
わらがカッタフレームの右側に乗る 175

付表

主要諸元 176
付属部品 186
オプション（別売品）（純正品を使いましょう） 186
スイスイデバイダ 186
キャノピ 186
アンローダリモコン 186
作業灯ランプ 186
単体標準結束機 187
単体ストンパ結束機 187
35mm・50mm・60mm 切断カッタ 187
カッタ後部標準結束機 187
カッタ後部ストンパ結束機 187
カッタ後付けドロッパ 187
カッタ＋標準結束機 187
カッタ＋ストンパ結束機 187
消耗部品（純正部品を使いましょう） 188
クボタ純オイル 200
オイルはクボタ純オイルをお使いください。 200
クボタスペアグリース 200

⚠ 安全に作業するために　　必ず読んでください

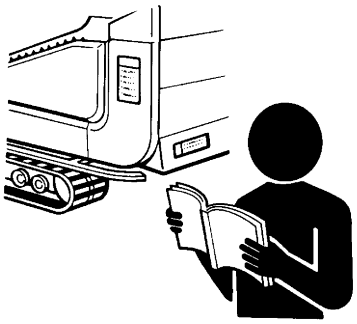
本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

1. 安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください

◆ 一般的な注意事項

⚠取扱説明書及び機械に貼付けている⚠表示ラベルをよく読み，正しい運転，作業方法を覚える。

- 本書記載事項以外についても，安全には細心の注意を払ってください。警告ラベルはいつもきれいにしておいてください。



1BBAAAAAP0280

[守らないと]
死亡又は傷害を負うおそれがあります。

⚠体の状態が悪いときには運転操作をしない。

- 運転操作には的確な判断が必要です。下記状態の方は，機械の運転操作を行なわないでください。
  ・お酒を飲んでる方　・睡眠不足の方
  ・妊娠中のご婦人　　・過労，病気の方
  ・16 歳未満の方

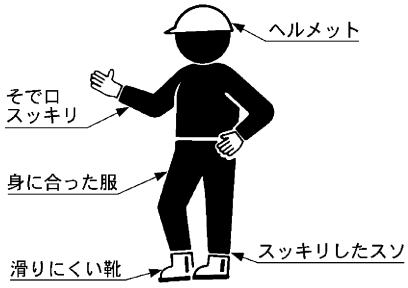
1ARAEABAP0420

[守らないと]
思わぬ事故の原因になります。

⚠運転者，補助者とも作業に適した服を着用する。

- だぶついた服は着用しない。
- そで口はきっちりと止める。
- はち巻き，首巻き，腰タオルは着用しない。
- サンダル，スリッパなどの履物は着用しない。

[守らないと]
レバーや作動部に引っかかったり，滑ったりして，傷害を負うおそれがあります。



1ARAEABAP0450

⚠取扱説明書及び⚠表示ラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させない。

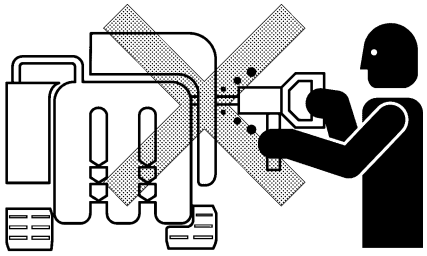
- 機械を他人に貸すとき，運転させるときは，取扱説明書を読ませるとともに，取扱方法や安全な使いかたを説明して，安全な作業ができるよう指導する。

[守らないと]
死亡又は傷害をまねくおそれがあります。

1AAACAAAP008A

⚠機械を改造しない。

[守らないと]
安全性をそこない，思わぬ事故の原因になります。


1ARABAHAP0040

⚠運転者以外は機械に乗らない。

- 動いている機械に飛び乗ったり，飛び降りたりしない。

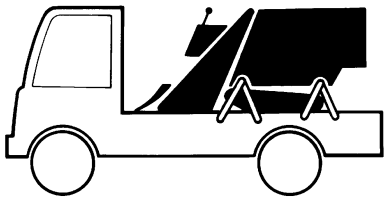
[守らないと]
振り落とされたり，ひかれたりして，死亡又は傷害を負うおそれがあります。

1ASABAAAP3730

⚠公道を走行するときは交通法規や安全ルールを守る。

- 公道を走行する場合は, 所定の手続きと運転免許証が必要です。
- 公道を走行できない機械は，トラックで運搬する。

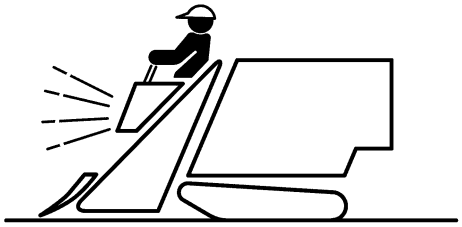
[守らないと]
交通事故をまねき，死亡又は傷害を負うおそれがあります。


1ARAEABAP0440

⚠夜間の作業や移動走行は避ける。

- やむをえず夜間作業を行なうときは, ヘッドランプや作業灯を必ず点灯する。
- やむをえず夜間に移動走行するときは, 必ずヘッドランプを点灯し，作業灯は消灯させる。

[守らないと]
交通事故や転倒・転落をまねき，死亡又は傷害を負うおそれがあります。


1ARAEAAAP1260

◆ 作業前の注意事項

⚠屋内で運転するときは，排気ガスに注意して適切な換気をする。

- 排気管を屋外に延長するか，ドアや窓を開け外気がじゅうぶん入るようにする。

[守らないと]
エンジンの排気ガスは有毒です。中毒を起こし死亡事故にいたるおそれがあります。

1ARAEAAAP0560

⚠燃料補給中は火気厳禁。くわえタバコや裸火照明は近づけない。

- 燃料補給するときはエンジンを必ず止めて，キーを抜く。
- 燃料やオイルをこぼしたときは，きれいにふきとる。

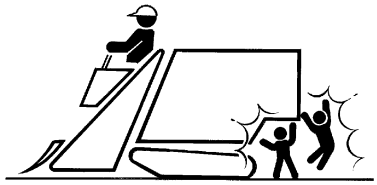
[守らないと]
火災の原因になります。

1AAACAAAP001A

⚠機械を動かすときは周囲の安全に気をつける。

- **エンジンを始動するときは，運転席に座って，主変速レバー，副変速レバーを［N］（中立）位置にし，脱こく・刈取クラッチレバーを［切］位置にして，ホーンを鳴らすなどの合図をする。**
- **機械を発進するときや脱こく・刈取クラッチレバーを入れるときは，ホーンを鳴らすなど合図してから行なう。**

[守らないと]
回転物に巻込まれたり，挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。


1ARAEAAAP0780

- **初めて運転する人は，操作になれるまで低速で運転する。**

[守らないと]
思わぬ事故の原因となります。

1ARAEABAP0580

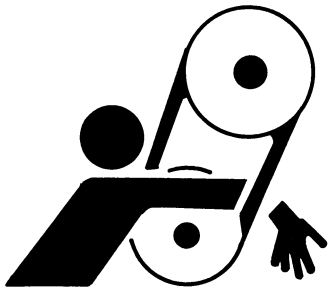
⚠作業前点検（日常点検）を実施する。

■ 運転の前には点検項目（27 ページ参照）の点検を行なう。異常があれば整備してから運転する。

1ARAEABAP0460

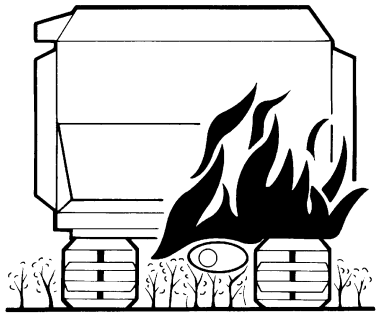
[守らないと]
整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。

■ 点検・整備・掃除・給油するときは，エンジンを必ず止めて，キーを抜く。
■ 取外した安全カバー，保護カバーは必ずもとどおりに取付けて作業する。


1AAAAABAP0180

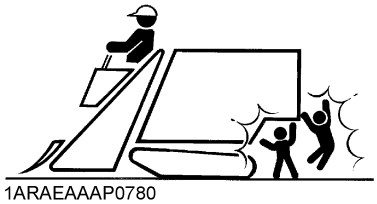
[守らないと]
回動部に巻込まれて傷害を負うおそれがあります。

■ マフラ周辺部，ベルトカバー内，バッテリ周辺にたまっているわらくずはきれいに取除く。


1ARAEABAP0600

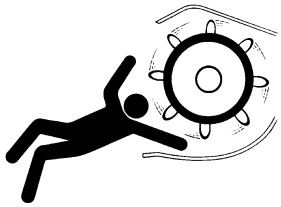
[守らないと]
火災の原因になります。

■ 点検整備中及び作業中は機械に子供を近づけない。

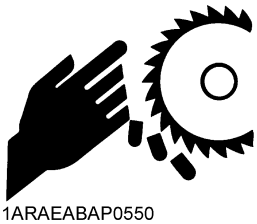

1ARAEAAAP0780

[守らないと]
回転物に巻込まれたり，挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠こぎ胴，カッタ，結束機，エンジンルームをオープンするときやグレンタンクを取外すときは，エンジンを必ず止めて，キーを抜く。

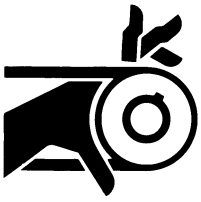

1ASAAAAAP4430

- 各部のオープンやグレンタンク**［G 仕様］**を取外すときは平たんな場所で行なう。
- こぎ胴，カッタ，結束機をオープンしたときは，ストッパを掛ける。
- オープンしたままやグレンタンク**［G 仕様］**を取外したままエンジンを始動しない。


1ARAEABAP0550

［守らないと］
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

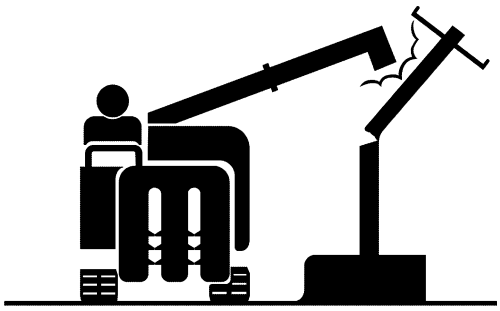
1ASAAAAAP4280

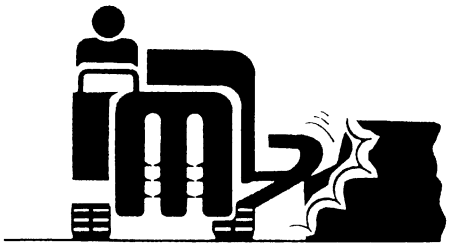

1ARAEAAAP0460

◆ ほ場間の移動走行・ほ場の出入り・駐車時の注意事項

⚠移動走行するときは，次の事項を守る。

- 各作業クラッチを **[切]** 位置にし，運転者以外に人を乗せない。
- もみはすべて排出又は，降ろす。
- 刈取部のデバイダ先端にはデバイダカバーを取付ける。
- 補助デッキ **[ホッパ仕様]**，左分草かんを収納して，機体幅を狭くする。
- 刈取部を右端いっぱいまでスライドさせて機体幅を狭くする。**[213・216・217]**
- アンローダを下げ折りたたんでからアンローダ支えに収納してバンドを掛ける。**[G 仕様]**
- 刈取部を上昇させて，刈取部下降ロックを掛けて下降防止をする。

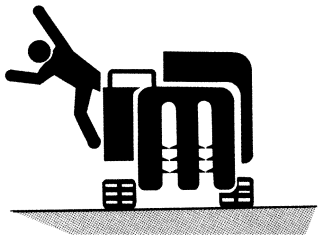

1ARADAFAP3120


1ARAFAAAP4310

[守らないと]
人や物を傷つけたり，機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

⚠移動走行時は急旋回をしない。

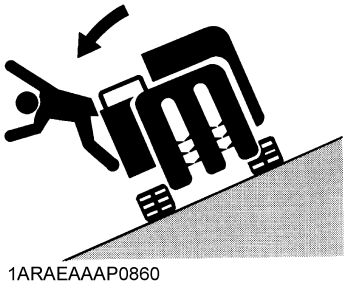
- 方向を変えるときは，走行速度を落として（低速にして），パワーステアリングレバーをゆっくり倒して旋回する。


1ARAEAAAP0870

[守らないと]
機械から振り落とされたり，転倒するおそれがあります。

⚠坂道（傾斜地）では走行速度を落とす。

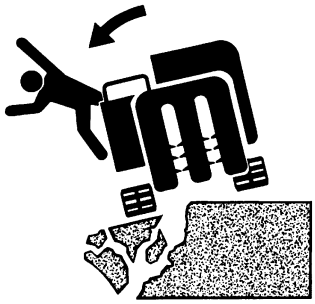
- 坂道（傾斜地）では，パワーステアリングレバー，副変速レバー，ブレーキペダルを操作しない。
- 坂道（傾斜地）では，斜め走行や旋回はしない。


1ARAEAAAP0860

[守らないと]
暴走したり，転倒するおそれがあります。

⚠道幅に余裕がなく高所にある道路（土手）は，走行しない。

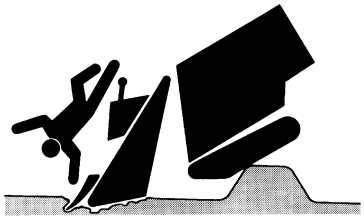
- 溝のある農道や，両側が傾斜している農道は路肩に注意する。
- 溝，穴，土手の近くは走行しない。
- 水溜まりや草のおい茂ったところなど，地面のよく見えないときは，事前に降車してよく確かめる。


1ARAEABAP0500

[守らないと]
機体のバランスをくずして転倒・転落するおそれがあります。

⚠ほ場の出入りで，段差のあるところではあゆみ板を使う。

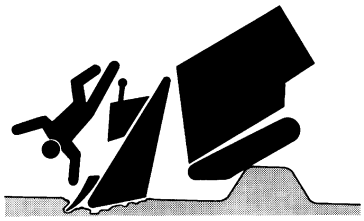
- 10cm以上の段差のあるところでは，段差の４倍以上の長さで基準に合ったあゆみ板を使う。
- あゆみ板は段差に直角に置く。
- もみはすべて排出又は，降ろす。


1ASABAAAP3710

[守らないと]
機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

⚠あぜの乗り越えは低速で直角に進入する。

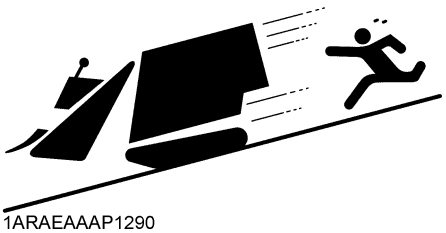
- 10cm 以上のあぜ，又はコンクリートのあぜは，段差の４倍以上の長さで基準に合ったあゆみ板を使う。
- もみはすべて排出又は，降ろす。


1ASABAAAP3710

[守らないと]
機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

⚠駐車するときや運転席を離れるときは，平たんな場所に止め，副変速レバーを［作業］又は，［移動］位置にし，駐車ブレーキを掛け，刈取部を地面に当たるまで降ろして，エンジンを必ず止めて，キーを抜く。

- やむをえず坂道（傾斜地）で駐車するときは，さらに木片などで確実に車止めをする。


1ARAEAAAP1290

[守らないと]
機械が暴走し，思わぬ事故のおそれがあります。

◆ 作業時の注意事項

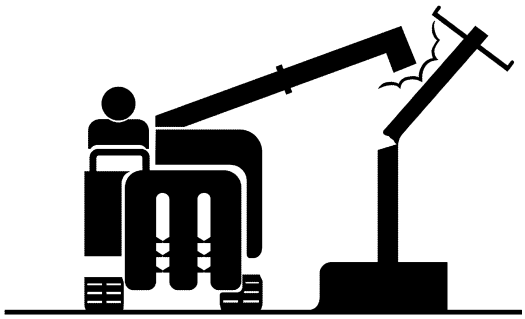
⚠共同作業するときは，ホーンなどで合図を行なう。

1ARAEABAP0580

- エンジン始動時, 及び各作業のクラッチやスイッチを入れるときは，ホーンなどで合図し，必ず補助者の了解をもらう。
- 補助者が機械に近づくときは, 運転者に知らせることを徹底させる。

[守らないと]
補助者は運転席からみえにくい位置にいることがあり，思わぬ事故を起こすおそれがあります。

⚠アンローダを動かすときは, 旋回範囲に人や障害物がないことを確認する。[G 仕様]


1ARAEABAP0920

- 旋回範囲に人がいたり，障害物があるときは，アンローダを動かさない。
- 折りたたみ式のアンローダを伸ばして作業するときは，周囲に人や障害物がないことを確認する。
- アンローダは, アンローダ支えに収納した状態で作業を行なう。

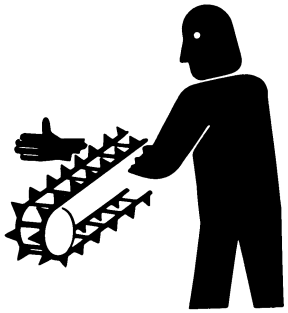
[守らないと]
人や物を傷つけたり，機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

⚠すみ刈りを行なうときは後方をじゅうぶん確認する。

1ARAEAAAP1300

[守らないと]
後退し過ぎると，転倒・転落するおそれがあります。

⚠手刈脱こく作業するときは，手や腕の位置を必ずチェーンの外側にして，少量ずつ供給する。

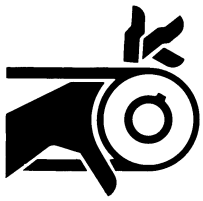

1ARAEABAP0570

- 機械は平たんな場所に止めて，刈取部を止め，駐車ブレーキをかける。
- そで口はきっちり止めて，手袋・はち巻き・首巻き・腰タオルは着用しない。
- 刈取防じんカバー付きの機械は，刈取防じんカバーを上げる。
- 脱こく部入り口にたまった，わらやもみなどを脱こく部に押し込むときは，チェーンに手や腕が巻込まれないように，少量ずつ押し込む。

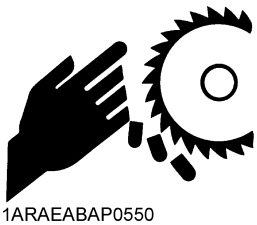
[守らないと]
チェーンに巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠異常に気づいたら，すぐエンジンを必ず止めて，キーを抜く。

- わらの巻付きや詰まりを取除くときや，もみの点検・掃除をするときは，各作業クラッチレバーを**［切］**位置にし，エンジンを必ず止めて処置する。
- カッタに詰まったわらなどを取除くときは，厚手の手袋を着用して少しずつ取除く。
- 素手で刃先には触らない。

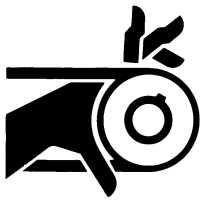

1ARAEAAAP0460

［守らないと］
カッタ刃やチェーンなどの作動部に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。


1ARAEABAP0550

⚠点検や掃除で外したカバーは，必ず取付けること。

- ベルトやチェーンのカバー，及び掃除口や点検窓のカバーなどを外したままで運転しない。

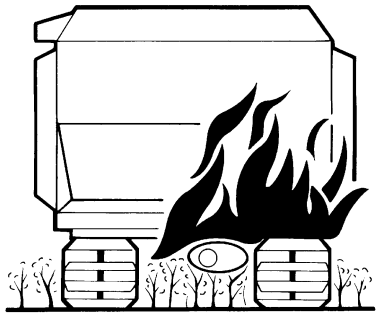

1ARAEAAAP0460

［守らないと］
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

◆ 作業後・格納時の注意事項

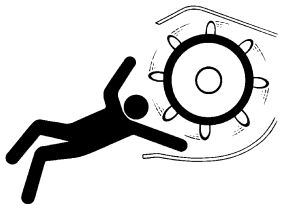
⚠わらくずや枯れた雑草の上に機械を止めない。

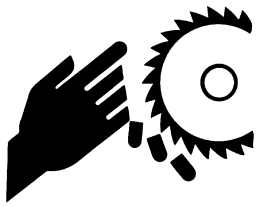
[守らないと]
わらくずや枯れた雑草は燃えやすく，火災が発生するおそれがあります。


1ARAEABAP0600

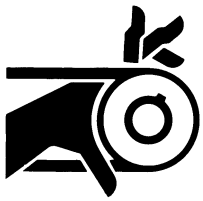
⚠点検・掃除する前に，エンジンを必ず止めて，キーを抜く。

[守らないと]
機械に巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。


1ASAAAAAP4430


1ARAEABAP0550

1ASAAAAAP4280


1ARAEAAAP0460

⚠点検・掃除は，エンジン停止後，各部が冷えてから行なう。

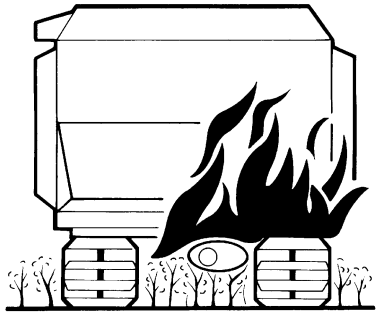
- エンジン本体・マフラ・排気管は，エンジン停止直後は触れない。

[守らないと]
やけどを負うおそれがあります。

1AKADACAP1390

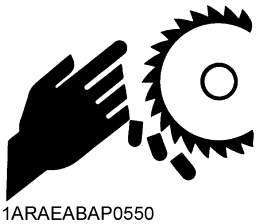
⚠エンジン本体，マフラ周辺，ベルトカバー内配線部，バッテリ周辺のわらくずを点検し，きれいに取除く。

[守らないと]
火災が発生するおそれがあります。


1ARAEABAP0600

⚠掃除するときは，刈刃やカッタの刃先に触らない。

[守らないと]
刃先で傷害を負うおそれがあります。


1ARAEABAP0550

⚠バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，ケーブルをショートさせない。

[守らないと]
バッテリからは水素ガスの発生があり，引火爆発のおそれがあります。

1ARAEABAP0110

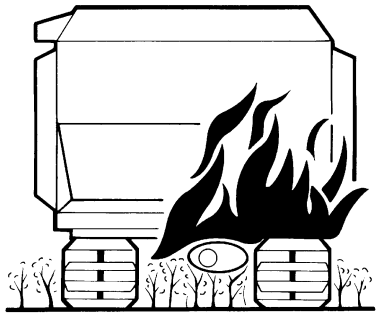
⚠ワイヤハーネスやバッテリコードなど電気配線に被覆の破れや，挟み込みがないか点検する。

[守らないと]
ショートによる火災発生のおそれがあります。

1ARAEAAAP0410

⚠機体にカバー（おおい）をかけるときは，エンジン，マフラが冷えてから掛ける。

[守らないと]
火災が発生するおそれがあります。


1ARAEABAP0600

◆ 点検整備時の注意事項

⚠定期点検整備を行ない，各部の保守をする。

[守らないと]
整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。

1ARAEABAP0460

⚠廃棄物をみだりに捨てたり，焼却しない。

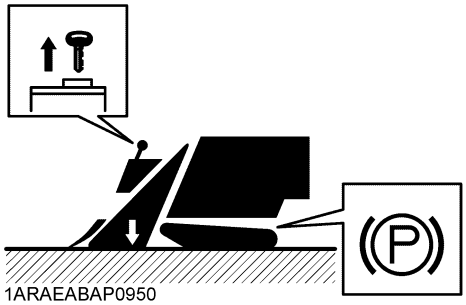
- 機械から廃液を抜く場合は，容器に受ける。
- 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしない。
- 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理する。

[守らないと]
環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。

1BJABAAAP0180

⚠各部の点検・整備・交換・掃除を行なうときは，平たんな場所で，エンジンを必ず止めて，キーを抜き，各クラッチレバーを[切]位置にして,駐車ブレーキを掛ける。

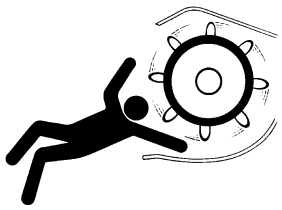
[守らないと]
機械に挟まれたり，巻込まれて傷害を負うおそれがあります。

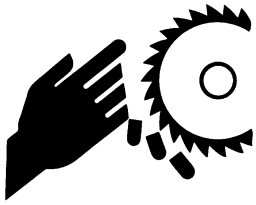


1ARAEABAP0950

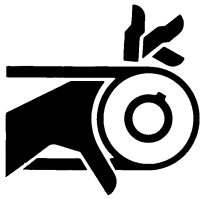
⚠こぎ胴，カッタ，結束機，グレンタンクをオープンしたままやグレンタンクを取外したままエンジンを回さない。

[守らないと]
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。


1ASAAAAAP4430

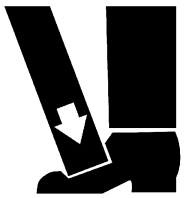

1ARAEABAP0550

1ASAAAAAP4280


1ARAEAAAP0460

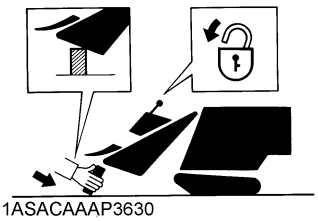
⚠シーブケースやカッタ，結束機など重量物の脱着作業は，２人以上で行なう。

[守らないと]
不意の落下により，傷害を負うおそれがあります。

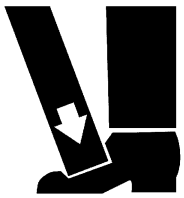

1ARAEABAP0910

⚠刈取部を上げて点検・整備・掃除するときは，刈取部をロックするとともに，落下防止の歯止めをする。

- 作業前に，エンジンを必ず止めて，駐車ブレーキを掛ける。
- 刈取部の下へもぐったり，足や手をつっこんだりしない。

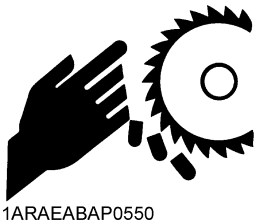

1ASACAAAP3630

[守らないと]
機械にはさまれて，傷害を負うおそれがあります。


1ARAEABAP0910

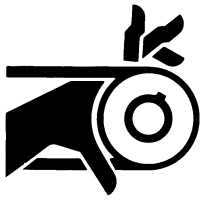
⚠刈刃，カッタ刃，わら切刃を調整・交換するときは，手袋を着用し，直接刃先に触らない。

[守らないと]
刃先で傷害を負うおそれがあります。


1ARAEABAP0550

⚠取外したカバー類は，必ず取付ける。

[守らないと]
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。


1ARAEAAAP0460

⚠バッテリを取外すときは，最初にマイナス（−）側のケーブルを取外す。

- バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，ケーブルをショートさせない。
- バッテリを取付けるときは，最初にプラス（+）側のケーブルをプラス（+）側の端子に取付ける。

1ARAEABAP0110

[守らないと]
ヤケドや発火爆発のおそれがあります。

⚠バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしない。[補水タイプ]

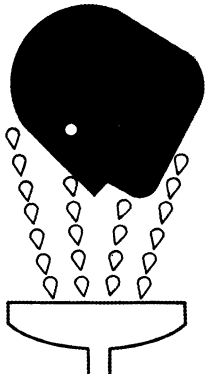
- バッテリ液が不足していれば,すぐに **UPPER LEVEL(上限)** と **LOWER LEVEL（下限）** の間に補水する。
- 充電は機械から取外して行なう。
- 充電は風通しのよい所で行なう。
- 放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従う。

1ARAEABAP0130

[守らないと]
LOWER（下限）以下で使用や充電を続けると，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。

⚠バッテリ液（希硫酸）を体に付着させない。

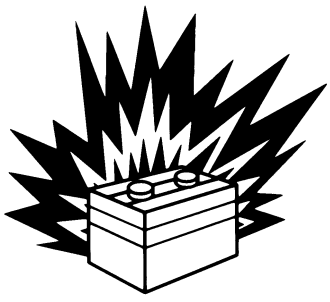
- 目に入ったときや飲込んだときは,すぐ水でよく洗った後，医師の治療を受ける。
- 皮ふ，衣服についたときは，すぐ水でよく洗う。



[守らないと]
失明やヤケドのおそれがあります。

⚠指定外のバッテリは使わない。

- 取扱説明書で指定しているバッテリを使用する。



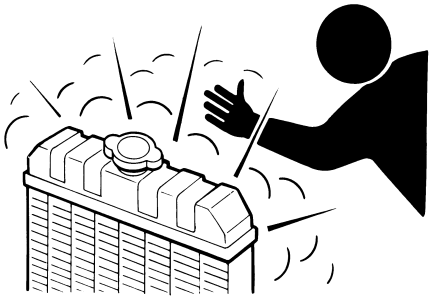
1ARAEABAP0120

[守らないと]
思わぬ事故が発生するおそれがあります。

1ARAEABAP0620

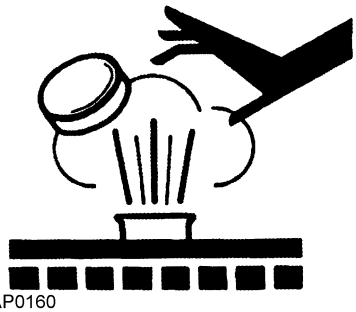
⚠ラジエータの圧力キャップやリザーブタンクは，エンジンが冷えてから開ける。

- エンジン停止後，３０分以上経過してからラジエータの圧力キャップを徐々にゆるめて蒸気の圧力を抜いてから開ける。



1ARAEABAP0050

[守らないと]
熱湯や蒸気が吹き出して，ヤケドや傷害を負うおそれがあります。



1ARAEABAP0160

⚠フューエルパイプ，フューエルドレーンパイプは，2年ごとに交換する。

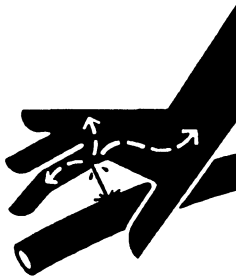
- ゴム類は時間がたつと劣化するので，定期的に交換する。

[守らないと]
燃料がもれて，火災のおそれがあります。

1ARAEABAP0970

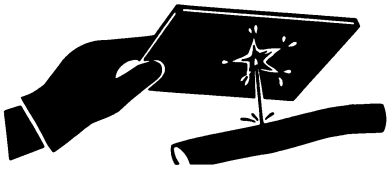
⚠燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは，厚紙や板などを使って点検する。

- 高圧噴油に直接手を触れない。もし，触れた場合は，直ちに医者の診断を受ける。



1BAACAAAP0100

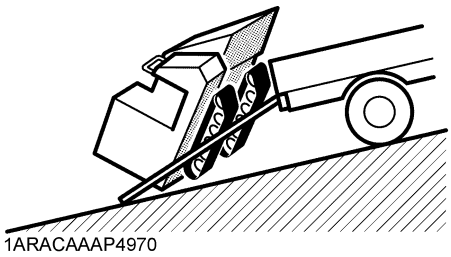
[守らないと]
油が皮ふに侵入して，えそにかかるおそれがあります。



1ARAEABAP0060

◆ 運搬時の注意事項

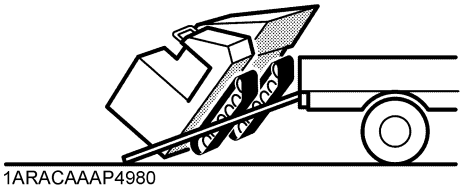
⚠トラックへの積込み・積降しは平たん地で行なう。


1ARACAAAP4970

- 機械の重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選ぶ。
- トラックの変速レバーを**R（後進）**又は，**1速**に入れたあと，さらにタイヤに歯止めを行ない，トラックが動かないようにしっかり固定する。
- できるだけ助手の立ち会い誘導のもとに行なう。
- 周囲に人を近づけない。

[守らないと]
あゆみ板がずれたり，トラックが動いたりして機械が落下するおそれがあります。

⚠積込み・積降しには基準に合ったあゆみ板を使う。


1ARACAAAP4980

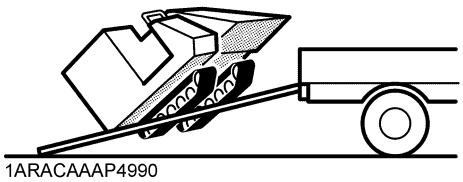
- あゆみ板の基準

長　　さ	トラックの荷台の高さの４倍以上
幅	45cm 以上
数　　量	２枚
強　　度	１枚が 700kg 以上に耐えうる

- あゆみ板はフック，すべり止めがついているものを使う。
- あゆみ板はトラックの荷台に平行に確実に掛ける。

[守らないと]
あゆみ板がずれたり，外れたりして機械が落下するおそれがあります。

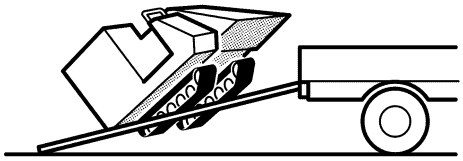
⚠積込み・積降し前に，もみはすべて排出，又は降ろす。


1ARACAAAP4990

- アンローダを下げ，アンローダ支えに収納してバンドを掛ける。**[G 仕様]**
- アンローダは，折りたたんで収納する。**[G 仕様]**

[守らないと]
バランスがくずれて，転倒・転落するおそれがあります。

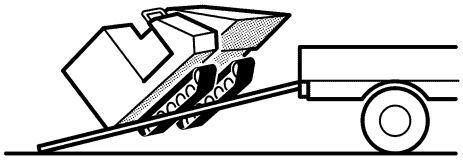
⚠トラックへの積込み・積降しは最低速で行なう。


1ARACAAAP4990

- 積込みは前進で，積降しは後進で行なう。
- 結束機付きの場合は，積込みは後進で，積降しは前進で行なう。

[守らないと]
バランスがくずれて，転倒・転落するおそれがあります。

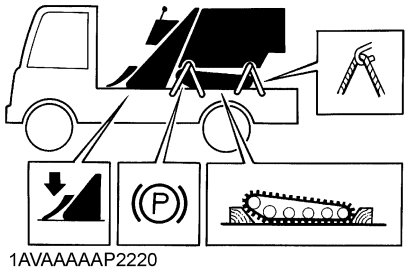
⚠あゆみ板の上では方向修正しない。


1ARACAAAP4990

- あゆみ板を走行するときは，機体から降りる。
- あゆみ板の上では，パワーステアリングレバー，副変速レバー，駐車ブレーキレバーは操作しない。
- 方向を変えるときは，いったん地上又は，荷台にもどって方向を修正し，再度やり直す。

[守らないと]
急旋回したり，暴走して落下するおそれがあります。

⚠トラックの上では，刈取部を床に当たるまで降ろして，駐車ブレーキを掛ける。



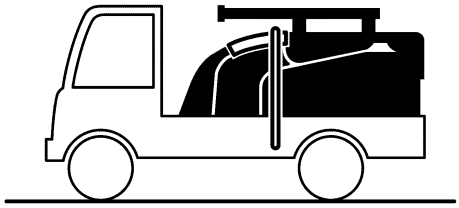
1AVAAAAAP2220

- 副変速レバーを**［作業］**又は，**［移動］**位置にし，駐車ブレーキを掛ける。
- 所定の**［ロープ掛けフック（４カ所）］**にロープを掛けてしっかり床に固定する。
- 車止めをする。

[守らないと]
機械が動き，思わぬ事故のおそれがあります。

⚠トラックに積んだときは，機体の各カバーを固定する。

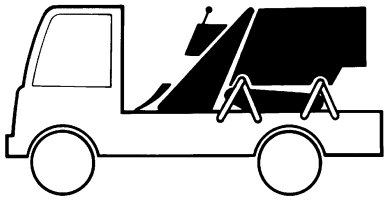
- 樹脂カバー，着脱の簡単なカバー，折りたたみ部品などは，ロープで確実に固定するか，外して荷台に置く。
- 防じんカバーは閉じる。**［防じんカバー付］**


1ARAEABAP1000

［守らないと］
輸送中に風圧で破損，脱落のおそれがあります。

⚠輸送中の急発進，急ブレーキ，急旋回は避ける。

［守らないと］
輸送中に機械が動き，思わぬ事故のおそれがあります。


1ARAEABAP0440

2. 安全作業するための表示ラベル

■表示ラベルの内容・貼付位置

[211・213・216・217]

①品番　53981-6432-1

⚠ 注　意

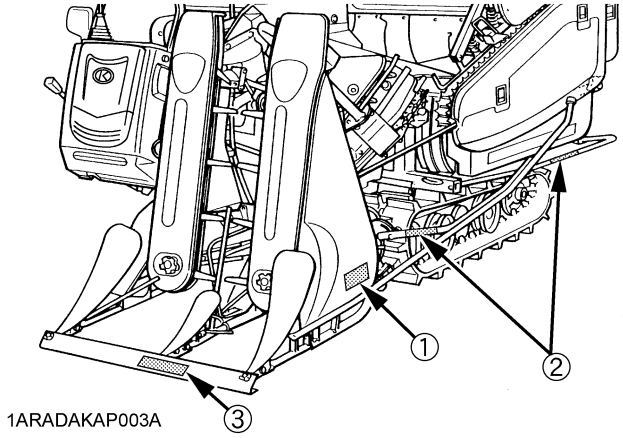
中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

1ARADAKAP2170

②品番　5H601-4344-1

⚠注意	人に当たりケガをさせるおそれがあるので、移動するときは必ず収納すること。

1ARADAKAP2180

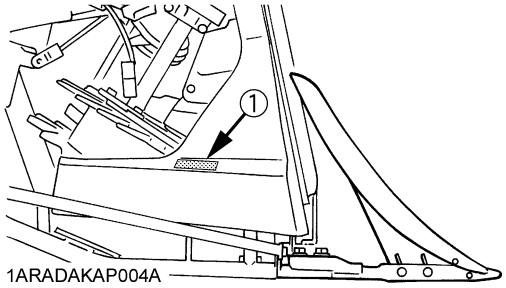


1ARADAKAP003A

③品番　59700-4332-2

⚠注意	デバイダ先端に当たるとけがをするおそれがあるので、移動するときは必ず本品を取り付けること。

1ARADAKAP2190



1ARADAKAP004A

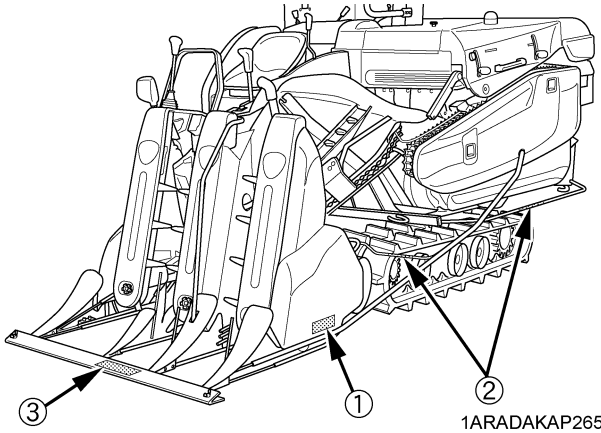
[211・213・216・217]

[317]

①品番　53981-6432-1

⚠ 注　意
中に回転物がありケガをするので、 点検・調整時はエンジンを必ず止めること。 点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

1ARADAKAP2170



1ARADAKAP265A

②品番　5H601-4344-1

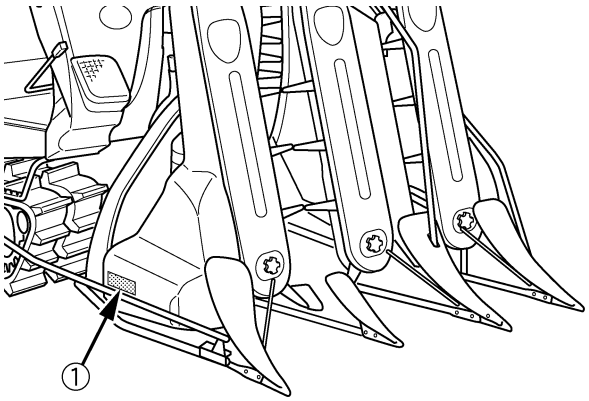
⚠注意	人に当たりケガをさせるおそれがあるので、移動するときは必ず収納すること。

1ARADAKAP2180

③品番　59700-4332-2

⚠注意	デバイダ先端に当たるとけがをするおそれがあるので、移動するときは必ず本品を取り付けること。

1ARADAKAP2190



1ARADAKAP266A

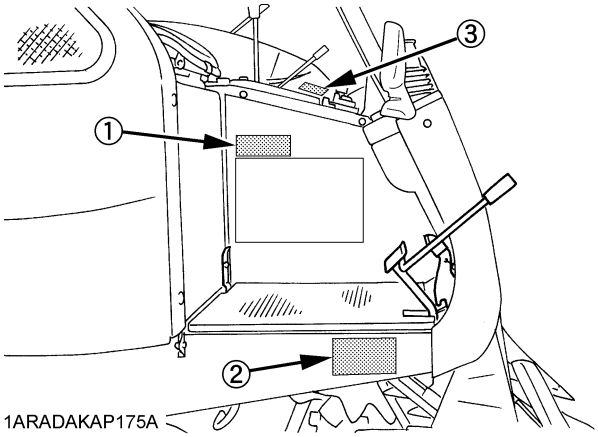
[317]

①品番　5H190-6432-1

⚠ 注　　意

中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

1ARADAKAP2200



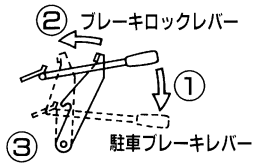
1ARADAKAP175A

②品番　5H550-4333-1

⚠ 注　　意

傾斜地での暴走を防ぐため必ず下記を守ること。
1．駐車ブレーキをかけるときは、すみやかにいっぱい下げること。
2．車止めをすること。

駐車ブレーキのかけ方
①駐車ブレーキレバーを下げる。
②ブレーキロックレバーを引く。
③レバーをフックに引っ掛ける。



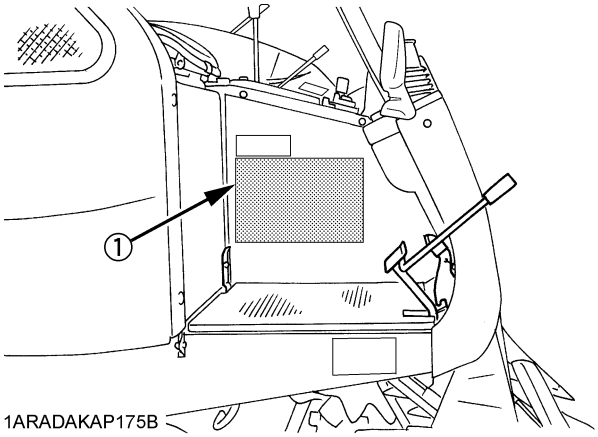
1ARADAKAP2210

③品番　5H215-4261-2［211・213・216・217］

⚠ 注　　意

刈取部を上げたとき、手を挟まれケガをするおそれがあるので、このパネルのラベル部の裏側に手を入れないこと。

1ARADAKAP2230



1ARADAKAP175B

①品番　5H276-3243-2

⚠ 注　意			
	マフラ・ハイキカン・エンジンなどの高温部に触れるとヤケドをするので、高温部に絶対に触れないこと。	エンジンを始動するときは、駐車ブレーキをかけて主変速レバーを「N」に、脱こくクラッチを「切」位置に、グレンタンク仕様はモミ排出クラッチも「切」にすること。	刈取部が不意に下降してはさまれる危険があるので、刈取部を上げて点検・調整するときはロック金具を必ずロックすること。

⚠ 注　意

作 業 前
1. 安全に作業するために、取扱説明書を読んで機械の使い方を覚えること。
2. 屋内は排気ガスが溜まりやすくガス中毒のおそれがあるので、換気をすること。
3. ケガをするおそれがあるので、掃除・点検・調整のときは各クラッチを切りエンジンを必ず止めること。

移 動・作 業 中
1. 発進するとき・脱こく部・刈取部を作動するときは、周囲の安全を確かめ合図して、機械に人を近付けないこと。
2. 転倒・転落事故の危険があるので、傾斜地・路肩の軟弱な道路がけぎわなどは走行しないこと。
3. 緊急停止が必要なときは、ブレーキペダルをすみやかに、いっぱい踏み込むこと。
4. 刈取作業時以外（特に、あぜ越え時・移動走行時・運搬時・格納時）は『もみ』はすべて排出、あるいは降ろすこと。

積込み・積降し・あぜ越え
1. 車への積込みやあぜ越えは前進で、車から降すときは後進で、運転席から降りて低速で移動すること。あゆみ板は段差の4倍以上の長さですべり止めがある基準に合ったものを使うこと。
2. 車への積降しの途中で、ブレーキペダルやパワーステアリングレバーを操作しないこと。方向を変えるときは、必ずいったん地上又は荷台に戻って向きを正し、再度やり直すこと。

駐・停 車
1. 火災のおそれがあるので、機械を停止するときは切りわらや雑草の上に止めないこと。
2. 機械から離れるときは、エンジンを止めて「始動キー」を抜き駐車ブレーキを必ずロックすること。また、坂道で駐車するときは車止めをして暴走を防ぐこと。

エンジンオイルの取扱注意
1. クボタ純正オイル（ディーゼルエンジン用）を使用してください。
2. オイルは気温により次のように使い分けてください。
   15°Cをこえるとき　　D30又はD10W30
   15°C以下のとき　　D10W30
3. 特に冬期はD10W30を必ず使用してください。メーカーの異なるオイルは混合しないでください。
4. オイルの交換は新車（新品エンジン）運転で35時間目以後は取扱説明書をごらんください。

冷却水の点検・補給
1. 冷却水は必ず作業前に点検補給してください。
   （リザーブタンク水面がLOW以下の場合はラジエータとリザーブタンクに真水を補給してください。）
2. 炎天下で連続使用する場合には早目に冷却水の点検補給をしてください。
3. 工場出荷時には不凍液（ロングライフクーラント）を入れています。
   冬期不凍液を入れない場合凍結割れが生じますので長期格納時は必ずドレーンコックより排水してください。

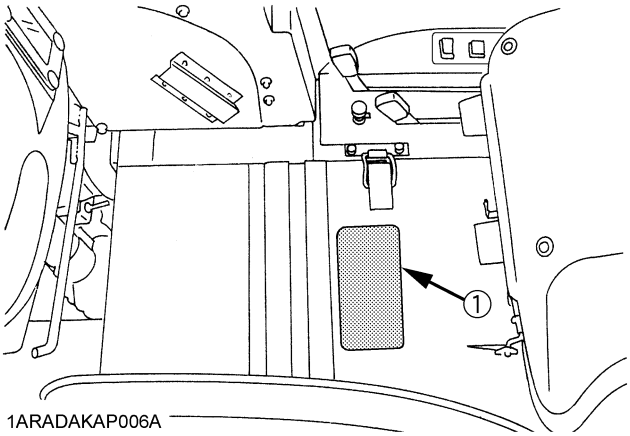
ラジエータの点検・清掃
1. ラジエータの目にゴミが附着したまま作業を続けるとオーバーヒートの原因となりますのでときどき清掃点検してください。
2. イージーチェッカの水温ランプが点灯した時はエンジンを止めてラジエータコア一面を清掃してください。
3. 取扱注意事項の詳細については取扱説明書をごらんください。

エアクリーナの取扱注意
1. エアクリーナの定期点検は、少なくとも50時間ごとに行ってください。
2. エレメントの清掃は、エアクリーナに指示してある通りにしてください。

1ARADAKAP2220

①品番　5H215-3515-1

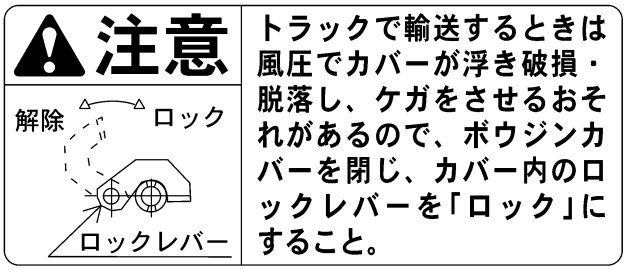
1ARADAKAP2240



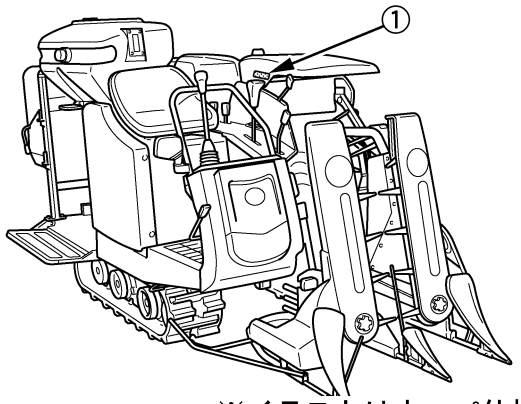
1ARADAKAP006A

[217]

①品番　5H260-5713-1



1ARADAKAP2250

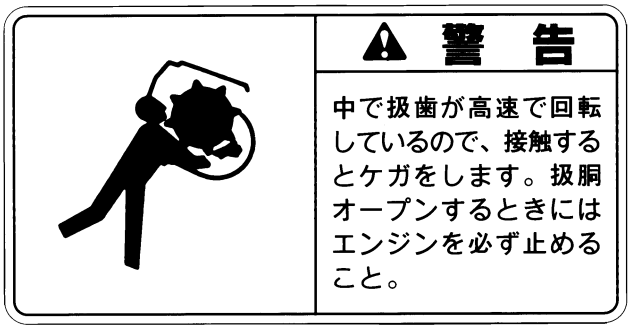


1ARADAKAP007A

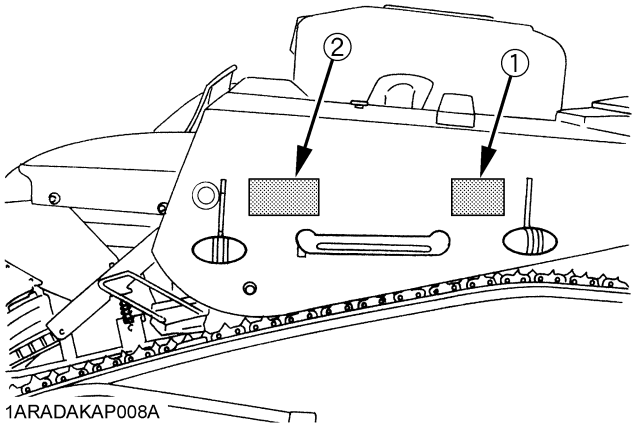
※イラストはホッパ仕様

[217]

①品番　53982-6431-1

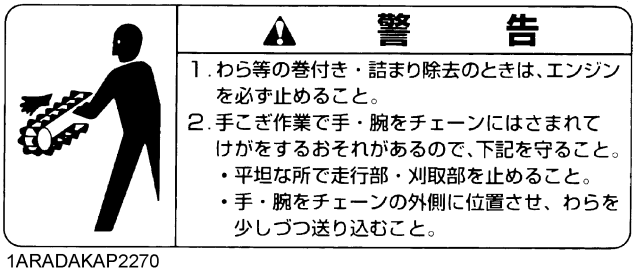


1ARADAKAP2260

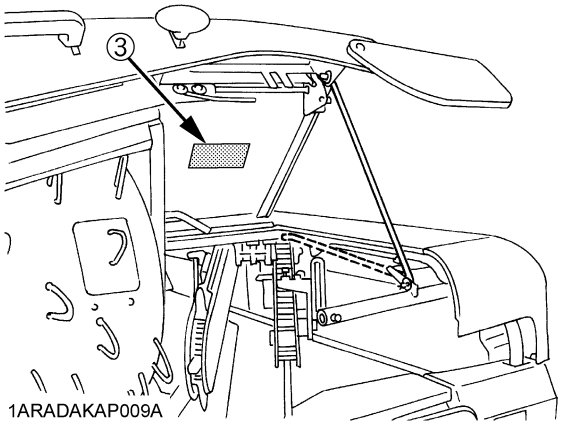


1ARADAKAP008A

②品番　53981-6435-2

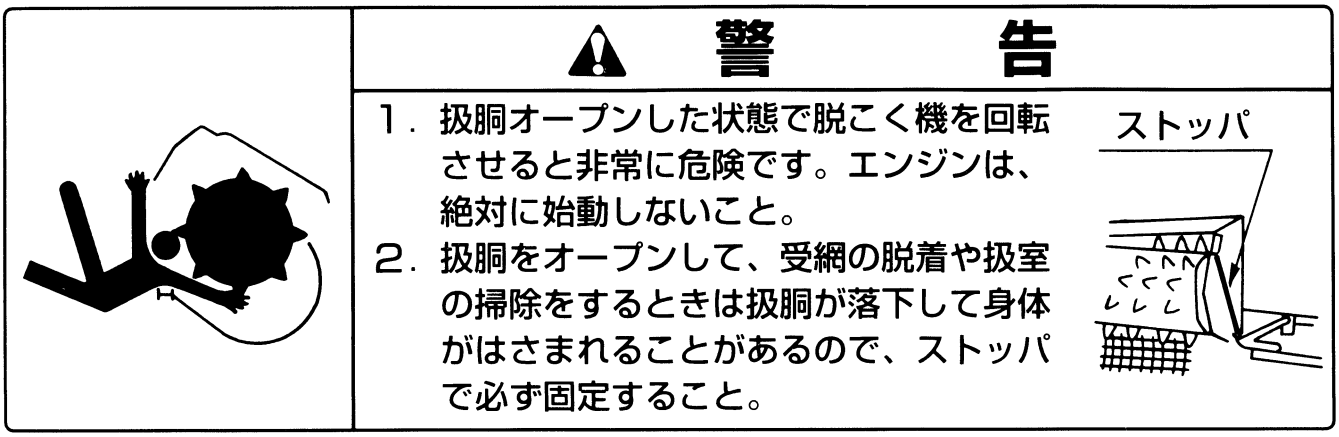


1ARADAKAP2270



1ARADAKAP009A

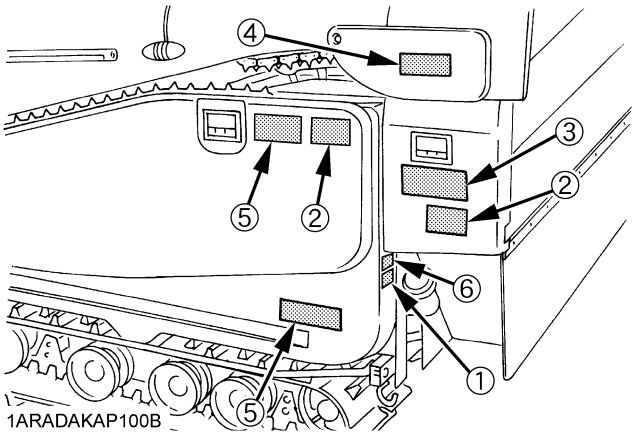
③品番　53981-6416-2



1ARADAKAP2280

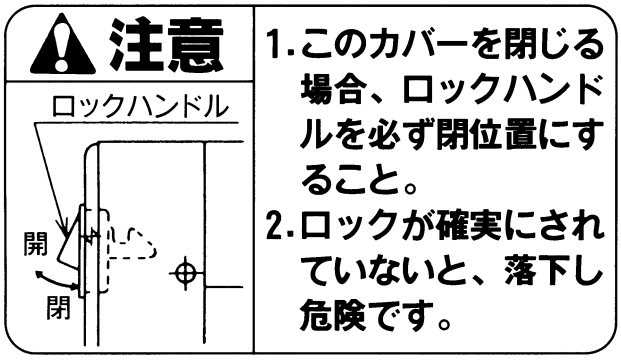
①品番　52166-2575-1

1ARADAKAP2290



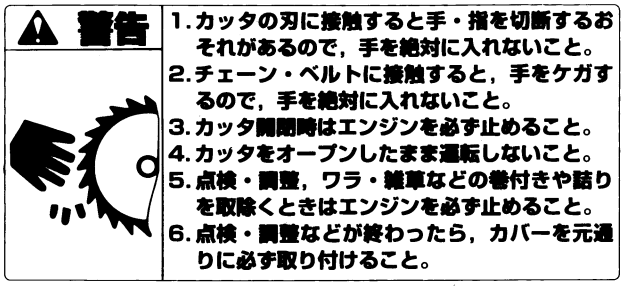
1ARADAKAP100B

②品番　5K190-6433-1



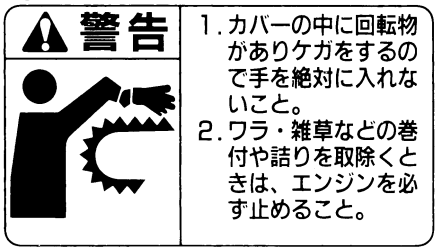
1ARADAKAP2300

③品番　5K190-6442-1



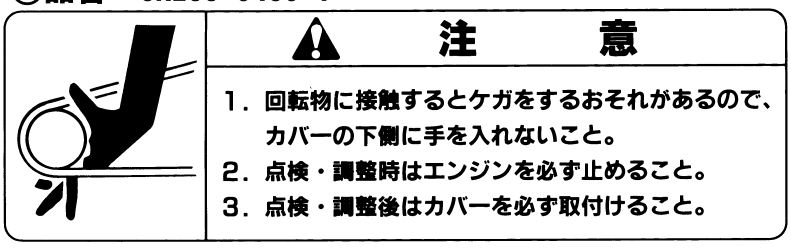
1ARADAKAP2310

④品番　5K200-6188-1



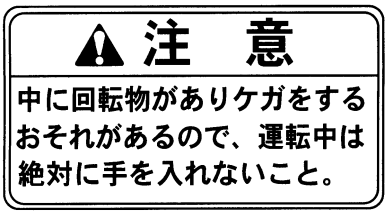
1ARADAKAP2320

⑤品番　5K200-6436-1



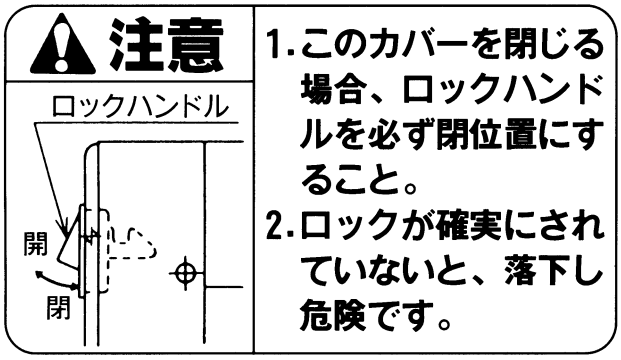
1ARADAKAP2330

⑥品番　5K200-6416-2

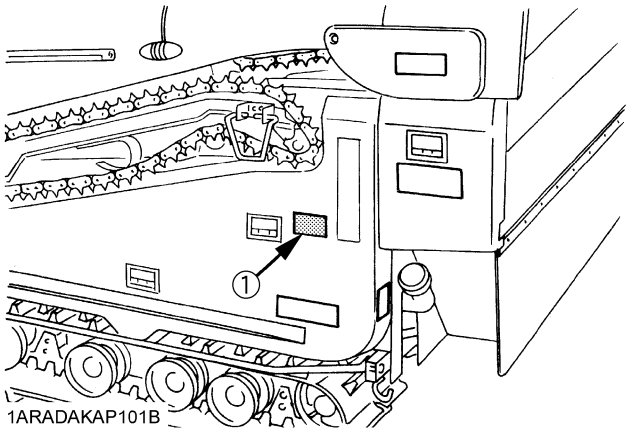


1ARADAKAP2340

①品番　5K190-6433-1



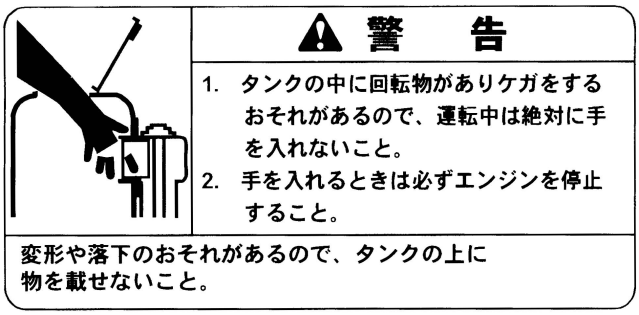
1ARADAKAP2300



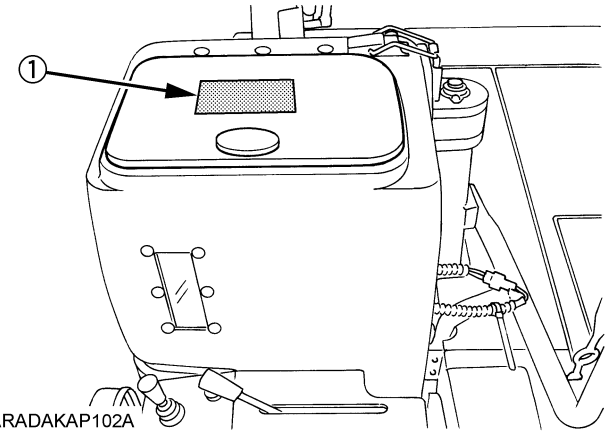
1ARADAKAP101B

［G 仕様］

①品番　5H250-5338-1

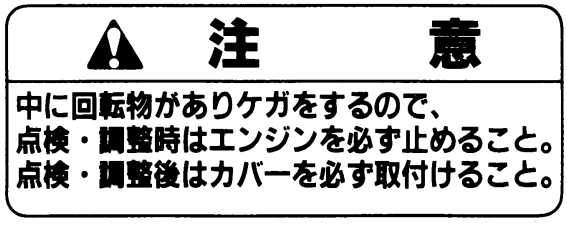


1ARADAKAP2350

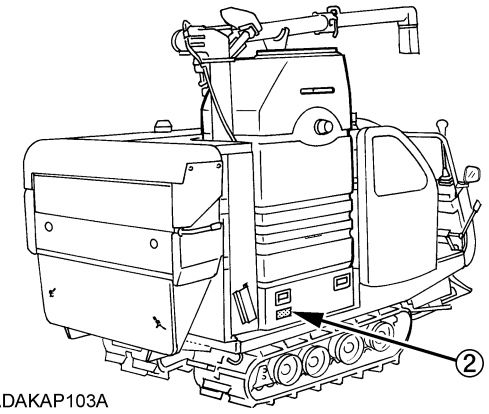


1ARADAKAP102A

②品番　5K190-6432-1



1ARADAKAP2360



1ARADAKAP103A

［G 仕様］

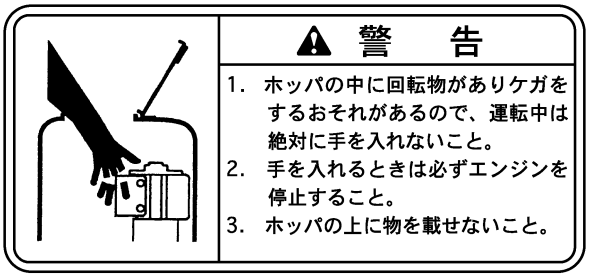
［ホッパ仕様］

①品番　52166-2119-3

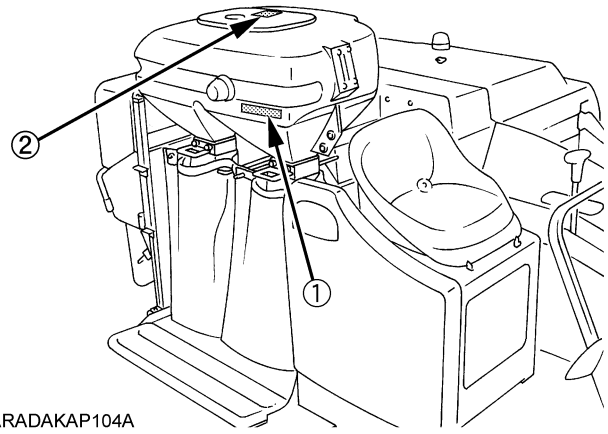
⚠ 注意	1.転落のおそれがあるのでもみ受けデッキ、補助デッキには乗らないこと。 2.移動するときは、人に当ってケガをさせるおそれがあるので、補助デッキを必ず収納すること。

1ARADAKAP2370

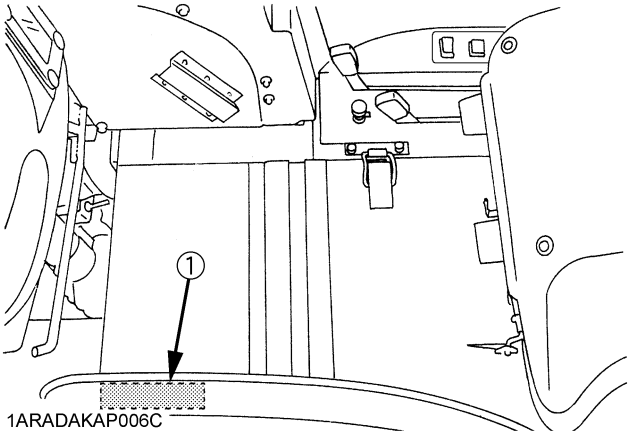
②品番　53696-5338-1



1ARADAKAP2380



1ARADAKAP104A

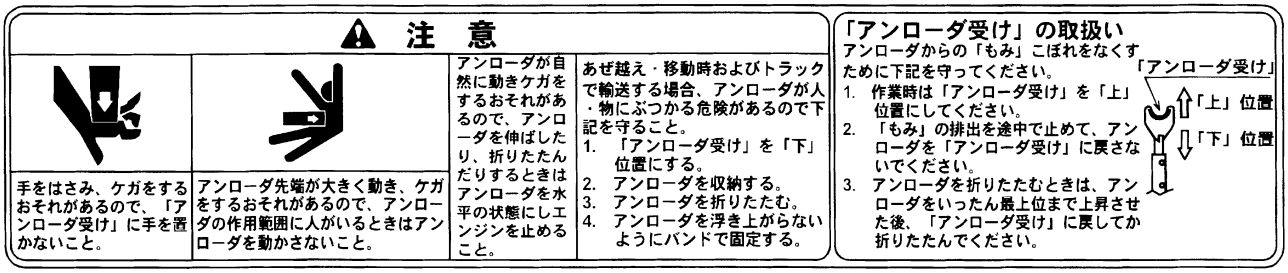


1ARADAKAP006C

［ホッパ仕様］

［G 仕様］

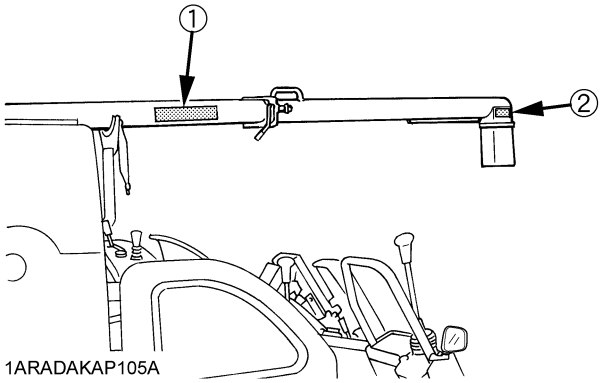
①品番　5G021-1713-2



1ARADAKAP2390

②品番　5G021-1714-2

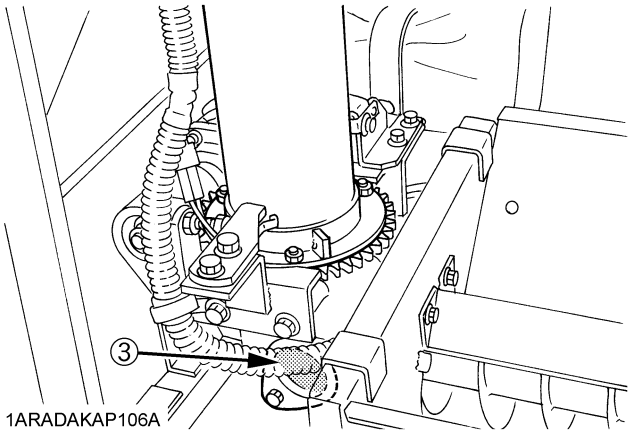
1ARADAKAP2400



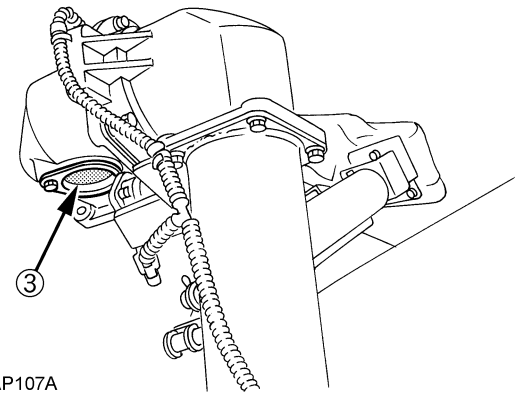
1ARADAKAP105A

③品番　5G021-1716-1

1ARADAKAP2410



1ARADAKAP106A



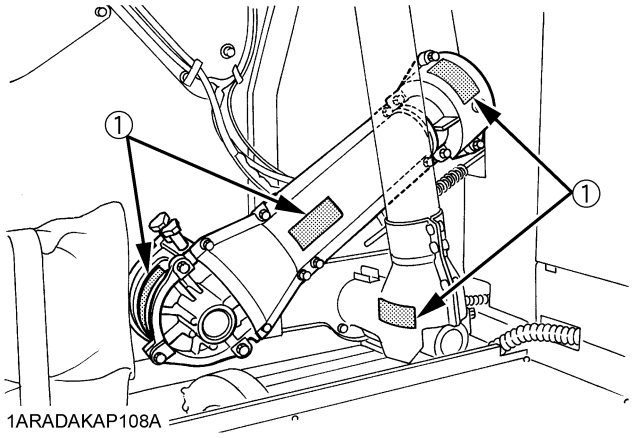
1ARADAKAP107A

［G 仕様］

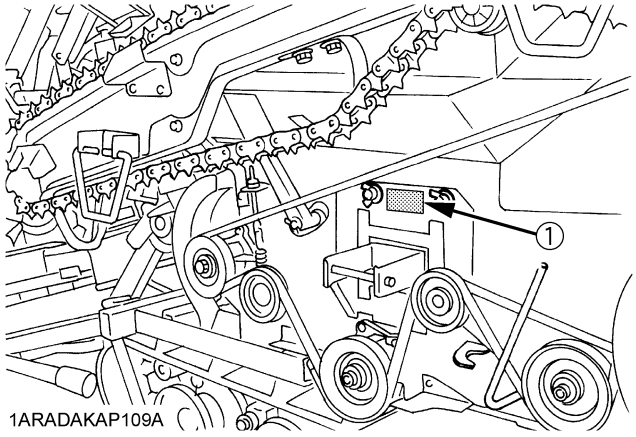
①品番　53981-6434-1

⚠ 注意	掃　除　口 中に回転物がありケガをするので、 清掃時はエンジンを必ず止めること。 清掃後はフタを必ず閉じること。

1ARADAKAP2420



1ARADAKAP108A



1ARADAKAP109A

[G 仕様]

①品番　5H276-8114-3

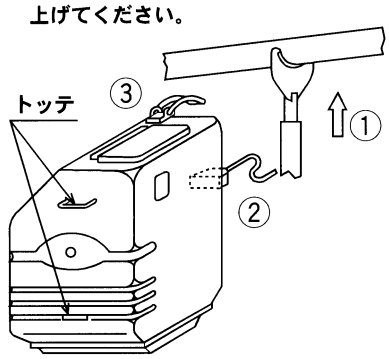
⚠ 注　意

タンクを外すときは中に回転物があり、ケガをするおそれがあるので必ずもみ排出クラッチを切り、エンジンを止めること。

グレンタンクの脱着のしかた

（タンク内に「もみ」が残っていないか確認してください。）

①アンローダは「上」位置にしてください。
②コードバンドとカプラを外してください。
③タンクのロックを外してください。
④上のトッテを手前に引き、その後上に持ち上げてください。



⑤タンクを取り付けるときは上記の逆の順番で行いタンクは確実に固定してください。

1ARADAKAP2440

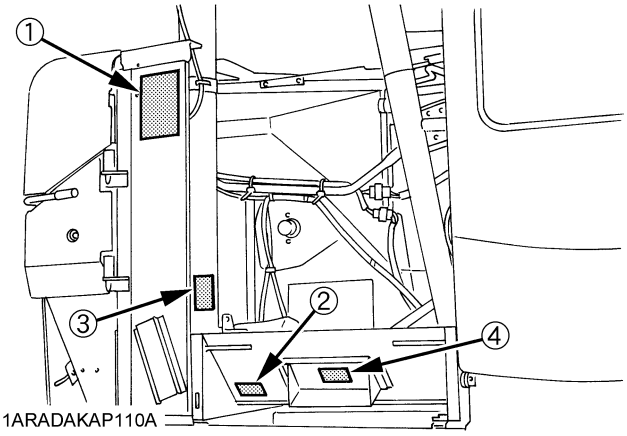
②品番　53981-6434-1

⚠ 注 意

掃　除　口

中に回転物がありケガをするので、清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。

1ARADAKAP2450



1ARADAKAP110A

③品番　5G021-1715-2

⚠ 注 意

ギヤーに巻き込まれ、ケガをするおそれがあります。
点検時はメインスイッチを切りにすること。

1ARADAKAP2460

④品番　53690-3129-2

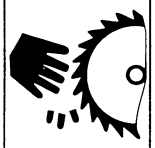
⚠ 注　意

中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。

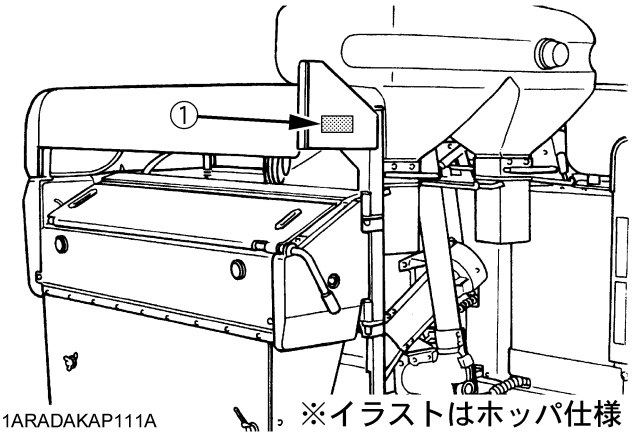
1ARADAKAP2470

[G 仕様]

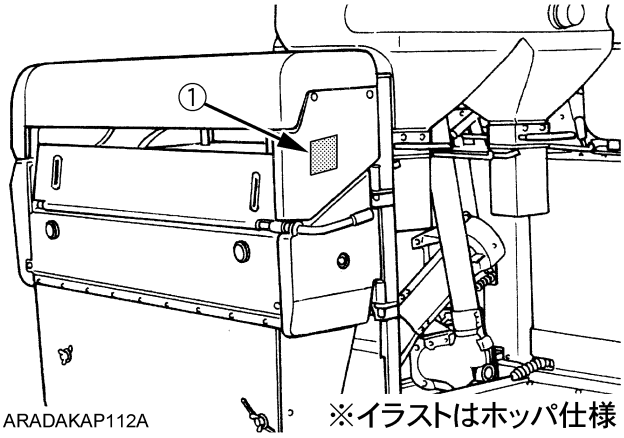
①品番　53981-6191-1

⚠警告	
	1. カッタの刃に接触すると手・指を切断するおそれがあるので、手を絶対に入れないこと。 2. ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。 3. カッタ作業時は、カバーを必ず閉じること。

1ARADAKAP2480

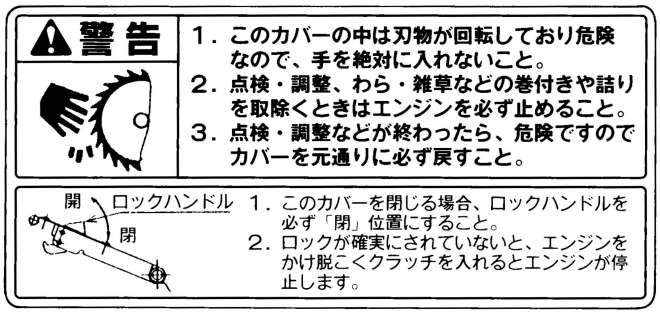


1ARADAKAP111A　※イラストはホッパ仕様



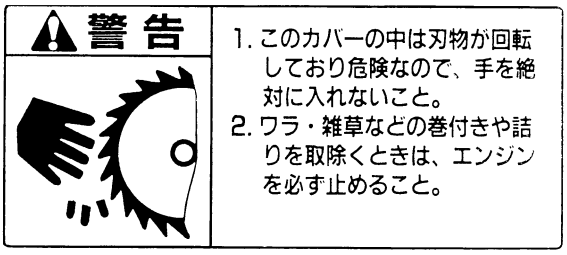
1ARADAKAP112A　※イラストはホッパ仕様

①品番　57691-5166-1



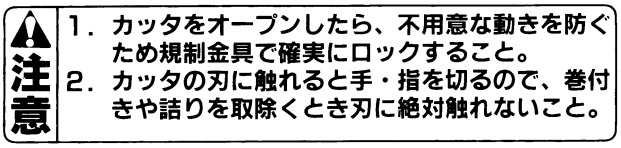
1ARADAKAP2490

②品番　57745-5315-3

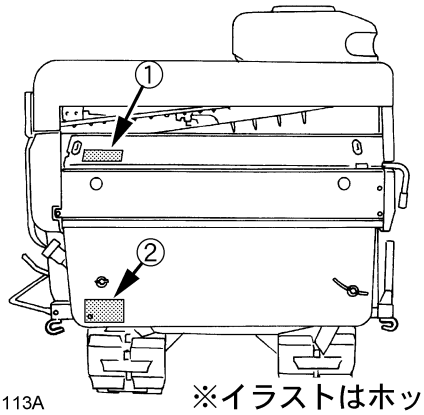


1ARADAKAP2500

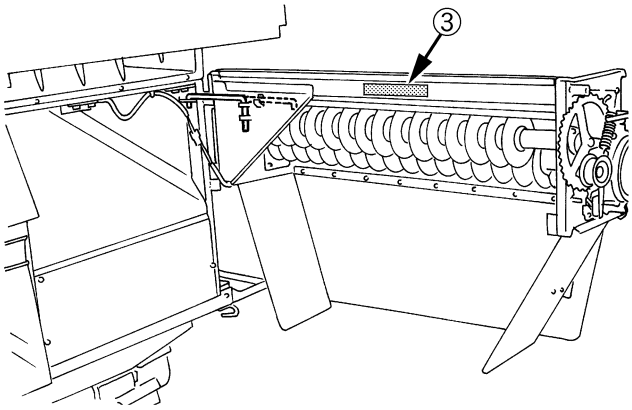
③品番　57745-5124-1



1ARADAKAP2510

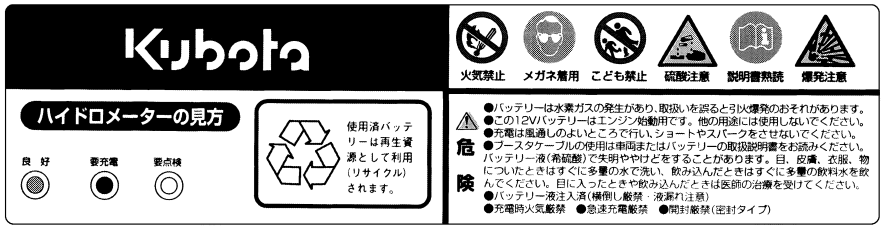


1ARADAKAP113A　※イラストはホッパ仕様

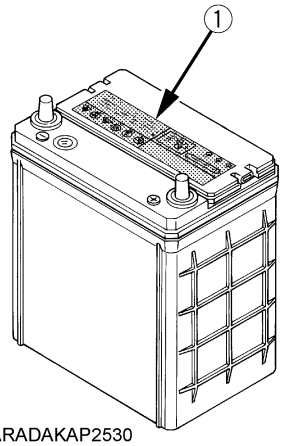


1ARADAKAP114A

①品番　5H522-4112-1



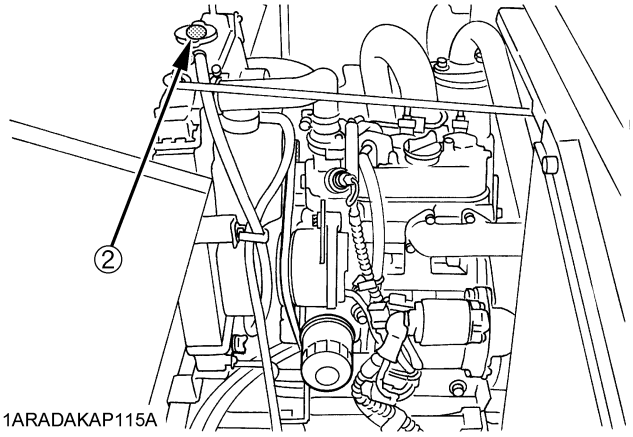
1ARADAKAP2520



1ARADAKAP2530

②品番　16667-8724-1

1ARADAKAP2540



1ARADAKAP115A

3. 表示ラベルの手入れ

■表示ラベルをよく読み理解して，安全注意事項を守る

- ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにする。
- ⚠ 表示ラベルがよごれた場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布でふく。
  シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと，文字や絵が消えることがあります。
- 高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあるので，高圧水を直接ラベルにかけない。
- 破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに張り替える。
- 新しいラベルを貼る場合は，貼付面の汚れを完全にふき取り，乾いた後，もとの位置に貼る。
- ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換する。

サービスと保証について

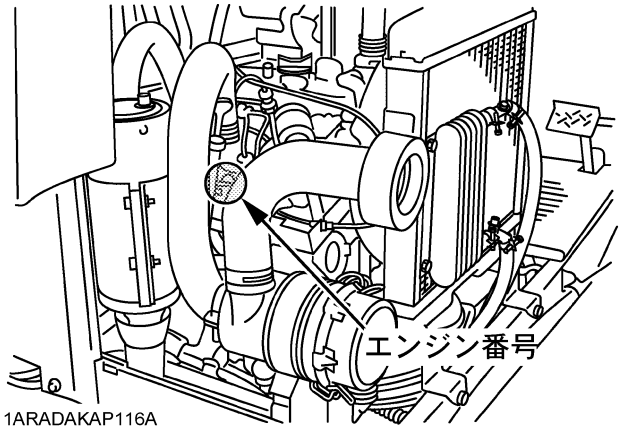
この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

◆ ご相談窓口

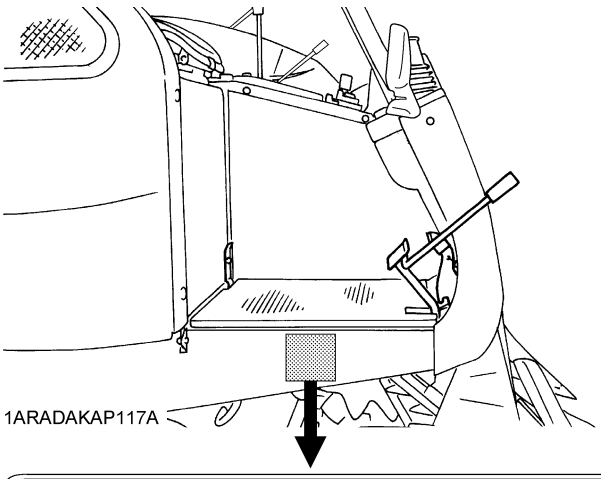
ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ**［ご相談窓口］**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際，
(1) 商品名・区分と車台番号
(2) とう載機関（エンジン）の型式名とエンジン番号をあわせてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警 告

＊ 機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

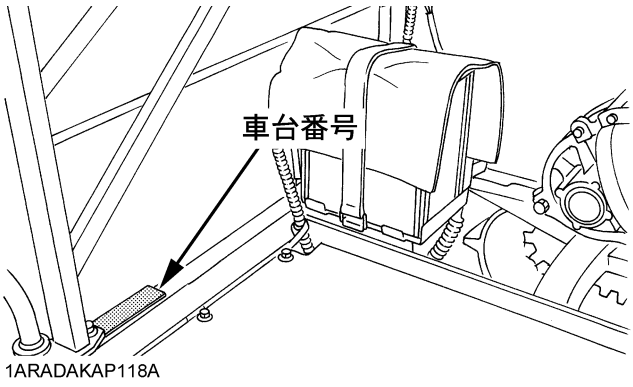


1ARADAKAP116A


1ARADAKAP117A

農業機械の種類	コンバイン（自脱型）
型式名	クボタ
販売型式名	
区分	
車両型式名	クボタ
車台(製造)番号	
製造会社	株式会社クボタ

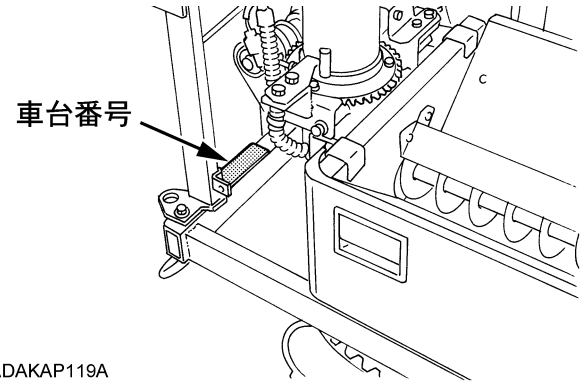
［ホッパ仕様］



1ARADAKAP118A

［ホッパ仕様］

［G 仕様］



1ARADAKAP119A

［G 仕様］

サービスと保証について

◆ 認定番号

安全鑑定・型式検査（国検）の農機型式名及び認定番号が必要な場合は，下記の型式名及び番号をご使用ください。

商品名	農機型式名	安全鑑定番号	小型特殊自動車		摘　要
			車両型式名	型式認定番号	
AR211	クボタ R9701	22055	クボタ C218	農 2055	ホッパ仕様
AR213	クボタ R9701	22055	クボタ C219	農 2056	ホッパ仕様
AR213G	クボタ R9801G	23023	---	---	グレンタンク仕様
AR216	クボタ R9701	22055	---	---	ホッパ仕様
AR216G	クボタ R9801G	23023	クボタ C221	農 2144	グレンタンク仕様
AR217	クボタ R9701	22055	---	---	ホッパ仕様
AR217G	クボタ R9801G	23023	クボタ C221	農 2144	グレンタンク仕様
AR317G	クボタ R0301G	28111	クボタ C313	農 2303	グレンタンク仕様

◆ 補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後９年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期などについてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

小型特殊自動車について

このコンバインは，道路運送車両法の農耕作業用小型特殊自動車に該当します。

警　告

＊ 道路を走行するときは，小型特殊自動車の法規を守り安全運転をしてください。

注　意

＊ 作業灯は［道路運送車両の保安基準］第 42 条（灯火の色等の制限）において，［走行中に使用しない灯火］とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

＊ このコンバインは，小型特殊自動車で道路運送車両の保安基準が適用されます。下記のうち一つでも条件を満足しないと保安基準に適合しませんので特にご留意してください。

1. 認定を受けたエンジン以外は搭載して走行することはできません。
2. エンジン及び本機で封印されているところはさわらないでください。封印が外されたと認められる場合は，一切の保証はいたしません。
3. 認定時の構造を変更した状態では，道路走行することはできません。
4. オプション部品の結束機，スイスイデバイダなどを装着した場合は公道を走ることができません。装着した状態で移動するときは，トラック輸送（41 ページ参照）してください。（カッタ，ドロッパは，装着したままで走行できます。）

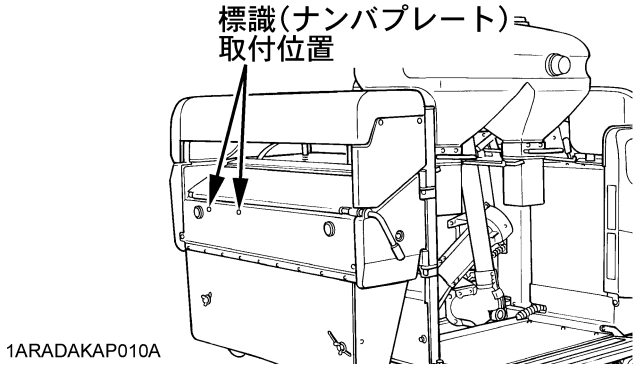
◆ 小型特殊自動車取得の届出と標識（ナンバプレート）の取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は，市町村条例により，その取得を市町村役所に届け，標識（ナンバプレート）の交付を受けなければなりません。

手続きは市町村により多少異なりますので詳細は，購入先にご相談ください。

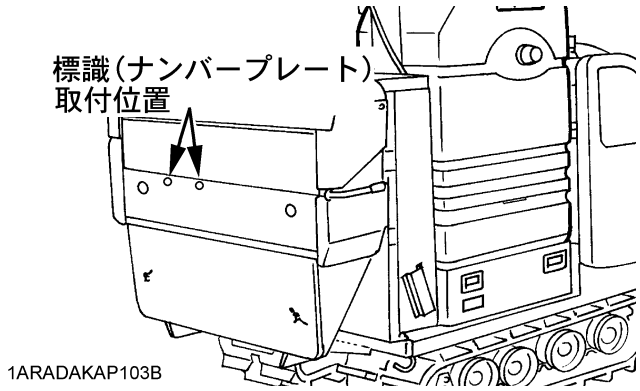
1. 小型特殊自動車取得の証明書など（購入先で発行）に，軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。
2. 届出が済むと標識（ナンバプレート）が交付されます。
3. 標識（ナンバプレート）を車体の取付け位置に取付けてください。

［ホッパ仕様］



［ホッパ仕様］

［G 仕様］



［G 仕様］

◆ 損害賠償保険について

万一の交通事故補償に備え，任意保険に加入されることをお勧めします。

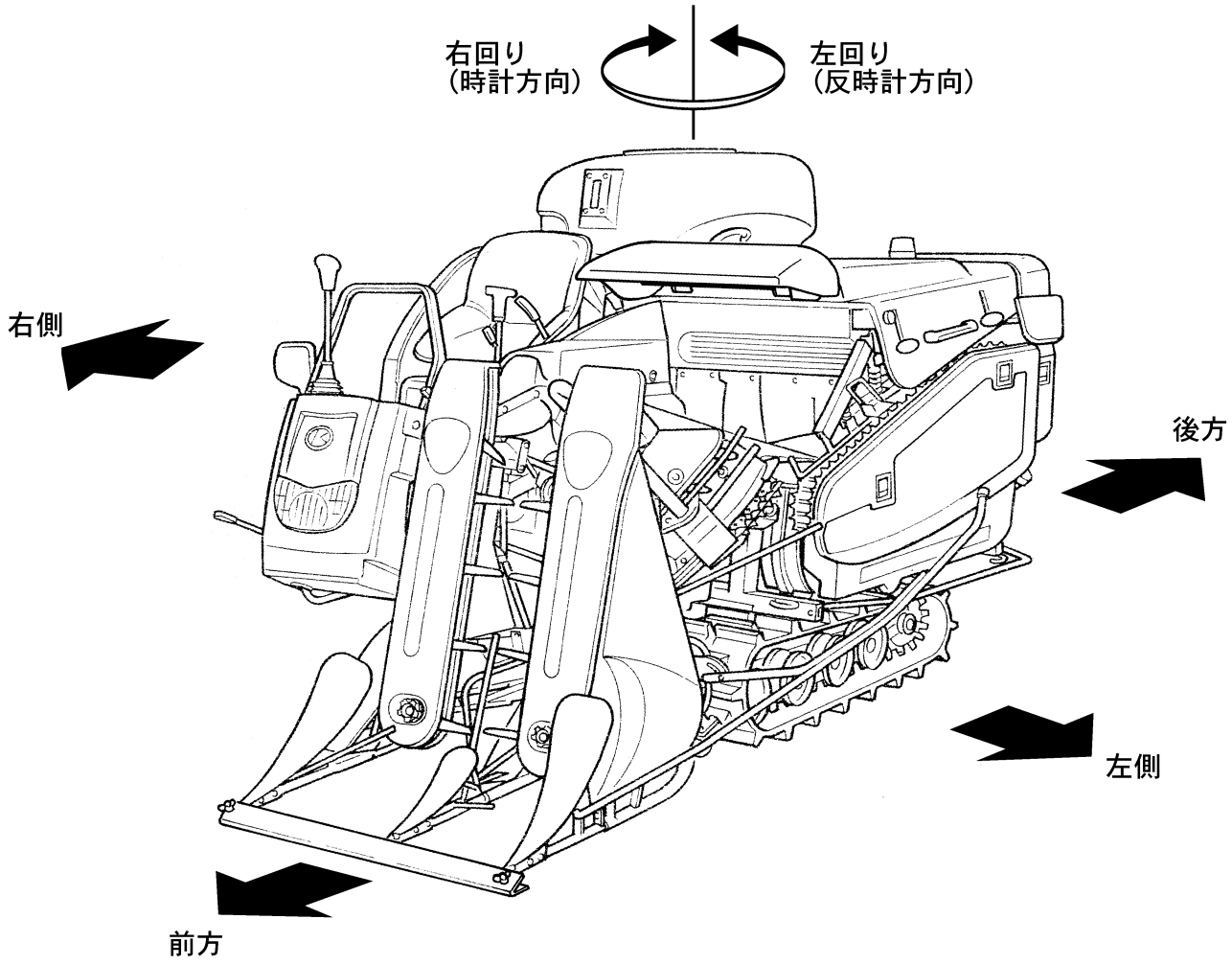
◆ 運転免許証の携帯

公道走行時は，小型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必ず所持してください。

装置の名称と取扱い

機体方向説明

この取扱説明書で使用している**前後・左右・左回り・右回り**などの方向は，図示の通りです。

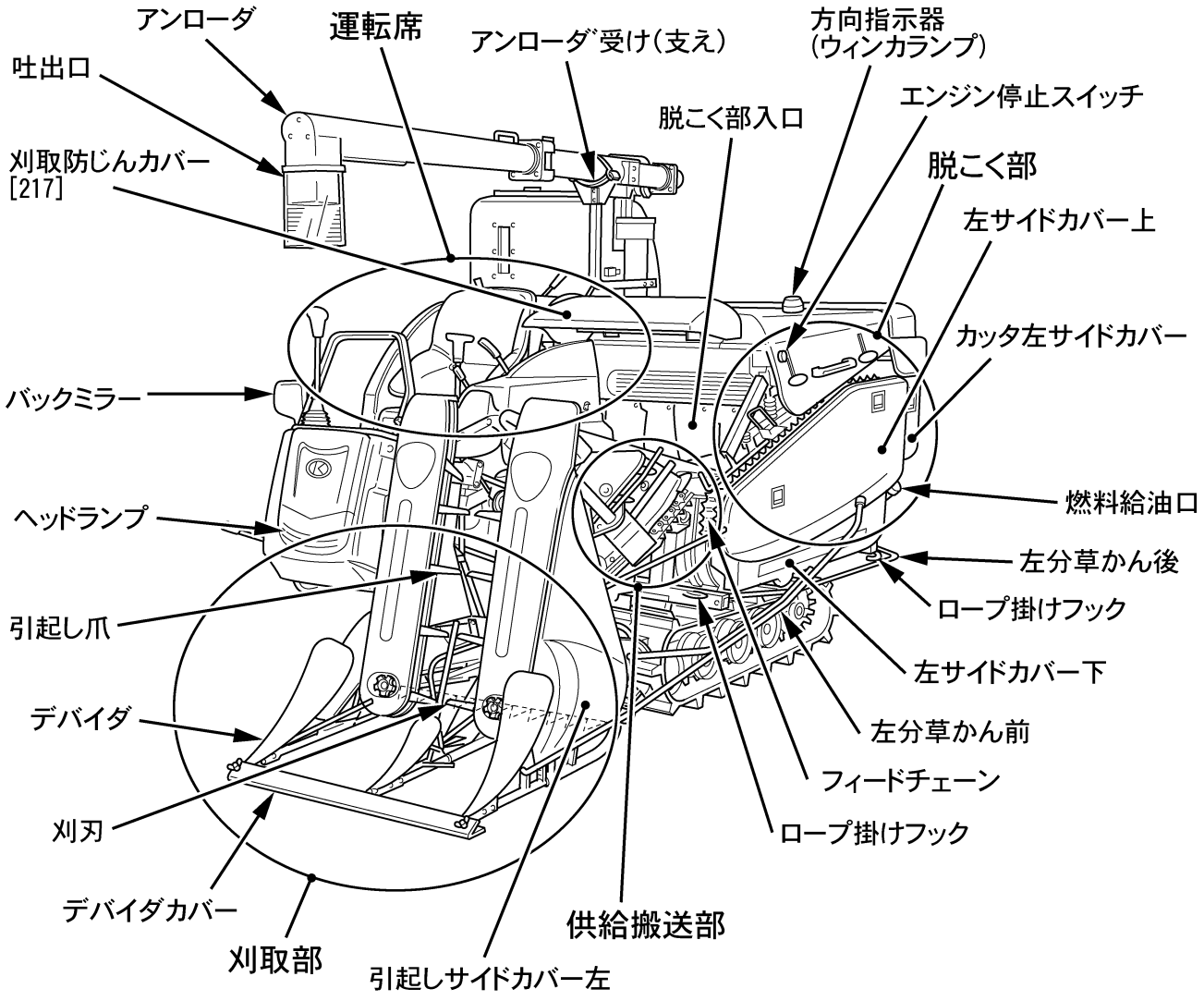


1ARADAKAP172A

※イラストはホッパ仕様

装置の名称と各部のはたらき

[213・216・217G 仕様]



※イラストは217

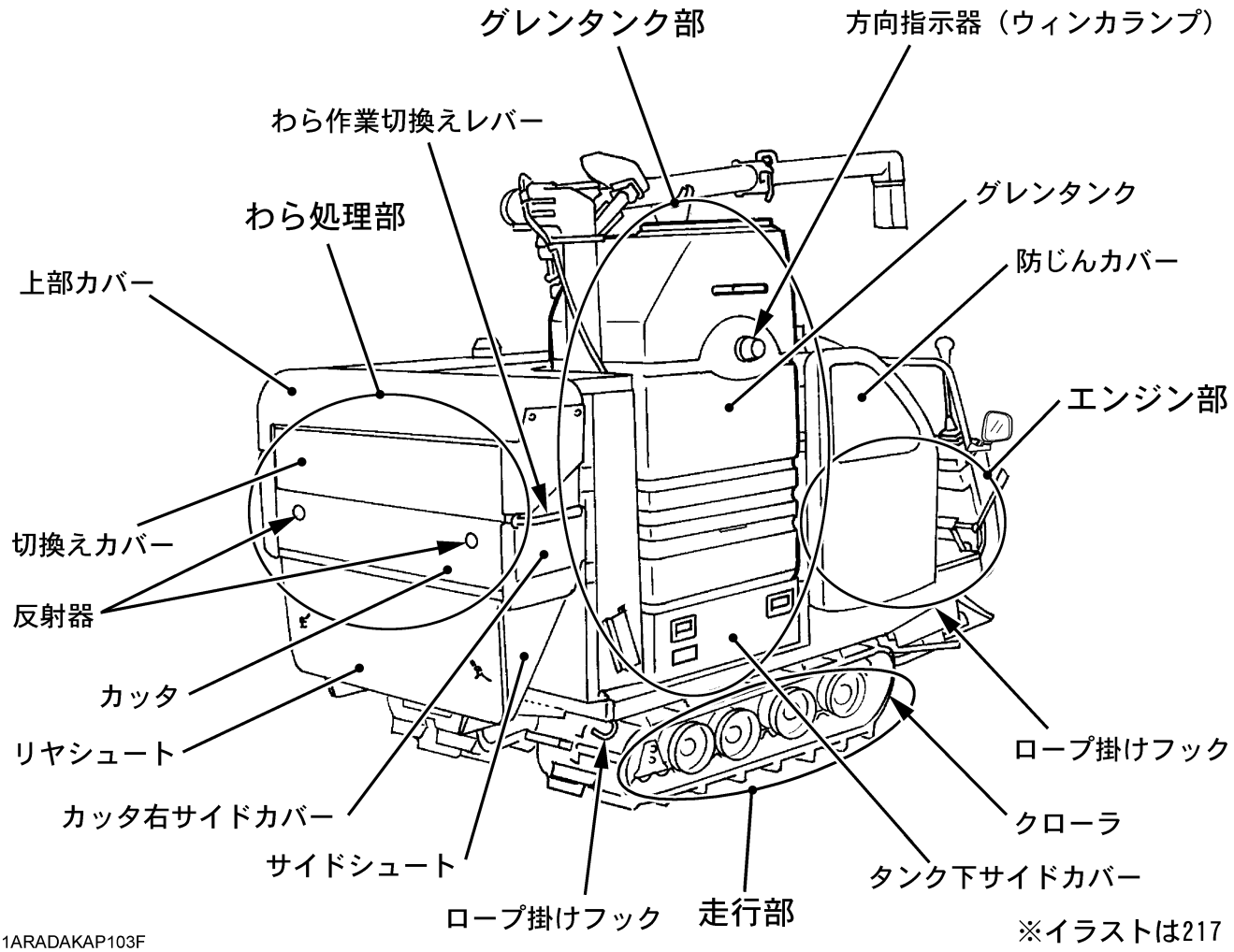
ARADAKAP003E

- **運転操作部**……エンジンの始動・停止や移動走行・刈取作業の運転操作を行なうところ
- **刈取部**……作物の引起しと刈取を行なうところ
- **供給搬送部**……刈取った作物を脱こく部へ搬送するところ
- **脱こく部**……作物の脱こくを行なうところ
- **アンローダ［G 仕様］**……グレンタンクからもみを排出する筒

[213・216・217G 仕様]

装置の名称と取扱い

[213・216・217G 仕様]

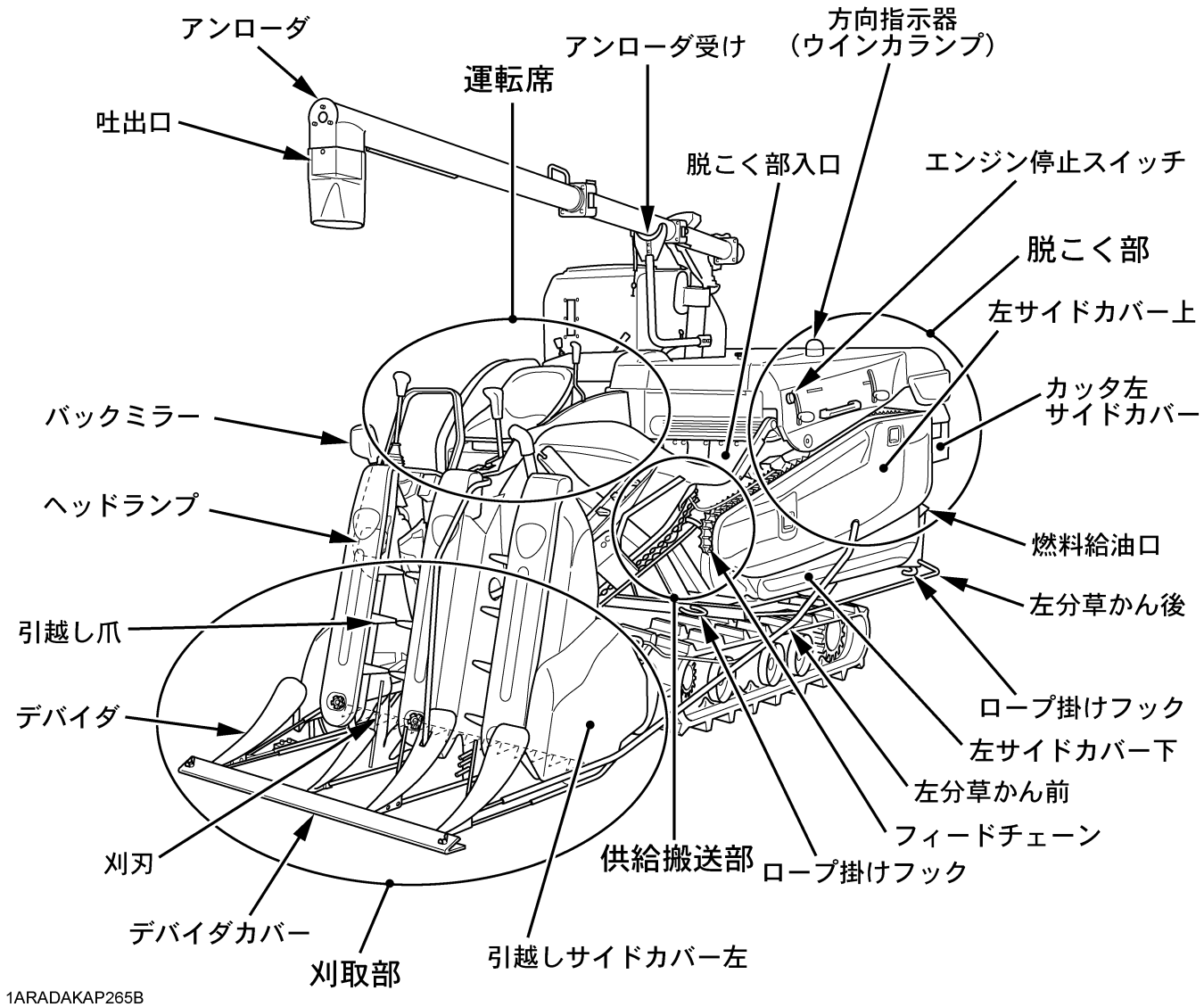


1ARADAKAP103F

- **エンジン部**……運転席下部にある動力装置
- **走行部**……クローラにより走行を行なうところ
- **グレンタンク部**……脱こくで精選されたもみを一時貯蔵したあとアンローダで排出を行なうところ
- **わら処理部**……わらの切断やばら落としなどわらの処理を行なうところ

[213・216・217G 仕様]

[317G 仕様]

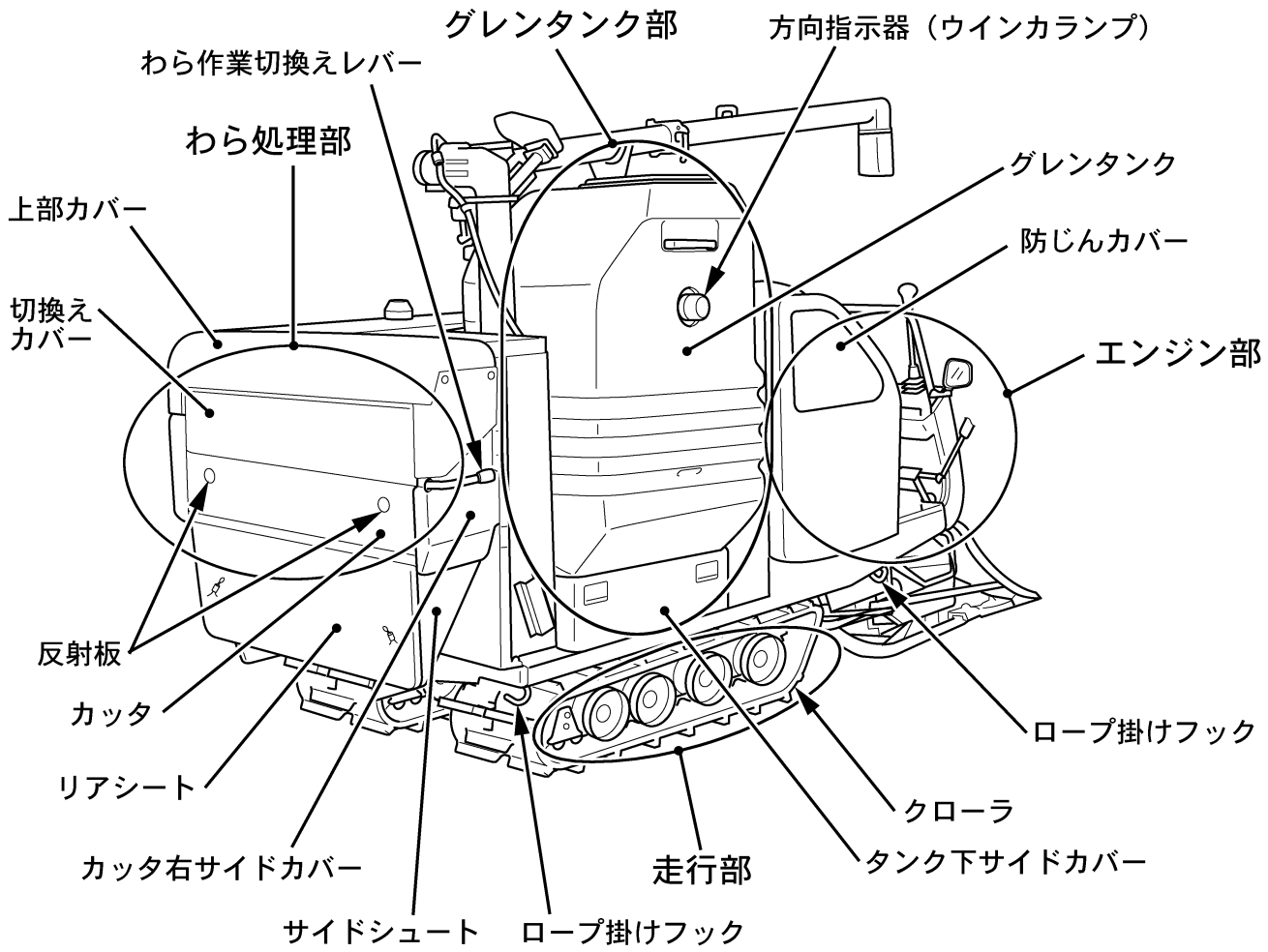


1ARADAKAP265B

- **運転操作部**……エンジンの始動・停止や移動走行・刈取作業の運転操作を行なうところ
- **刈取部**……作物の引起しと刈取を行なうところ
- **供給搬送部**……刈取った作物を脱こく部へ搬送するところ
- **脱こく部**……作物の脱こくを行なうところ
- **アンローダ**……グレンタンクからもみを排出する筒

[317G 仕様]

[317G 仕様]

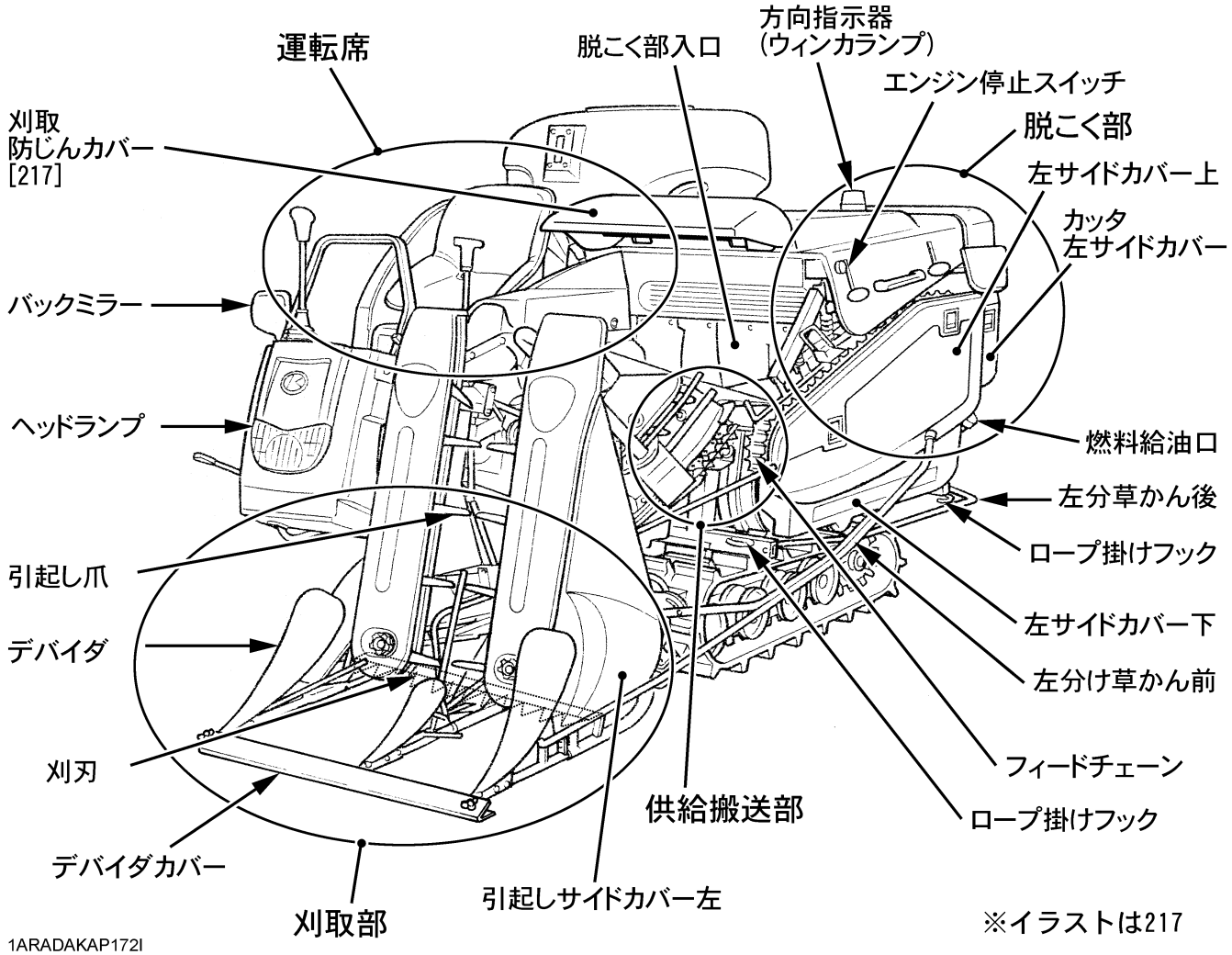


1ARADAKAP267A

- **エンジン部**……運転席下部にある動力装置
- **走行部**……クローラにより走行を行なうところ
- **グレンタンク部**……脱こくで精選されたもみを一時貯蔵したあとアンローダで排出を行なうところ
- **わら処理部**……わらの切断やばら落としなどわらの処理を行なうところ

[317G 仕様]

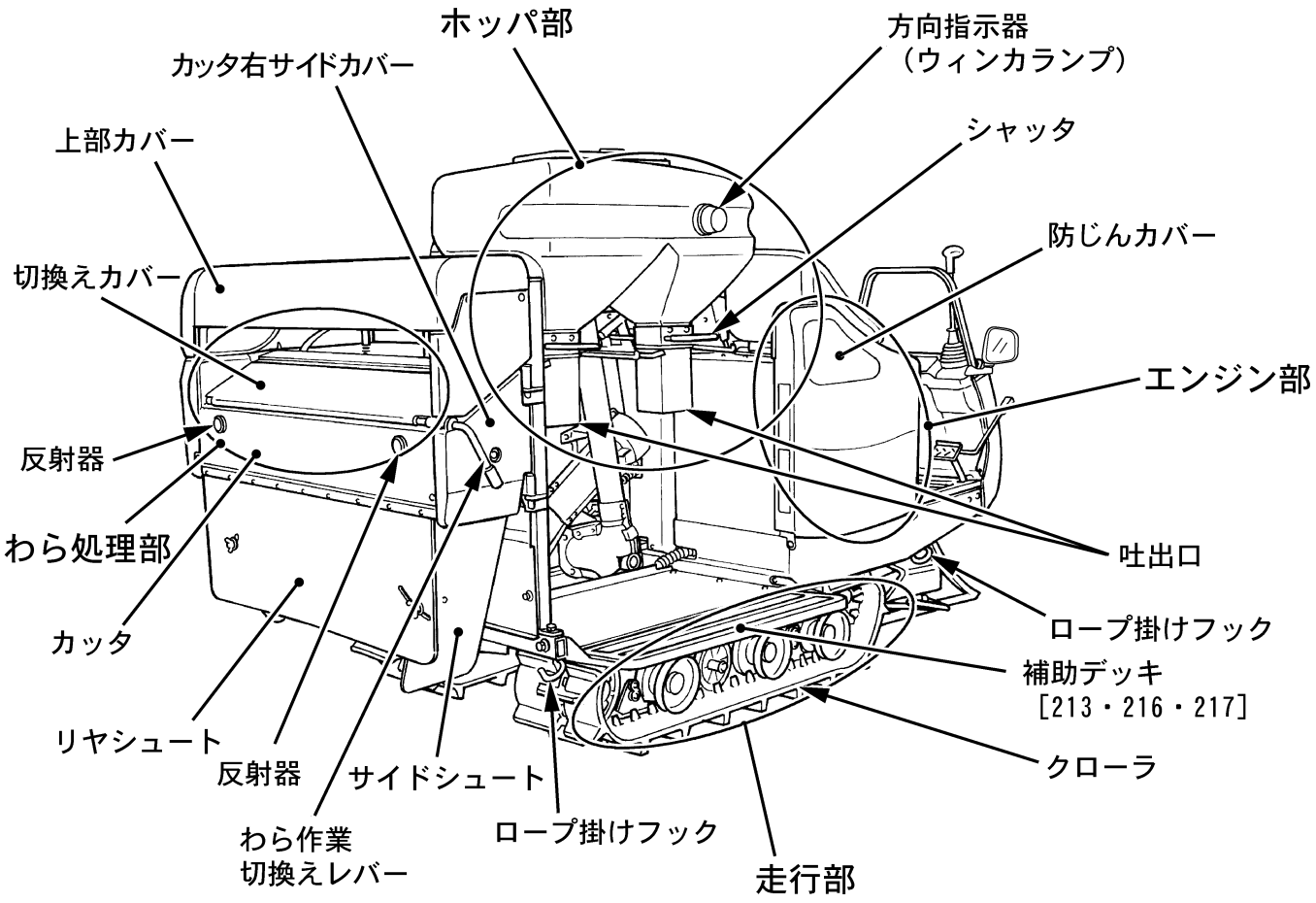
[ホッパ仕様]



- **運転操作部**……エンジンの始動・停止や移動走行・刈取作業の運転操作を行なうところ
- **刈取部**……作物の引起しと刈取を行なうところ
- **供給搬送部**……刈取った作物を脱こく部へ搬送するところ
- **脱こく部**……作物の脱こくを行なうところ

[ホッパ仕様]

[ホッパ仕様]



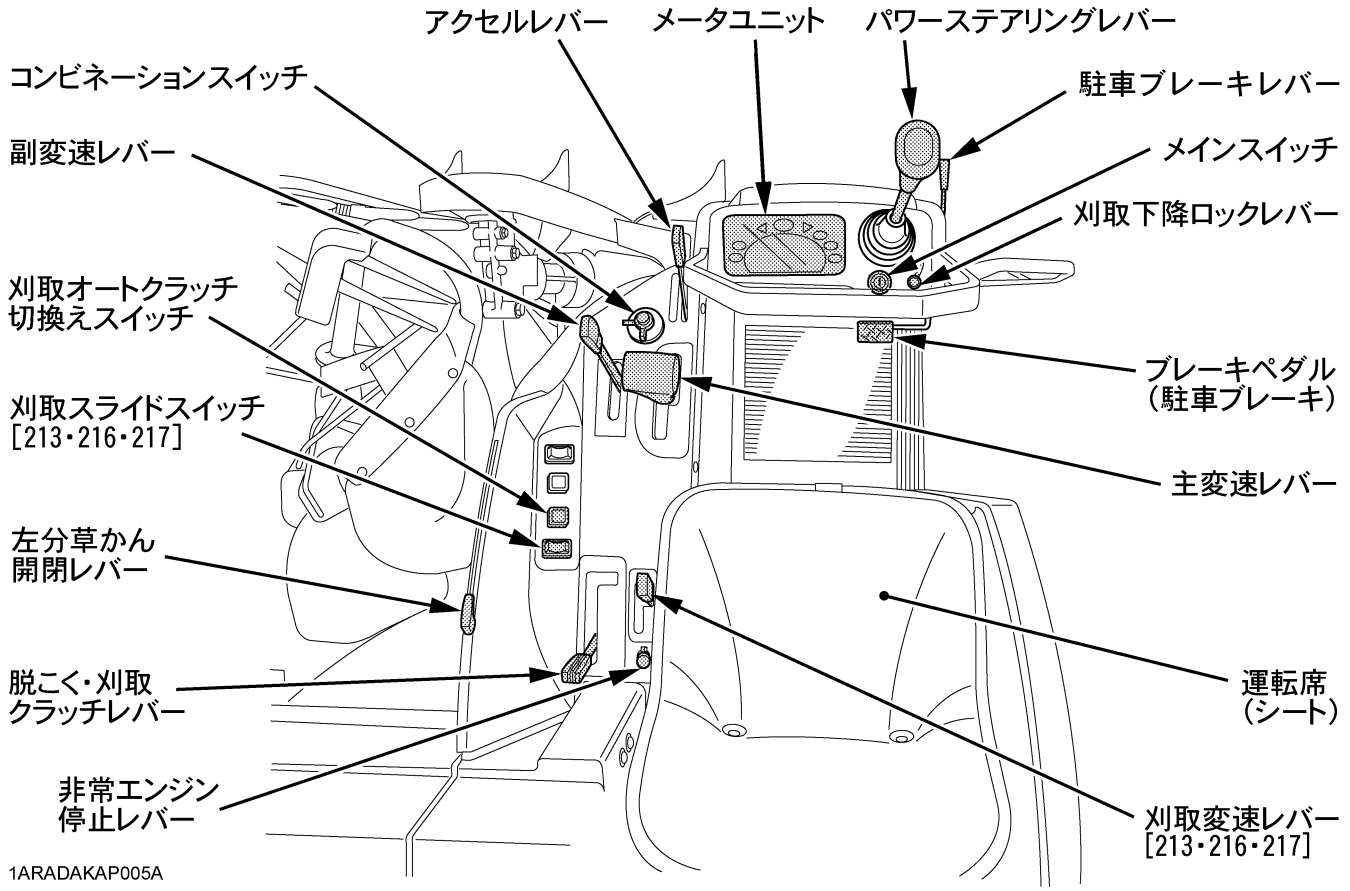
※イラストは217

1ARADAKAP010I

- **エンジン部**……運転席下部にある動力装置
- **走行部**……クローラにより走行を行なうところ
- **ホッパ部**……脱こくで精選されたもみを一時貯蔵したあと袋詰めを行なうところ
- **わら処理部**……わらの切断やばら落としなどわらの処理を行なうところ

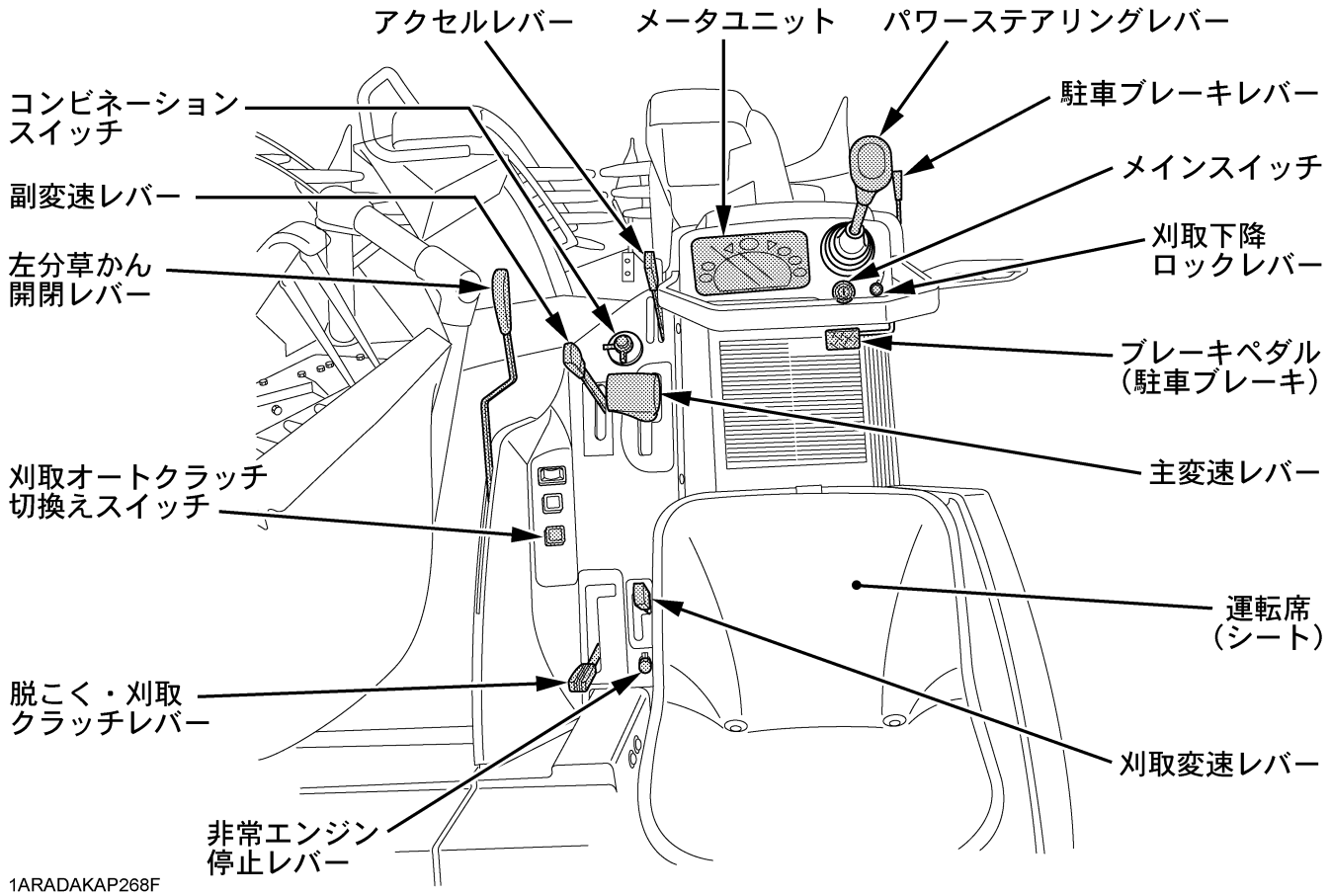
[ホッパ仕様]

[211・213・216・217]



[211・213・216・217]

[317]

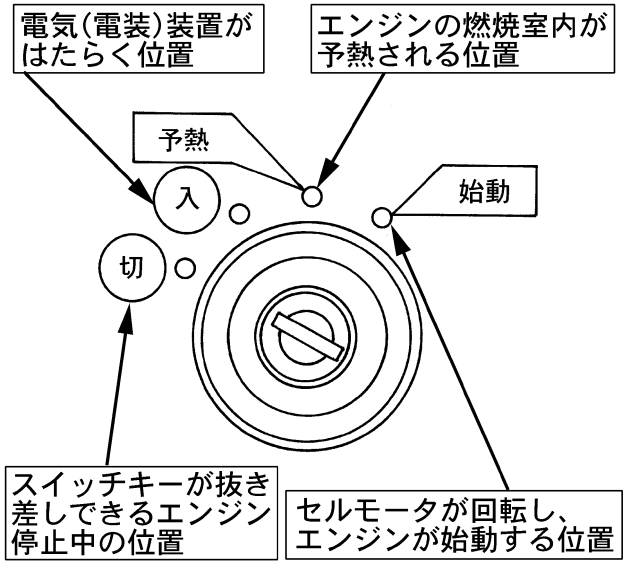

アクセルレバー
メータユニット
パワーステアリングレバー
コンビネーション
スイッチ
駐車ブレーキレバー
メインスイッチ
副変速レバー
刈取下降
ロックレバー
左分草かん
開閉レバー
ブレーキペダル
（駐車ブレーキ）
主変速レバー
刈取オートクラッチ
切換えスイッチ
運転席
（シート）
脱こく・刈取
クラッチレバー
刈取変速レバー
非常エンジン
停止レバー
1ARADAKAP268F

[317]

◆ エンジン操作関係

■メインスイッチ

コンバインの電源の**入・切**，及びエンジンの**始動・停止**を行なうスイッチです。



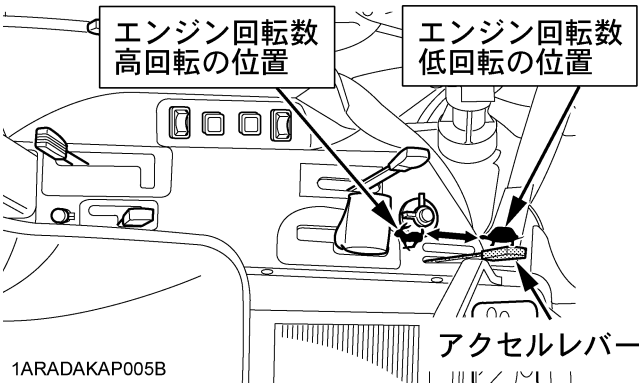
1ARADAKAP013A

補　足

＊ エンジン始動後，スイッチキーから手を離すとスイッチキーは，**［入］**の位置に戻ります。

■アクセルレバー

エンジン回転をコントロールするレバーです。レバーを後方に引くと回転数が上がります。



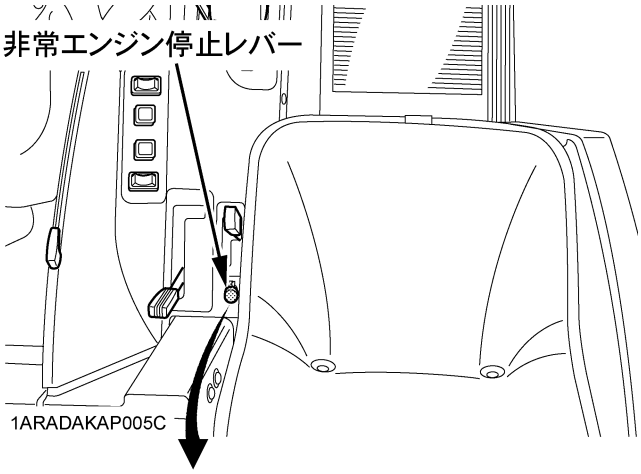
1ARADAKAP005B

補　足

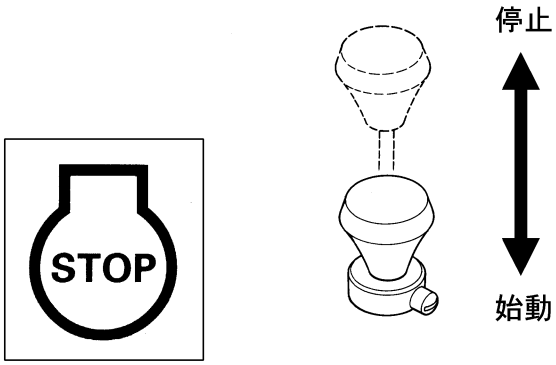
＊ エンジン回転計は，20 ページを参照してください。

■非常エンジン停止レバー

スイッチキーを**［切］**位置にしてもエンジンが止まらないときなど非常時に，エンジンを停止させるレバーです。



1ARADAKAP005C



1ARADAKAP014A

補　足

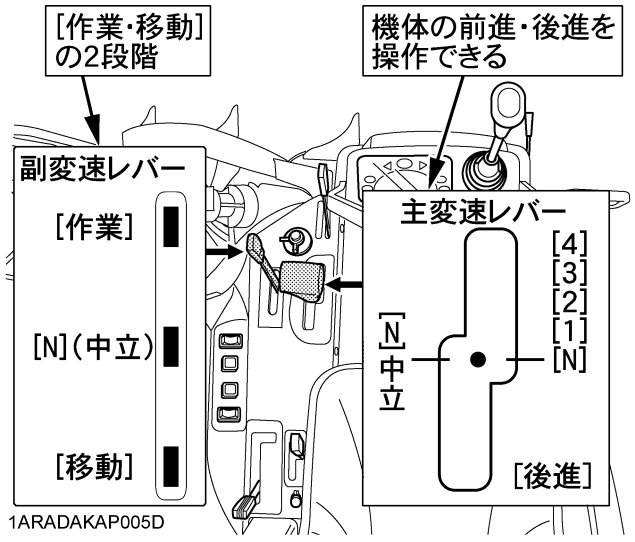
＊ レバーが停止状態では，エンジンは始動しません。

◆ 走行操作関係

■主変速レバー・副変速レバー

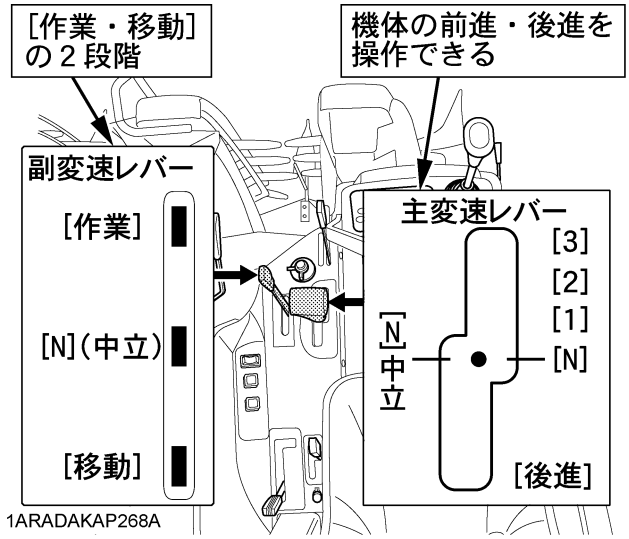
移動走行時や刈取作業時に変速をするレバーです。

[213・216・217]



[213・216・217]

[211・317]



[211・317]

補　足

＊ ブレーキペダルを踏込む又は，駐車ブレーキを掛けると主変速レバーは，**[N]（中立）**位置に固定され，主変速レバーを操作しても動きません。

＊ **[後進]** 位置にするとバックブザーが鳴ります。

[213・216・217]

＊ 主変速レバーは前，後進無段階で操作できますが，前進方向は目安として，１～４（段階）の数字を表示しています。

[213・216・217]

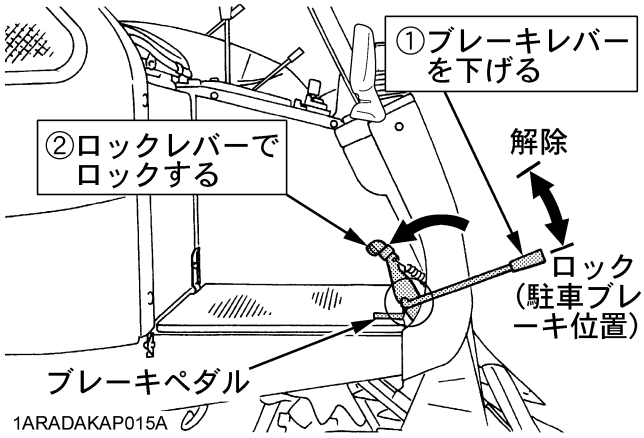
[211・317]

＊ 主変速レバーは前，後進無段階で操作できますが，前進方向は目安として，１～３（段階）の数字を表示しています。

[211・317]

■ブレーキペダル（駐車ブレーキ）

レバーを下げるとブレーキが掛かり，ロックレバーで駐車ブレーキレバーをロックすると駐車ブレーキが掛かります。



重　要

＊ 駐車ブレーキを掛けている状態では主変速レバーを前・後進方向に操作できません。
無理に操作するとレバーの変形や破損によるトラブルの原因になります。

補　足

＊ 駐車ブレーキレバーを押さえると，減速すると同時に主変速レバーが **[N]（中立）** 側に戻ります。

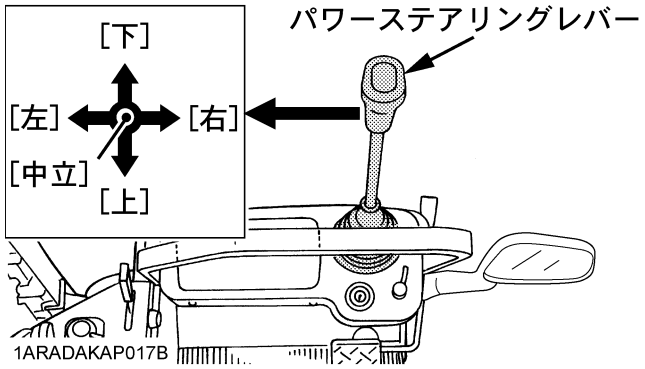
■パワーステアリングレバー

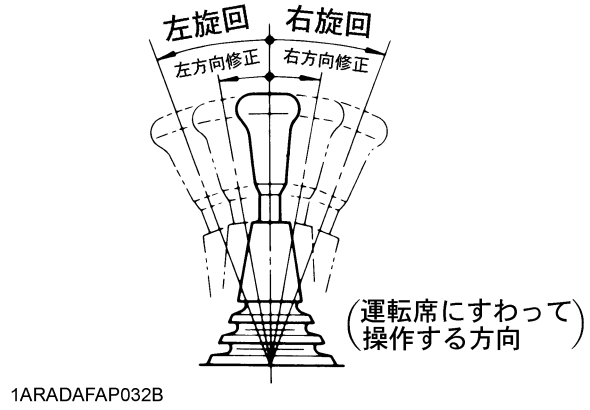
パワーステアリングレバーは，機体走行時の進路変更と刈取部の昇降の操作を行なうレバーです。

- **パワーステアリングレバー**

［左］⟷［右］ …… レバーを倒した方向に機体の進路が変わります。倒す角度に応じて進路の方向修正から旋回を行ないます。

［下］
↕
［上］ …… レバーを倒した方向に刈取部が上下に動きます。



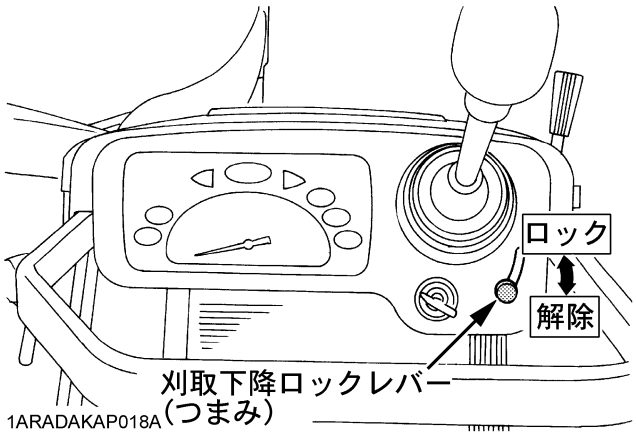


補　足

＊ エンジンが停止中でも，刈取部が上がっているときにパワーステアリングレバーを前方（**［下］**方向）に倒すと，刈取部が下がります。

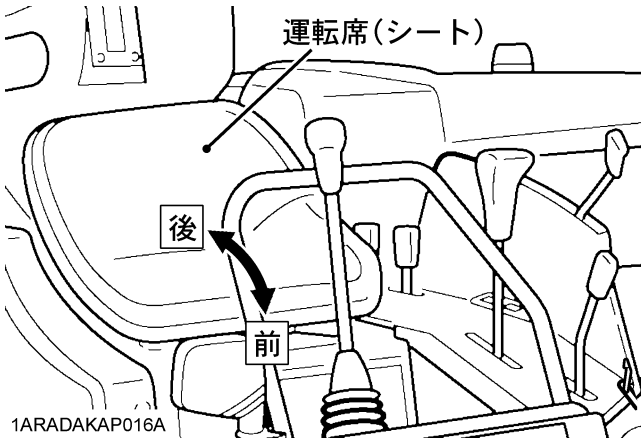
■刈取下降ロックレバー

刈取部の下降防止を行なうロックレバーです。ロックレバーを**［ロック］**位置にすると，パワーステアリングレバーを操作しても刈取部は下降しません。ロックレバーを操作するときは，刈取部を上昇させた状態で行なってください。ロックレバーを動かすときは，つまみのネジをゆるめて**［ロック］**位置でネジを締付けてください。また，解除するときは**［解除］**位置でネジを締付けてください。



■運転席（シート）

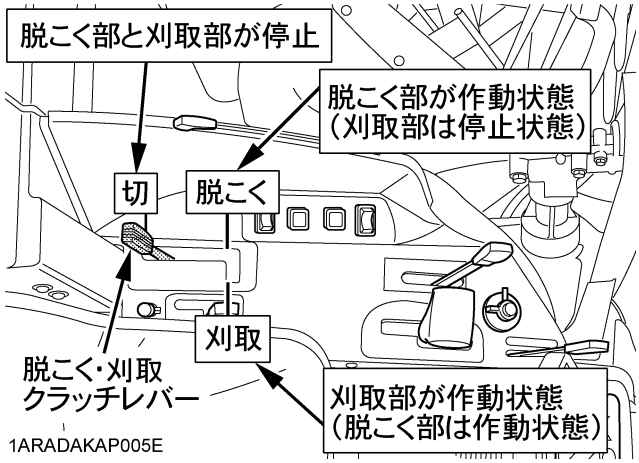
運転席（シート）を前方に倒しながら，**前・後**に調節が行なえます。



◆ 刈取・脱こく関係

■脱こく・刈取クラッチレバー

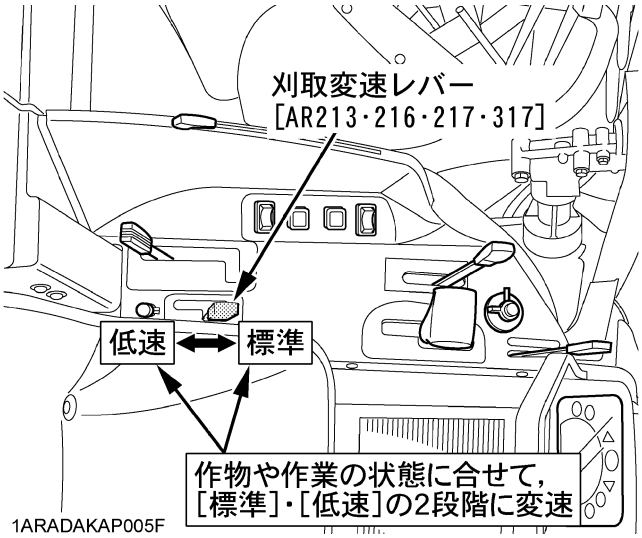
脱こく部と刈取部の動力を**入・切**するクラッチレバーです。



■刈取変速レバー

[213・216・217・317]

刈取部の速度を変えるレバーです。作物や作業の状態に合わせて，**[標準]** と **[低速]** の２段階に変速できます。

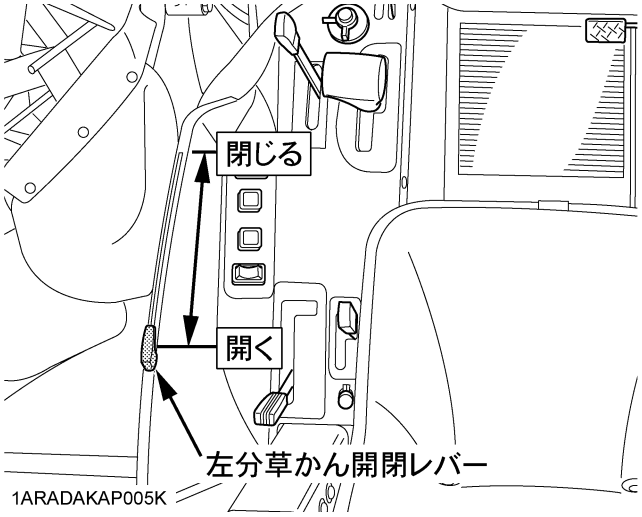


[213・216・217・317]

■左分草かん開閉レバー

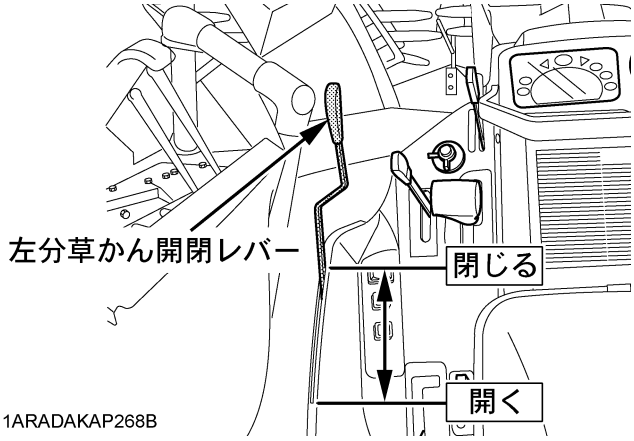
左分草かん前を開閉するレバーです。

[211・213・216・217]

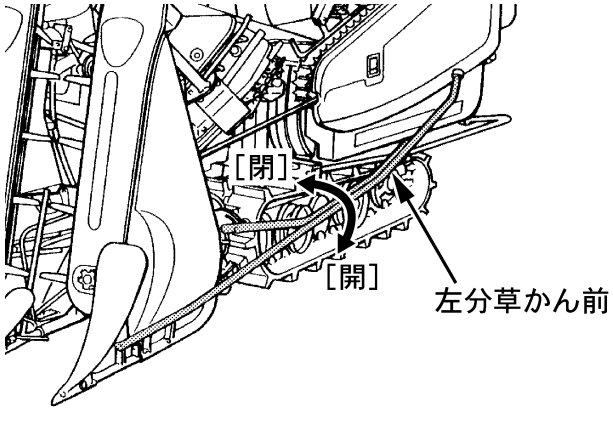


[211・213・216・217]

[317]

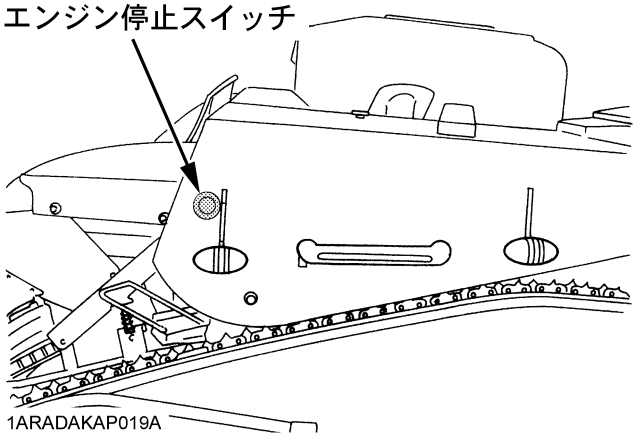


[317]



■エンジン停止スイッチ

エンジンを停止するスイッチです。エンジンが停止すると同時にブザーが鳴ります。



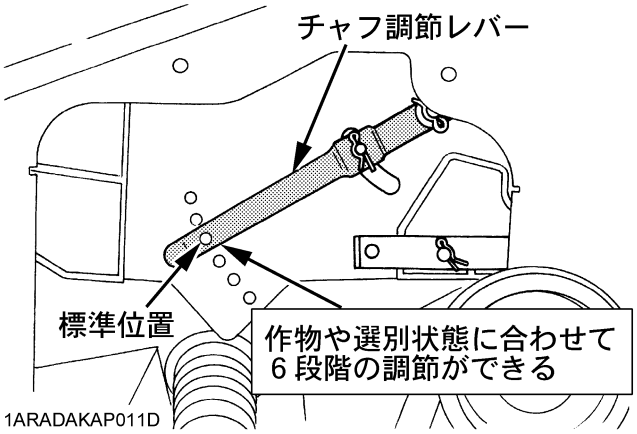
補　足

＊ スイッチキーを **【切】** 位置にするとブザーは止まります。
＊ スイッチキーを **【切】** 位置に戻してからエンジンを再始動してください。

■チャフ調節レバー

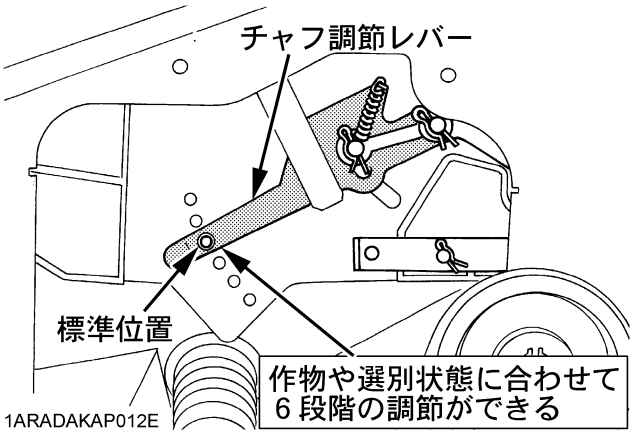
シーブケースにある選別板のすき間（開度）の調節を行なうレバーです。

[211]



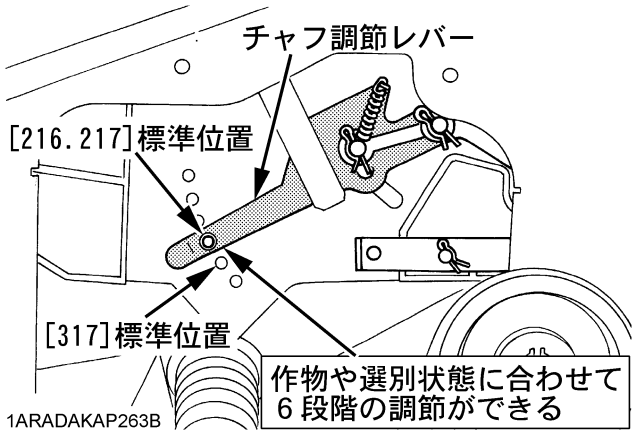
[211]

[213]



[213]

[216・217・317]



[216・217・317]

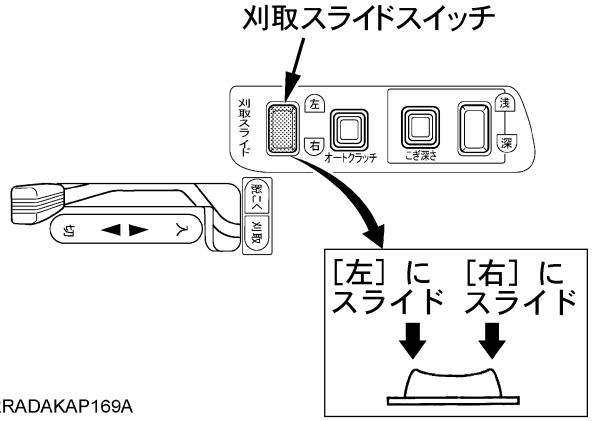
補　足

＊ チャフ調節レバーは，左サイドカバーを取外し，脱こく部左の掃除口カバーを取外すとあります。

■刈取スライドスイッチ

[213・216・217]

刈取部を左・右にスライドさせるスイッチです。
（68 ページ参照）



補　足

＊ 刈取スライド装置は，エンジン停止中でも，メインスイッチ **[入]** の位置で動きますが，バッテリあがり防止のためエンジンを始動してから操作してください。

[213・216・217]

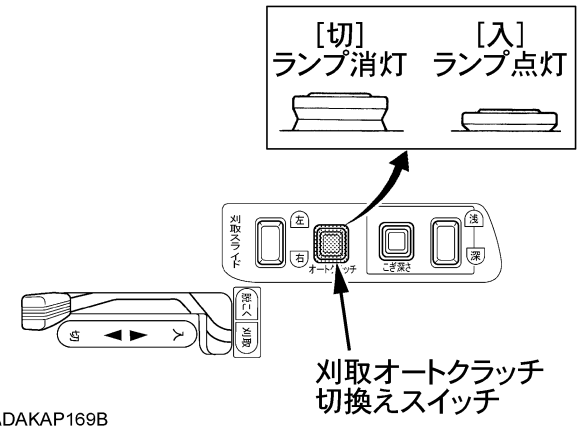
■刈取オートクラッチ

刈取オートクラッチは，刈取部及び脱こく部が作動中にパワーステアリングレバーを操作したとき，刈取部が地面から一定の高さまで上昇すると刈取搬送部が停止し，一定の高さまで下降すると再度動き出す自動クラッチです。

● 刈取オートクラッチ切換えスイッチ

自動入り‥ ランプが点灯し，刈取オートクラッチが作動します。

自動切り‥ ランプが消灯し，刈取オートクラッチが解除されます。



1ARADAKAP169B

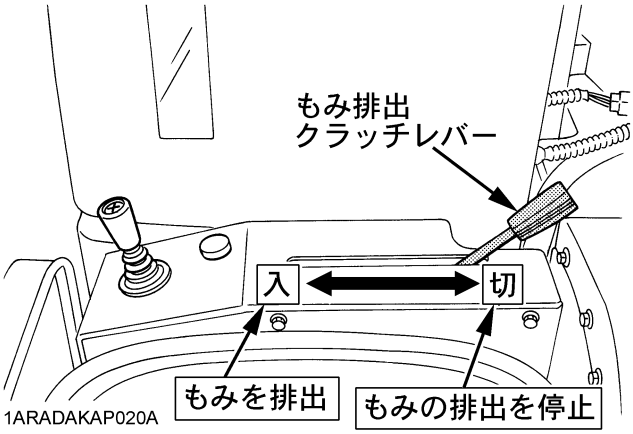
補　足

＊ 刈取オートクラッチ切換えスイッチ**[入]**（ランプ点灯）で，刈取搬送部が停止しているとき，切換えスイッチを**[切]**（ランプ消灯）にすると刈取搬送部を再度動かすことができます。

◆ グレンタンク関係［G 仕様］

■もみ排出クラッチレバー

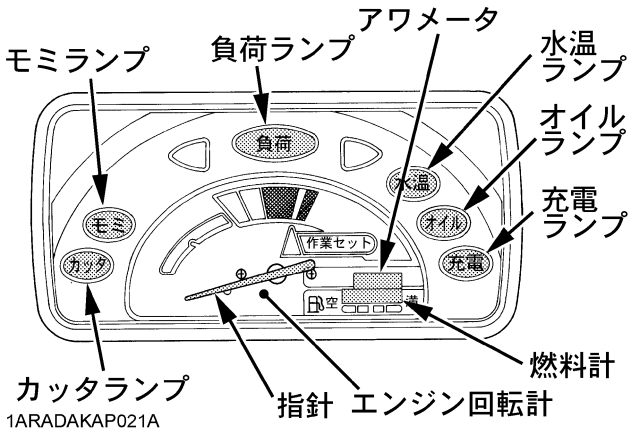
グレンタンク内のもみの排出操作を行なうレバーです。



1ARADAKAP020A

◆ 電装関係

■メータユニット



◆ 各メータ

● エンジン回転計（単位：rpm）

１分間のエンジン回転数を指針で表示します。

● 燃料計

燃料の残量を液晶の目盛り（４段階）で表示します。

● アワメータ （単位：h 〔時間〕）

エンジン運転時間の積算使用時間を液晶に表示します。

補 足

＊ 機械に異常が発生すると，液晶ディスプレイにエラーメッセージ（例：E-012 ）を表示します。エラーメッセージが表示されたときは，購入先に連絡してください。

◆ 各ランプ

補 足

＊ 処置については，86 ページを参照してください。

＊ エンジンが停止しているとき，スイッチキーを**［入］**位置にすると，充電ランプ・オイルランプが点灯しますが異常ではありません。

● 水温ランプ

エンジンの冷却水温が高温になると点滅します。**（水温警報）**

補 足

＊ 水温警報が鳴ると同時に，水温ランプが点滅します。

● 充電ランプ

充電系統に異常が発生すると点灯します。**（充電警報）**

● オイルランプ

エンジンオイルの圧力が，異常に低下すると点灯します。**（油圧警報）**

● カッタランプ

わら処理（カッタ）部にわらが詰まり，エンジンが自動停止**（エンジン自動停止装置）**すると点灯します。**（カッタ詰まり警報）**

補 足

＊ カッタランプ表示は，**［結束機付き仕様］**の場合，わら詰まり・ひも切れ・ひも詰まりでも点滅します。

● モミランプ

ホッパ内又は，グレンタンク内のもみが満杯になると点滅し，ブザーが鳴ります。**（もみ満杯警報）**

● 負荷ランプ

エンジンに負荷がかかってくるとランプが点滅し，ブザーが鳴ります。**（負荷警報）**また，**［317］**は脱こく機のシーブケース上で詰まりが発生するとランプが点滅し，ブザーが鳴ります。**（シーブ警報）**

補 足

● エンジン回転数は，負荷が大きくなるほど下がります。指針の示す位置で以下のようになります。

適正範囲（緑色）

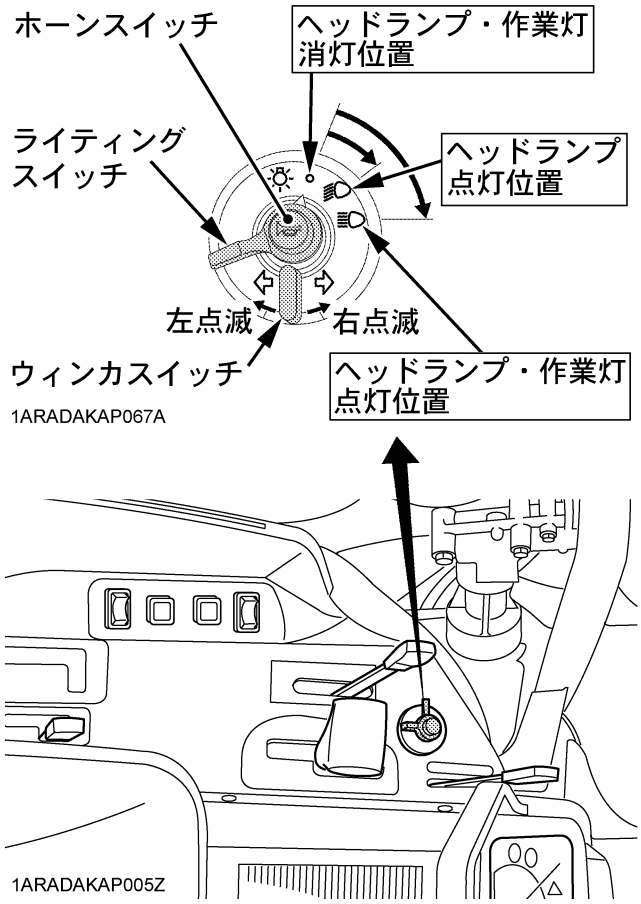
⬇

減速範囲（黄色）…… ランプ点滅

⬇

即時減速（赤色）…… ランプ点滅
ブザーが鳴る

■コンビネーションスイッチ・ホーンスイッチ



● ライティングスイッチ

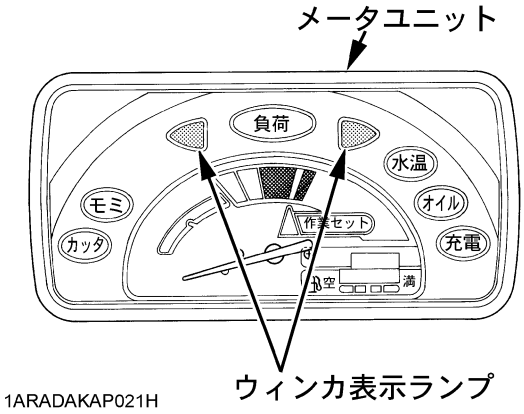
スイッチを操作するとヘッドランプと作業灯が点灯します。

補　足

＊ 作業灯はオプション部品です。

● ウインカスイッチ

旋回方向に操作すると, ウインカランプが点滅すると同時にメータユニット内のウィンカ表示ランプが点滅します。

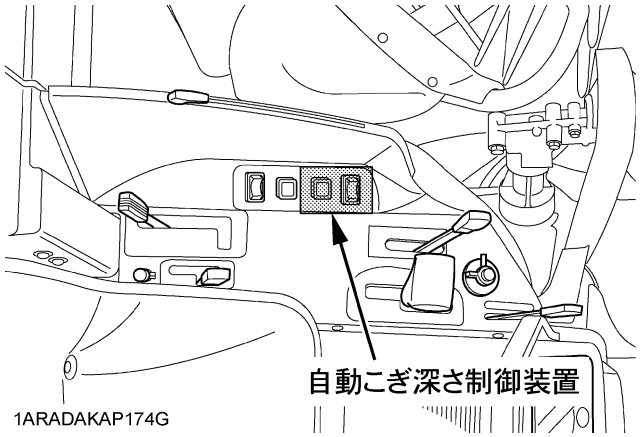


● ホーンスイッチ

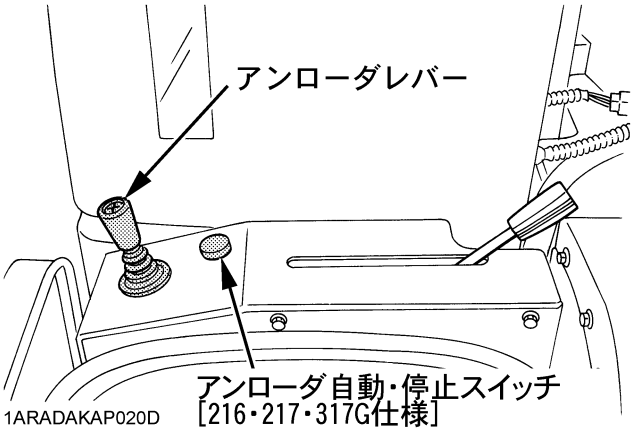
中央の赤いスイッチを押すとホーンが鳴ります。

自動化装置の名称と取扱い

装置の名称と各部のはたらき



1ARADAKAP174G



1ARADAKAP020D

■自動こぎ深さ制御装置

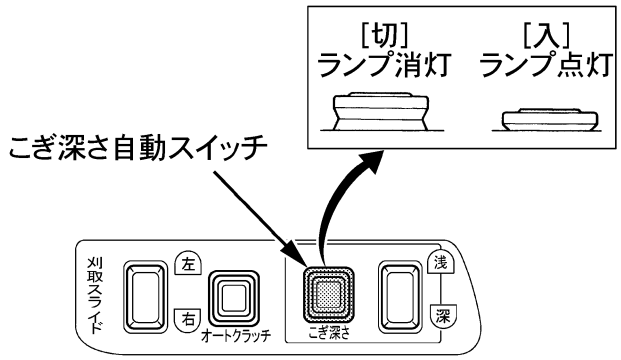
こぎ深さ自動制御装置は，作物の長さに応じて，適正なこぎ深さを保つ装置です。

● こぎ深さ自動スイッチ

自動こぎ深さ制御の**入／切**をするスイッチです。

自動入り…… ランプが点灯し，自動こぎ深さ制御が作動します。

自動切り…… ランプが消灯し，自動こぎ深さ制御が解除されます。

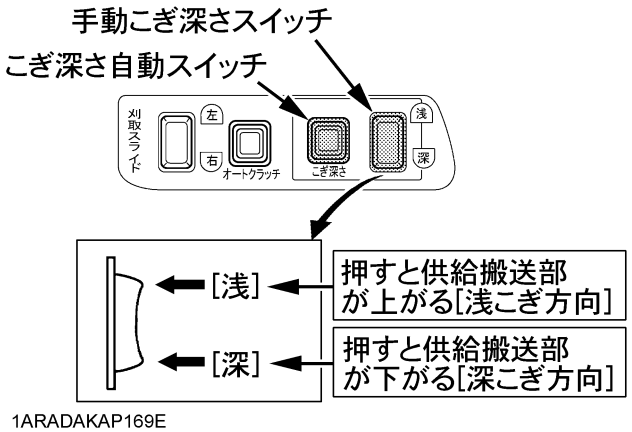


1ARADAKAP169D

■手動こぎ深さスイッチ

● 手動操作時

こぎ深さを手動で行なう場合は，こぎ深さ自動スイッチを**［切］（ランプ消灯）**にしてください。



1ARADAKAP169E

スイッチの操作	供給搬送部の動き
深	下がる
浅	上がる

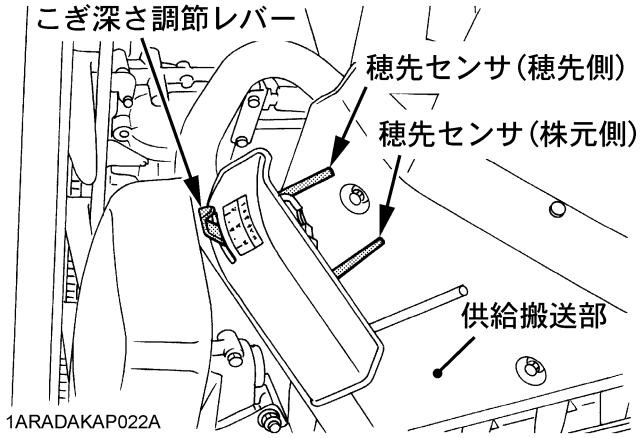
補　足

＊ 自動制御が，はたらいているときでも手動スイッチによる操作が優先されます。

● 穂先センサの位置調節について

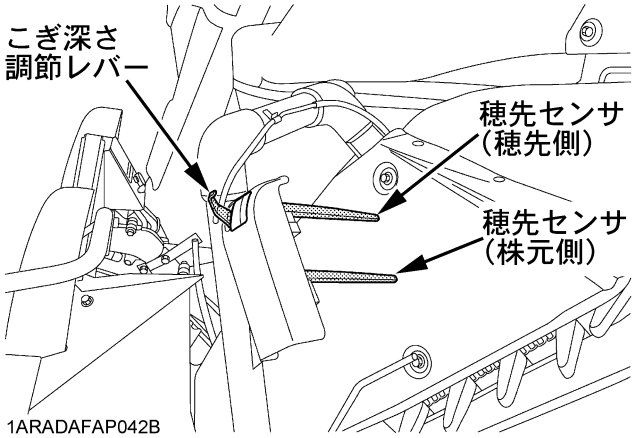
通常は**［ほぼ中央］**に合せてください。調節は，こぎ深さ調節レバーを**［深］**の方向に倒すと，深こぎ気味に保持され，こぎ深さ調節レバーを**［浅］**の方向に倒すと，浅こぎ気味に保持されます。

［211・213・216・217］



［211・213・216・217］

［317］



［317］

補　足

＊ 穂先センサ（株元側，穂先側）に浮わらや雑草が引っ掛かると，正常な自動制御ができませんので取除いてください。

＊ 下記のときは，手動で操作してください。
- 長かん作物（約130cm以上）を刈取るとき
- 遅れ穂が多く，こぎ残しの出るとき
- 極端に作物の長さが不揃いのとき
- 作物よりも長い雑草が多いとき
- 倒伏作物を刈取るとき

■アンローダ自動旋回制御装置

［216・217・317G 仕様］

アンローダ自動旋回制御装置は，スイッチの操作により，アンローダが**収納位置⟷排出位置**に自動旋回する装置です。

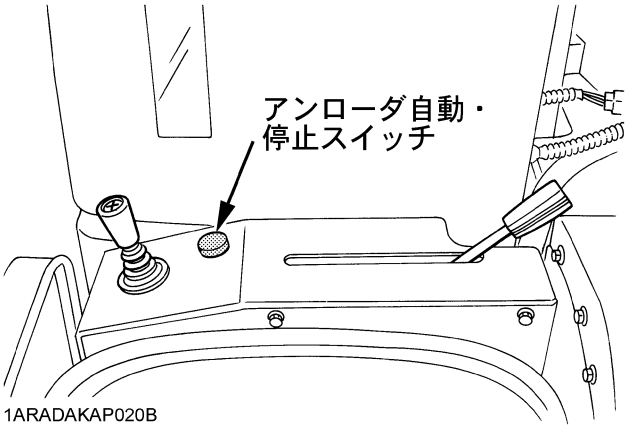
● アンローダ自動・停止スイッチ

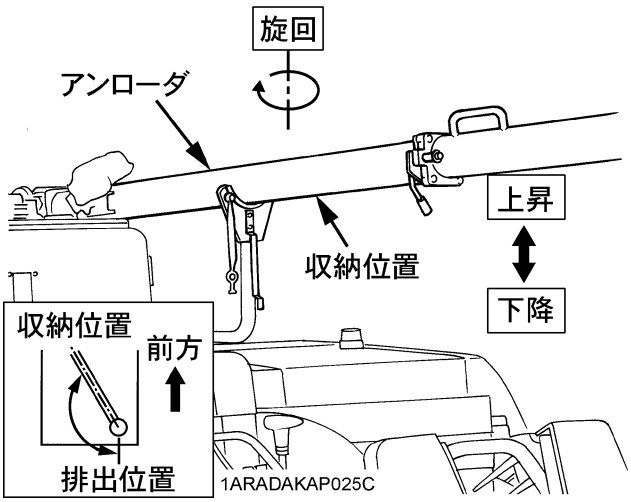
アンローダが下記位置にあるときにスイッチを押すと

1. **収納位置**（アンローダ受けに収納状態）にあるときは，アンローダが上昇し排出位置まで自動的に旋回します。
2. **自動上昇・旋回・下降途中**でスイッチを押すと，その位置で停止します。そのあと，もう一度スイッチを押すと，アンローダの位置により次のように動きます。

   (1) **自動旋回途中・収納位置以外での自動上昇途中**の場合は，収納位置まで自動的にもどります。

   (2) **収納位置からの自動上昇途中・収納位置への下降途中**の場合は，排出位置まで上昇・旋回をします。





重　要

＊ エンジン停止中でもメインスイッチ**［入］**の位置で旋回操作はできますが，長時間エンジンを停止した状態で操作すると**バッテリ上り**の原因となりますので，操作するときは，エンジンを必ず始動して行なってください。

補　足

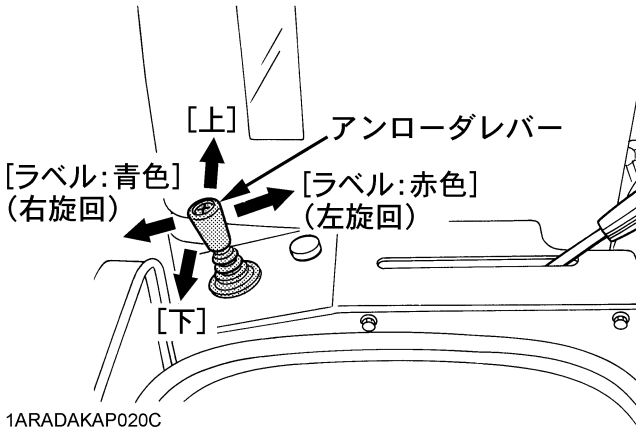
＊ 自動制御装置作動中でもアンローダレバーの操作が優先され，その後の自動旋回は停止します。
＊ 自動制御でアンローダが収納位置に戻った直後に，自動・停止スイッチを押しても自動制御は作動しません。10秒程度待ってから自動・停止スイッチを押してください。
＊ アンローダが上限位置のとき，自動・停止スイッチを押すと約２秒後に旋回しますが，この間に自動・停止スイッチを再度押さないでください。

［216・217・317G 仕様］

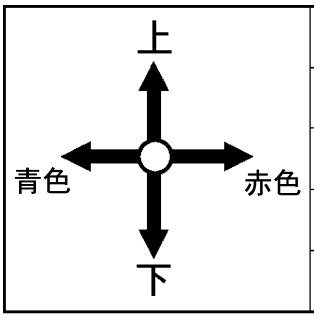
■アンローダレバー

［G 仕様］

アンローダの旋回及び上昇・下降の操作を行なう手動操作レバーです。



1ARADAKAP020C

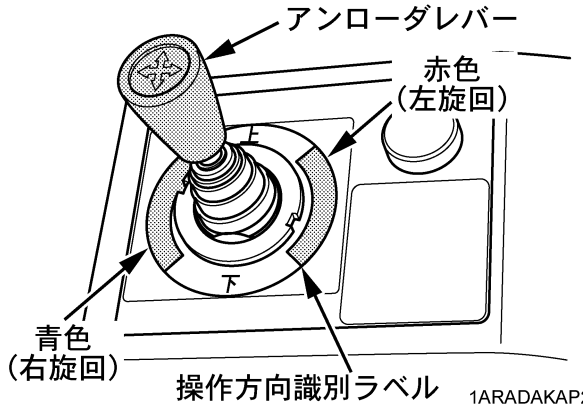


レバーの操作方向	アンローダの動き
上	上昇
下	下降
赤色	左回り（反時計方向）に旋回
青色	右回り（時計方向）に旋回

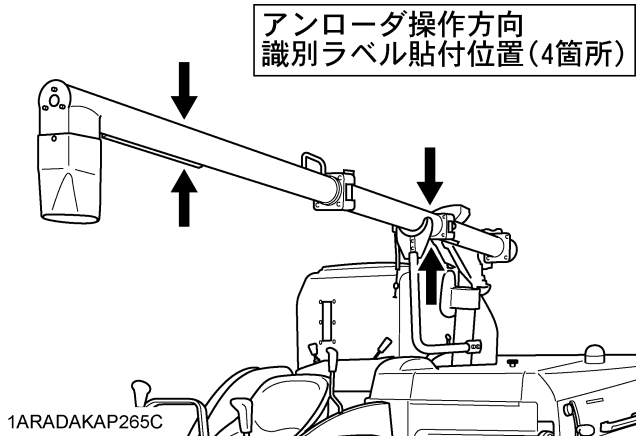
1ARAEAABP0180

補　足

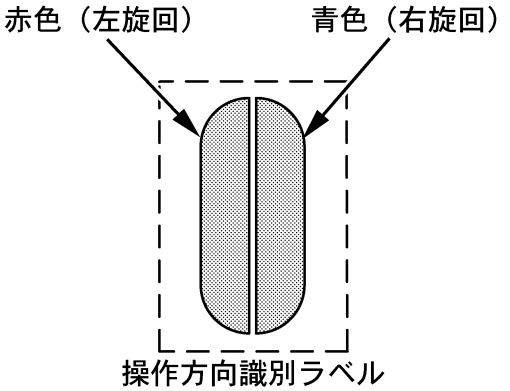
＊ アンローダレバーとアンローダに貼付している操作方向識別ラベルを確認し，アンローダレバーを操作してください。アンローダレバーを**赤色**方向に操作するとアンローダは左旋回（ラベル赤色方向）し，アンローダレバーを**青色**方向に操作するとアンローダ右旋回（ラベル青色方向）します。



1ARADAKAP271A



1ARADAKAP265C



1ARADAKAP280A

[G 仕様]

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。（点検・調整方法の詳細は，89 ページ参照）

警　告

＊ 平たんな安全な場所で，エンジンを止めて駐車ブレーキを必ず掛けてから行なってください。
＊ バッテリの点検・充電・交換中は火気厳禁です。
＊ 取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込み危険ですので，必ず取付けてから作業をしてください。

注　意

＊ 燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
＊ 運転前にブレーキ・クラッチや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊ 使用前にはオイル，燃料が規定量入っているか必ず点検してください。
＊ 燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク・ベルトカバー内・配線部周辺にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。
＊ 刈刃やカッタの掃除や注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。

重　要

各部への給油と交換

＊ 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するエンジンオイル，ミッションオイル，グリースは，指定の**［クボタ純オイル・スペアグリース］**を必ず使用してください。
＊ 燃料補給の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

◆ 前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

◆ コンバインの回りを歩いて

1. ボルトやナットのゆるみや脱落がないか点検します。
2. 車体各部の変形や損傷がないか点検します。
3. 油もれや水もれなどないか点検します。
4. 機体各部にわらくずがたまっていないか点検します。

日常点検項目

＜ここを＞ ➡		＜点検し異常があれば＞ ➡	＜こうする＞	参照ページ
機体の回りを歩いて				
機体各部		1. 損傷や変形はないか。 2. ボルトやナットのゆるみや脱落はないか。 3. 油もれや水もれはないか。 4. わらくずがたまっていないか。 5. 安全ラベル（⚠表示ラベル）の損傷やはがれはないか。	1. 修理又は，交換する。 2. 補充，増締めをする。 3. ホースやパイプの取付部の締付け又は，部品交換をする。 4. 掃除する。 5. 新しいラベルに貼替える。	－ － 128 99,173 ⚠-23
刈刃，わら切刃，カッタ刃		・刃の損傷はないか。	・交換する。	148 154 156
クローラ		・たるみや損傷はないか。	・調整又は，交換する。	168
防じんあみ		・詰まりはないか。	・掃除する。	129
反射器		・汚れや損傷はないか。	・掃除又は，交換する。	168
エンジンルームを開けて				
エンジンオイル		・油量は規定量（オイルゲージの**上限線と下限線の間**）あるか。	・規定量まで補給する。 ……クボタ純オイル D30 又は，D10W30	121
ラジエータ	冷却水	・リザーブタンクの水量は規定量（タンクの **FULL 線と LOW 線の間**）あるか。	・清水を規定量まで補給する。	125
	フィン	・詰まりはないか。	・掃除する。	129
オイルクーラフィン				
エアクリーナ		・エレメントが汚れたり，ほこりが詰まっていないか。	・掃除又は，エレメントを交換する。	126
ファン駆動ベルト		・たるみはないか。 ・損傷はないか。	・調整する。 ・交換する。	139
ホース，パイプ		・油もれ，水もれはないか。	・取付部の締付け又は，交換する。	128
配線コード		・コネクタなどの外れやゆるみ又は，被覆の損傷はないか。	・取付け又は，交換する。	165
運転席に座りメインスイッチを入れて				
燃料計		・作業に必要な燃料はあるか。	・ディーゼル軽油を補給する。	120
各ランプ		・各スイッチを操作すると点灯又は，点滅するか。	・球切れ，ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，取付けをする。 又は，購入先へ連絡してください。	165 166
ホーン		・スイッチを押すと鳴るか。		
バックブザー		・主変速レバーを**【後進】**位置にするとブザーが鳴るか。		
駐車ブレーキ		・駐車ブレーキは効くか。	・調整する。	133
バッテリ		・エンジンは始動するか。	・充電又は，交換する。	161

＜ここを＞ ➡		＜点検し異常があれば＞ ➡	＜こうする＞	参照ページ
エンジンを始動して				
メータユニット	充電ランプ	・各ランプは消灯するか。	・ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，取付をする。	165
	オイルランプ		・エンジンオイルを規定量まで補給する。 …クボタ純オイル D30 又は，D10W30	20 117 121
エンジン（マフラ）		・異音はしないか。 ・排気ガスの色に異常はないか。	・購入先へ連絡してください。	－
各レバー		・各レバーの作動に異常はないか。	・調整又は，購入先へ連絡してください。	134 135
刈取スライド（刈取部）**[213・216・217]**		・スライドスイッチを操作したときに，刈取部の作動（スライド）に異常はなか。	・作動部にグリースを塗布する。	103
こぎ深さ制御（供給搬送部）		・手動こぎ深さスイッチを操作したときに，供給搬送部の作動（上昇⟷下降）に異常はないか。	・スライドガイドにグリースを塗布する。 ・ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，取付けをする。又は，購入先へ連絡してください。	170 165
エンジン停止スイッチ		・スイッチを押すと，ブザーが鳴りエンジンが停止するか。	・ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，取付けをする。又は，購入先へ連絡してください。	17 165

重　要

＊ 処置したあとに異常が直らないときは，購入先に連絡してください。

移動走行と輸送

新車時の扱いかた

新車時の上手な運転操作やメンテナンスがコンバインの寿命に影響を及ぼします。新車のコンバインは厳重な検査のもとに出荷されていますがコンバインの各部の部品はならし運転されていません。ならし運転期間中はコンバイン各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で，過負荷となる刈取作業は避けてください。
コンバインの性能を最大に発揮させたり，長期にわたる耐久力を維持させるためには，適正なならし運転が重要です。
新車時の取扱いは次項を遵守してください。

■ならし運転について

＊ 急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
＊ 寒い日や冬期，エンジンはじゅうぶん暖機運転をしてください。
＊ エンジンは規定刈取作業回転数以上に回さないでください。
＊ 高速での刈取作業は避けてください。
＊ 整地されていない凹凸道路では低速走行をしてください。
以上はならし運転以降も必要な事項ですが，新車時は特に注意してください。

エンジンの始動と停止のしかた

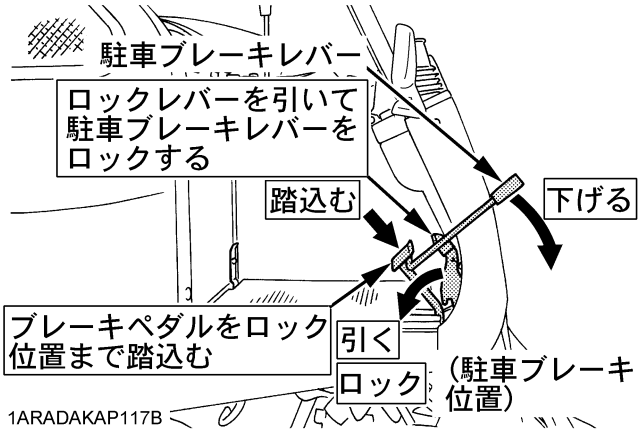
注　意

＊ この取扱説明書前編の黄色のページの［安全に作業をするために］の内容を必ずお読みいただいて安全作業を心掛けてください。
＊ コンバインに貼ってある警告・注意ラベルの内容を必ずお読みください。
＊ エンジン排気ガスによる，排気ガス中毒をさけるため，換気の悪い納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。
＊ 始動操作は，ホーンなどで周囲の人に始動の合図をしてから行なってください。

■始動のしかた

1. 運転をしやすい位置に運転席（シート）を調整します。

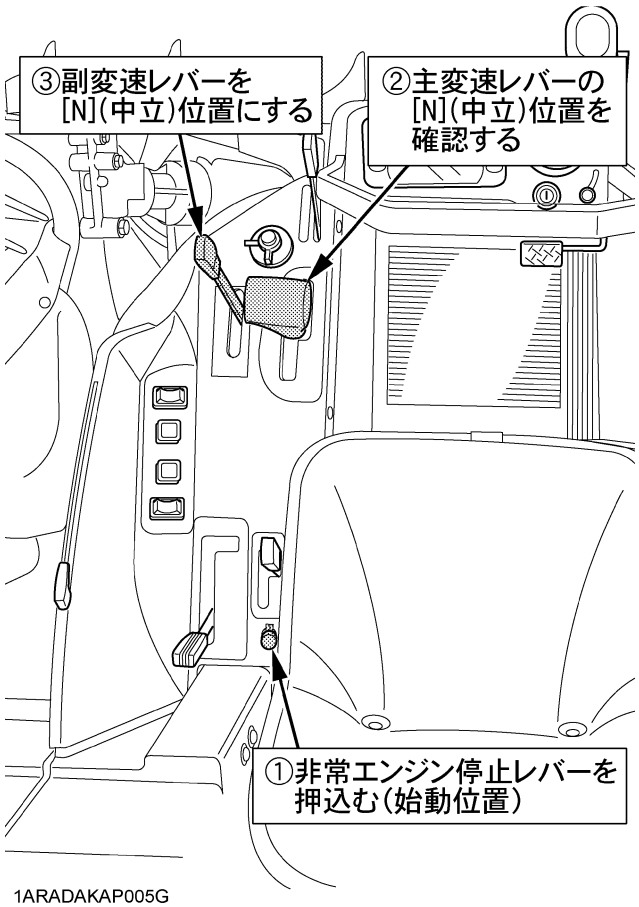
2. 駐車ブレーキを掛けます。



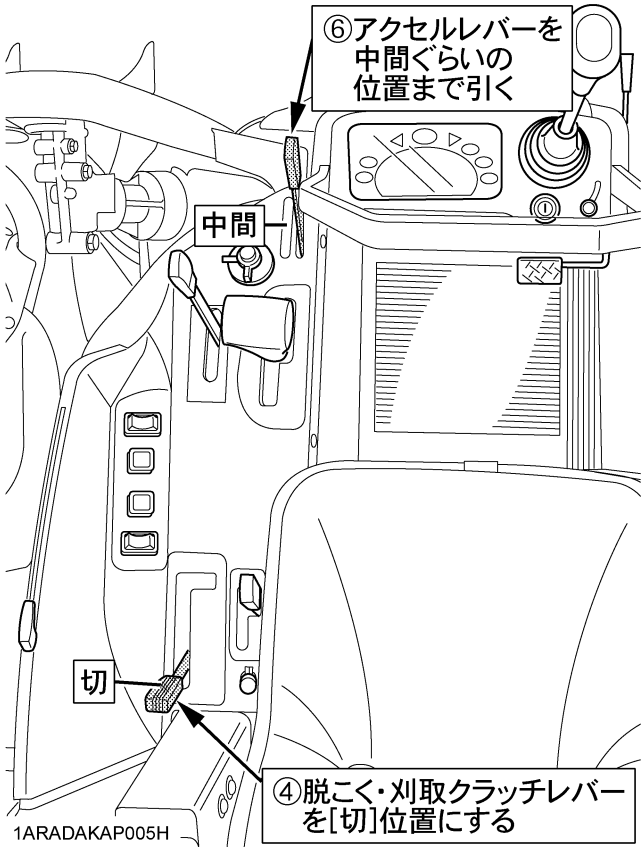
補　足

＊ ブレーキペダルを踏むと主変速レバーが**［N］（中立）**位置に戻ります。また，駐車ブレーキが掛かっているときには，主変速レバーは動きません。
＊ 駐車ブレーキを掛けていないときは，ブレーキペダルをいっぱいに踏込まないとエンジンが始動しません。

3. 各レバー位置の確認をします。

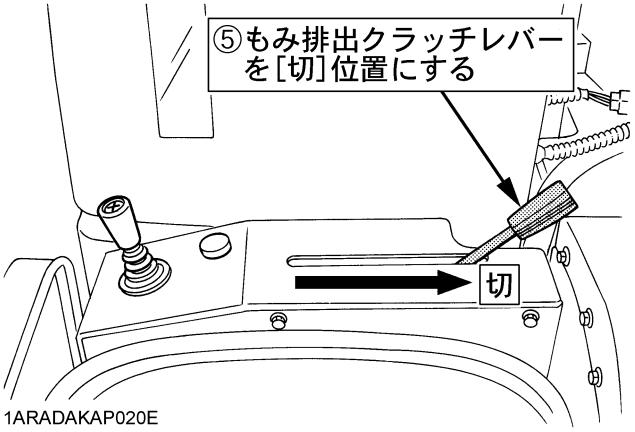


1ARADAKAP005G



1ARADAKAP005H

[G 仕様]



1ARADAKAP020E

[G 仕様]

重　要

＊ ブレーキペダルを踏込んだ状態では主変速レバーを前・後進方向に操作できません。
無理に操作するとレバーの変形や破損によるトラブルの原因となります。

[211・213・216・217]

補　足

＊ 主変速レバーは **[N]（中立）** 位置にあり，脱こく・刈取クラッチレバーを **[切]** 位置にし，ブレーキペダルを踏込まないと，エンジンは掛かりません。

[211・213・216・217]

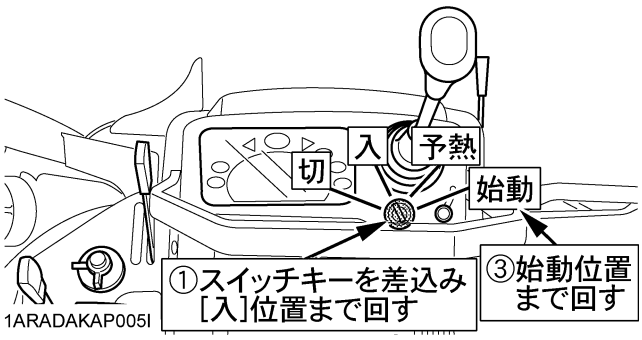
[317]

補　足

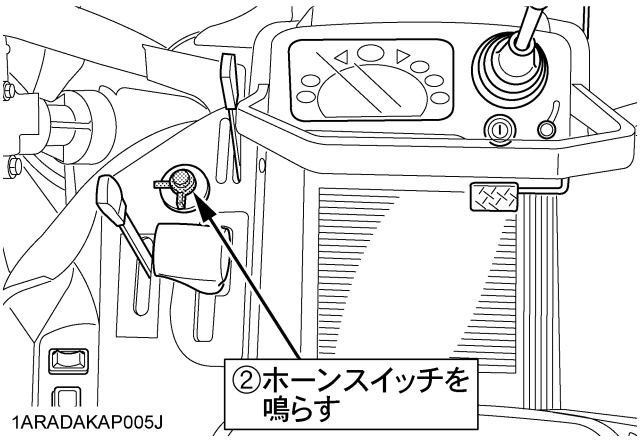
＊ 主変速レバーは **[N]（中立）** 位置にあり，脱こく・刈取クラッチレバー及びもみ排出クラッチレバーを **[切]** 位置にし，ブレーキペダルを踏込まないと，エンジンは掛かりません。

[317]

4. エンジンを始動します。



1ARADAKAP005I



1ARADAKAP005J

重　要

＊ スイッチキーを**【始動】**位置に回して 10 秒たっても始動しないときは，いったんキーを**【切】**位置にして，30 秒ほど休止してから，エンジンを再始動してください。10 秒以上の使用は故障の原因になります。
＊ エンジン回転中に，スイッチキーを**【始動】**位置に回すと故障の原因になります。
＊ エンジン始動後，オイルランプ，充電ランプが**消灯**しないときは，購入先へ連絡してください。

補　足

＊ ホーンを鳴らすなどして始動の合図を周囲の人に送ってください。

◆ 暖機運転について

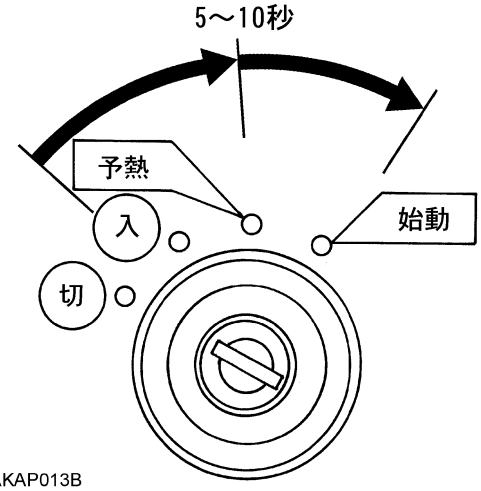
エンジン始動後，エンジン回転数を約 1500rpm に合わせて約 5 ～ 10 分間は負荷をかけずに暖機運転を行なってください。

重　要

＊ オイルを各部にじゅうぶんゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，エンジンの焼付きやミッションや油圧系統の故障の原因になります。

◆ 寒冷時の始動のしかた

寒冷時にエンジンを始動するときは，始動する前にスイッチキーを**【予熱】**位置で 5 ～ 10 秒間予熱したあと**【始動】**位置に回してください。



1ARADAKAP013B

重　要

＊ 寒冷時は暖機運転を怠たるとパワーステアリングレバーの操作ができなくなったり，ブレーキが効かなくなるなど**油圧系統の故障**につながりますので，下記の表を目安に暖機運転を行なってください。

気　温	暖機運転時間
0 ～ -10 ℃	約 10 分
-10 ～ -15 ℃	10 ～ 15 分
-15 ～ -20 ℃	15 ～ 20 分
-20 ℃以下	20 分以上

◆ 燃料切れ後の再始動のしかた

運転中に燃料切れで停止した場合は，

1. 脱こく・刈取クラッチレバー及びスイッチキーを**【切】**位置にします。
2. 燃料タンクに燃料を補給します。
3. **始動のしかたの 1 ～ 3** を確認後，スイッチキーを**【入】**位置に保持し，そのあと**【始動】**を２～３回繰返します。

補　足

＊ スイッチキーを**【入】**位置にすると約 5 ～ 10 秒で自動的にエア抜きされます。

◆ バッテリが上がったときの始動のしかた

危　険

＊ バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，（＋）端子と（－）端子が金属工具やブースタケーブルなどの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。

バッテリ上りによりエンジンが始動できなくなったときは，バッテリの補充電又は，交換を行なってください。(161 ページ参照)
補充電や交換がすぐに行なえないときは，救援車のバッテリにブースタケーブルを接続して始動してください。

重　要

＊ 接続するバッテリは，必ず 12V のものを利用してください。故障の原因となります。
＊ バッテリを直列につないで始動しないでください。電装品が破損するおそれがあります。
＊ 充電異常による場合（充電ランプ点灯）は購入先に連絡してください。

補　足

＊ ブースタケーブルの取扱いは，ブースタケーブルの取扱説明書に従ってください。

1. ブースタケーブル（赤）をコンバイン側と救援車側のバッテリの（＋）**端子**にそれぞれ接続したあと，ブースタケーブル（黒）を救援車側のバッテリの（－）**端子**に接続し，コンバイン側はバッテリから離れたところの金属部で塗装がされていないところに接続します。
2. 利用するバッテリが車などの場合は，エンジン回転を上げます。
3. コンバインのエンジンを始動します。
4. ブースタケーブルを取付の逆の手順で取外します。

■停止のしかた

1. 脱こく・刈取クラッチレバーを**［切］**位置にします。
2. アクセルレバーを**［🐢］**（ 低回転 ） 位置にします。
3. スイッチキーを**［切］**位置にしてエンジンを停止します。

重　要

＊ エンジン停止中でスイッチキーが**［入］**位置の状態のまま長時間放置すると**バッテリ上り**となります。
＊ スイッチキーを**［切］**位置にしてもエンジンが停止しないときは**非常エンジン停止レバー**を引いてください。そのあと，購入先へ連絡してください。

移動走行について

注　意

＊ ホッパ又は，グレンタンク内に残っているもみは全て排出してください。
＊ 安全のためヘルメットを着用してください。
＊ 運転者以外の人は乗せないでください。
＊ 10cm 以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。
＊ あぜごえや傾斜地（坂道やあゆみ板を使うとき）での走行は，副変速レバーを［作業］位置にし，低速で走行してください。走行途中に停止するときは，主変速レバーを操作して停止してください。
＊ あゆみ板を使うときや，前後左右とも 10 度をこえる傾斜地（坂道）を走行するときは，速度を最低速にし機械から降りて操作してください。また，駐車ブレーキレバー・主変速レバー・パワーステアリングレバーを操作すると，機械の移動方向が変化したり，急降下，落下するおそれがありますので操作しないでください。
＊ あゆみ板を使うときや坂道を走行するときは，速度を最低速にし，あぜや傾斜方向に対して上り方向は前進，下り方向は後進で直角に走行してください。斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。
＊ 下記のようなところを走行するときは，転倒しケガをするおそれがあるので注意してください。
- **両側が傾斜していたり，溝のある道路の路肩**
- **道幅に余裕がなく高いところにある道路（土手）**
- **路肩の弱い道路**
- **路面の凹凸（溝や穴・窪地など）の落差の大きいところや路面が草などでおおわれて良く見えないところ**

＊ 小型特殊自動車の標識（ナンバプレート）を取得していない場合や結束機を装着している場合は，［道路運送車両法］の違反となりますので公道を走行できません。必ずトラックなどに乗せて移動してください。
＊ アンローダは必ず折りたたんでください。
［G 仕様］

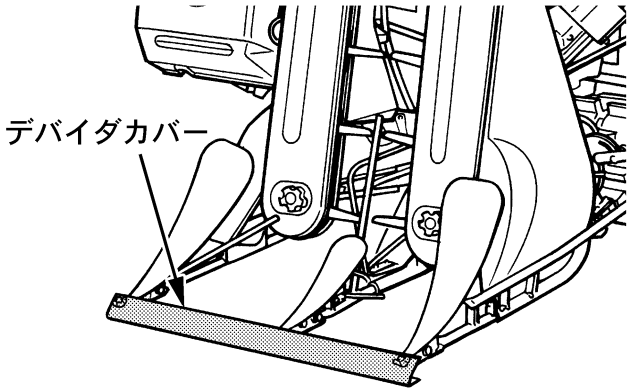
■走行前の準備

注　意

＊ 準備が終われば，カバー類などが確実に取付けられているか確認してください。

1. ホッパ又は，グレンタンク内に残っているもみは，すべて排出します。（73 ページ参照）
2. デバイダカバーを取付けます。

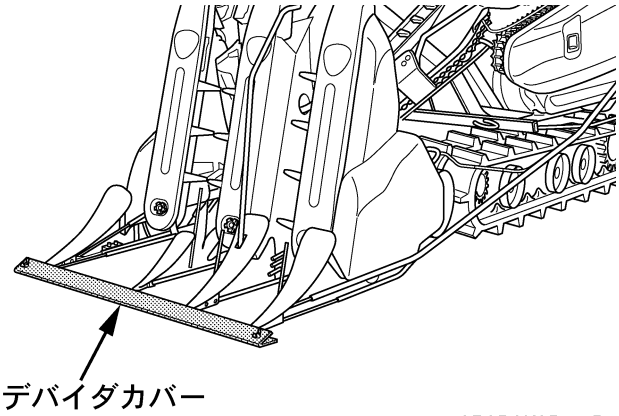
［211・213・216・217］



1ARADAKAP003B

［211・213・216・217］

［317］



1ARADAKAP265D

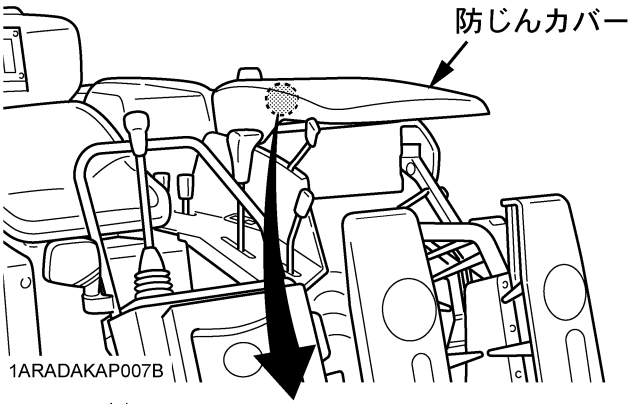
［317］

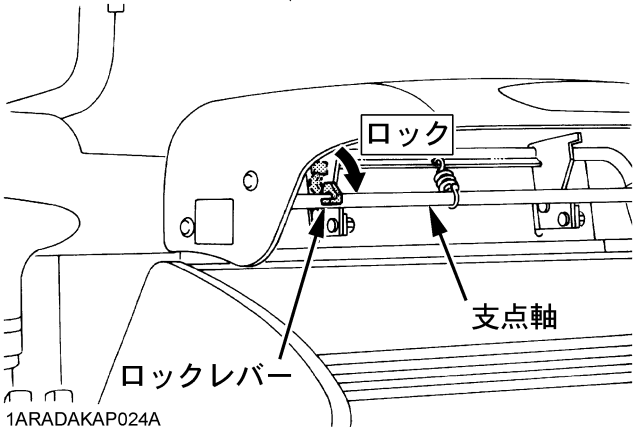
補　足

＊ 右側デバイダは標準の位置にしてください。（80 ページ参照）

[217]

3. 防じんカバーが浮上がらないように支点軸にロックレバーを掛けてロックします。

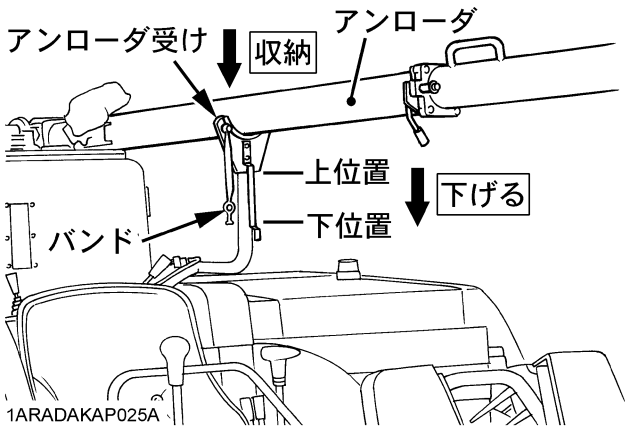


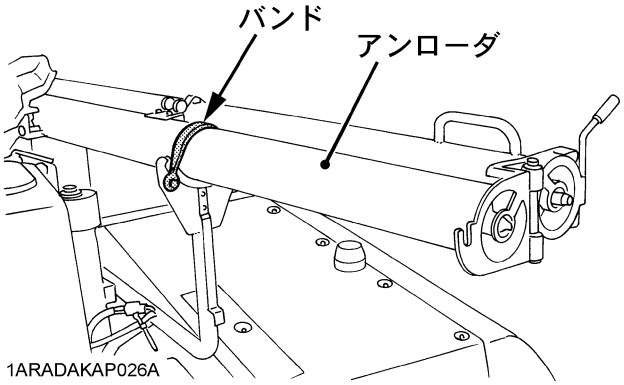


[217]

[G 仕様]

4. アンローダ受けを下位置にしたあと，アンローダをアンローダ受けに収納します。そのあと，アンローダを折りたたみ，バンドで固定します。(52 ページ参照)





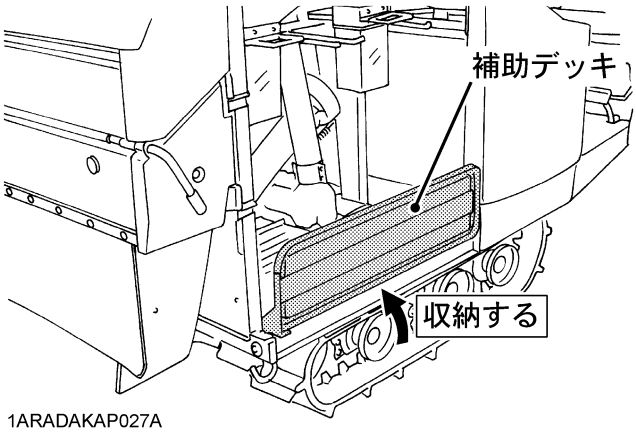
補　足

＊ アンローダ内にもみが残っていると，もみがこぼれるのでアンローダを一度再上昇させて収納してください。

[G 仕様]

[213・216・217 ホッパ仕様]

5. 補助デッキを収納します。

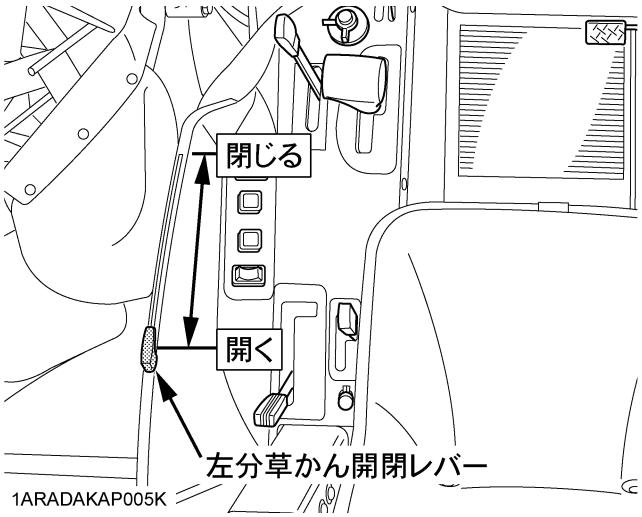


1ARADAKAP027A

[213・216・217 ホッパ仕様]

6. 左分草かん開閉レバーを操作して，左分草かん前と後を**収納**します。

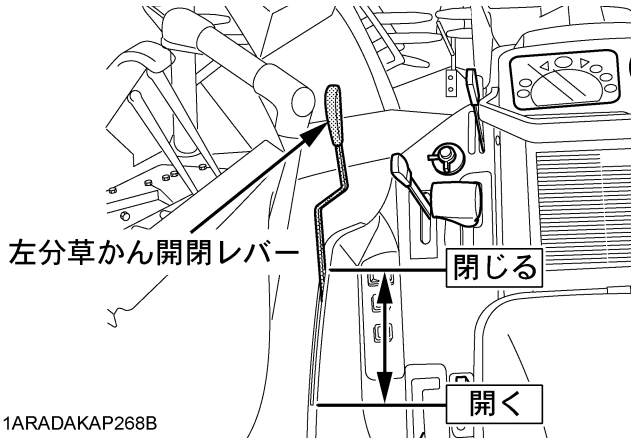
[211・213・216・217]



1ARADAKAP005K

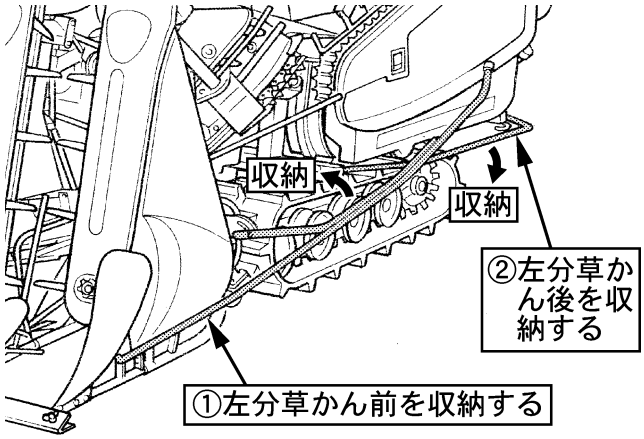
[211・213・216・217]

[317]



1ARADAKAP268B

[317]

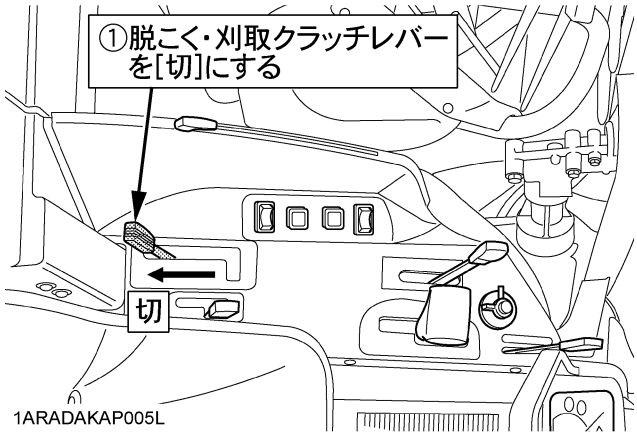


1ARADAKAP172E

補　足

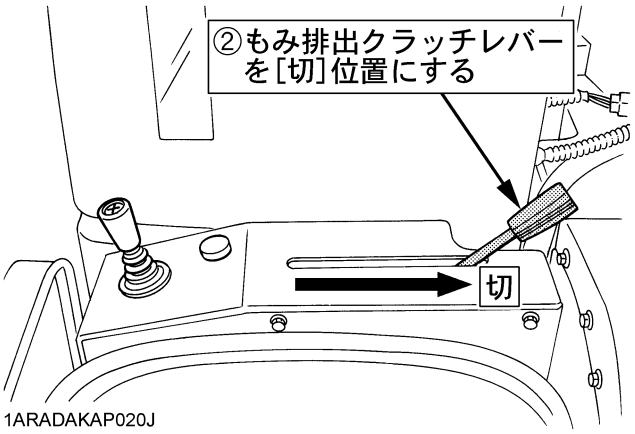
＊ 左分草かん後は手動で収納してください。

7. 各作業クラッチ（刈取，脱こく，もみ排出 **[G仕様]**）各レバーを **[切]** 位置にします。



1ARADAKAP005L

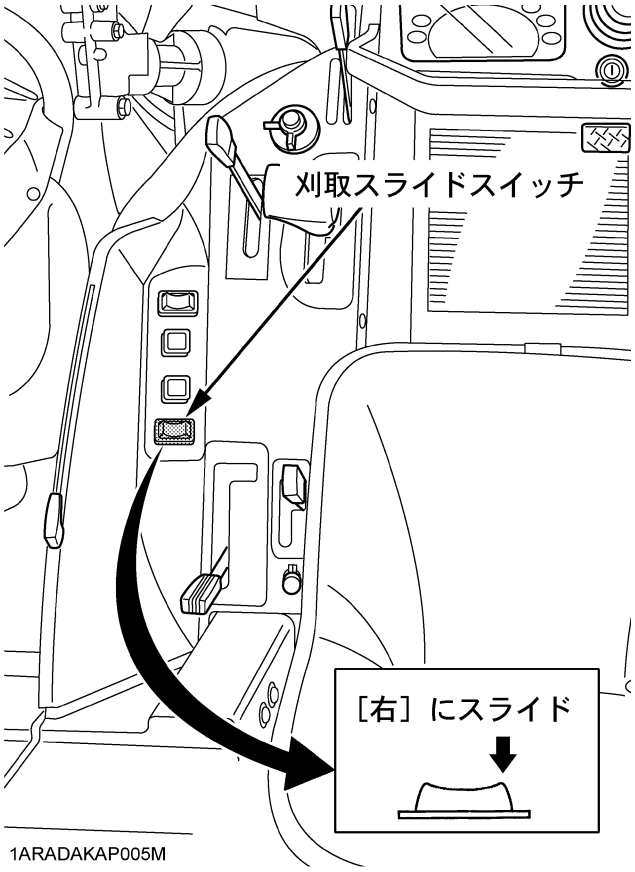
[G 仕様]

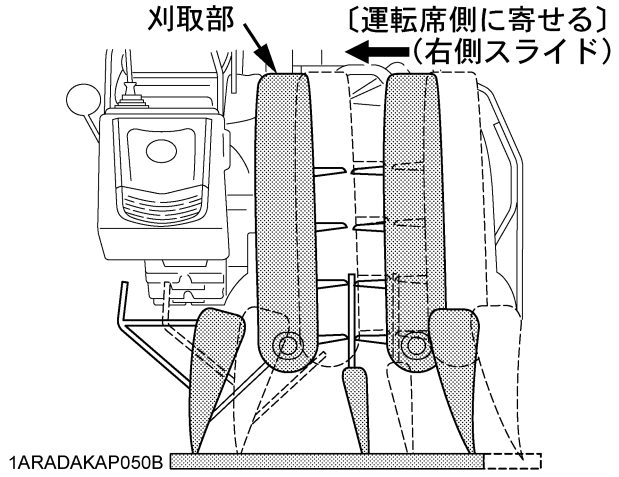


[G 仕様]

[213・216・217]

8. エンジンを始動し，刈取部を地面から約 10cm 程度上げた状態で，刈取スライドスイッチを操作し，刈取部を右端（運転席側）いっぱいまで移動します。





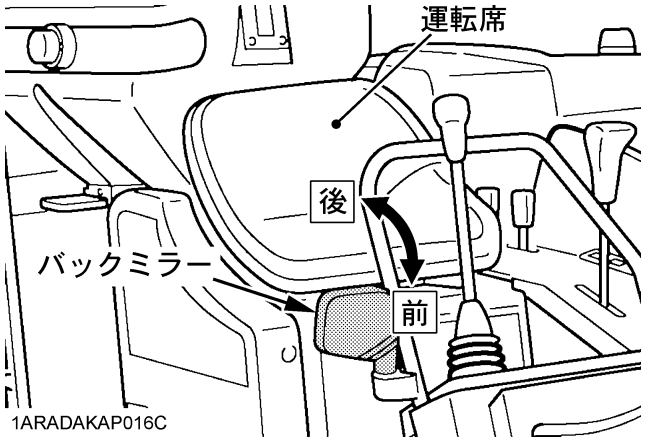
[213・216・217]

■発進のしかた

注　意

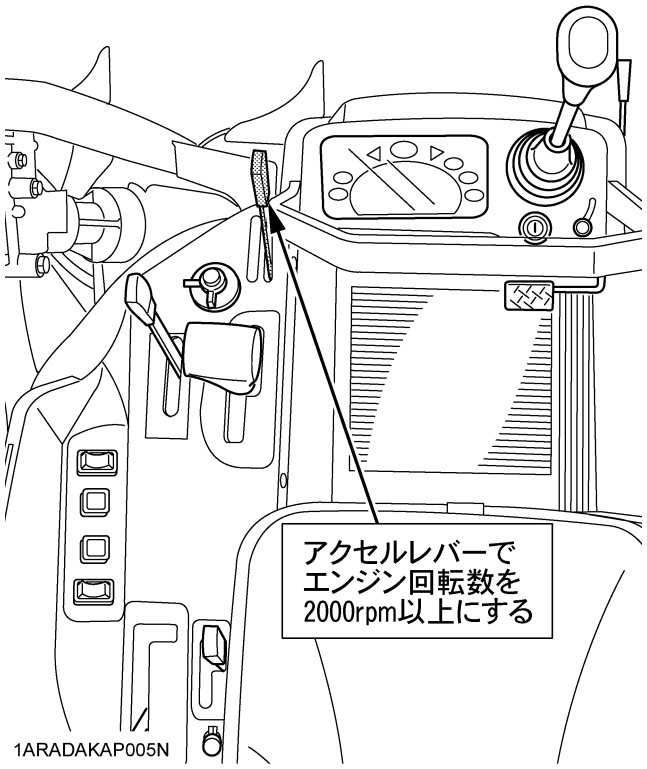
＊ 発進をするときは，周囲の安全を確かめてホーンなどで合図を行なってから発進してください。
＊ 急発進は危険ですので，ゆっくりと発進してください。

1.　運転席，バックミラーの調整を行ないます。

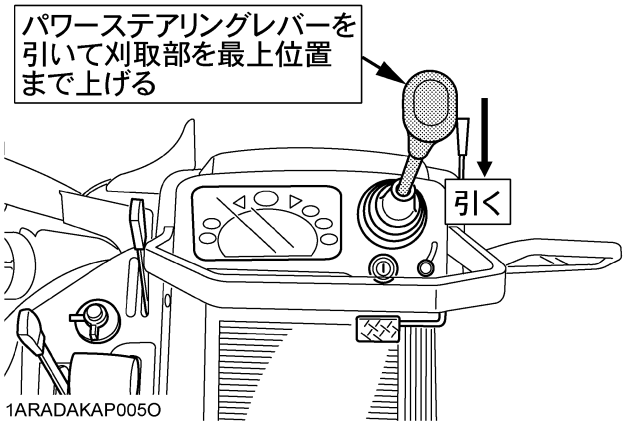


2.　アクセルレバーを操作します。

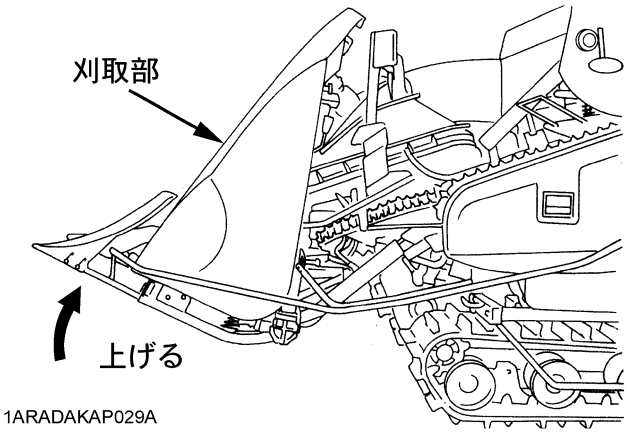
エンジンを始動したあと，アクセルレバーを操作します。



3. 刈取部を上げます。



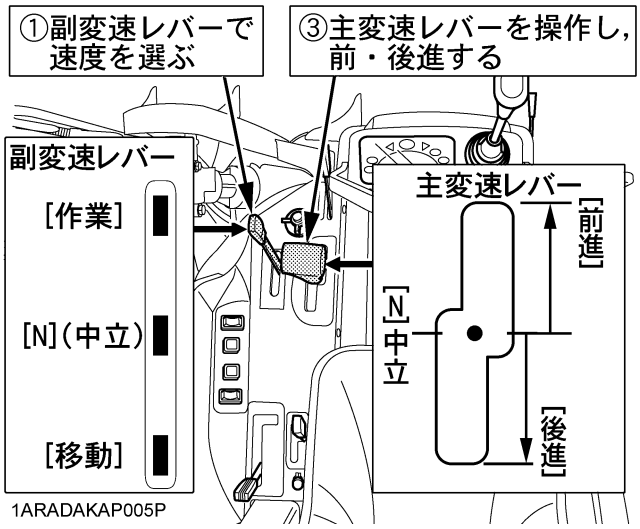
1ARADAKAP005O



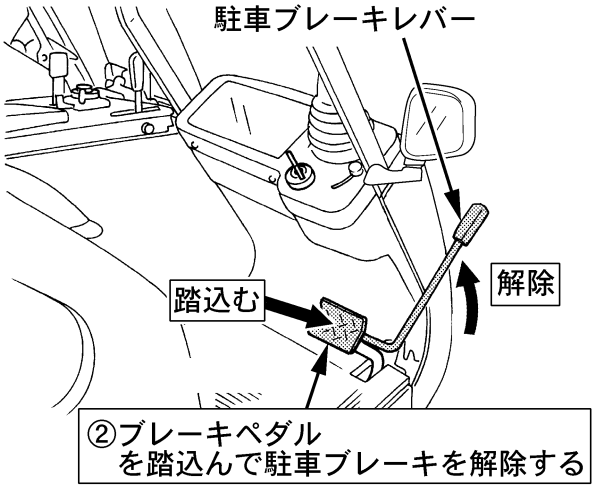
1ARADAKAP029A

4. 走行速度を選んで発進します。

ブレーキペダルを踏込んで駐車ブレーキを解除したあと，主変速レバーを**[N]（中立）**位置より前に押すと**前進**し，後に引くと**後進**します。



1ARADAKAP005P



1ARADAKAP030A

重　要

＊ 駐車ブレーキが掛かっているときは，主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。

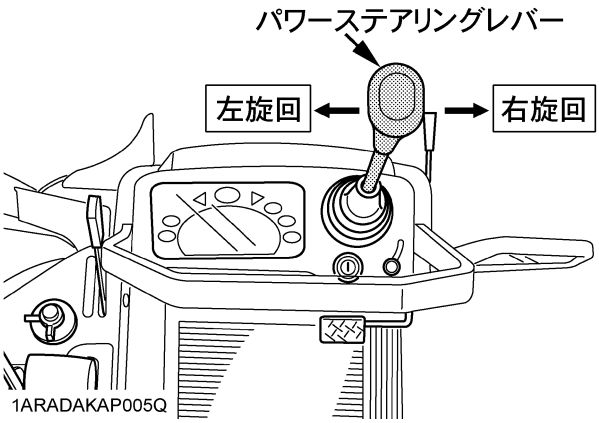
＊ 副変速レバーの切換えは平たんな場所で主変速レバーを**[N]（中立）**位置にし，走行をいったん止めてから行なってください。故障の原因となります。

■旋回のしかた

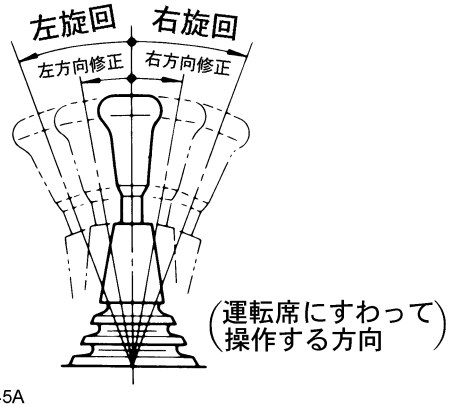
注　意

＊ 高速走行時，パワーステアリングレバーを強く操作すると急旋回して危険ですので，旋回前に必ず減速してください。

旋回する方向にパワーステアリングレバーを倒します。倒す角度に応じて旋回力が変わります。また，いっぱいまで倒すと急旋回します。



1ARADAKAP005Q



1ARADAFAP345A

重　要

＊ 砂利道での急旋回は，クローラに石がかみこみ故障するおそれがありますので避けてください。

■停車･駐車のしかた

注　意

＊ コンバインを離れるときは，平たんで安全な場所に置き，刈取部を降ろして駐車ブレーキを掛け，エンジンを止めてください。
＊ やむをえず坂道で駐車するときは，木片などで車止めをし，暴走を防いでください。

1. 主変速レバーを**［N］（中立）**位置にします。
2. 駐車ブレーキを掛けます。

重　要

＊ 駐車ブレーキが掛かっているときは，主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。

3. アクセルレバーを**［🐢］（低回転）**位置にします。
4. 副変速レバーを**［N］（中立）**以外の位置にします。
5. 刈取部を接地します。
6. エンジンを停止してスイッチキーを抜きます。

■道路走行について

警　告

＊ 道路を走行するときは，小型特殊自動車の運転免許証を必ず携帯し，小型特殊自動車の法規を守り安全運転をしてください。

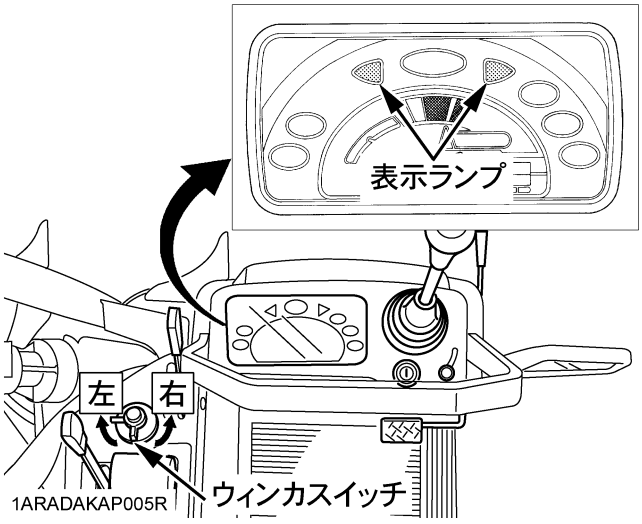
注　意

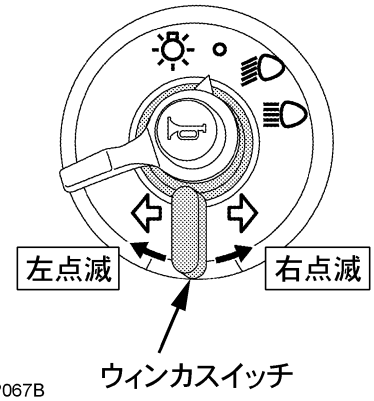
＊ 結束機［結束機付き仕様］を装着した状態で移動するときは，トラック輸送してください。
＊ 夜間など暗いときに移動走行するときは，ヘッドランプを必ず点灯し，作業灯（オプション）は必ず消灯してください。
＊ 作業灯（オプション）は［道路運送車両の保安基準］第 42 条（灯火の色などの制限）において，［走行中に使用しない灯火］とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから，道路走行中の点灯は禁止されています。

道路走行中，進路方向を変えるときは，ウインカ（方向指示器）で進路方向を他の自動車に知らせてください。

● ウインカスイッチ

旋回方向に操作すると，ウインカランプが点滅し，メータユニット内のウインカ表示ランプが点滅します。





補　足

＊ 旋回が終わったらウインカスイッチは中央に戻してください。

輸送について

■トラックとあゆみ板の準備

注　意

＊ 積込み・積降しは平たん地を選び，トラックの駐車ブレーキをしっかり掛けてください。
＊ あゆみ板はフックが付いているもので，じゅうぶんな強度，幅（50cm 以上），長さ（高さの４倍以上）のある基準に合ったすべり止め付きのものを使用し，コンバインの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。
＊ あゆみ板を荷台に掛けるときは，段差がなく平行で，左・右のあおりに機体が接触しない位置に合わせてください。

あゆみ板の基準

長　さ	トラックの荷台の高さの４倍以上
幅	45cm 以上
数　量	２枚
強　度	１枚が 700kg 以上の重量に耐えうる

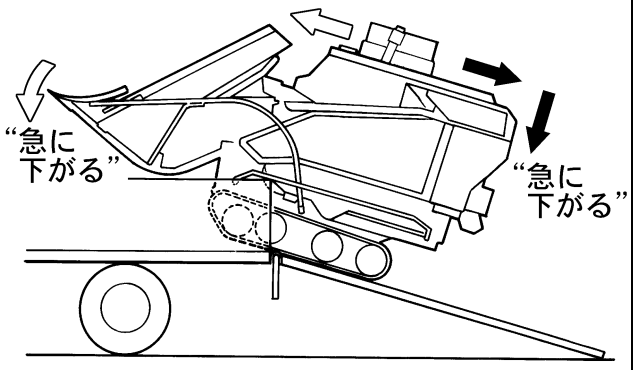
■コンバインの準備

もみをすべて排出又は降し，アンローダ受けを下（収納）位置にしてアンローダを収納後，折りたたみ式アンローダを折りたたみ，バンドで固定し，脱こく・刈取クラッチレバー，もみ排出クラッチレバーを**［切］**位置にし**［G 仕様］**，左補助デッキ**［213・216・217 ホッパ仕様］**や左分草かん前，後をそれぞれ収納したあと，デバイダカバーを取付けます。（33 ページ参照）

■コンバインの積込み･積降しのしかた

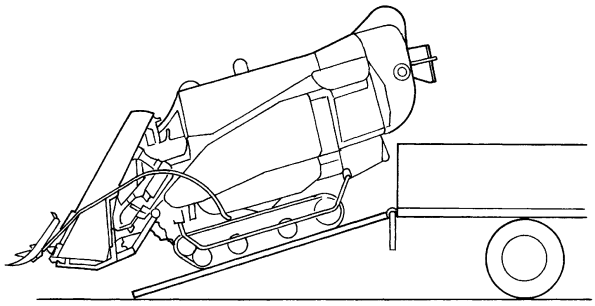
注　意

＊ 積込みは前進で，積降しは後進で行なってください。ただし，結束機を装着している機械は後進で積込み，前進で積降しを行なってください。
＊ 積込み・積降し作業を行なうときは，機体から降りて発進させてください。
＊ 運転者及び共同作業者は，あゆみ板を走行中のコンバインからは離れてください。



1ARADAKAP031A

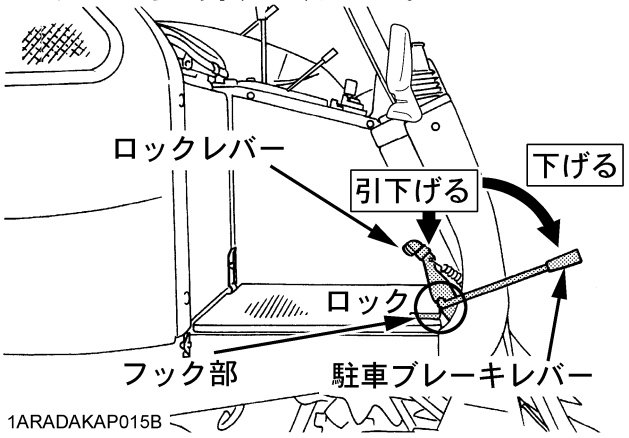
［結束機付］



1ARADAKAP032A

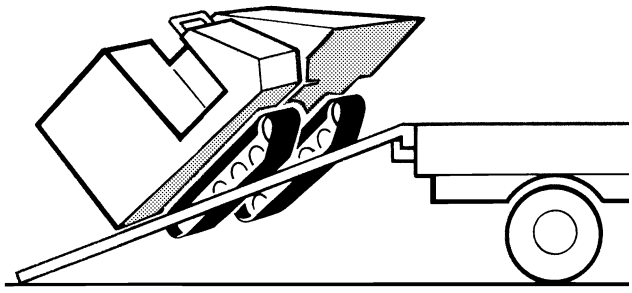
注　意

＊ 走行中に異常が発生し，緊急に停止するときは，駐車ブレーキレバーを素早くいっぱい押下げて，ブレーキロックレバーで駐車ブレーキを掛けてください。



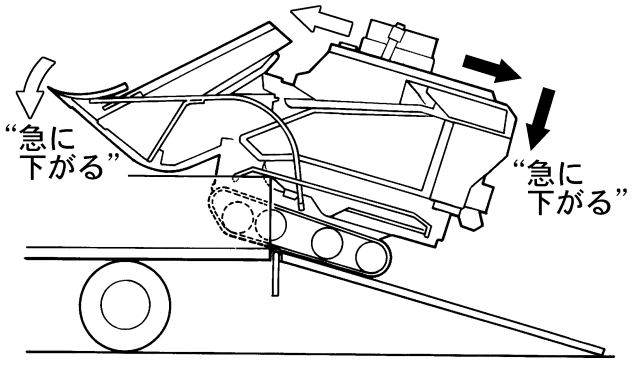
1ARADAKAP015B

＊ あゆみ板の途中でパワーステアリングレバー・副変速レバー・ブレーキペダルを操作すると，機械が急降下し落下する危険がありますので，操作しないでください。方向を変えるときは，いったん地上又は荷台に戻って方向を修正し，再度上り下りし直してください。



1ARADAFAP4440

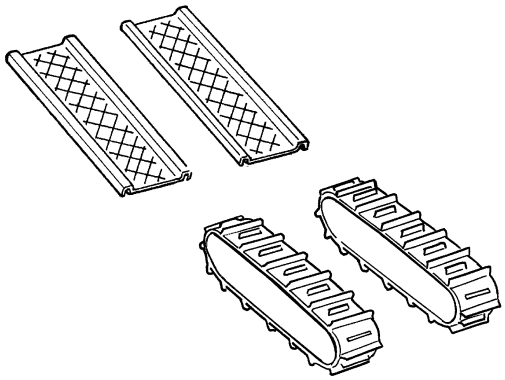
＊ 機体が凸部を越えるときは，急にコンバインの姿勢が変わりますのでじゅうぶん注意してください。



1ARADAKAP031A

◆ 操作のしかた

1. 各作業クラッチレバーを**【切】**位置にします。
2. パワーステアリングレバーで刈取部を上げます。
3. アクセルレバーを操作してエンジン回転数を2000rpm以上にし，副変速レバーを**【作業】**位置にしたあと，主変速レバーをゆっくり操作して，**低速**で走行します。
4. あゆみ板の前でいったん停止し，あゆみ板の中央に左右のクローラを合わせ，機体から降りてあゆみ板と平行になっているか確認してから積込み・積降しをしてください。



1ARADAFAP348A

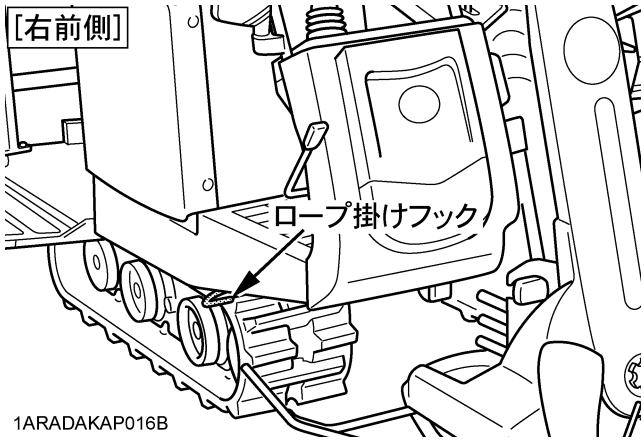
5. 荷台に載せ終わったら刈取部を接地させて駐車ブレーキを掛けます。

■トラック上での処置

注　意

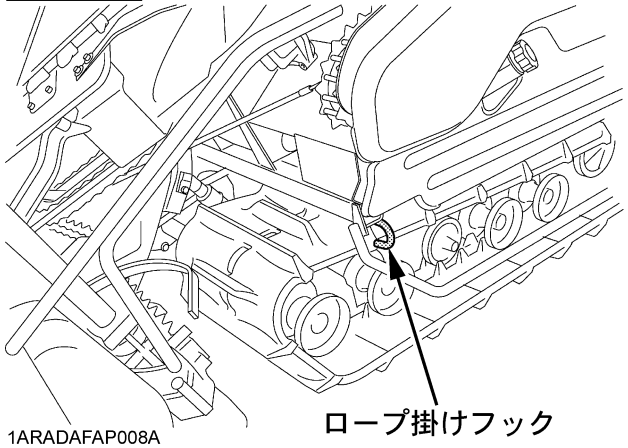
＊ 刈取部を床まで降し，駐車ブレーキを掛け，車止めをし，ロープでしっかりトラックに固定してください。

[211・213・216・217]



1ARADAKAP016B

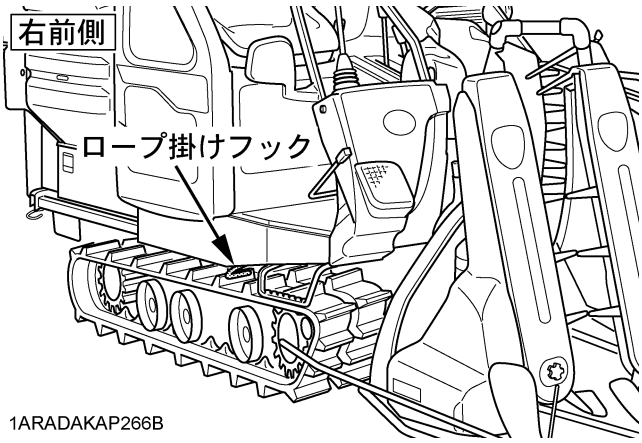
[左前側]



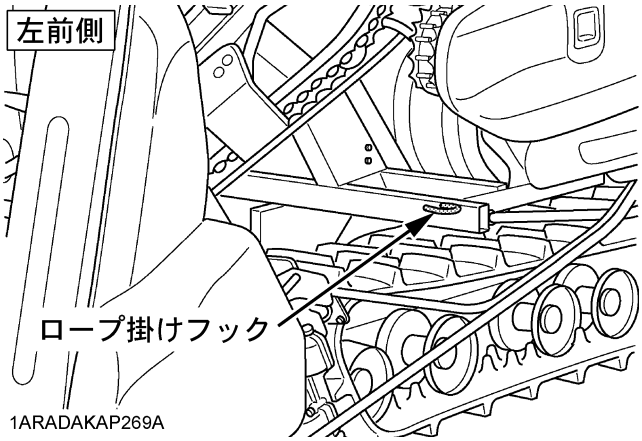
1ARADAFAP008A

[211・213・216・217]

[317]

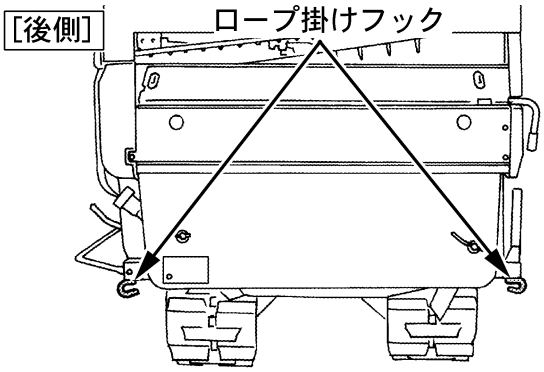


1ARADAKAP266B

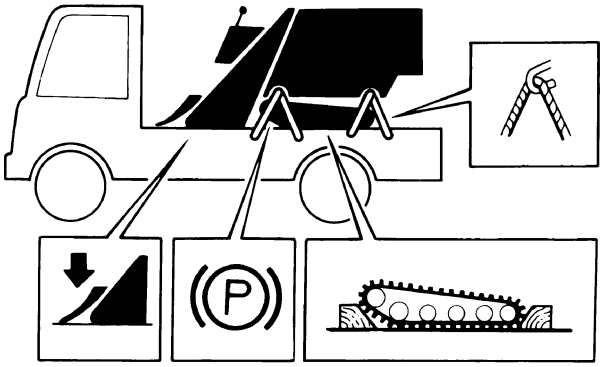


1ARADAKAP269A

[317]



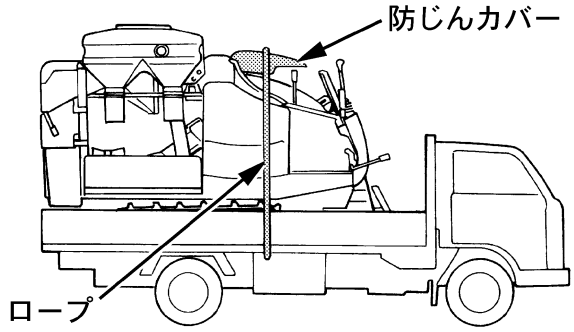
1ARADAKAP113B



1ARADAFAP349A

重　要

* フック以外の所には，ロープを掛けないでください。
* トラックで輸送する場合は，風圧で刈取防じんカバーが浮き破損・脱落し，ケガをさせるおそれがあるので，刈取部を下げて，刈取防じんカバーを閉じ，ロープなどで浮上がりを防いでください。**[217]**



1ARADAKAP033A

収穫作業のしかた

作物とほ場の条件

作物の状態やほ場の状態によっては，刈取作業ができない場合があります。作業を始める前によく確めて，収穫量が上がる能率のよい作業を行なってください。

■作物の条件

◆ 作物の長さ

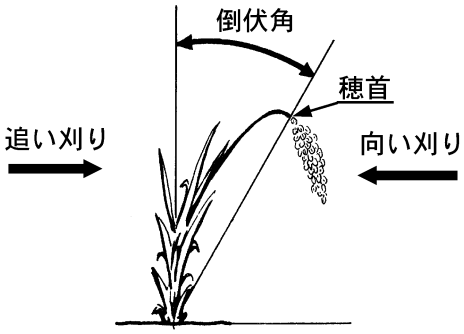
刈取れる長さは，標準の刈高さで
…… 全長約 55 ～ 130cm

1ARADAFAP350A

◆ 作物の倒伏

作物の倒れかた（倒伏角）により，刈取り方向に注意してください。

刈取りかた（方向）	倒　伏　角
追い刈り	85 度以下
向い刈り	70 度以下



1ARADAFAP351A

◆ 作物のぬれ

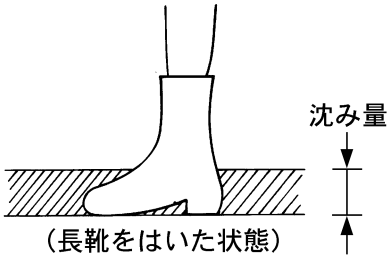
作物は，手でしごいてぬれていない乾いた状態が適期です。

■ほ場の条件

◆ ほ場のぬかるみ

足の沈み量を測って目安にしてください。また，クローラの仕様によって，目安の沈み量は異なります。

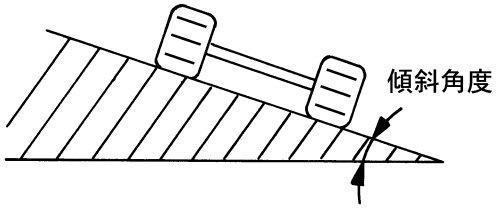
仕　様	沈　み　量
標　準	10cm まで
W	15cm まで
W2	15 ～ 25cm まで
SLW	25 ～ 30cm まで



1ARADAFAP352A

◆ ほ場の斜き

傾斜角度 5 度以上では，作業できません。



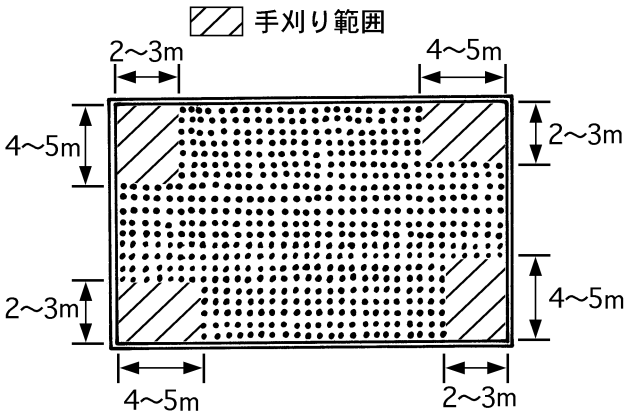
1ARADAFAP353A

ほ場の準備

■ほ場の準備

コンバインをほ場に入れる前に，あぜぎわの四隅で旋回が楽に行なえるように，旋回ができる範囲（面積）の手刈り（枕刈り）をします。

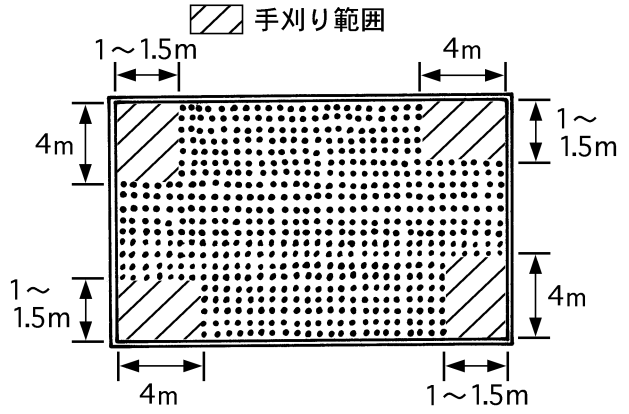
[211・213・216・217]



1ARADAFAP354A

[211・213・216・217]

[317]



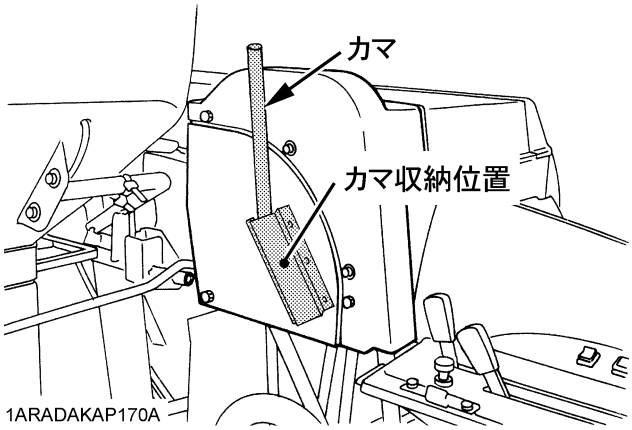
1ARADAFAP354B

[317]

補　足

＊ カマの収納場所は下図の位置にあります。

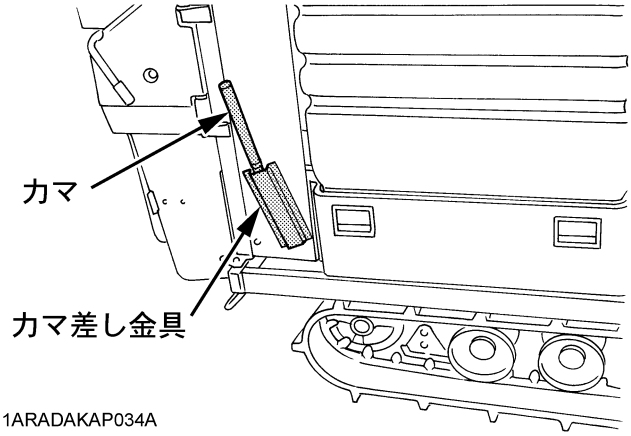
[ホッパ仕様]



1ARADAKAP170A

[ホッパ仕様]

[G 仕様]



1ARADAKAP034A

[G 仕様]

コンバインの準備

警　告

＊ 平たんな場所に置き，エンジンは必ず止めてください。
＊ 取外したカバー類は必ず取付けてください。

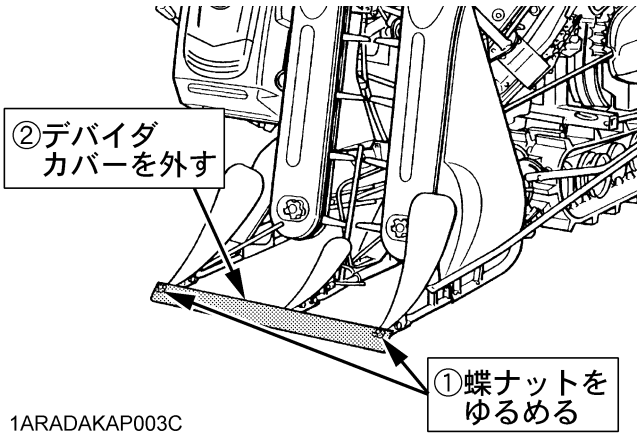
■準備のしかた

1.　各部への注油

作業前に刈刃や各チェーンに注油を行なってください。(103 ページ参照)

2.　デバイダカバーの取外し

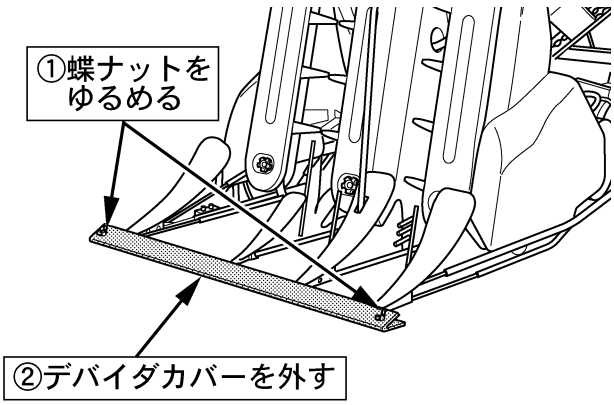
[211・213・216・217」



1ARADAKAP003C

[211・213・216・217」

[317」

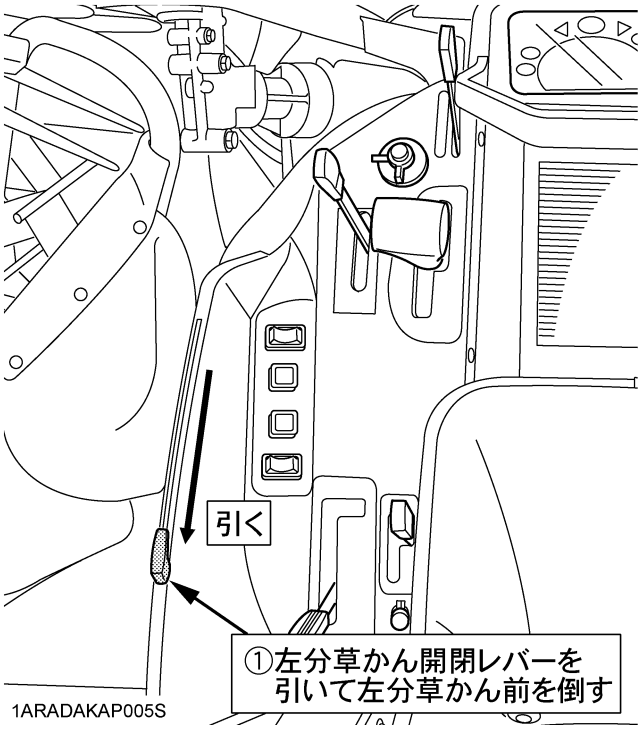


1ARADAKAP265E

[317」

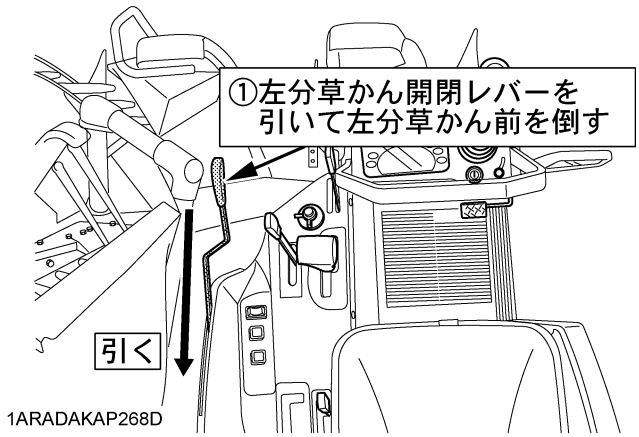
3. 左分草かんのセット

[211・213・216・217]

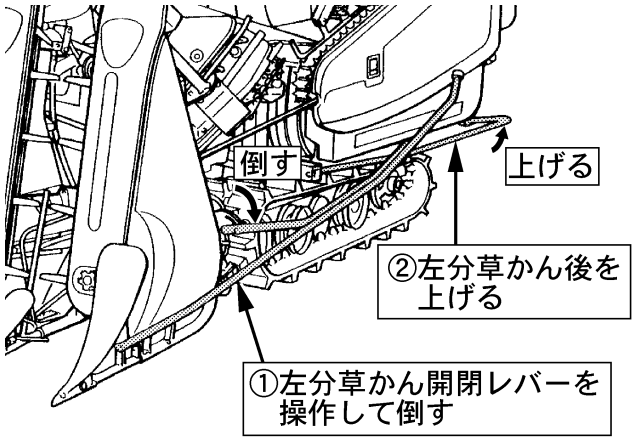


[211・213・216・217]

[317]



[317]



補　足

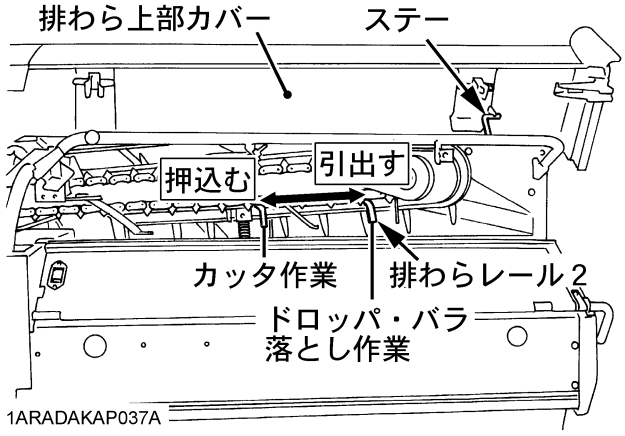
＊ 左分草かん後は手で上げてください。

4. 排わら処理の選択

カッタ装置の右側にある切換えレバーを操作して，**カッタ作業 ⟷ ドロッパ・バラ落とし作業**の選択をします。

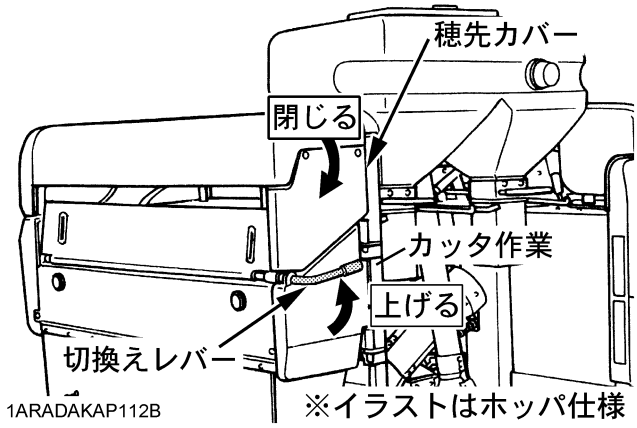
◆ 排わらレール２の設定

排わら上部カバーを上に開きステーでカバーを固定します。**カッタ作業**のときはレール２を押し込み，**ドロッパ・バラ落とし作業**のときはレール２を引出します。



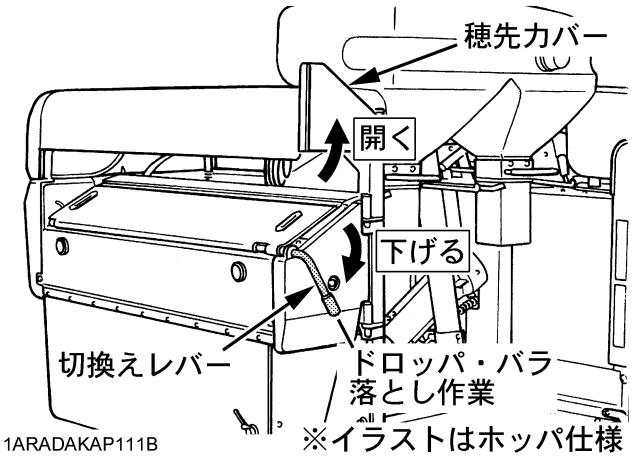
◆ カッタ作業

切換えレバーを**カッタ作業**位置にしたあと穂先カバーを閉じます。



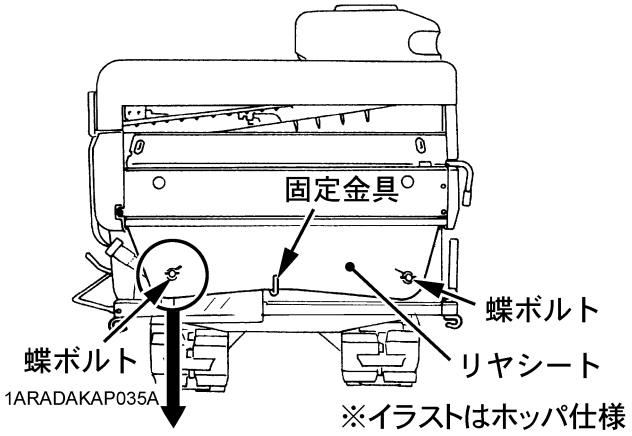
◆ ドロッパ・バラ落とし作業

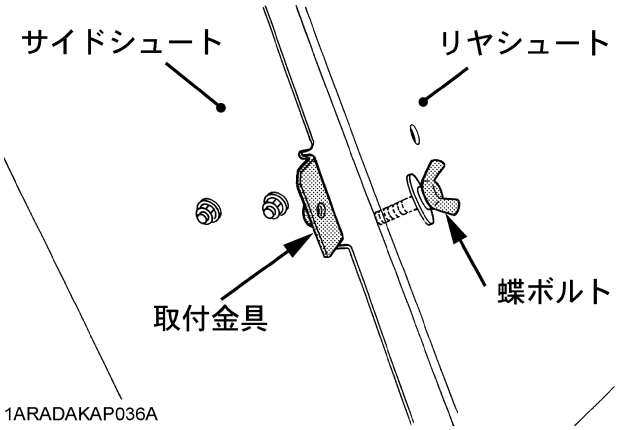
切換えレバーを**ドロッパ・バラ落とし作業**位置にしたあと穂先カバーを開きます。



5. リヤシュート・サイドシュートの準備

1. リヤシュートを収納している固定金具を外します。
2. リヤシュートを広げたあと，左・右のサイドシュートを蝶ボルトで締付けて固定し作業状態にします。

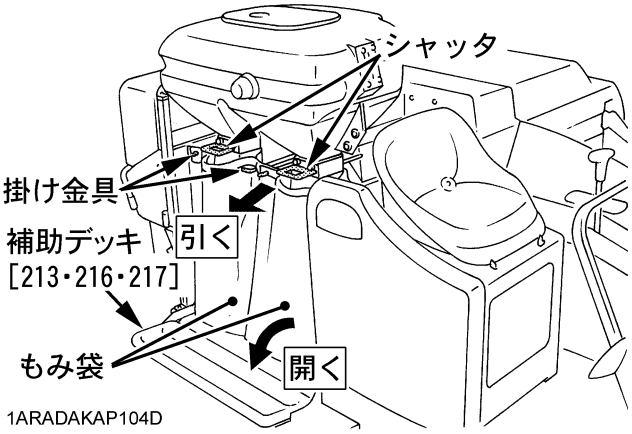




［ホッパ仕様］

6. 補助デッキ［213・216・217］ともみ袋の準備

1. 補助デッキ【213・216・217】を開きます。
2. もみ袋のファスナを開き，掛け金具にもみ袋を取付けます。
3. 各吐出口のシャッタを開きます。

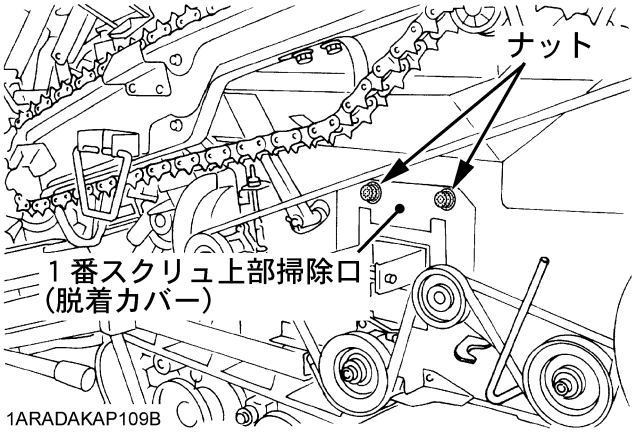


［ホッパ仕様］

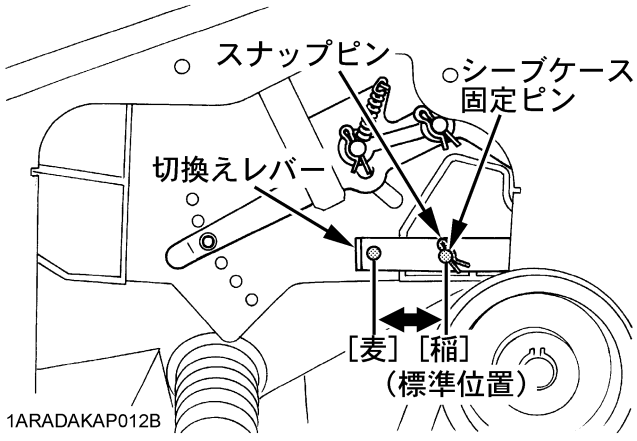
7. 選別調節板の切換え

作物の種類に合わせ**稲 ⟷ 麦**の切換えを行なってください。(出荷時は**［稲］**の位置)

1. 左サイドカバー上，下を取外します。
2. ナット２個を取外したあと，１番スクリュ上部掃除口の脱着カバーを外します。



3. **稲 ⟷ 麦**の切換えを行ないます。
   (1) シーブケース固定ピンからスナップピンを取外します。
   (2) 切換えレバーを手前を引いて，固定ピンから抜き，レバーの穴位置の変更を行ないます。
   (3) スナップピンを固定ピンに取付けます。

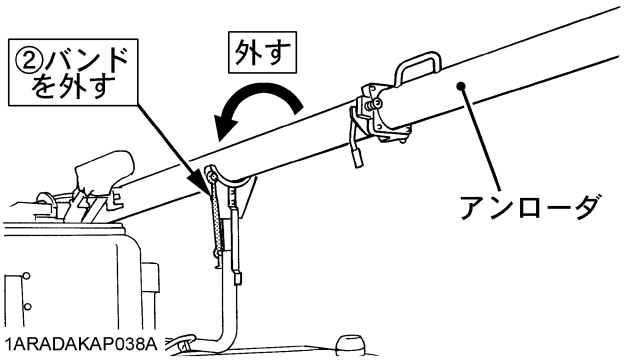


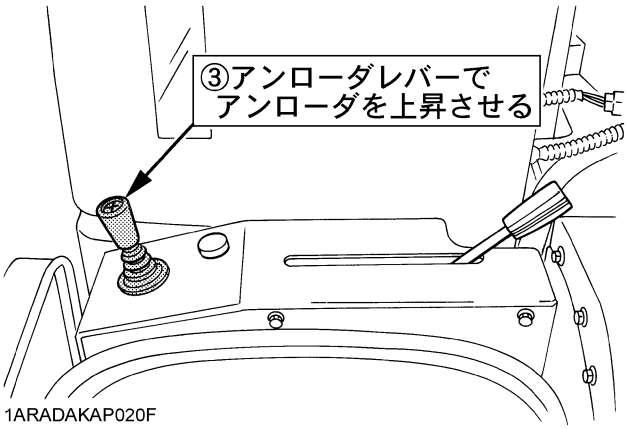
4. 脱着カバーを蝶ナットで取付けたあと，左サイドカバー上，下を取付けます。

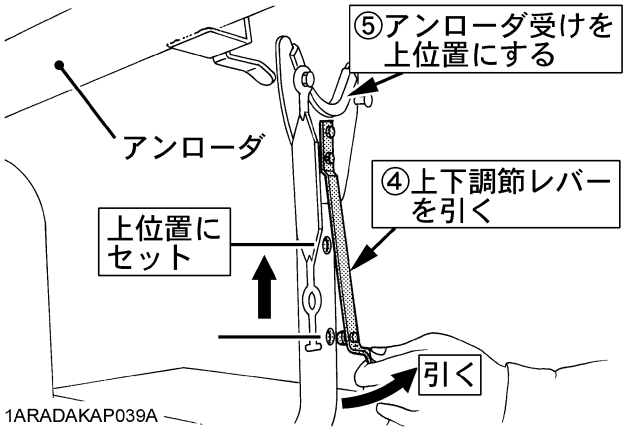
［G 仕様］

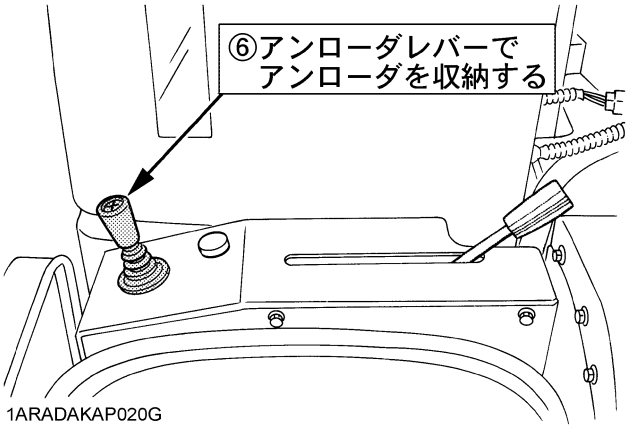
8. アンローダの準備

①折りたたみ式アンローダを伸ばす









1ARADAKAP020G

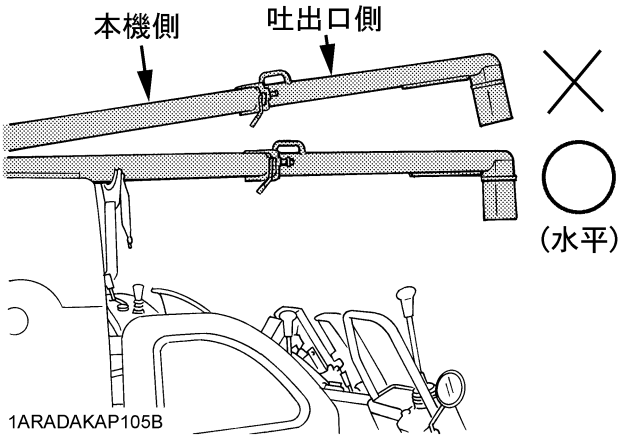
[G 仕様]

■アンローダの折りたたみ・伸ばしかた

[G 仕様]

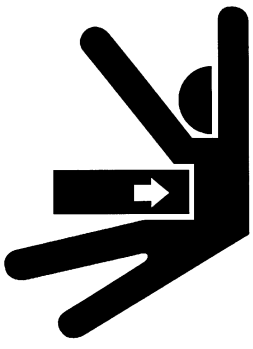
注 意

＊ 水平で平たんな場所でエンジンを必ず停止させてください。
＊ 機体やアンローダが傾いていると，吐出口側のアンローダが自然に動きケガをするおそれがありますので，アンローダは必ず水平状態にしてください。



1ARADAKAP105B

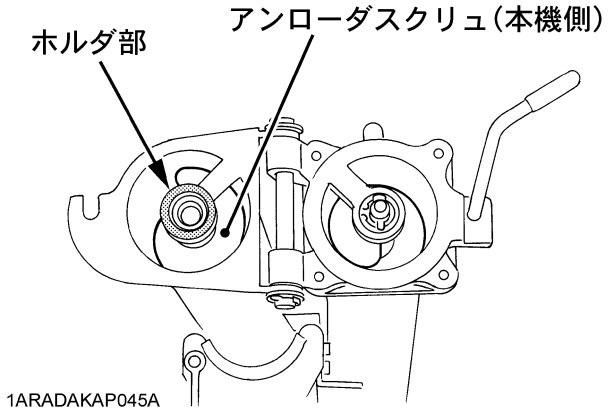
＊ アンローダ先端が大きく動き，ケガをするおそれがあるので，アンローダの旋回範囲に人がいるときは，アンローダを動かさないでください。
＊ フックがされていないと吐出口側のアンローダが不意に動いてケガをするおそれがあります。


1ARADAFAP076A

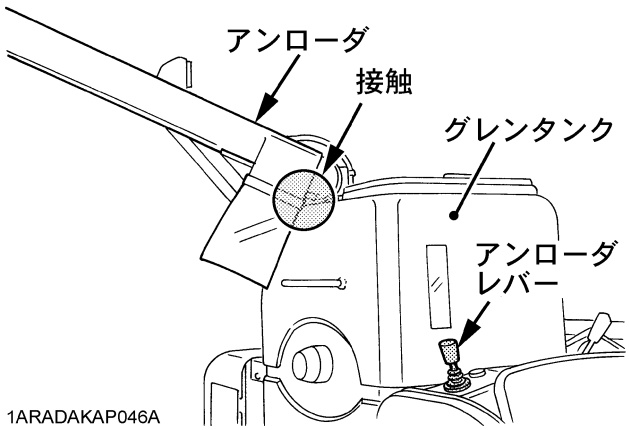
重　要

＊ アンローダを折りたたんだ状態で下記の操作は行なわないでください。機械の破損や故障の原因となります。

- エンジンを始動した状態でもみ排出クラッチを**［入］**位置にしないでください。**［入］**位置にすると，アンローダスクリュ（本機側）が回転し，ホルダ部が損傷します。



- アンローダレバーを操作して，左旋回を続けると下図のようにアンローダの先端部がグレンダンクに接触し，グレンタンクが損傷します。



◆ 折りたたみかた

注　意

＊ あぜ越え，移動走行時及びトラックで輸送するときは，アンローダが人や物にぶつかるおそれがあるので必ず折りたたんでください。

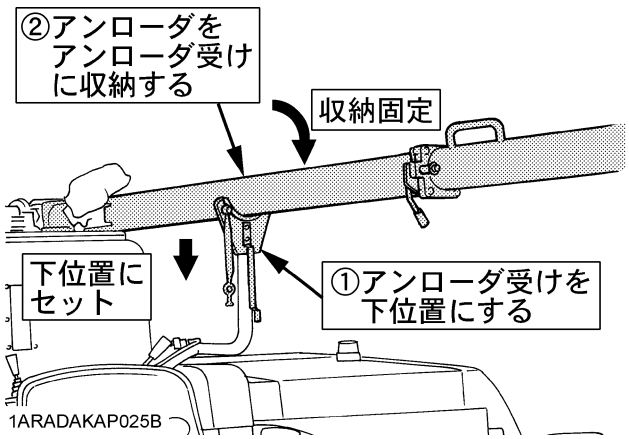
＊ アンローダが開いて人や物にぶつかるおそれがあるので，必ずロック金具がフックの溝に入っていることを確認してください。

1．パワーステアリングレバーを操作して刈取部を地面に接地させます。

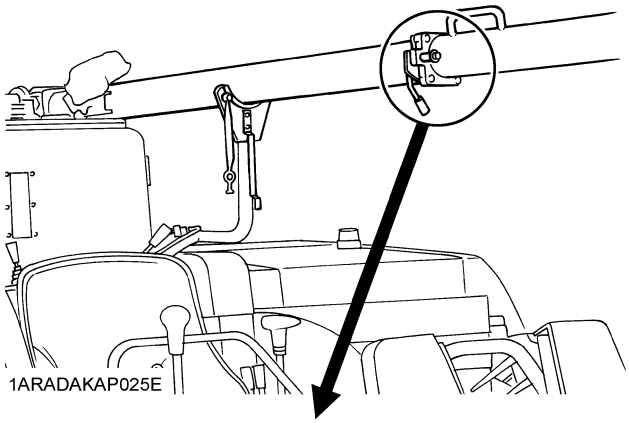
補　足

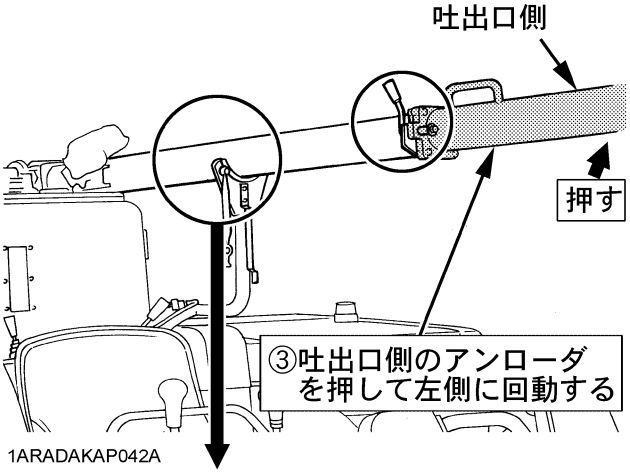
＊ アンローダ内にもみが残っているときは，一度アンローダを最上昇させてください。

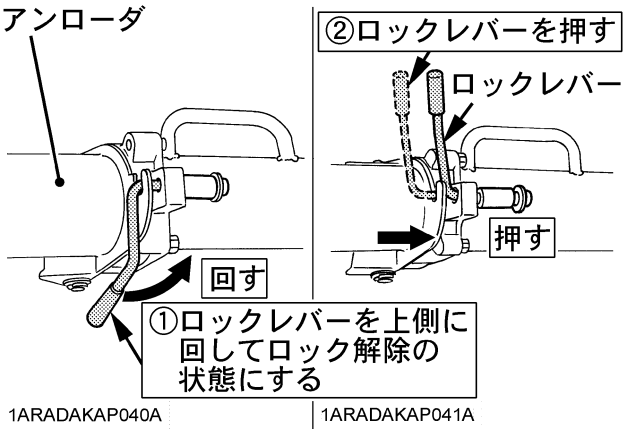
2．アンローダを収納します。

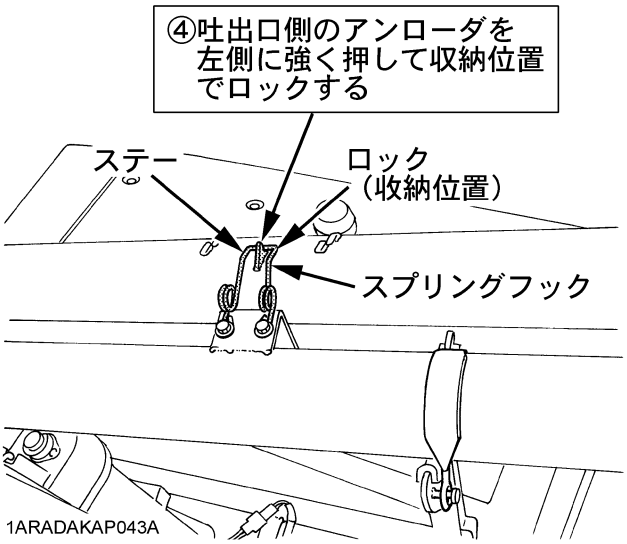


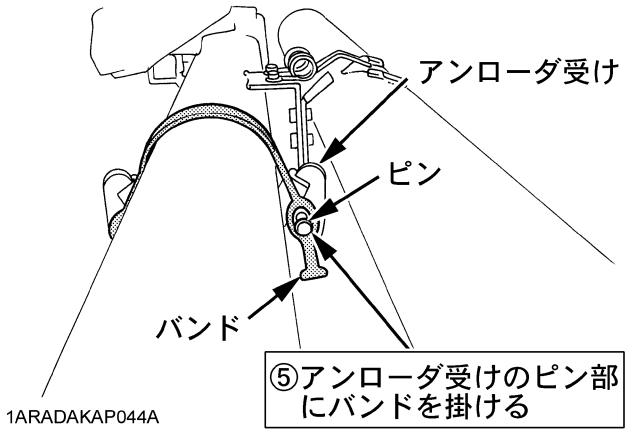
3. アンローダを折りたたみます。











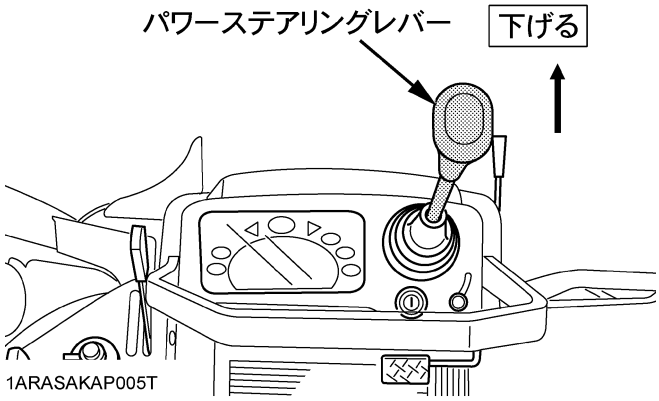
補　足

＊ 吐出口側のアンローダを強く押すと自動的にロックされます。

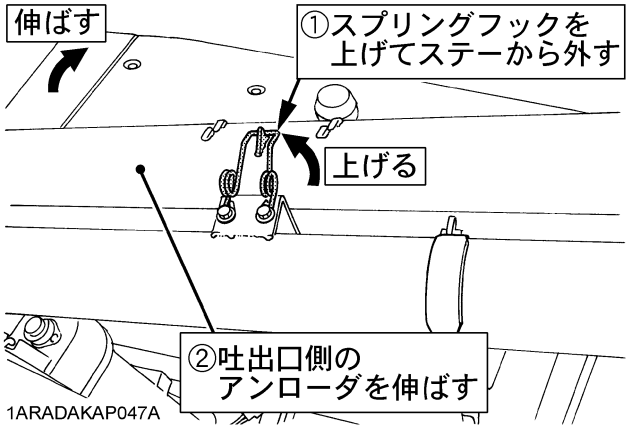
＊ もみの排出途中で排出を止めたとき，アンローダ内に残っているもみがこぼれますので，アンローダは折りたたまないでください。

◆ 伸ばしかた

1. パワーステアリングレバーを操作して刈取部を地面に接地させます。

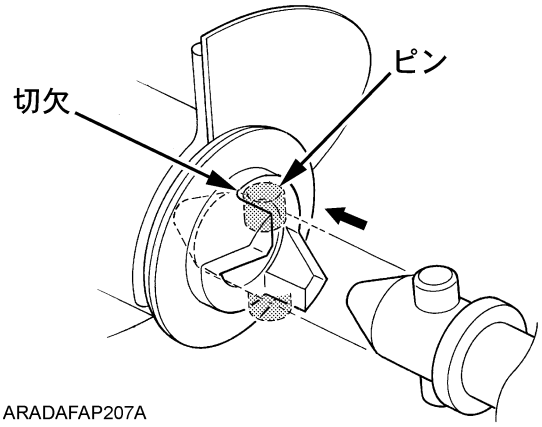


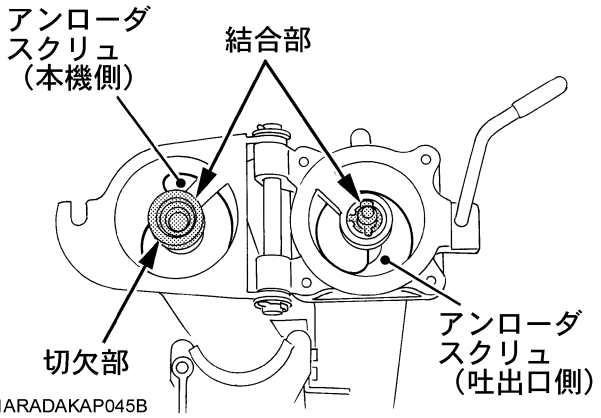
2. 吐出口側のアンローダを伸ばす。



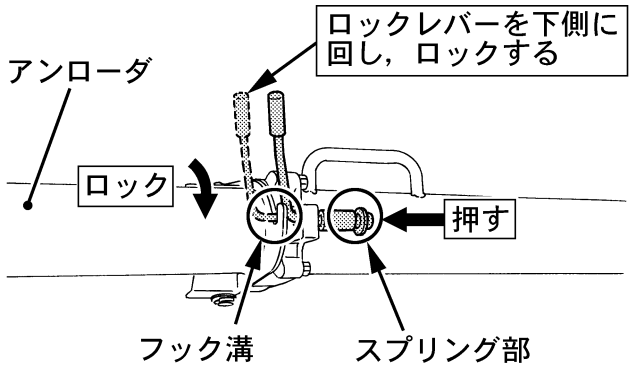
補　足

＊ アンローダを伸ばすときは，本機側アンローダスクリュの切欠に吐出口側のピンを合わせてください。





3. ロックレバーで本機側と吐出口側のアンローダを固定します。このとき，スプリング部を指で押して，ロック溝にレバーを通して，下側に回してロックします。



1ARADAKAP041B

4. バンドを外します。
5. スイッチキーを**［入］**位置にしたあと，アンローダレバーでアンローダを上昇させます。
6. アンローダ受けを**上位置**にします。
7. アンローダレバーを操作してアンローダ受けに収納します。

［G 仕様］

刈取作業のしかた

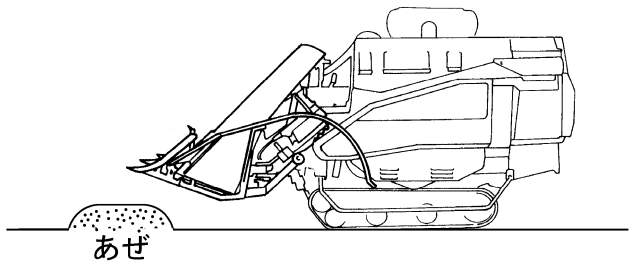
■ほ場の出入りのしかた

注　意

＊ 10cm 以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。機械が破損するおそれがあります。
＊ あゆみ板を使うときや前後左右とも 10 度をこえる傾斜地を走行するときは，速度を最低速にしてください。
＊ あゆみ板を使うときは，速度を最低速にし，あぜに対して上り方向は前進，下り方向は後進で直角に走行してください。斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。
＊ 後進する場合は後方の安全確認，また後方に川（用水路）やがけのある場合は転落しないよう後方にはじゅうぶん注意してください。
＊ 機体が，凸部を越えるときは，重心の位置が変わって機体が上向きから下向きに姿勢が変わるのでじゅうぶん注意してください。

1. 副変速レバーを**【作業】**位置にし，アクセルレバーを操作してエンジン回転を 2000rpm 以上にし，主変速レバーをゆっくり操作して，低速であぜ越えしてください。

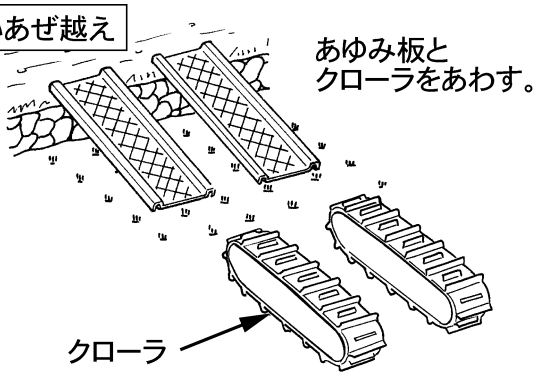
低いあぜ越え



1ARADAKAP048A

2. 10cm以上の高いあぜの場合はあゆみ板を使用してください。

高いあぜ越え



1ARADAFAP077B

■刈取作業の手順

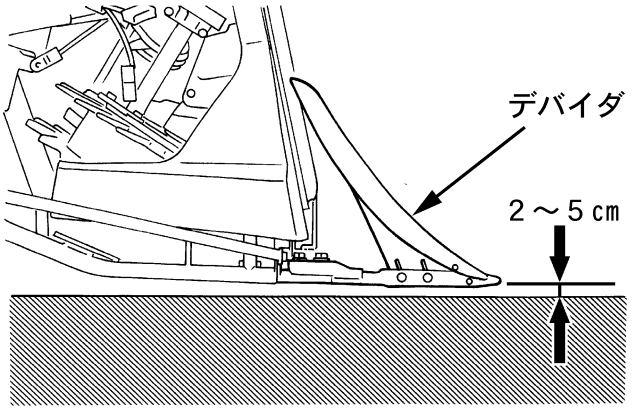
注　意

＊ 異常が発生したときは，エンジンを必ず止めてください。
＊ 小さなほ場や，ほ場のすみでは作業がしにくいので，安全のため低速で注意しながら作業を行なってください。
＊ 夜間など暗い場所で作業するときは，ヘッドランプや作業灯を必ず点灯してください。
＊ コンバインを停止するときは，わらくずの上に止めないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると，火災のおそれがあります。

重　要

＊ 枕地を刈取るとき，アンローダの先端が，障害物（電柱や壁など）に当たり，破損するおそれがありますので，アンローダは折りたたんだ状態で作業を行なってください。**[G仕様]**
＊ 作業中エンジン周りの防じんカバーにゴミの付着が多くなれば，そのつど掃除してください。
防じんあみ全面にゴミが付着したまま作業を続けますと，エンジンオーバヒートの原因になりますので注意してください。
＊ 湿田で作業する場合，特に一方刈りで何回も後進するときは，フレーム下部に切わらを大量に抱込み，トラブルの原因になりますので，切わらの無い場所を後進するか早めにわらを排出してください。
＊ 副変速レバーを**【移動】**位置にして刈取作業はしないでください。トラブルの原因になります。

1. パワーステアリングレバーを操作し，通常はデバイダの先端を，地面から２～５ cm のところまで刈取部を下げます。



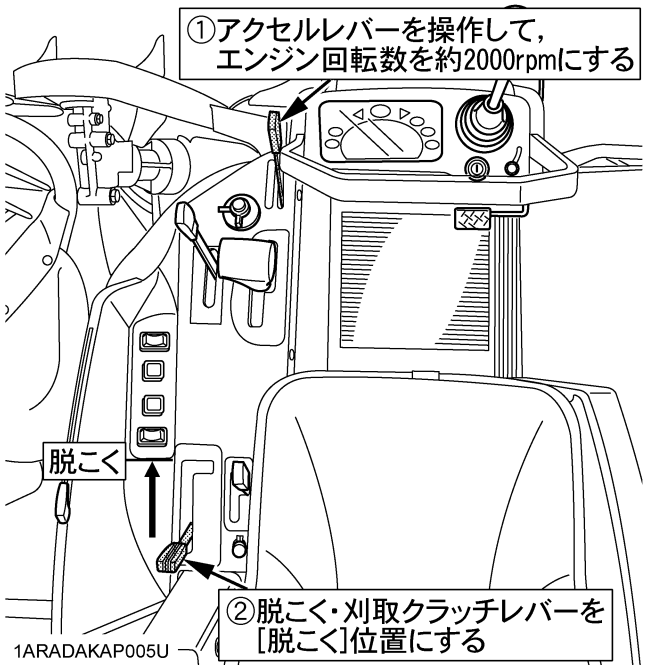
1ARADAKAP004C

補　足

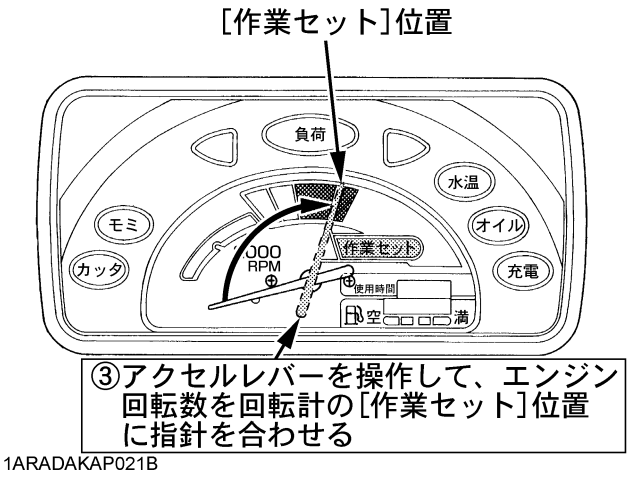
＊ 長かん作物，麦，雑草の多い作物は，高刈りしてください。

＊ 乾田で立毛作物の刈取り作業時，低刈りを行なうときは，デバイダの上下調整を行い（80 ページ参照）デバイダの先端部を上げてください。

2. 各レバー・スイッチのセットとエンジン回転数の調節を行ないます。



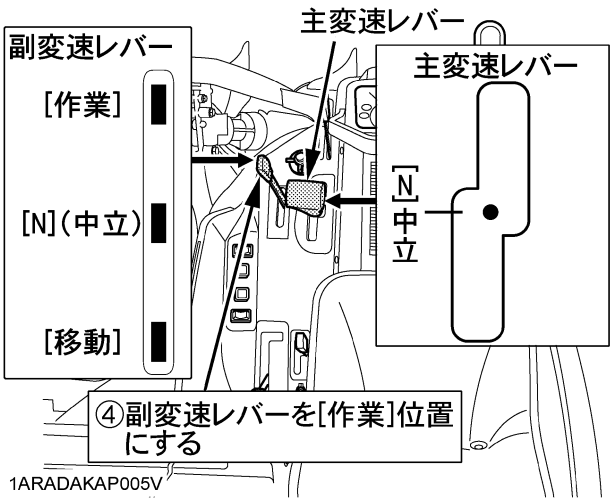
1ARADAKAP005U



1ARADAKAP021B

補　足

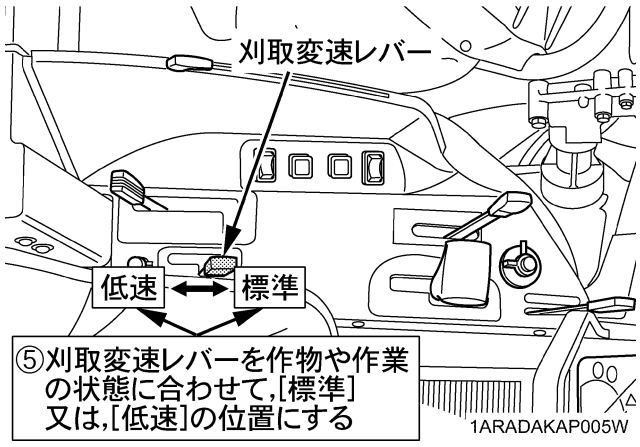
＊ エンジン回転数は脱こく・刈取クラッチレバーを**［脱こく］**位置にし，走行を停止した状態で合わせてください。
＊ エンジン回転数が低すぎると，ブザーが鳴ります。



補　足

＊ 副変速レバーの切換えは，必ず主変速レバーを**［N］（中立）**位置にし，走行をいったん止めてから行なってください。

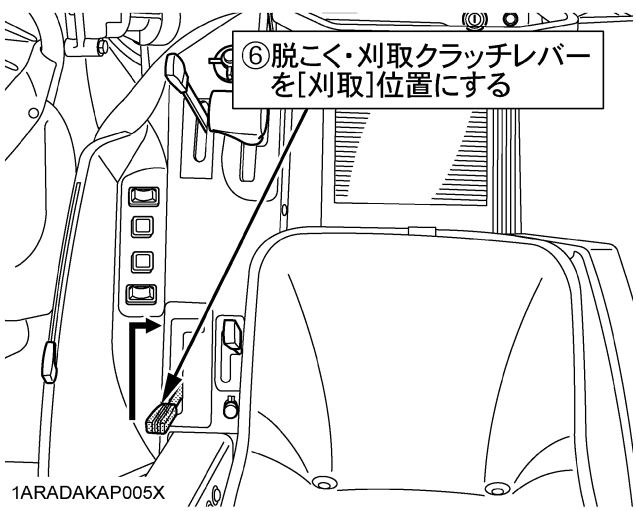
［213・216・217・317］



補　足

＊ 刈取変速については 71 ページ参照してください。

［213・216・217・317］



補　足

＊ 主変速レバーが**［N］（中立）**又は，**［後進］**位置にあるとき，脱こく・刈取クラッチレバーを**［刈取］**位置にしても，刈取部は作動しません。主変速レバーと脱こく・刈取クラッチレバーの位置に対する刈取部の動きは次のとおりです。

主変速レバー位置	脱こく・刈取クラッチレバー位置	刈取部
－	［切］又は，［脱こく］	**停止**
［N］（中立）又は，［後進］	［刈取］	
［前進］		**作動**

3. 作物の長さを確認したあと，刈始めのこぎ深さの調節をします。調節するときは，手動こぎ深さスイッチで合わせます。そのあと，自動こぎ深さ切換えスイッチを**［入］**（ランプ点灯）にします。(22 ページ参照)
4. 作物の条件に合わせた速度に主変速レバーを合わせて刈始めます。

［213・216・217］

補　足

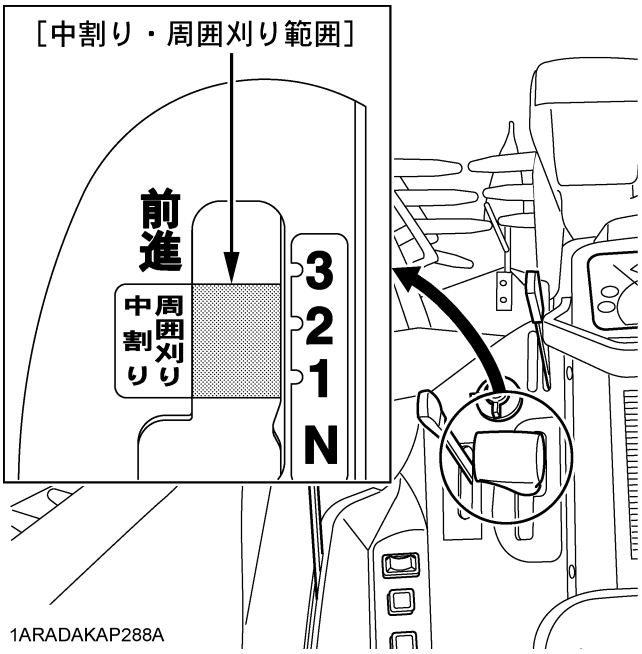
＊ 刈取作業を行なうとき，作物やほ場の状態に合わせて，主変速レバーを１～４の範囲内で，刈取速度の調整を行なってください。(71 ページ参照)

［213・216・217］

[317]

重　要

＊ ４条を刈取るときは，**［中割り・周囲刈り］**の範囲内で主変速レバーを調整してください。範囲より高速刈りを行なうと脱こく部やエンジンなどに負荷が掛かり破損するおそれがあります。



[317]

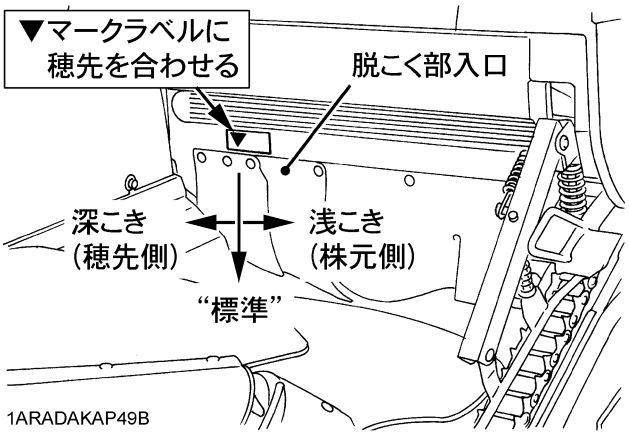
[211・317]

補　足

＊ 刈取作業を行なうとき，作物やほ場の状態に合わせて，主変速レバーを１～３の範囲内で，刈取速度の調整を行なってください。(71 ページ参照)

[211・317]

5. 作物の穂先先端を脱こく入口の**［▼マーク］**(こぎ深さ標準位置)に合うようにこぎ深さを調節します。(22 ページ参照)



補　足

＊ **浅こぎ状態**では，こぎ残しが出てたり，**深こぎ状態**では，負荷が大きくなり作業能率が上がりません。

6. 刈取作業を少し行なったあと，選別状態やこぎ残しの有無を確認し，異常があれば各部の調節（80 ページ参照）を行なってください。
7. 刈取作業が終わると，脱こく・刈取クラッチレバーを**［脱こく］**位置にし，脱こくが終わりもみが全て，ホッパ内又はグレンタンク内に入ったことを確認して，脱こく・刈取クラッチレバーを**［切］**位置にします。

■ほ場の刈りかたと旋回のしかた

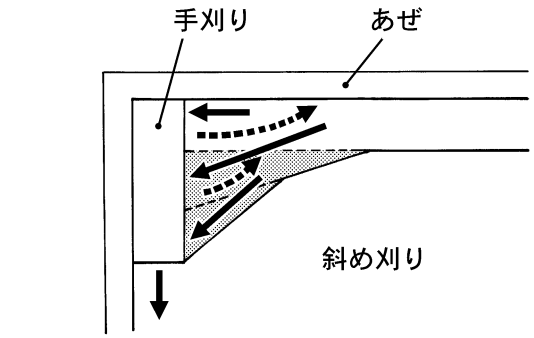
[211・213・216・217]

ほ場での作物の刈りかたは，作物・ほ場の状態や作業効率によって異なりますが，基本作業は，条刈りで左回りの２方向刈りを行なってください。

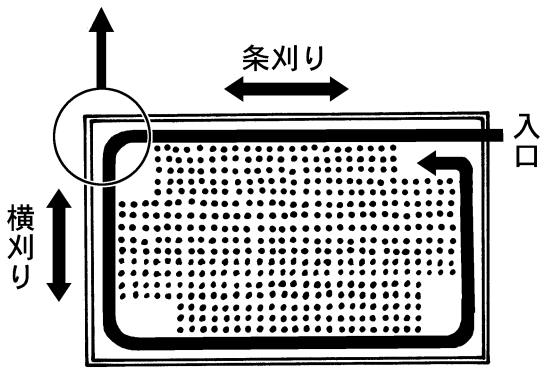
重　要

＊ 枕地を刈取るとき，アンローダの先端が，障害物（電柱や壁など）に当たり，破損するおそれがありますので，アンローダは折りたたんだ状態で作業を行なってください。**[G仕様]**

1. 右側デバイダを外側に広げます。
（80 ページ参照）
2. **[213・216・217]** は，**刈取スライドを右（運転席）側へ移動**したあと，１周目は手刈り（枕刈り）したところから進入し，あぜぎわから左回りで３条分を刈始めます。２周目からは**刈取スライドを左側へ移動**したあと２条分を刈取ります。
3. 隅を旋回できるまで２～４回斜め刈りします。



1ARADAFAP355A



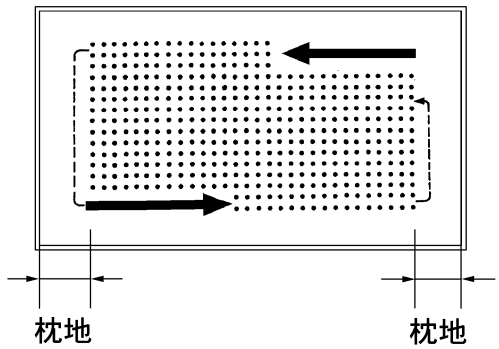
1ARADAFAP356A

補　足

＊ 斜め刈りをするとき，刈取途中で方向修正をすると，かん長が不揃いとなり正常な脱こくができない場合があります。

＊ 刈り終わりのとき，脱こく機内へ刈取った作物が搬送されるまで刈取部は動かしてください。かんこぼれが発生することがあります。

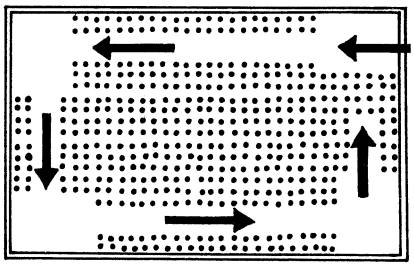
4. 刈取スライドを左側へ移動したあと，両端（枕地）を旋回できる範囲に刈取ったら両端は刈取らずに旋回し，２方向刈りを行なってください。



1ARADAFAP357A

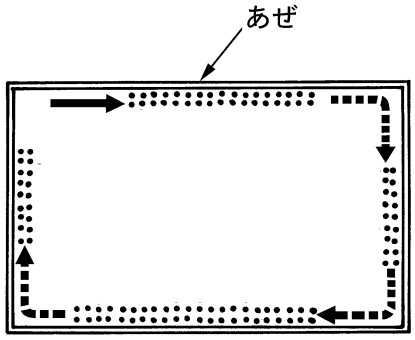
◆ あぜぎわの刈りかた

1. あぜぎわの条があぜに近く，右クローラがあぜに乗り上げたり，ブロックに当たるときは，１周目は周囲２条を残して３条分を刈取ります。



1ARADAFAP358A

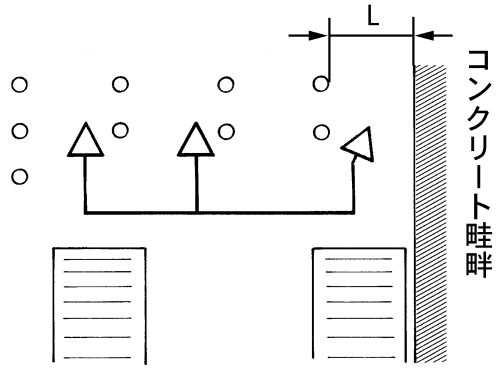
2. あぜぎわに残した作物の刈取りは，左分草かんを収納し，**低速**で**右回り**で行ないます。



1ARADAFAP359A

重　要

＊ あぜぎわ刈りをするとき，デバイダをあぜに突込まないように，少し高刈りをしてください。また，分草かんを畦に強く当てると刈取部が変形しますので，収納して作業してください。
＊ コンクリート畦畔にクローラをこすりつけると，クローラを切損する場合がありますので注意してください。



1ARADAFAP365B

クローラの仕様	距離（L）
標準	32cm 以上
W	34cm 以上
W2，SLW	41cm 以上

補　足

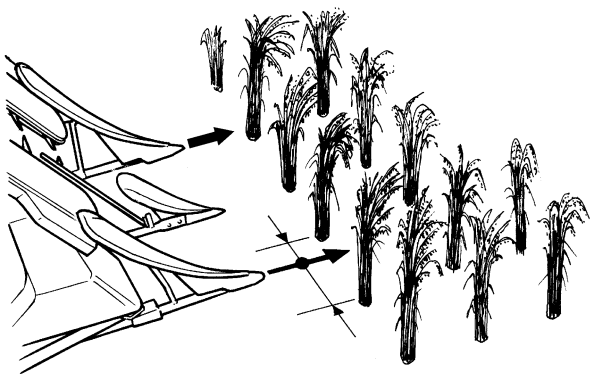
＊ 自動こぎ深さ装置を**【切】**位置にして，こぎ残しが出ないように手動スイッチで**深こぎ**ぎみにしてください。
＊ **【213・216・217 ホッパ仕様】**は，補助デッキを収納してください。

◆ デバイダ（刈取部）の条合わせのしかた

条合わせをするときは，コンバインの速度を落としてください。

● 刈り始め・中割り作業のとき

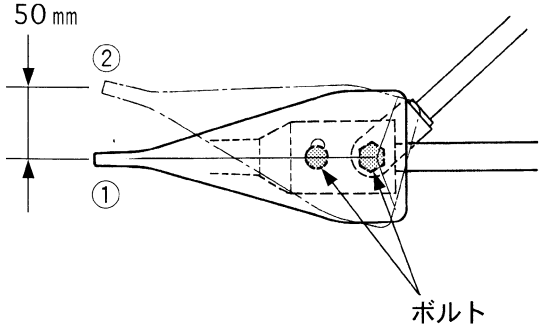
右デバイダを条間の左寄りになるように合わせて３条で刈取ります。(低速で作業してください)



1ARADAFAP440A

補　足

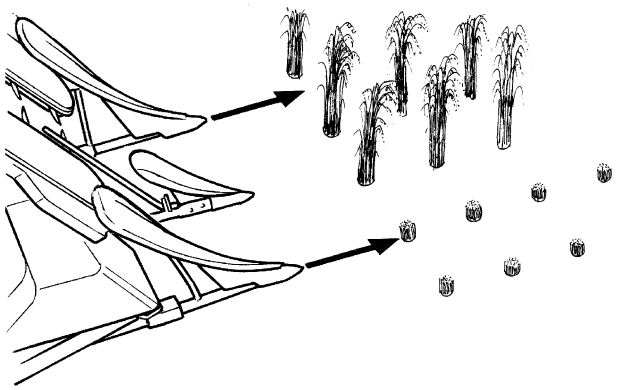
＊ 植付け条間が広いとき（33cm 条間又は麦）は，右デバイダを広げて（②位置）ください。(80 ページ参照)



1ARADAFAP380A

● 通常の回り刈りのとき

既刈側刈株跡に右デバイダを合わせて２条で刈取ります。



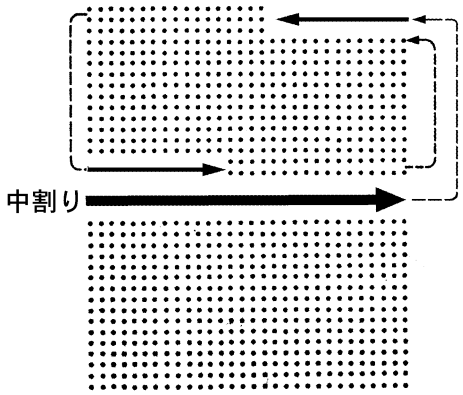
1ARADAFAP361A

補　足

＊ 条合わせのときは，パワーステアリングレバーを小刻みに操作してください。

◆ 広いほ場の場合

刈取スライドを右（運転席）側に移動したあと，**中割り刈り**で分割して，同じ要領で刈取ります。



1ARADAFAP362A

補　足

＊ 中割り刈り以外のときは，刈取部を左側にスライドして通常の回り刈りをしてください。

＊ **［213・216・217 ホッパ仕様］**は，補助デッキを収納してください。

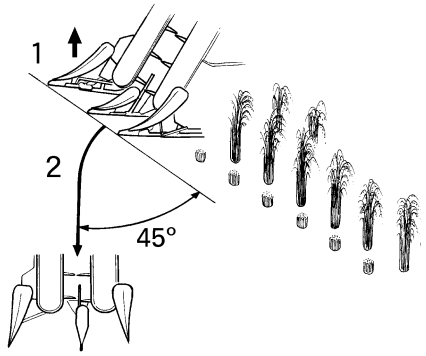
◆ 旋回のしかた

1. 刈終わると前進しながら刈取部を上げます。

補　足

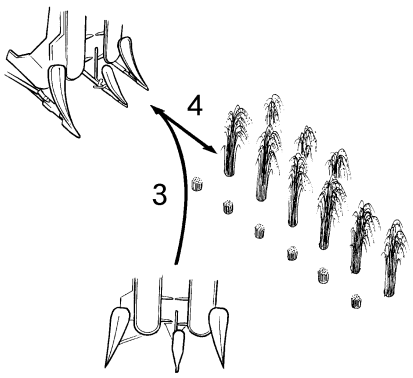
＊ 刈終わる前に刈取部を上げると刈残しが発生します。
＊ エンジンの回転低下が大きいときは，旋回操作の前に減速してください。

2. パワーステアリングレバーを左に倒し，45 度くらい旋回した位置で走行を停止します。



1ARADAFAP363A

3. 主変速レバーを**【後進】**位置に入れ，後進しながらパワーステアリングレバーを右に倒し，次に刈る方向に刈取部を合わせます。
4. 刈取部を下げて前進します。



1ARADAFAP364A

重　要

＊ エンジン回転数は，下げないでください。**選別が悪くなったり詰まりの原因**になります。

補　足

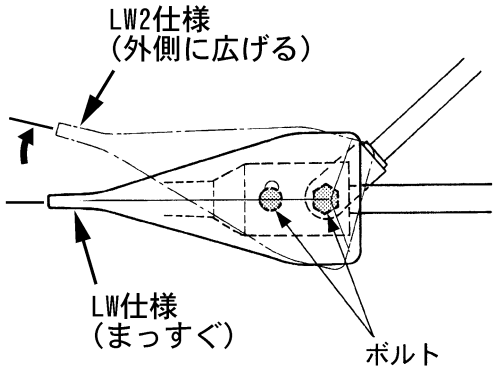
＊ 刈取オートクラッチを**【入】**位置にしておくと，刈取部を上げたとき，自動的に刈取部の回転が停止するため，旋回が楽に行なえます。

[211・213・216・217]

[317]

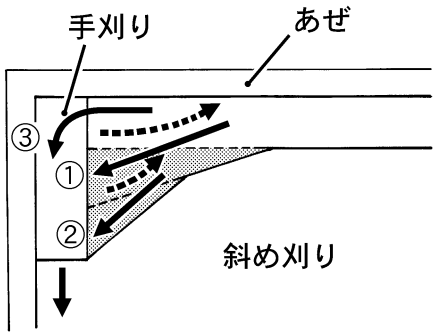
ほ場での作物の刈りかたは，作物・ほ場の状態や作業効率によって異なりますが，基本作業は，条刈りで左回りの２方向刈りを行なってください。

1. クローラの仕様に合わせて右側デバイダを調節します。
   - **LW 仕様（クローラ幅：33cm）の場合**
     右デバイダをまっすぐにしてください。
   - **LW2 仕様（クローラ幅：40cm）の場合**
     ボルト２本をゆるめて右デバイダを外側いっぱいまで広げてください。

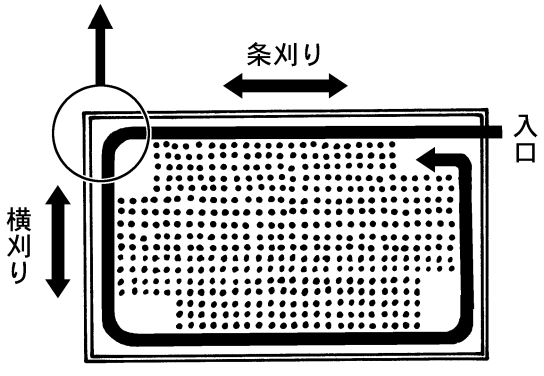


1ARADAFAP380B

2. １周目は手刈り（枕刈り）したところから進入し，あぜぎわから４条分を刈始めます。２周目からは３条分を刈取ります。
3. 隅を旋回できるまで２～４回斜め刈りします。



1ARADAFAP368A

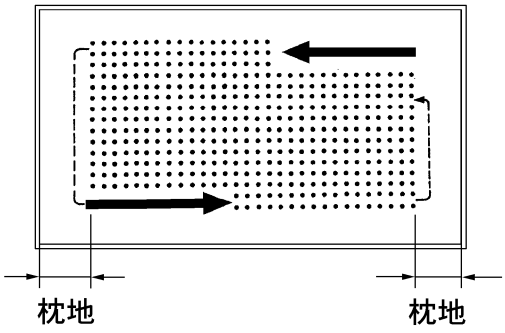


1ARADAFAP369A

補　足

＊ 斜め刈りをするとき，刈取途中で方向修正をすると，かん長が不揃いとなり正常な脱こくができない場合があります。
＊ 刈り終わりのとき，脱こく機内へ刈取った作物が搬送されるまで刈取部は動かしてください。かんこぼれが発生することがあります。

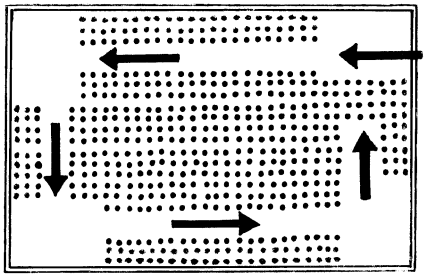
4. 両端（枕地）を旋回できる範囲に刈取ったら両端は刈取らずに旋回し，２方向刈りを行なってください。



1ARADAFAP370A

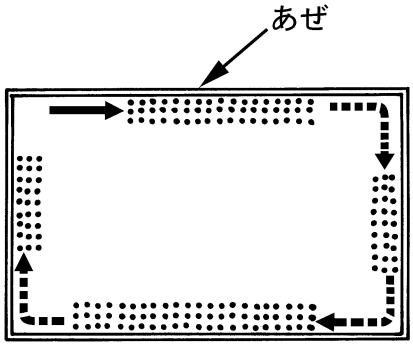
◆ あぜぎわの刈りかた

1. あぜぎわの条が高いあぜに近く，右クローラがあぜに乗り上げたり，ブロックに当たるときは，１周目は周囲３条を残して４条分を刈取ります。



1ARADAFAP371A

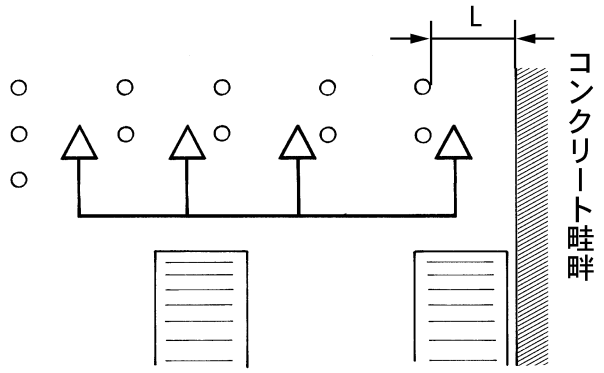
2. あぜぎわに残した作物の刈取りは，左分草かんを収納し，**低速**で**右回り**で行ないます。



1ARADAFAP372A

重　要

＊ あぜぎわ刈りをするとき，デバイダをあぜに突込まないように，少し高刈りをしてください。
＊ 右回りであぜぎわ刈りをするとき，分草かんを畦に強く当ると刈取部が変形しますので，収納して作業してください。
＊ コンクリート畦畔にクローラをこすりつけると，クローラを切損する場合がありますのでクローラの仕様により，コンクリート畦畔から下図の距離（L）以上離れていることを確認して作業を行なってください。



1ARADAFAP365D

クローラの仕様	距離（L）
W	12cm 以上
W2	19cm 以上

補　足

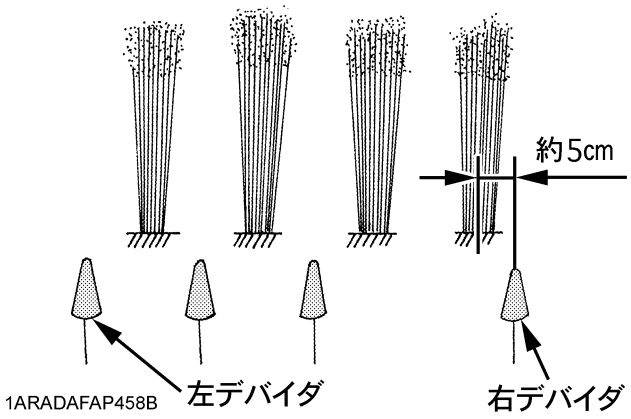
＊ 自動こぎ深さ装置を**［切］**位置にして，こぎ残しが出ないように手動スイッチで**深こぎ**ぎみにしてください。

◆ デバイダ（刈取部）の条合わせのしかた

条合せをするときは，コンバインの速度を落としてください。

● あぜぎわ刈り・中割り作業のとき

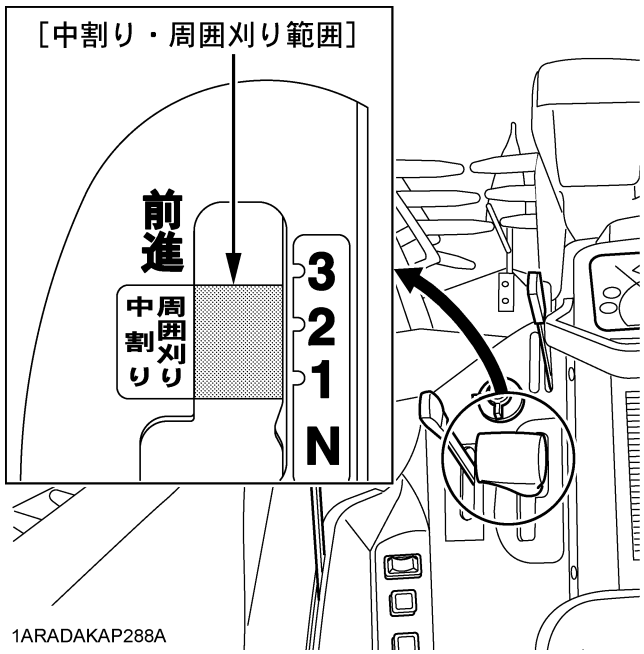
未刈株中心から約５ cm 離れた位置に右デバイダ先端を合わせて４条を刈取ります。
（低速で作業してください。）



1ARADAFAP458B

重　要

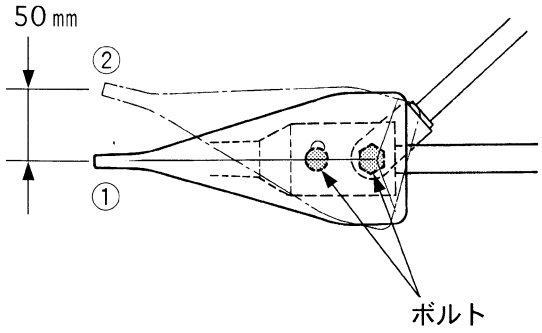
＊ ４条を刈取るときは，**［中割り・周囲刈り］**の範囲内で主変速レバーを調整してください。範囲より高速刈りを行なうと脱こく部やエンジンなどに負荷が掛かり破損するおそれがあります。



1ARADAKAP288A

補　足

＊ 植付け条間が広いとき（33cm 条間又は麦）は，右デバイダを広げて（②位置）ください。（80 ページ参照）

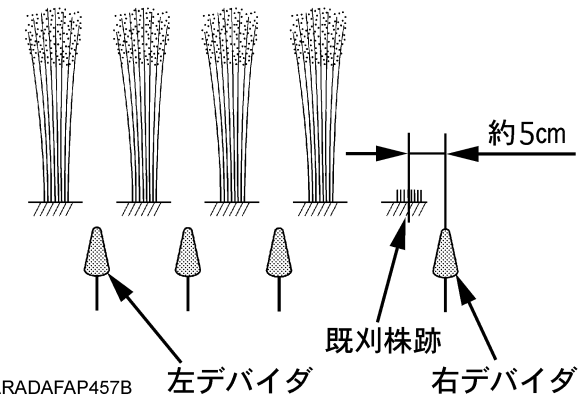


1ARADAFAP380A

＊ 植付け条間が広いとき，４条の刈取りを行なうと，刈跡が通常よりも汚なくなることがあります。

● 通常の回り刈りのとき

既刈側刈株跡から約５ cm 離れた位置に右デバイダ先端を合わせて３条を刈取ります。



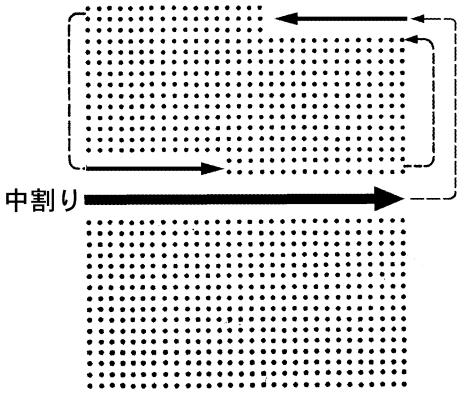
1ARADAFAP457B

補　足

＊ 条合わせのときは，パワーステアリングレバーを小刻みに操作してください。

◆ 広いほ場の場合

中割り刈りで分割して，同じ要領で刈取ります。



1ARADAFAP375A

補　足

＊ 中割り刈り以外のときは，通常の回り刈りをしてください。

◆ 旋回のしかた

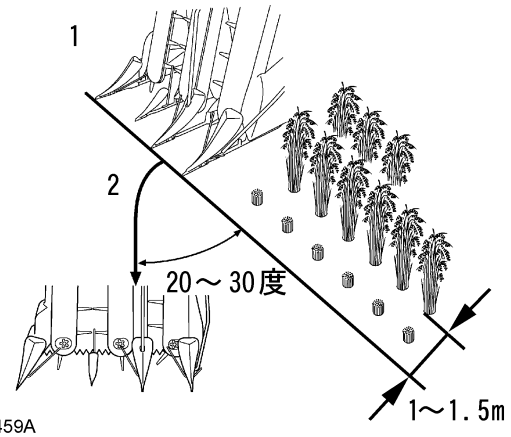
1. 刈終わると前進しながら刈取部を上げます。

補　足

＊ 刈終わる前に刈取部を上げると刈残しが発生します。

＊ エンジンの回転低下が大きいときは，旋回操作の前に減速してください。

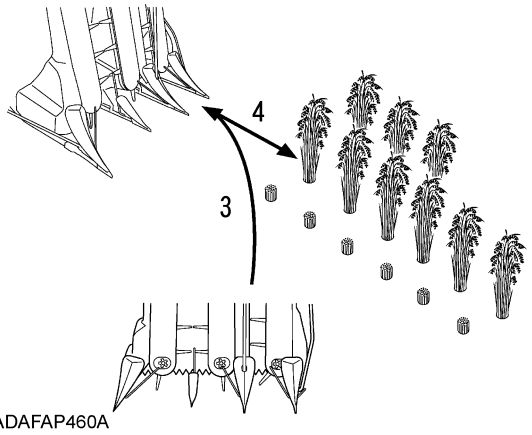
2. 最後の作物を刈取ったあと，1 ～ 1.5m 程度走行しながら刈取部を上げパワーステアリングレバーを左に倒し，20 ～ 30 度くらい旋回した位置で走行を停止します。



1ARADAFAP459A

3. 主変速レバーを**【後進】**位置に入れ，後進しながらパワーステアリングレバーを右に倒し，次に刈る方向に刈取部を合わせます。

4. 刈取部を下げて前進します。



1ARADAFAP460A

重　要

＊ エンジン回転数は，下げないでください。**選別が悪くなったり詰まりの原因**になります。

補　足

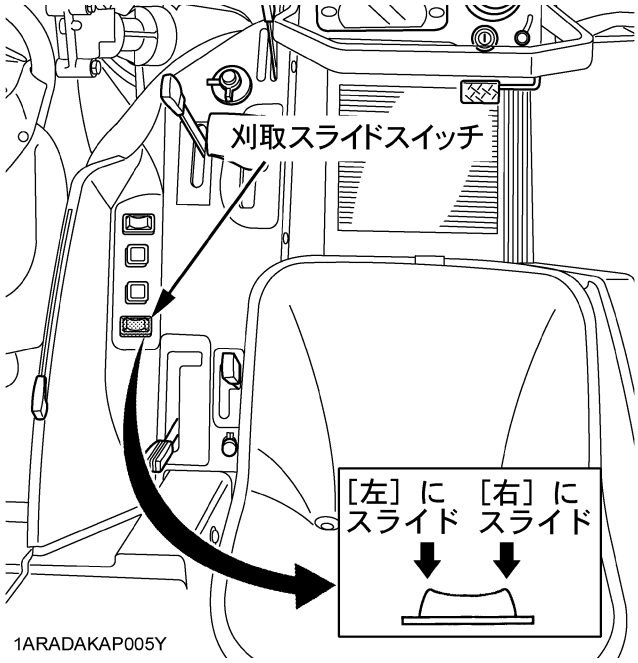
＊ 刈取オートクラッチを**【入】**位置にしておくと，刈取部を上げたとき，自動的に刈取部の回転が停止するため，旋回が楽に行なえます。

[317]

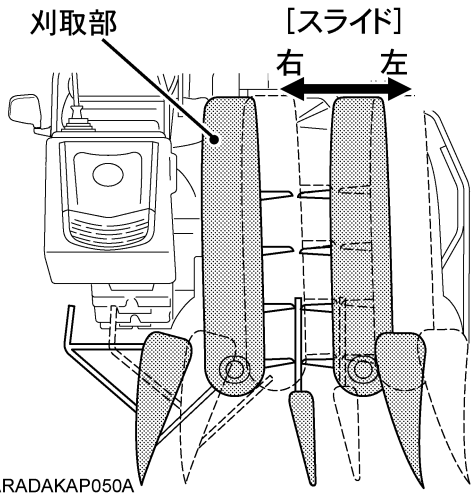
■刈取スライド装置の使いかた

[213・216・217]

刈取スライド装置は，スライドスイッチを操作することによって刈取部が**右⟷左**にスライドする装置です。スライドスイッチを操作するときは，地面から約５ cm 程度上げて操作してください。



1ARADAKAP005Y



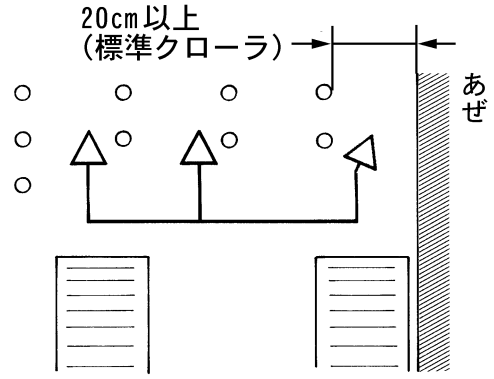
1ARADAKAP050A

◆ 刈取スライドの使い方

作業に応じて使い分けてください。
刈取部を右にスライドして踏代を少なくできます。また，標準のクローラで条があぜから20cm 以上（右デバイダが外位置のとき）の距離があるときは，あぜぎわから刈れます。(W，W2 仕様は下記参照)

クローラ仕様	距　離		クローラ仕様	距　離
標準	20cm以上		W2	32cm以上
W	25cm以上		－	－

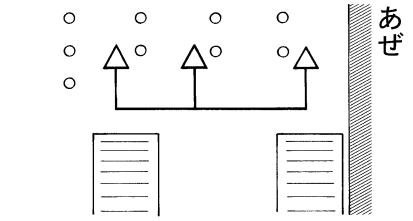
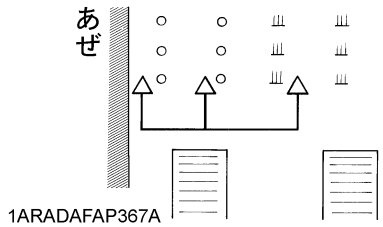
1ARADAKBP0020



1ARADAFAP365A

重　要

＊ あぜがコンクリートのとき乗上げると，クローラを折損する場合がありますので，あぜぎわ２条を残して刈取ってください。
＊ 刈取部に作物のある場合（刈取作業中や詰まった状態）は，刈取部をスライドしないでください。スライド部の故障の原因になります。
＊ スライドを連続して５往復以上しないでください。またスライドが停止したら，スイッチからすぐ手を離してください。モータが加熱し故障の原因になります。
＊ スライド時は刈取部を約 10cm 程度浮かせてください。地面にこすると動かないときがあります。

作　業　内　容	刈取部の位置	刈取スライドの使い方
● 中割り刈り (3 条刈取時) ● あぜぎわ順回り刈り (左回りで 3 条刈取時) ● 移動走行 ● トラックへの積込み	 1ARADAFAP366A	刈取部を**右スライド**位置で使います。 (運転席に近づける)
● 通常回り刈り (2 条刈取時) ● あぜぎわ逆回り (右回りで 2 条刈取時) ● 刈取部脱着 ● 斜め刈り	 1ARADAFAP367A	刈取部を**左スライド**位置で使います。 (運転席から遠ざける)

[213・216・217]

■湿田作業のしかた

注　意 **＊ 異常が発生したときは，エンジンを必ず止めて処置してください。**	湿田で刈取作業を行なうときは，作物の状態（倒伏角の大きさなど）やほ場の状態（ぬかるみや起伏の大きさなど）をよく確認してください。また，異常が発生したときは，下表を参照してください。

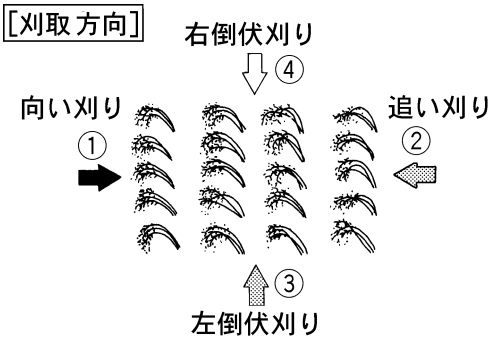
現　象	処　置
● スリップする。 ● 沈下して動かなくなる。 ● 機体が傾く。	● 低速で作業を行なう。 ● 同じ場所での旋回は避ける。 ● 急旋回はしない。（パワーステアリングレバーを小刻みに操作し，大廻りする。） ● 急発進はしない。 ● 機体を軽くする。 （ホッパ内又は，グレンタンク内のもみを早期排出する。） ● 水口場所や深いところでは，下車し，機体を軽くする。
● 刈取部が詰まる。	● 巻付いた作物，わらくずや泥の付着を早めに取除く。（パッカ下部や搬送部） ● 少し高刈りする。
● カッタ部が詰まる	● わらくずや泥の付着を取除く。

■作物に合わせた変速の選びかた

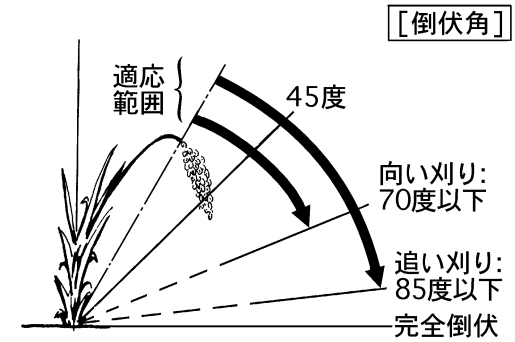
作物の状態により適正な速度の位置を選んでください。

◆ 作業速度の選びかた

下表を参考にして主変速レバーと副変速レバーで適正な作業速度を選んでください。通常は倒伏角が大きい場合や水分が多い場合は，作業速度を遅くし，倒伏角が小さい（立毛）場合や水分が少ない（乾燥）場合は，作業速度を速くすることができます。



1ARADAFAP378A



1ARADAFAP379A

作物のぬれ	作業速度	変速レバー		倒伏	立毛	倒伏角
		副変速	主変速	刈取り方向		
乾燥 水分多い	速い 遅い	作業	高速（前進側） 低速（中立側）	①（向い刈り）③（左倒伏刈り）30度以下の ④（右倒伏刈り） ②（追い刈り）		小さい 大きい

1ARADAKBP0010

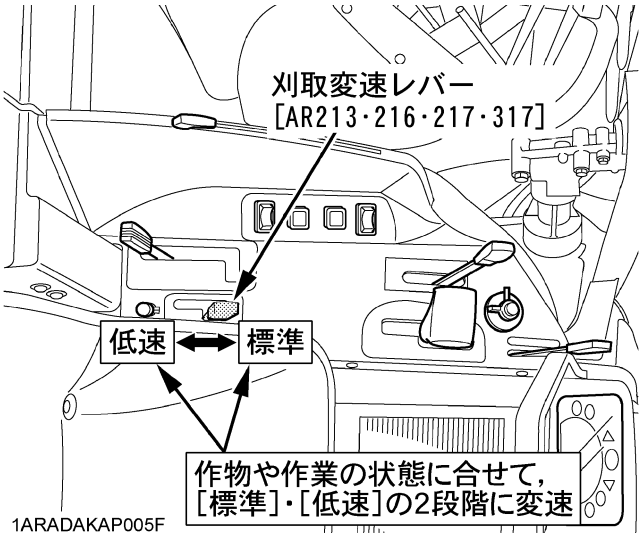
補　足

＊ 収量・成熟度合やその他の要因により適正な速度は変化します。この表はあくまでも目安ですので，その作物と機械に合った速度で作業を行なってください。

[213・216・217・317]

◆ 刈取変速の選び方

作物の状態に合わせて，下表を参考にして，刈取変速レバーで**【低速】・【標準】**（２段階）の変速を行なってください。



作　物　状　態		変速選択位置
倒伏度合	その他の条件	刈取変速レバー
直立	一般的作物	**【標準】**
	周囲刈りなど 低速刈取作業	
	脱粒しやすい作物	**【低速】**
	短かんで少量作物	
倒伏	45 度以下の 倒伏作物	**【標準】**
	45 度以上の 倒伏作物 長かん作物	
	45 度以上で かん切れが多い作物	**【低速】**

補　足

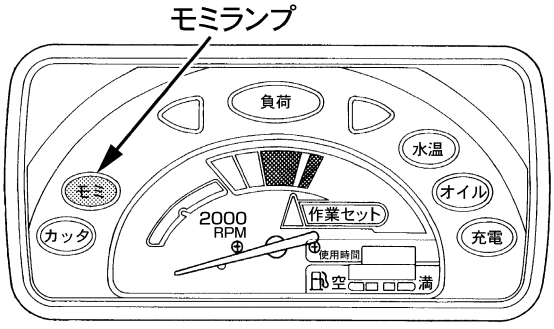
＊ 表は目安です。
＊ 出荷時は**【標準】**位置です。
＊ かん切れが起こると，作物が途中で切れるため，搬送されずに刈取部前方に作物が滞留します。
＊ 下記のような条件では，上表のような作業速度では作業ができない場合があります。
- 雑草が極めて多いほ場
- ５度以上傾斜しているほ場
- 病虫害，風水害により倒伏している作物
- 根ぐされし，切れやすい作物，濡れ作物
- 長かんで脱粒しやすい作物
- 過熟して，茎が折れやすくなっている麦
- 10㎝以上の高うねのほ場
- 極短かんで極少量作物

[213・216・217・317]

■もみの排出のしかた

[ホッパ仕様]

1. ホッパが満杯になると，メータユニットの**[モミ]**ランプが点滅すると同時にブザーがなります。



1ARADAKAP021C

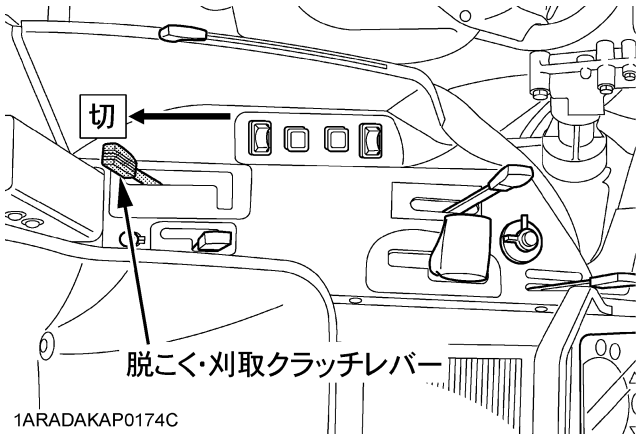
重 要

＊ ブザーが鳴ったあとも刈取作業を行なうと，もみがあふれたり，１番スクリュが詰まったりして，故障の原因となります。

補 足

＊ ブザーを止めるときは，ホーンスイッチを約1.5 秒間押してください。ブザーは停止しても，**[モミ]**ランプは点滅したままの状態です。**[モミ]**ランプはもみを排出すると消灯します。

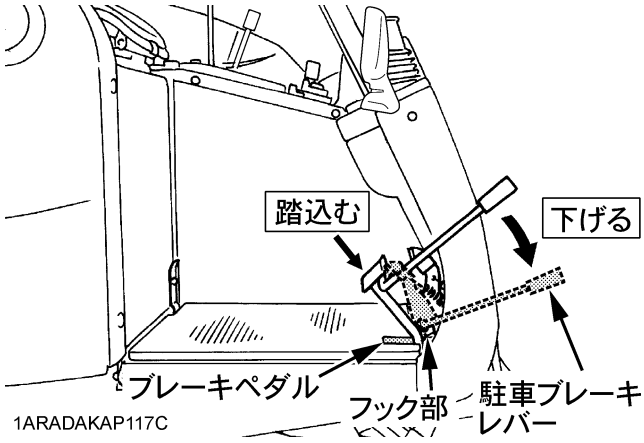
2. 20 ～ 30 秒待ったあと脱こく・刈取クラッチレバーを**[切]**位置にし，脱こく部を停止します。



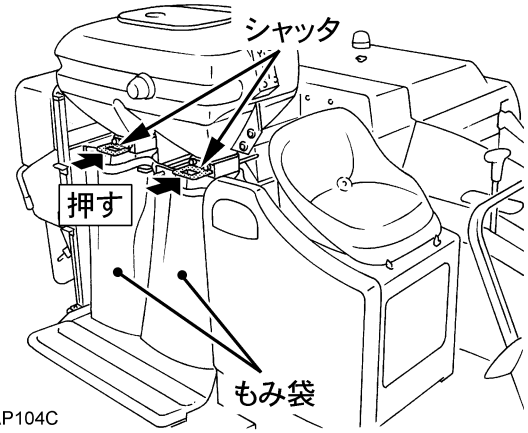
補 足

＊ 選別不良の原因となりますので，走行停止後20 ～ 30 秒経過して行なってください。

3. 平坦な場所を選んで主変速レバーを**[N]（中立）**位置にして，走行を停止したあと，駐車ブレーキを掛けます。



4. シャッタを押して（閉じて），新しい（空の）もみ袋と交換したあと，シャッタを引き（開き）ます。



1ARADAKAP104C

補　足

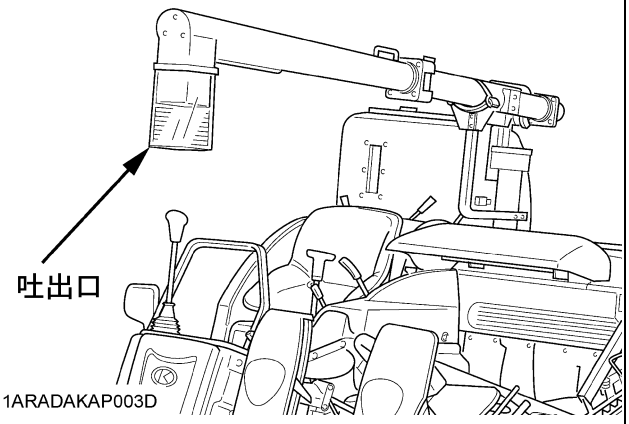
＊ もみを排出すると，モミランプが消えます。
＊ もみ袋の掛け金具は，片方が上下可動式になっています。

[ホッパ仕様]

[G 仕様]

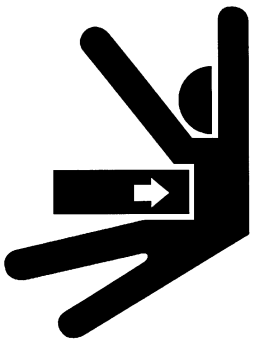
注　意

＊ コンバインを必ず停止してください。
＊ 吐出口に手は入れないでください。



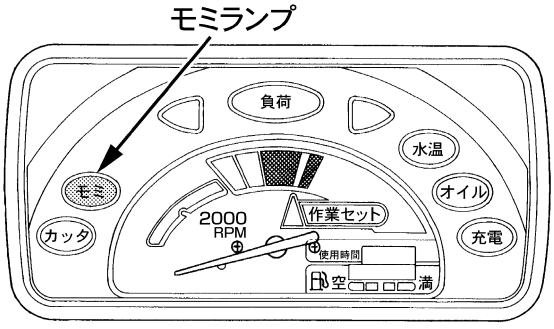
1ARADAKAP003D

＊ 手をはさみ，ケガをするおそれがあるので，アンローダ受けの上に手を置かないでください。
＊ アンローダ先端が大きく動き，ケガをするおそれがあるので，アンローダの旋回範囲に人がいるときは，アンローダを動かさないでください。


1ARADAFAP076A

＊ 排出時は機体を水平な場所に停車させ，脱こく・刈取クラッチレバーを［切］位置にしてから排出作業を行なってください。

1. グレンタンクが満杯になると，メータユニットがもみランプが点灯すると同時にブザーが鳴ります。



1ARADAKAP021C

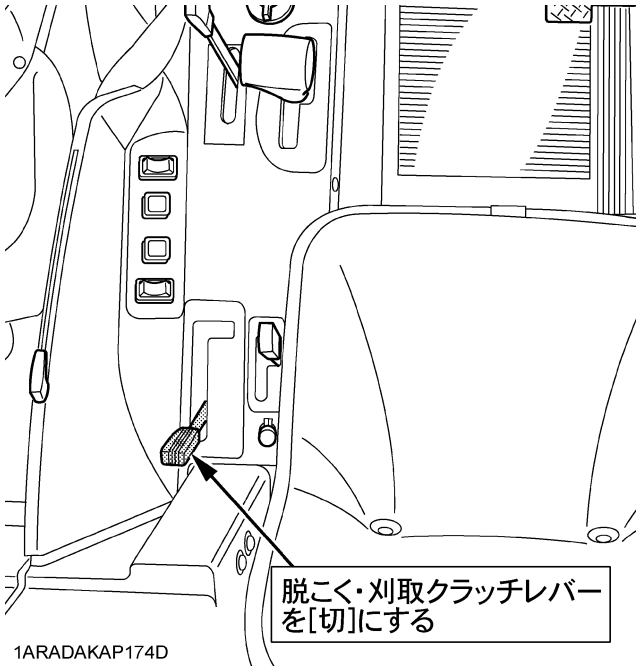
重　要

＊ ブザーが鳴ったあとも刈取作業を行なうと，もみがあふれたり，１番スクリュが詰まったりして，故障の原因となります。

補　足

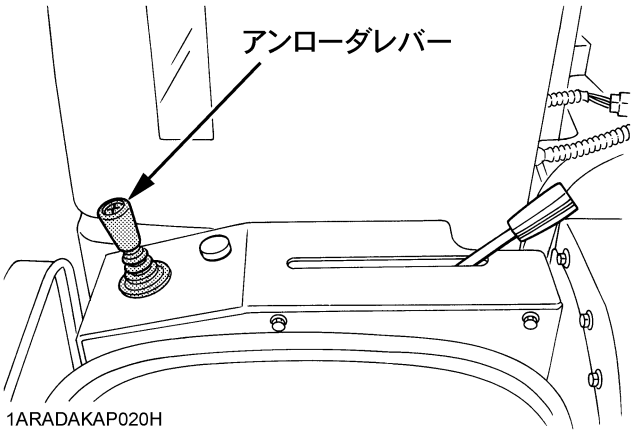
＊ ブザーを止めるときは，ホーンスイッチを約 1.5 秒間押してください。ブザーは停止しても，**“モミ”**ランプは点滅したままの状態です。**“モミ”**ランプはもみを排出すると消灯します。

2. 脱こく・刈取クラッチレバーを**【切】**位置にして，所定の排出位置に移動します。

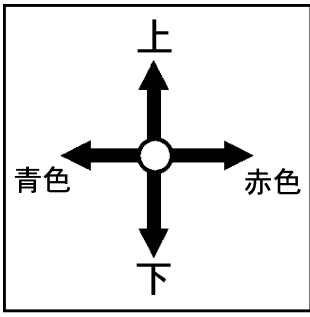


1ARADAKAP174D

3. 主変速レバーを**【N】（中立）**位置にして，駐車ブレーキを掛けます。
4. アンローダレバーを操作して，アンローダを排出位置まで動かします。

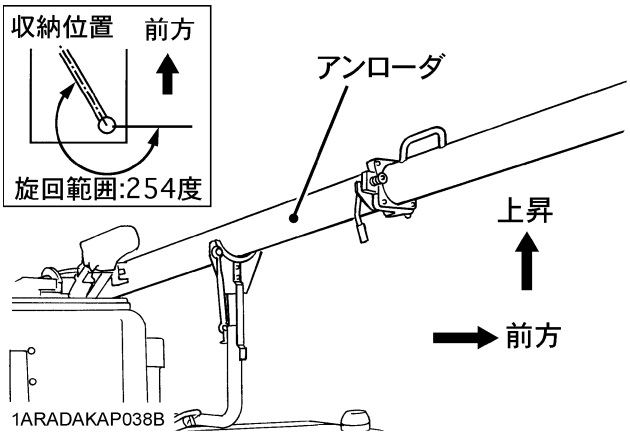


1ARADAKAP020H



レバーの操作方向	アンローダの動き
上	上昇
下	下降
赤色	左回り（反時計方向）に旋回
青色	右回り（時計方向）に旋回

1ARAEAABP0180



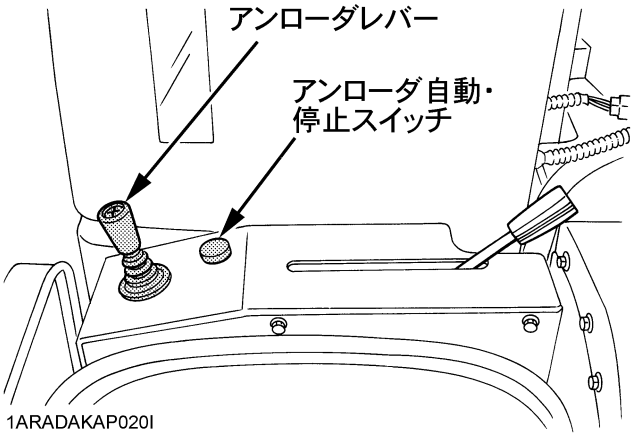
1ARADAKAP038B

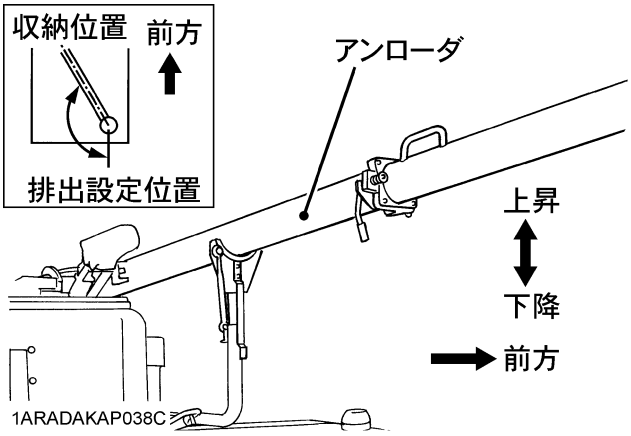
補　足

＊ アンローダレバーを操作方向識別ラベルの**赤色**方向に操作するとアンローダは左旋回（ラベル赤色方向）し，アンローダレバーを**青色**方向に操作するとアンローダ右旋回（ラベル青色方向）します。(24 ページ参照)

● 自動・停止スイッチの操作 [216・217・317]

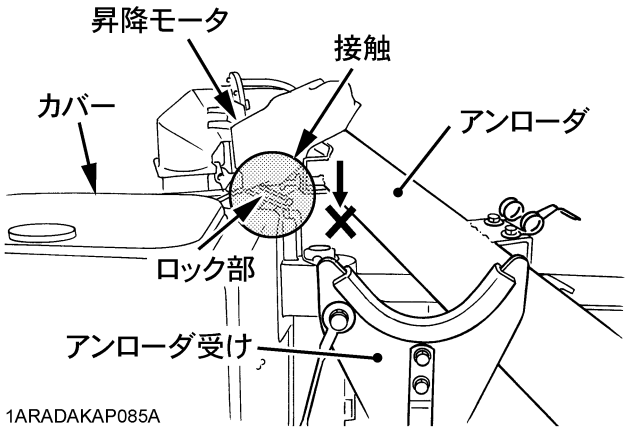
収納位置にあるときに自動･停止スイッチを押すとアンローダは上昇し，排出設定位置（機体後方）まで自動的に旋回します。



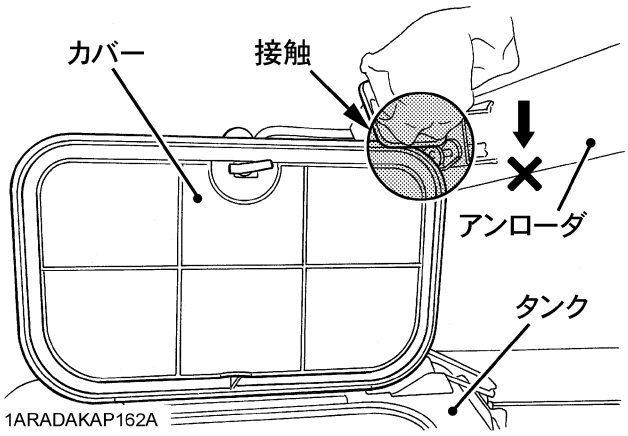


重　要

* 走行しながら，アンローダ旋回操作を行なわないでください。機械故障（ 油圧系統の作動不良 ）の原因になります。
* 自動・停止スイッチを押す前に，アンローダの旋回範囲に障害物がないか確認してください。
* アンローダは，必ずアンローダ受けより上げてから，旋回を行なってください。
* アンローダ受け付近でアンローダを水平状態より下げると，昇降モータがタンクロック部に接触し，破損の原因となります。



* グレンタンクのカバーを開けたままで，アンローダをアンローダ受けに収納しないでください。カバーとアンローダが当たり，カバー及びタンクが破損することがあります。

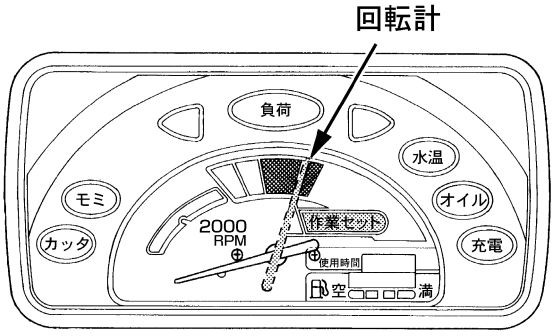


* エンジン停止中でもメインスイッチ**“入”**の位置で操作できますが，長時間エンジンを停止した状態で操作すると**バッテリ上り**の原因となりますので，操作するときは，エンジンを必ず始動して行なってください。

補　足

* 自動制御でアンローダが収納位置に戻った直後に，自動・停止スイッチを押しても自動制御は作動しません。10秒程度待ってから自動･停止スイッチを押してください。
* 自動制御装置作動中に，自動・停止スイッチを押すかアンローダレバーを操作すると，自動制御は停止します。停止状態から再度自動･停止スイッチを押すと，アンローダは排出位置又は，収納位置に戻ります。
* 自動制御装置作動中でもアンローダレバーの操作が優先され，その後の自動旋回は停止します。
* コンバインが傾いている傾斜地などではアンローダの動きが遅くなるときがあります。

5. 排出作業は刈取り作業時の回転のままでしてください。

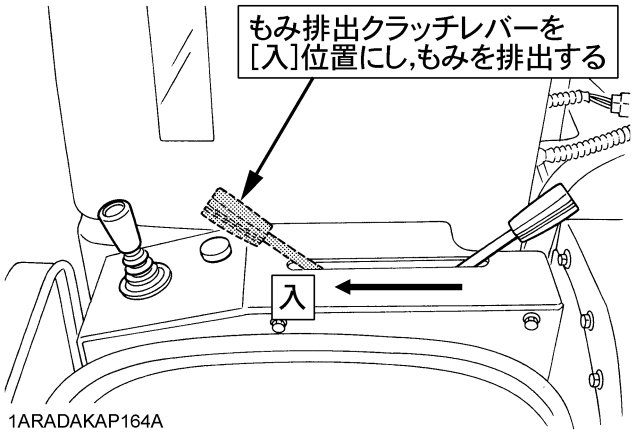


1ARADAKAP021D

補　足

＊ 損傷しやすい作物は，エンジン回転数を約2000rpm 程度まで下げてください。

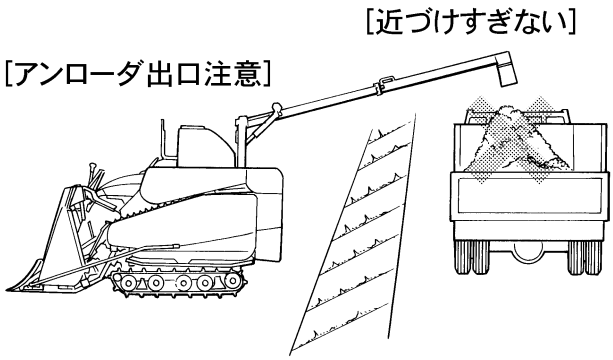
6. もみ排出クラッチレバーを**【入】**位置にし，もみを排出します。



1ARADAKAP164A

重　要

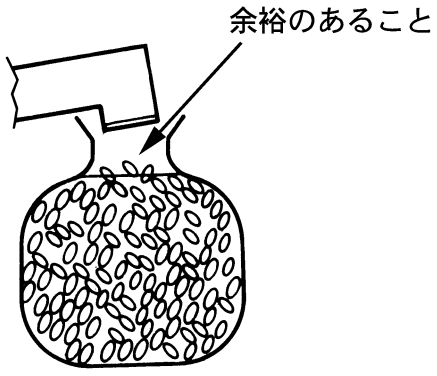
＊ 吐出口をふさがないようにアンローダの位置を調整してください。故障の原因となります。



1ARADAKAP165A

＊ アンローダには，絶対物を吊るさないでください。

＊ アンローダで袋詰め作業を行なうとき，詰まり防止のため，袋に余裕のある状態で，もみ排出クラッチレバーを切ってください。アンローダが詰まると，駆動系統の故障の原因になります。



1ARADAFAP209A

7. 排出が終わると，もみ排出クラッチレバーを**【切】**位置にし，アンローダ自動・停止スイッチ又は，アンローダレバーを操作してアンローダをアンローダ受けに収納します。

補　足

＊ アンローダレバーで操作するときは，アンローダを最上昇位置にして旋回後，アンローダ受けに収納してください。

＊ アンローダ内にもみが残っていると，もみがこぼれるのでアンローダを一度最上昇させて収納してください。

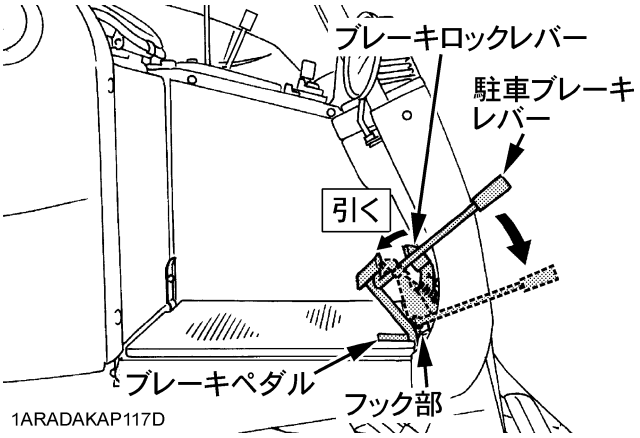
[G 仕様]

■手刈り（枕刈り）脱こくのしかた

警　告

- **そで口はきっちり止めて，はち巻き，首巻き，腰タオルはしないでください。チェーンに巻込まれてケガをするおそれがあります。**
- **コンバインは平たんな場所に止めて，駐車ブレーキを掛けてください。**
- **刈取部は地面に接地させて，停止してください。**
- **手刈り（枕刈り）脱こくするときは，手や腕の位置を必ずチェーンの外側（コンバインから離れる位置）にして，作物を少量ずつ供給してください。**
- **脱こく部入口プレートの上にたまったわらやもみなどを脱こく部に押込むときは，エンジンを必ず停止してください。中に回転物がありケガをするおそれがあります。**

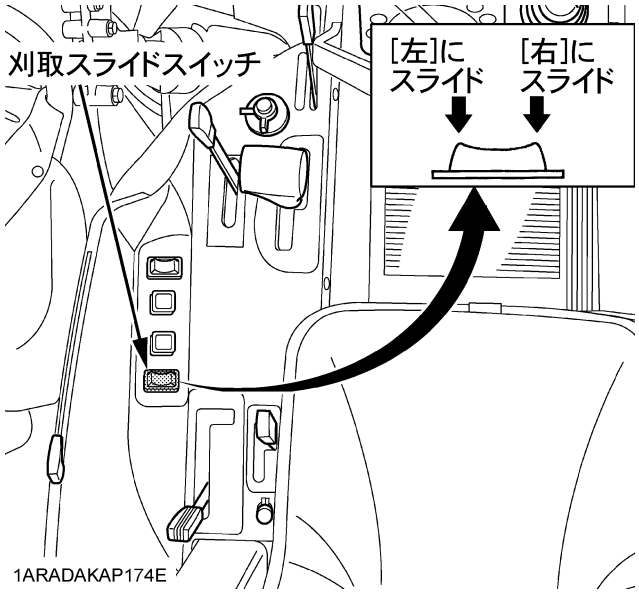
1. 平たんな場所を選んで走行を停止したあと，副変速レバーを**［N］（中立）**位置にし，駐車ブレーキを掛けます。



2. 脱こく・刈取クラッチレバーを**［切］**位置にします。

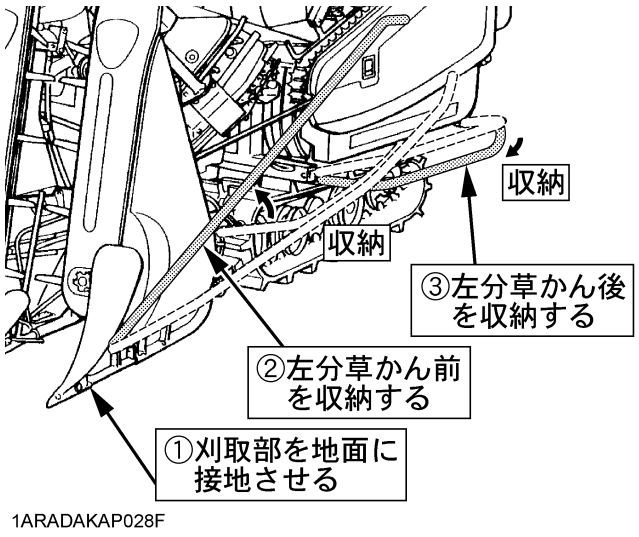
［213・216・217］

3. 刈取部を右端（運転席側）へスライドします。

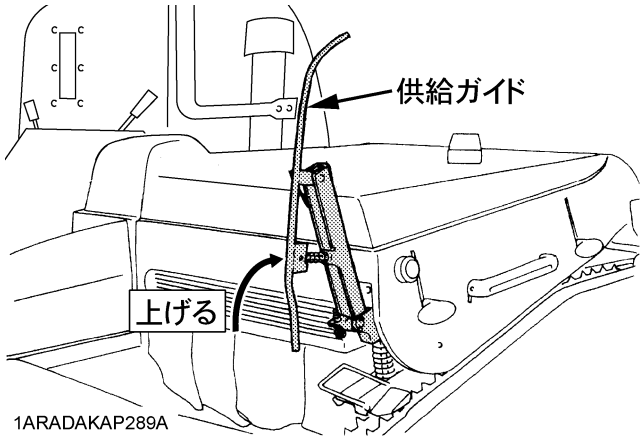


［213・216・217］

4. 左分草かん前・後を収納します。

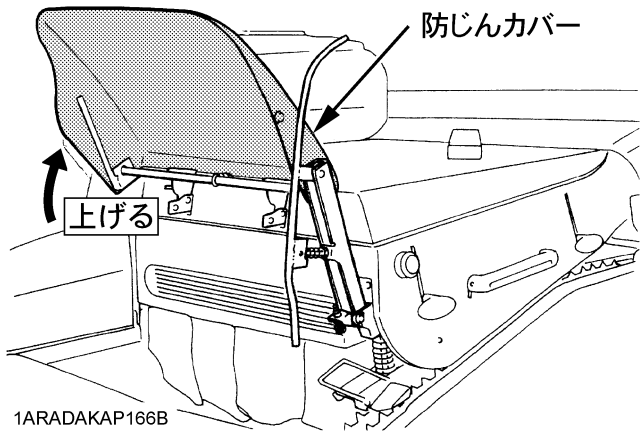


5. 供給ガイドを上げます。



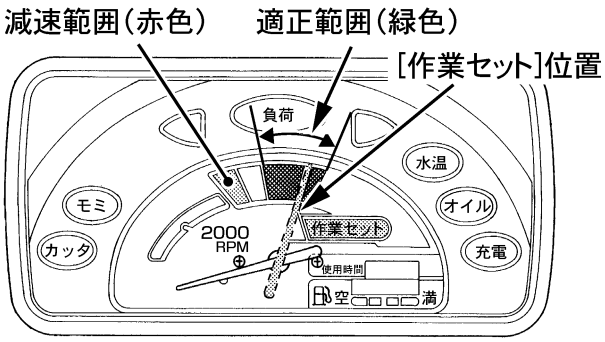
[217]

6. 防じんカバーを上げます。

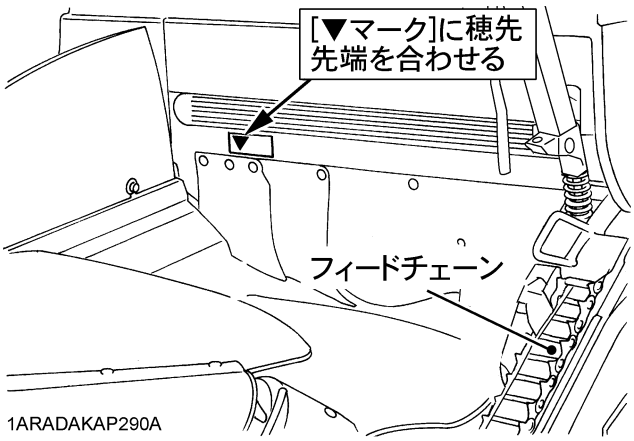


[217]

7. 脱こく・刈取クラッチレバーを**【脱こく】**位置にし，脱こく部だけを動かします。
8. エンジン回転数を**【作業セット】**位置（**緑の目盛**）から緑色の適正範囲内で下げる方向に調節してください。
   このとき，赤色の減速範囲以下に下げると，詰まりが発生するおそれがあります。

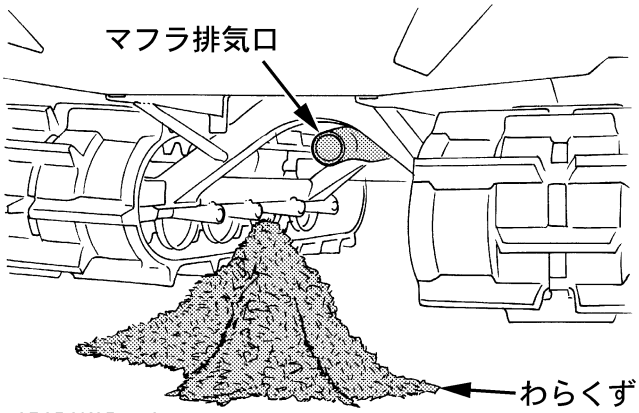


9. 作物の穂先先端を**【▼マーク】**に合わせ，少量ずつフィードチェーンに供給します。



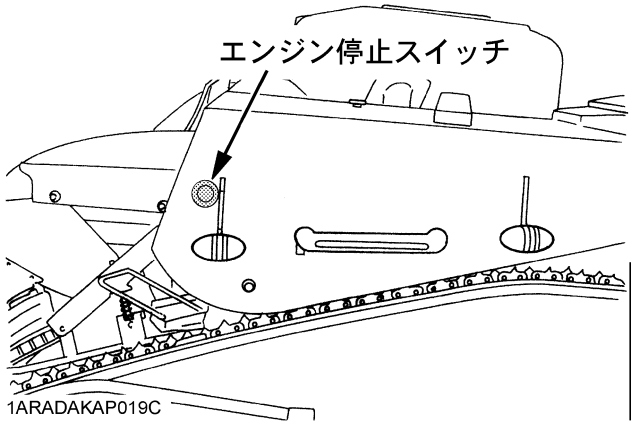
重　要

＊ １箇所で多量の手こぎをする場合，カッタやドロッパの下に排わらや切断わらの堆積が原因で，カッタなどが詰まることがありますから，機体を定期的に移動させてください。
＊ 切断わらがカッタわら排出口に詰まった場合は，エンジンを必ず止めて取除いてください。



1ARADAKAP180A

＊ 手刈り脱こく時に万一異物などのかみ込みが発生したときは，エンジン停止スイッチを押してください。



1ARADAKAP019C

■作業に合わせた各部の調整･調節のしかた

警　告

＊ 調整時は必ずエンジンを止めてください。
＊ 衣服などが回転部に巻込まれ危険ですので，取外した回転部のカバー類は必ず取付けてください。

注　意

＊ 水平で平たんな場所で行なってください。
＊ コンバインを停止するときは，わらくずの上に止めないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると，火災のおそれがあります。

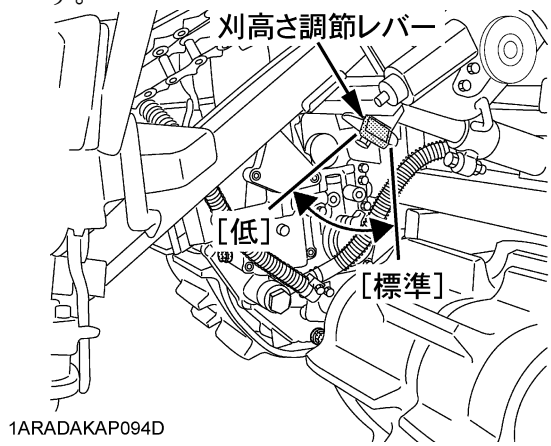
◆ 刈取部

1. 刈高さの調節

[211・213・216・217]

調節は刈取部を上昇させて行なってください。

1. 通常は刈高さ調節レバーを［**標準**］位置にしてください。刈取部が一定の地上高で止まるので便利です。
2. 湿田で機体前部が持上がる場合は，刈高さ調節レバーを［**低**］の位置にしてください。刈取部が本体に対して更に下がるようになります。



1ARADAKAP094D

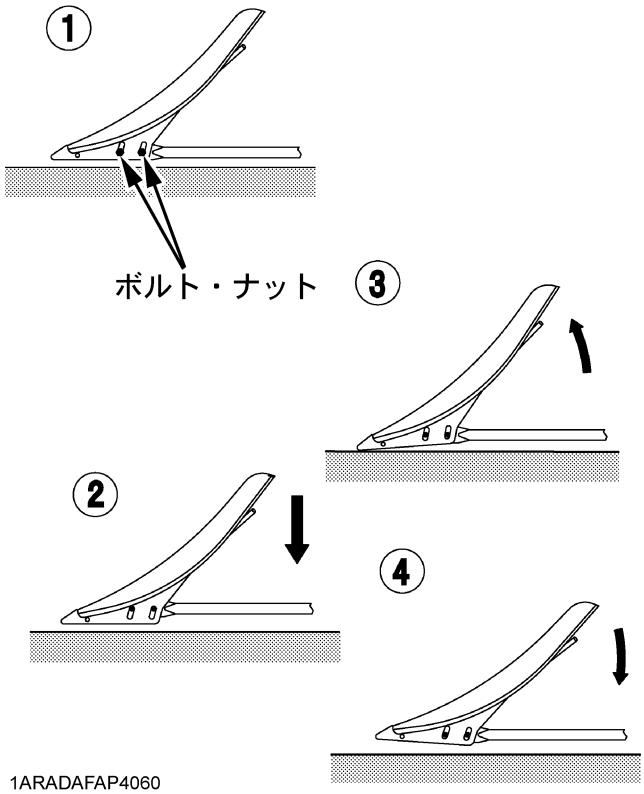
[211・213・216・217]

2. デバイダの調整

● 上・下調整

下表の作物条件に応じて，調整を行なってください。調整のしかたは，ボルト・ナットをゆるめて下表を参照し調整を行なったあと，ボルト・ナットを締付けます。

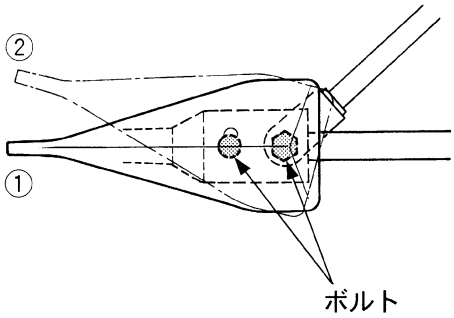
作物・ほ場条件	セット位置
標　準	①の位置
湿田で前上りになるとき	デバイダ全体を下げる ②の位置
うね作業のとき	
雑草が多く高刈りしたいとき	
横倒伏刈りで刈り残しがあるとき	
株の引抜きが多いとき	デバイダ先端を下げる ②又は③の位置
乾田で立毛作物の刈取りで，低刈りするとき	デバイダ先端を上げる ④の位置



1ARADAFAP4060

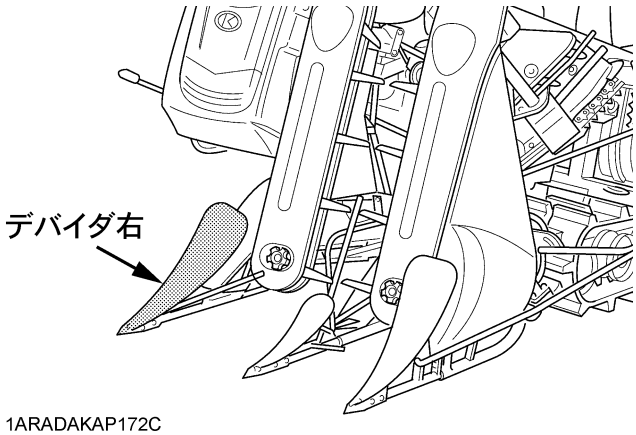
● 右デバイダの調節

下表の作業条件及びクローラの仕様【317】に応じて，調節を行なってください。調節のしかたは，ボルト２箇所をゆるめて下表を参照し調節を行なったあと，ボルト２箇所を締付けます



1ARADAFAP380D

[211・213・216・217]

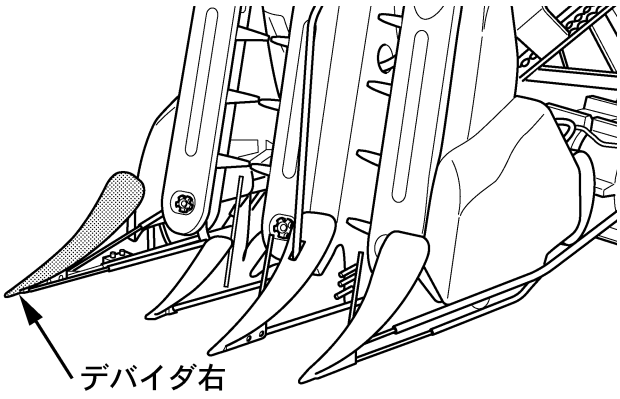


1ARADAKAP172C

調節位置	作業条件
①	● 標準
②	● あせぎわ刈り，中割り刈りのとき ● 33cm条間又は，麦の刈取りのとき

[211・213・216・217]

[317]



1ARADAKAP264C

調節位置	作業条件・クローラの仕様
①	● 標準 ● LW 仕様（クローラ幅：33cm）
②	● 33cm条間又は，麦の刈取りのとき ● LW2 仕様（クローラ幅：40cm）

[317]

補　足

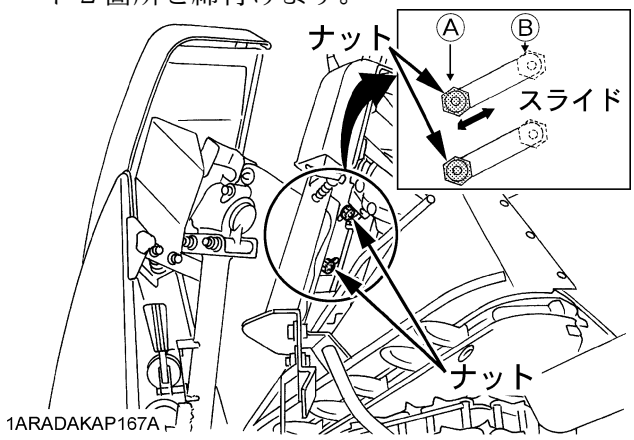
＊ デバイダカバーを取付けるときは，①の位置にしてください。

3. 引起し爪高さの調節

[211・213・216・217]

作物条件に応じて，引起し爪高さ（爪の倒れる位置）調節を行なってください。調節は必ず**全条同じ位置**にしてください。

- 引起し枠裏側のナット２箇所を左右共ゆるめて，下表を参照し，調節（(A) ⟷ (B) 位置各両端部にスライド）を行なったあと，ナット２箇所を締付けます。



- **調節位置と作物条件**

位置	引起爪作用位置	作物条件
(A) 作物，通路に近い位置	高い	● 標準の作物 ● 極長かん（1.2m 以上） ● 長かんで倒伏している作物
(B)	低い	● 脱粒しやすい品種 ● わらちぎれの多い作物（過熱小麦など）

補　足

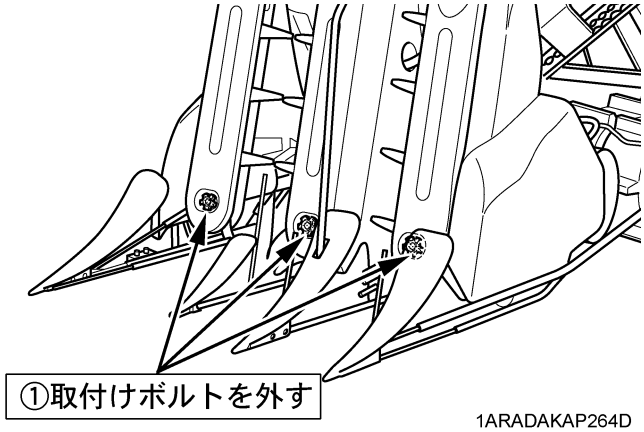
＊ 脱粒しやすい品種を刈取りするときは，引起し爪の高さを，作物の穂首より下側に調節してください。

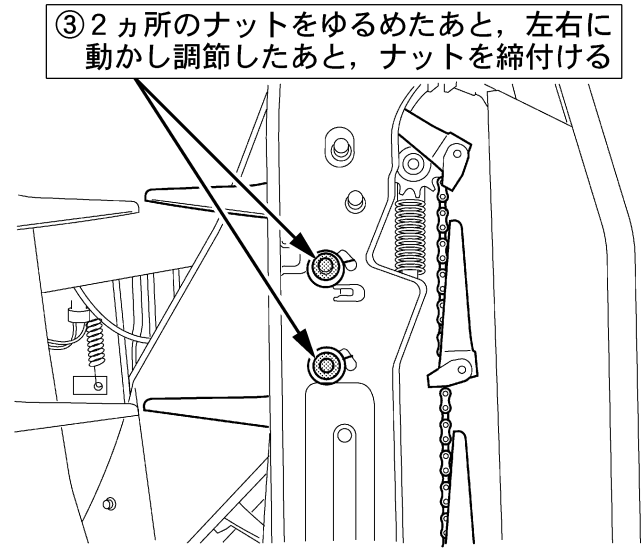
[211・213・216・217]

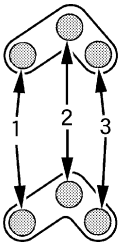
[317]

作物条件に応じて，引起し爪が収納される位置の調節を行なってください。調節は必ず**全条同じ位置**にしてください。

1. 引起し爪高さの調節を行ないます。





調節位置		作物条件
作物通路側 	1	立毛状態の長かん作物
		立毛状態の標準かん長作物
		倒伏した作物
	2	立毛状態の標準かん長で脱粒や浮きわらが発生しやすい作物（過熱小麦など）
	3	立毛状態の短かん作物

補　足

＊ 出荷時は１の標準位置です。

＊ **［２］**の位置に調節する場合は，ナット（２ヵ所）をゆるめて，上側のナットを**［２］**の位置で溝の上側に押付けた状態で，下側のナットを締付けてください。

2. 引起しカバーを装着したあと，取付ボルトを締付けます。

[317]

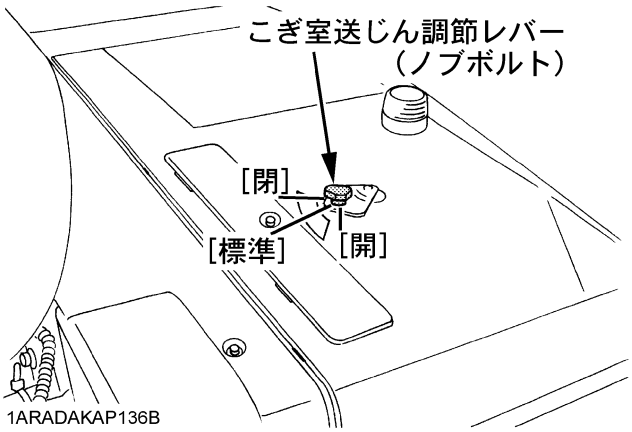
◆ 脱こく部

4. 脱こく状態に合わせた調節・調整

● こぎ室送じんレバーの調節

1. ノブボルトをゆるめます。
2. 下表を参照してこぎ室送じん調節レバーで調節します。

調節方向	現　象（状　態）
[開] ⬆ [標準] ⬇ [閉]	● ゴトゴトと大きな異音がする（こぎ胴の負荷が大きい） ● 倒伏作物やぬれ作物の刈取り ● 脱ぷや損傷（胴割れや欠け）粒が多い
	● 選別が悪い ・芒・枝梗付粒が多い ・穂切れ粒が多い ・ササリ粒が多い ● 排じんロス（もみの飛散）が多い



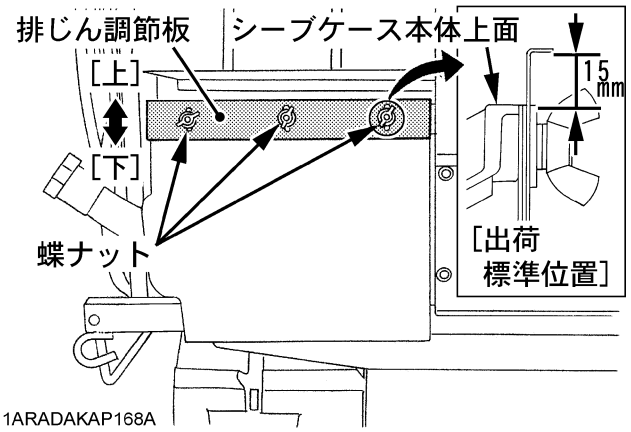
3. ノブボルトを締付けます。

● 排じん調整板の調整

下表を参照して排じん調整板を調整してください。

1. カッタをオープンします。(91 ページ参照)
2. 蝶ナット３個をゆるめます。
3. 下表を参照して排じん調節板を動かして調節します。

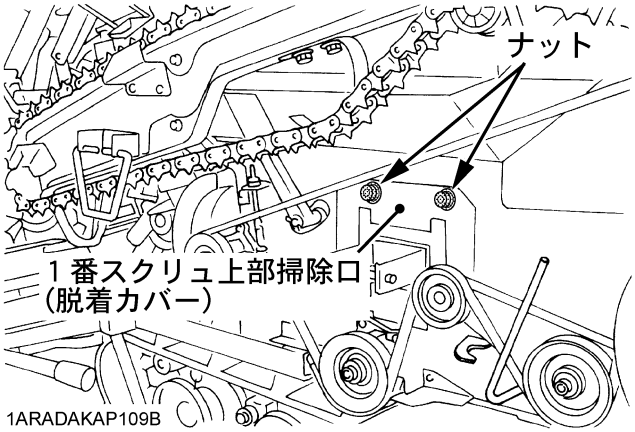
調節方向	現　象（状　態）
上 ⬆ [標準位置] ⬇ 下	● 排じんロスが多い
	● ぬれ作物の刈取り ● 雑草が多い ● 能率を上げる（高速刈取り）



4. 蝶ナット３個を締付けて, カッタを閉じます。

[チャフ（選別板のすき間）調節]

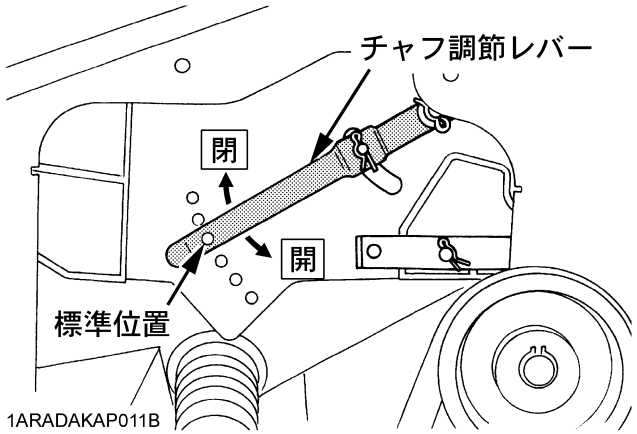
1. 左サイドカバー上，下を取外します。
2. 蝶ナット２個を取外して１番スクリュ上部掃除口の脱着カバーを外します。



3. 下表を参照してチャフ調節レバーで調節します。

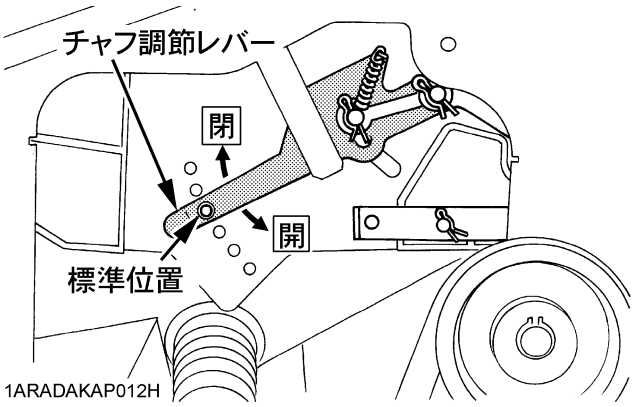
調節方向	現　象（状　態）
[開] ↑ [標準位置] ↓ [閉]	● 排じんロス（もみの飛散）が多い ● 脱ぷが多い
	● 選別が悪い ● 小枝梗が多い

[211]



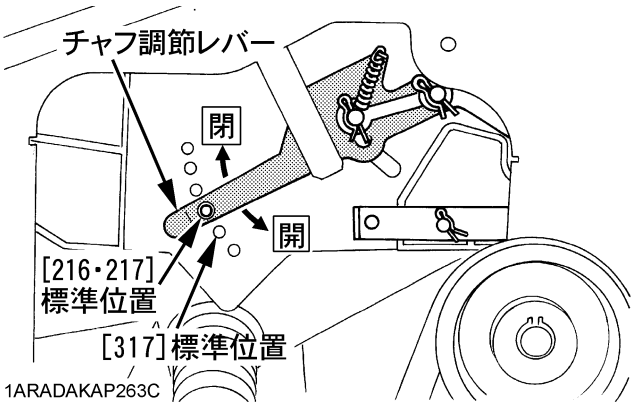
[211]

[213]



[213]

[216・217・317]



[216・217・317]

4. 脱着カバーを蝶ナットで締付けたあと，左サイドカバー（上，下）を取付けます。

補　足

＊ チャフの調節は，脱こく機内にこく粒が残っていないときに行なってください。

[213・216・217・317]

＊ チャフ（選別板のすき間）はもみの量により自動開閉するようになっていますが，選別をさらに良くしたい場合は作物の脱こく状態に合わせて調節を行なってください。

[213・216・217・317]

■メータユニットによる異常と処置

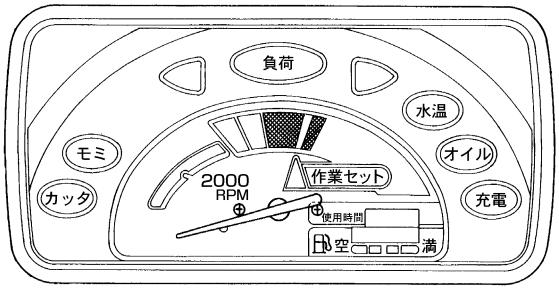
警　告

＊ 各部の点検やわら詰まりを取除くときは，エンジンを必ず止めてください。
＊ 各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。

注　意

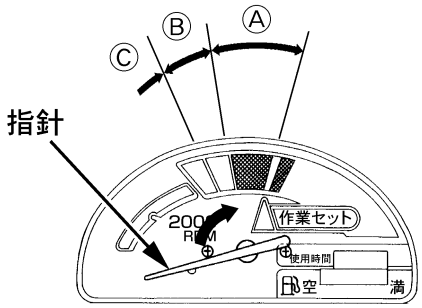
＊ エンジン停止直後は，エンジンにさわったり，ラジエータキャップを開けないでください。ヤケドをするおそれがあります。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

メータユニットの各ランプが表示したときは，次の表を参照して処置してください。



1ARADAKAP021F

ランプ	警報 ランプ表示	ブザー	現象	処置	参照ページ
燃料	—	○	・燃料が少なくなっています。 ※最後の１コマが点滅します。 （点滅時残量…約２Ｌ）	・燃料を補給します。	120
			・そのまま作業をけると… **エンジンが停止します。**		
水温	点滅	○ 継続 （処置後停止）	・エンジンの冷却水温が上昇しています。 ・そのまま作業を続けると… **エンジンが焼付きを起こし停止します。**	・約５分間エンジンだけを動かしたあと，エンジンを停止し，30 分以上たってから点検と処置をします。	
				①冷却水量の点検 不足……ラジエータ・リザーブタンクに清水	125
				水もれ…排水プラグ・ラジエータホースのバンドを増し締め	128
				②ファン駆動ベルトの点検 ゆるみ……張り調整 破損など…交換・調整	139
				③防じんあみ・ラジエータフィンの点検 汚れ・詰まり…掃除して取除く	129
			・エンジン停止時。	・購入先へ連絡してください。	—
オイル	オイルランプ点灯	—	・エンジンオイルの圧力が不足しています。	・エンジン停止後，オイル量を点検します。	121
				・オイルドレーンゴムホースの点検と処置をします。	128
				・バンドの増締めをします。	128
			・そのまま作業を続けると… **エンジンが焼付きを起こし停止します。**	・購入先へ連絡してください。	—
充電	充電ランプ点灯	—	・バッテリに充電されていません。	・エンジン停止後，点検と処置をします。	161
				①ファン駆動ベルトの点検 ゆるみ……張り調整 破損など…交換・調整	139
				②バッテリ 電圧低下……充電	161
			・そのまま作業を続けると… **バッテリ上りとなり，エンジンの始動ができなくなります。**	・バッテリを充電してもエンジンが始動しないときは，交換してください。	161

<table>
<tr><th rowspan="2">ランプ</th><th>警　報</th><th rowspan="2">ブザー</th><th rowspan="2">現　　象</th><th rowspan="2">処　　置</th><th rowspan="2">参照ページ</th></tr>
<tr><th>ランプ表示</th></tr>
<tr><td rowspan="3">負　荷</td><td rowspan="3">点滅</td><td rowspan="2">Ⓒの位置のとき
○</td><td>・脱こく部に負担がかかっています。</td><td>・作業速度を落としてください。</td><td>14</td></tr>
<tr><td colspan="2">負荷
作業セット位置に合わせた指針が，作業中にエンジン回転数が下がってきたときは，脱こく部に負担がかかっています。指針の表示位置を確認しながら適性範囲で作業してください。
 

1ARADAKAP257A
(A) 適正範囲（緑色）
…作業を継続
(B) 減速範囲（黄色）
…速度を落とす（ランプ点滅）
(C) 即時減速（赤色）
…ブレーキペダルを踏む（ランプ点滅，ブザー断続音）
＊ブザーは速度を落として，(B) 減速範囲に戻ると停止します。</td></tr>
<tr><td>・そのまま続けると…
エンジンが停止します。</td><td>・条件に合った調整を行なってください。</td><td>71,80</td></tr>
<tr><td>○
継続
（処置後停止）</td><td>シーブ［317］
・シーブケース上に詰まりが発生しています。
・刈取量が処理能力を超えています。
・そのまま作業を続けると…
エンジンが停止します。</td><td>・作業速度を落としてください。
↓
・作業速度を落としても警報が解除されないときは，刈取作業を中止し脱こく機を空運転します。
↓
・空運転後も警報が解除されないときは，こぎ胴をオープンしてシーブ上の詰まりを取除きます。</td><td>14,57
16
99</td></tr>
<tr><td>モ　ミ</td><td>点滅</td><td>○
継続
（処置後停止又は，ホーンスイッチを押すと停止）</td><td>・グレンタンク内又は，ホッパ内のもみが満杯です。
・そのまま作業を続けると…
グレンタンク又は，ホッパからもみがあふれます。又は，１番スクリュが詰まります。</td><td>・刈取作業を中止，もみを排出します。
※ブザーはホーンスイッチを 1.5 秒間押すと止まります。</td><td>73</td></tr>
<tr><td rowspan="2">カッタ</td><td colspan="2">自動的にエンジンが停止すると同時に</td><td>・フィードチェーン終端部，排わら搬送部，カッタ部のわら詰まりです。
異常個所 (1) カッタ部にわらが詰まっています。
(2) フィードチェーン終端部・排わら搬送部にわらが詰まっています。
※ (3) 結束機のひもなし・ひも切れです。
※ (4) 結束機の結節部にわらやひもが巻付いています。また，結束部にわらが詰まっています。</td><td>・異常の原因を取り除いて復帰します。
(1) カッタの切換えカバーを開いて，わらを取除いてください。
(2) こぎ胴をオープンして，わらを取除いてください。
(3) 新しいひものセット・ひもの再セットをしてください。
(4) わらやひもを取除いてください。</td><td>99
96,99
90,99
－
－</td></tr>
<tr><td>点滅</td><td>○</td></tr>
</table>

重　要

＊ 処置したあとに異常が直らないときは，購入先へ連絡してください。

各部のオープン（開閉）と脱着のしかた

警　告

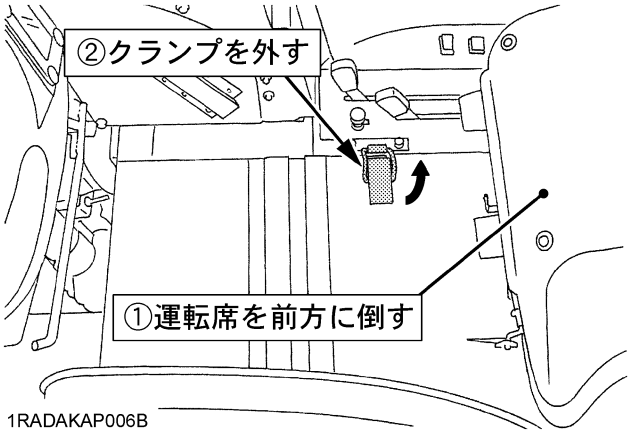
- **平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めてから行なってください。**
- **取外したカバー類は，必ず取付けてください。**
- **傾斜地で開閉や脱着は行なわないでください。**

■エンジンルームオープン

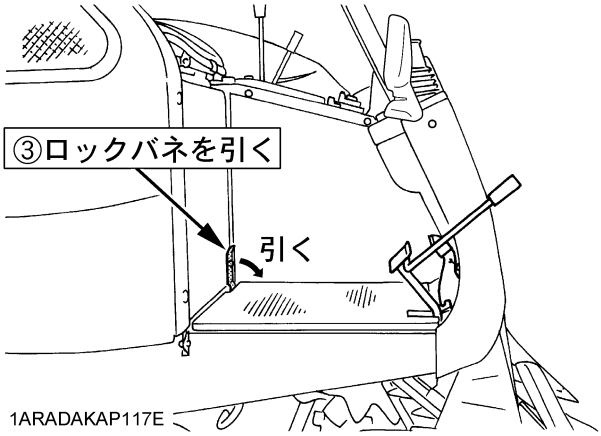
注　意

- **オーバヒートなどでエンジンルームを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。**
  - **(1) 作業を中止する。**
  - **(2) エンジンを約 5 分間アイドリング回転で運転した後，エンジンを停止する。**
  - **(3) エンジン停止後 30 分以上経過してから開ける。**
  - **(4) 点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。**
- **エンジンが冷えていないとき，エンジンルームを開けるとラジエータ部，リザーブタンク部などより熱湯が噴出し，あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。**

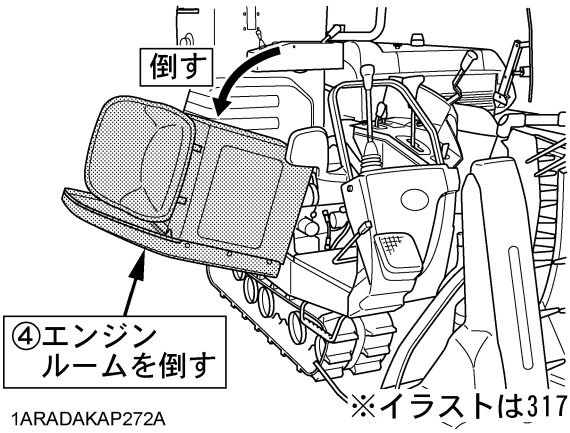
◆ 開きかた



1RADAKAP006B



1ARADAKAP117E



1ARADAKAP272A

※イラストは317

◆ 閉じかた

エンジンルームを上側に閉じたあと，クランプをします。

重　要

- 閉じたときは，クランプで必ずロックしてください。

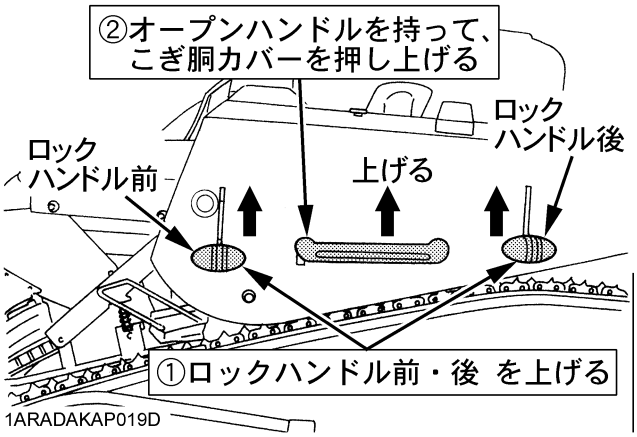
■こぎ胴オープン

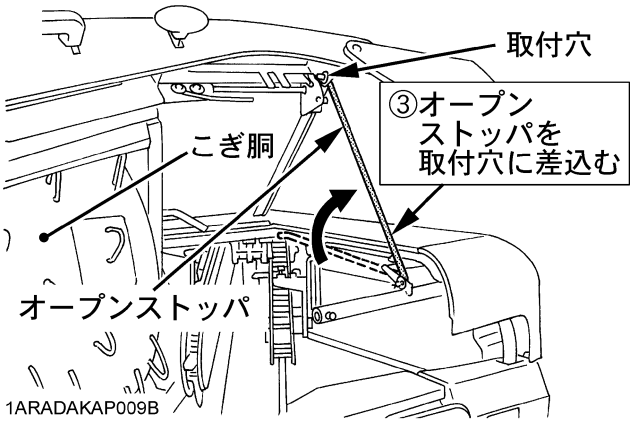
警　告

＊ 中でこぎ歯が高速で回転しているので接触するとケガをします。こぎ胴オープンするときは，エンジンを必ず止めてください。
＊ こぎ胴をオープンして，受あみの脱着やこぎ室の掃除をするときは，こぎ胴が落下して身体がはさまれるおそれがあるので，オープンストッパで必ず固定してください。

◆ 開きかた

こぎ胴をオープンします。



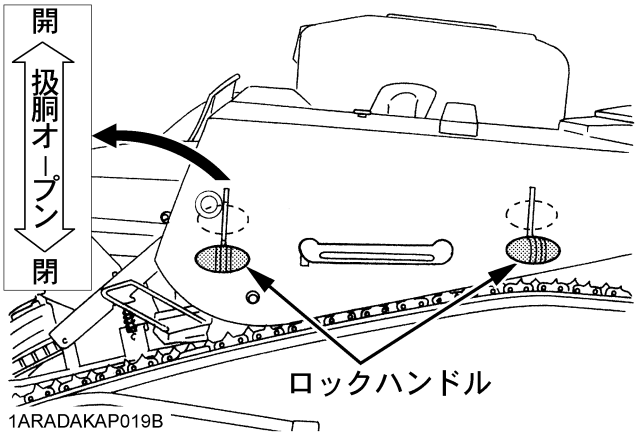


◆ 閉じかた

1. オープンストッパを取付け穴から外します。
2. オープンハンドルを持って，こぎ胴を押下げます。

重　要

＊ こぎ胴カバーを閉じたとき，ロックハンドルの前と後が，ハンドル横の**［開］⟷［閉］**ラベルの**［閉］**の位置にあることを確認してください。**［閉］**の位置以外で作業を行なうと，こぎ室フレームが変形することがあります。



■カッタオープン

警　告

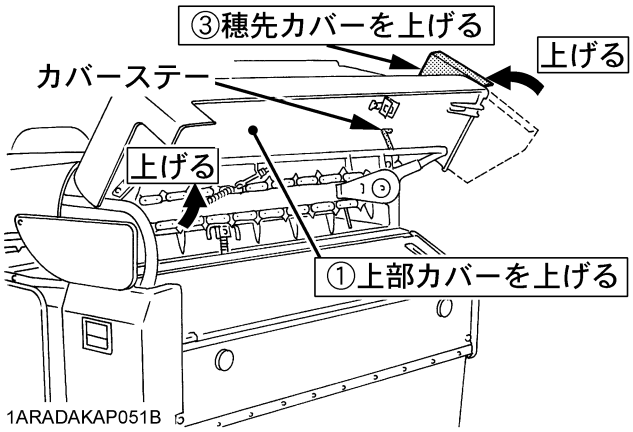
＊ カッタを開いているときは，カッタの刃先に注意してください。

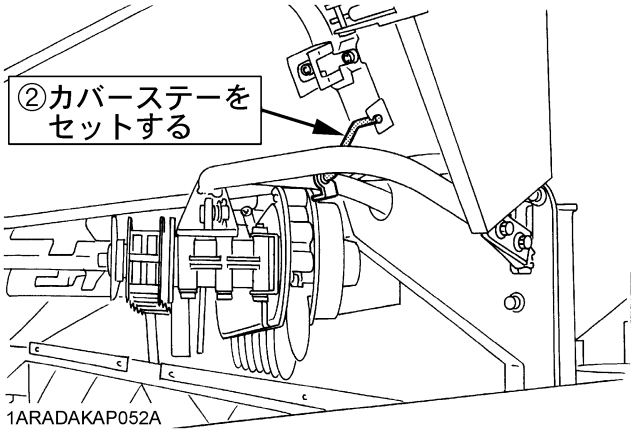
注　意

＊ 傾斜地でのカッタの開閉はしないでください。
＊ カッタをオープンして掃除をするときは，ステーで必ず固定してください。
＊ 厚手の手袋を使用してください。カッタ刃には直接手で触れないでください。

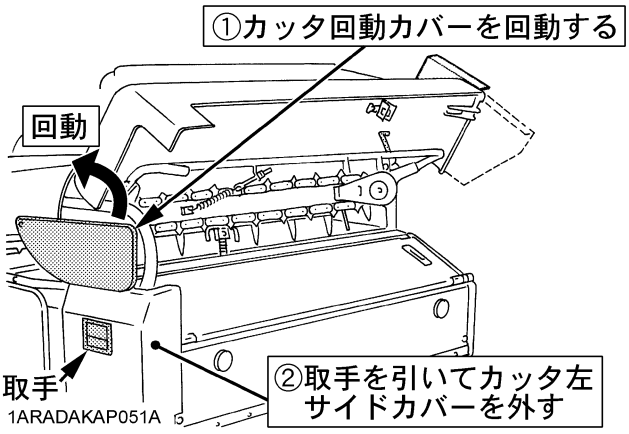
◆ 開きかた

1. 上部カバーを上げて，カバーステーをセットしたあと，穂先カバーを上げます。

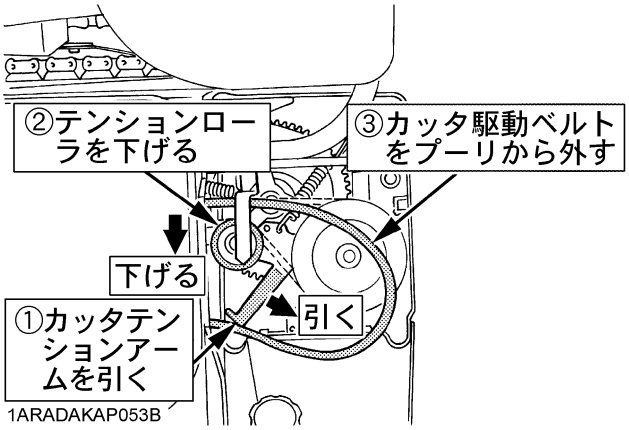


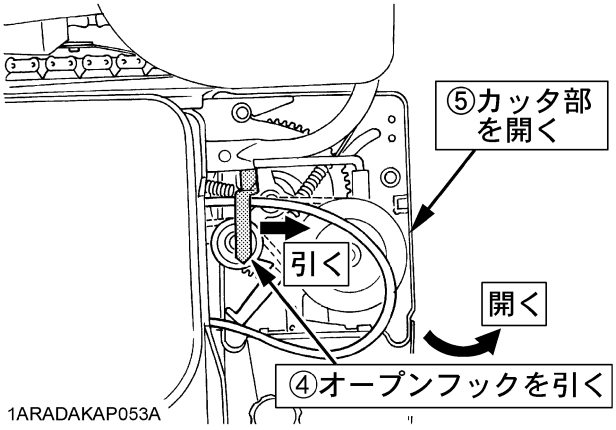


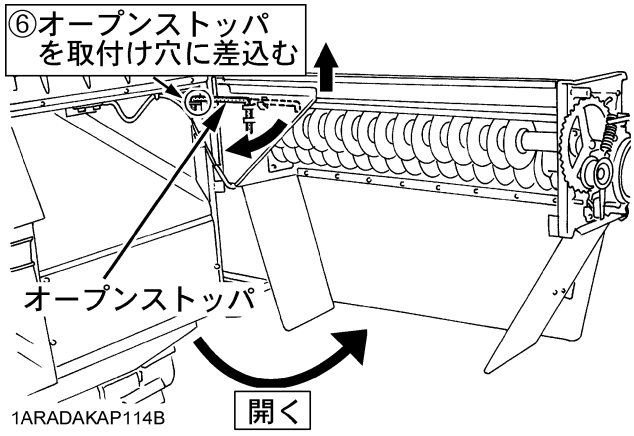
2. 取手を引いてカッタ左サイドカバーを外します。



3. カッタをオープンします。







◆ 閉じかた

開き方と逆の手順で閉じます。

重　要

＊ オープンフックが確実にロックされていることを確認してください。

＊ ベルトは，掛け間違えないでください。

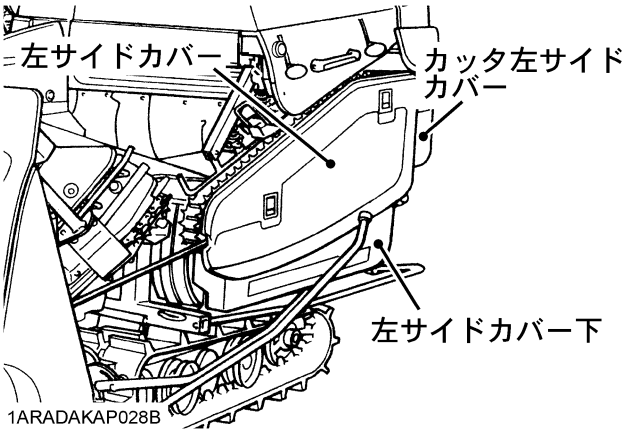
■シーブケースの脱着

注　意

＊ 脱着作業は，合図を掛け合って 2 人で行なってください。

◆ 抜出しかた

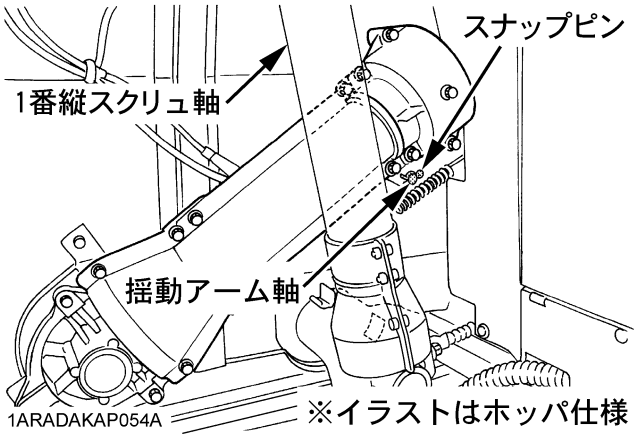
1. 左サイドカバー上，下及びカッタ左サイドカバーを取外します。



2. 揺動アーム軸を抜く準備をします。

(1) **[G 仕様]** はグレンタンクを取外します。(97 ページ参照)

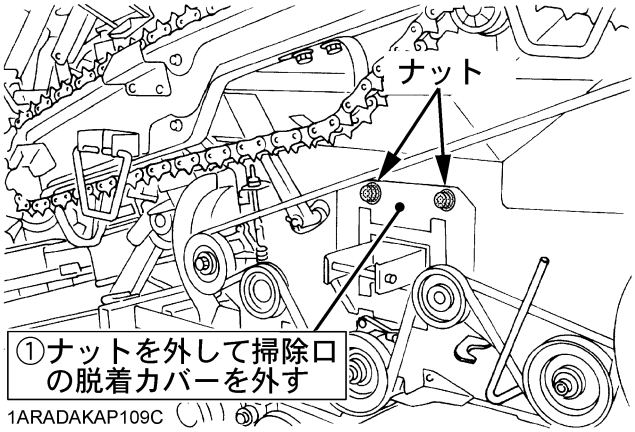
(2) 1 番縦スクリュ軸前方にある，揺動アーム軸のスナップピンと平座金を取外します。

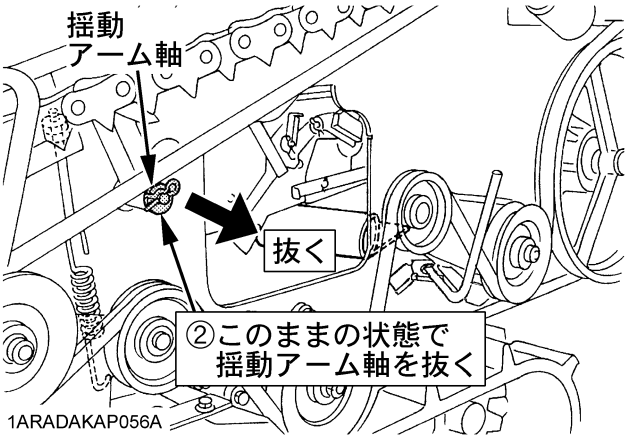


(3) **[G 仕様]** はグレンタンクを閉じます。

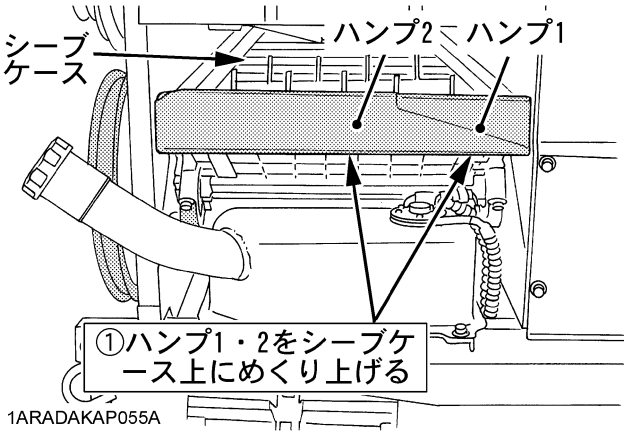
3. カッタをオープンをします。
（91 ページ参照）

4. 揺動アーム軸を手前側に引抜きます。

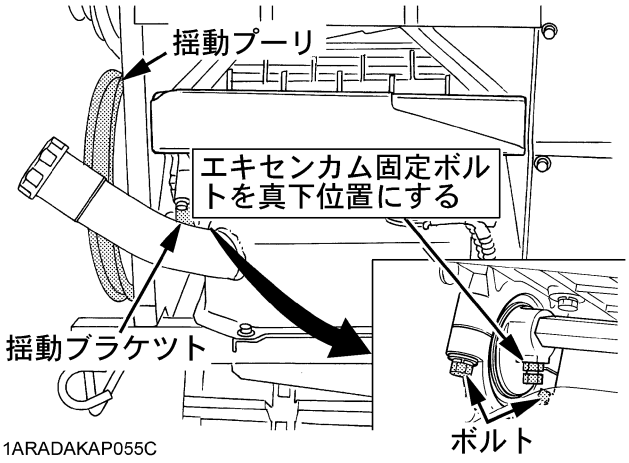




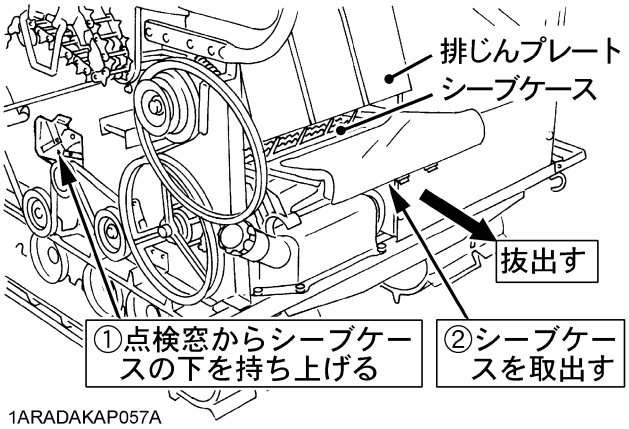
5. シーブケースを引出す準備をします。



6. 揺動プーリを回してエキセントカム固定ボルトを真下の位置にし，揺動ブラケット（左・右）取付けボルト（４本）を外します。

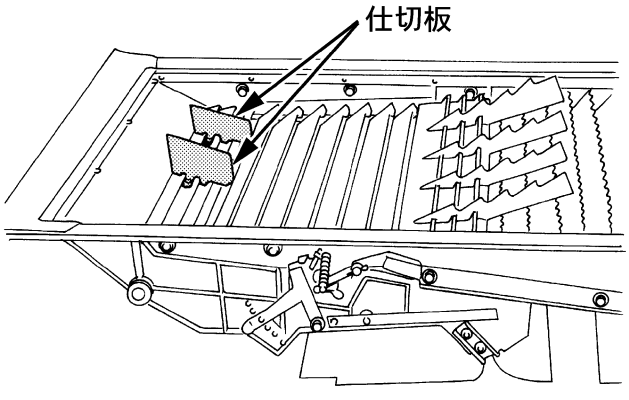


7. シーブケースを取出します。



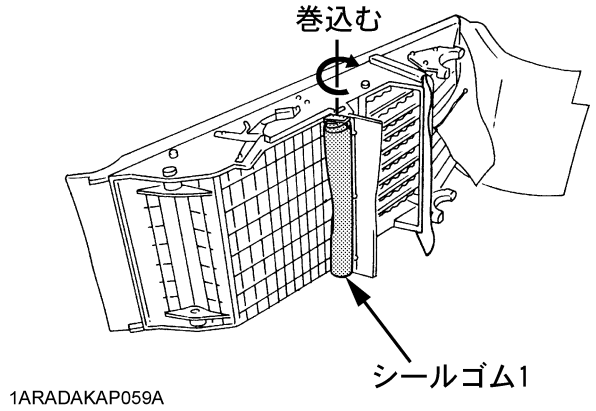
補　足

＊ 排じんプレートにグレンパンの仕切板が引掛からないようにしてください。

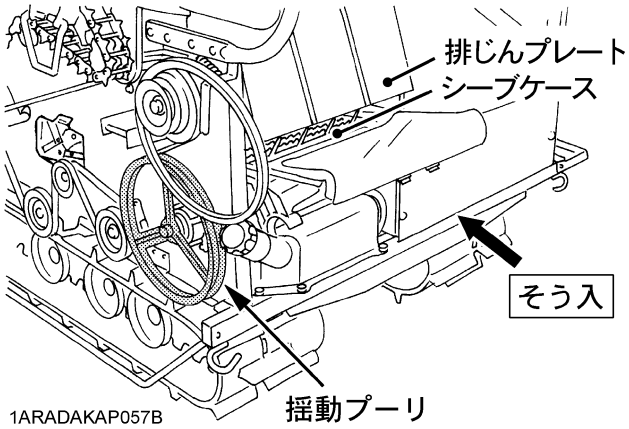


◆ 取付けかた

1. シーブケース下側のシールゴム１を図のように巻込みます。

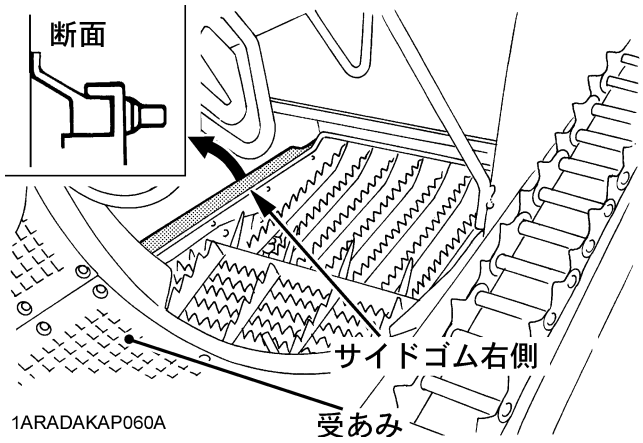


2. 揺動プーリを回してエキセンカム固定ボルトを真下の位置にします。
3. シーブケースをそう入します。



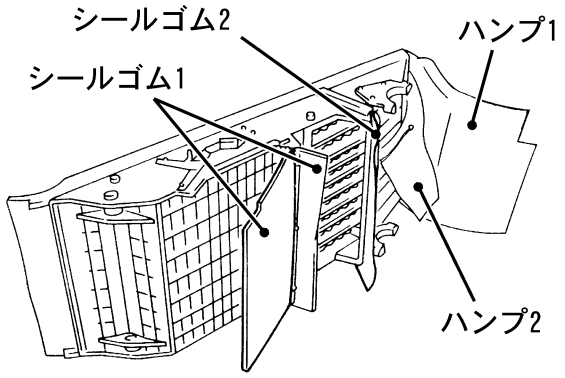
重　要

＊ シールゴム１が垂れないようにしてください。
＊ そう入途中で，大きく上下動させないでください。
＊ そう入したあとこぎ胴をオープンして，受けあみを外し，シーブケースのサイドゴム（左・右）が下側に折曲がっているときは，サイドゴム（左・右）の先端が上側になるようにしてください。

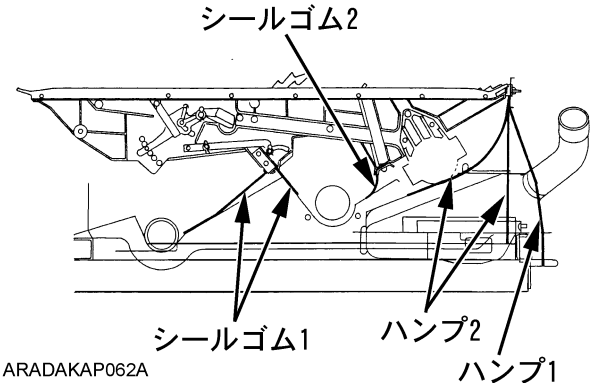


4. 揺動アーム軸を取付けます。
5. 揺動ブラケット（左・右）をボルト４本（各２本）で締付けます。

6. シールゴム１，２とハンプ１，２を下図のようにセットします。

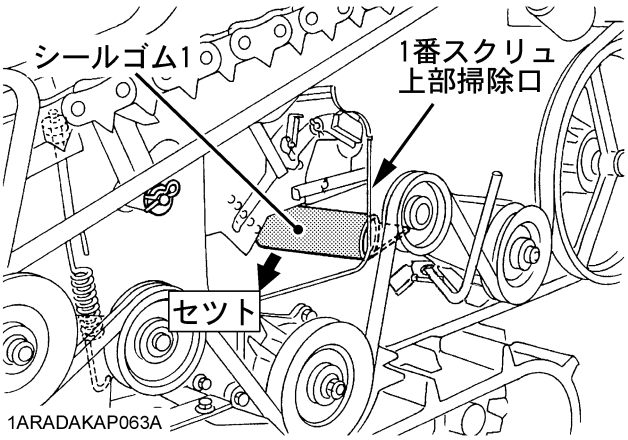


1ARADAKAP061A



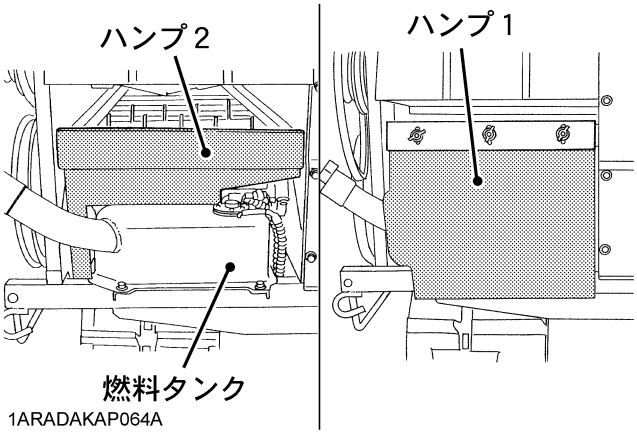
1ARADAKAP062A

(1) １番スクリュ上部掃除口から手を入れて，１の工程で巻込んだシールゴム１を上図のようにセットします。



1ARADAKAP063A

(2) ハンプ２を燃料タンクの前方に垂らしたあと，ハンプ１を燃料タンクの後方に垂らします。

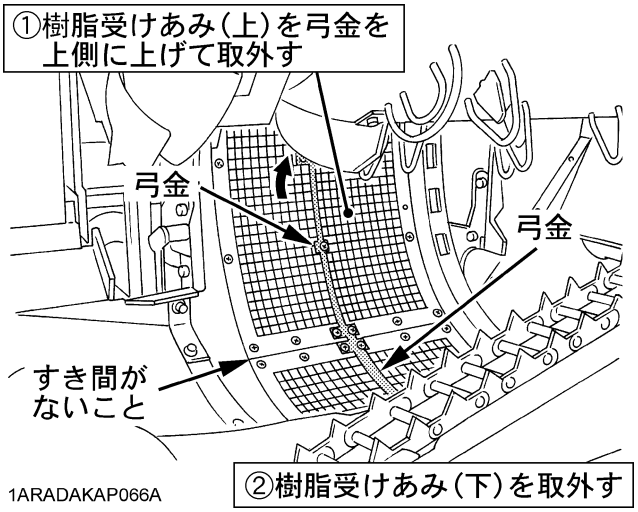


1ARADAKAP064A

7. 脱着カバーをナットで締付けたあと，カッタ部を閉じます。

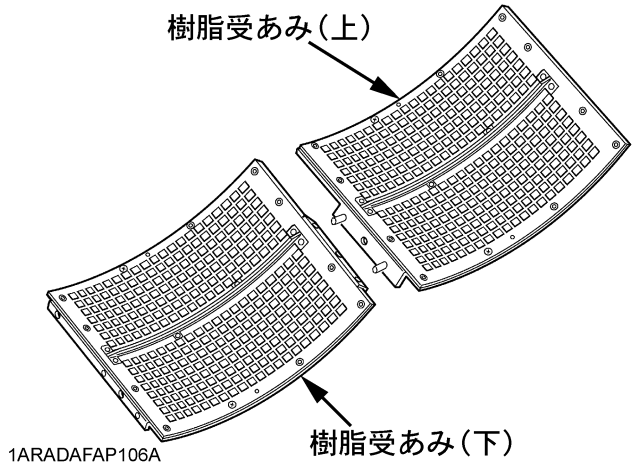
■樹脂受けあみの脱着

1. こぎ胴をオープンします。(90 ページ参照)
2. 樹脂受あみ（上），(下）を取外します。
3. 逆の手順で樹脂受あみ（下）を取付け，樹脂受けあみ（上）を取付けます。



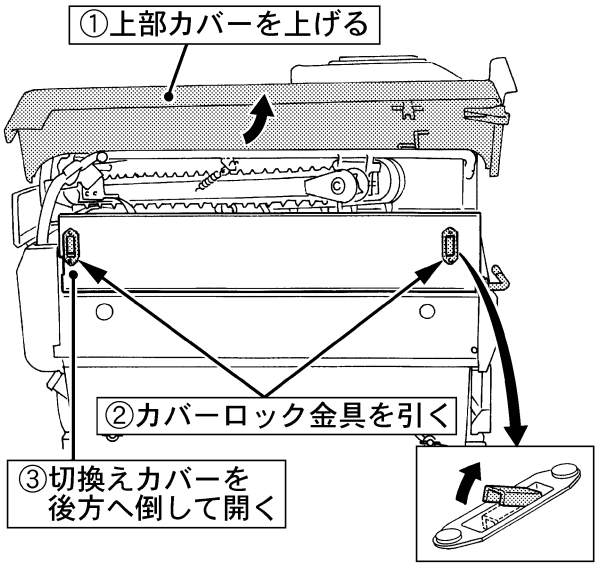
重　要

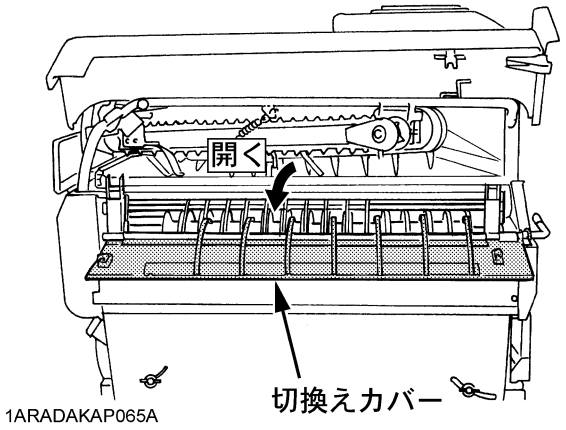
＊ 取付けたときに樹脂受あみ（上)，(下）の間にすき間があったり，樹脂受あみ（上)，(下）を逆に組付けると，脱こく部の故障の原因となります。



■カッタ切換えカバーのオープン

◆ 開きかた





◆ 閉じかた

切換えカバーを閉じたあと，カバーロック金具を確実にロックしてください。

補　足

＊ 切換えカバーを開けたままでは，エンジンをかけても脱こく・刈取クラッチレバーを**【入】**位置にするとエンジンが止まります。点検・掃除後は，必ずカバーロック金具を引きながら切換えカバーを閉め，カバーロック金具を確実にロックしてください。

■グレンタンクの脱着のしかた

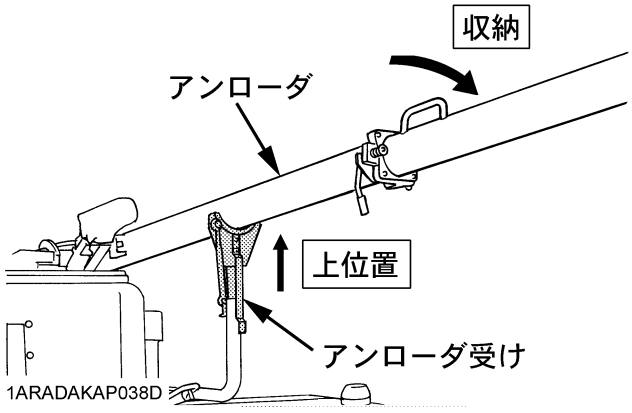
[G 仕様]

注 意

＊ 平たんで安全な場所で，エンジンを必ず停止してから行なってください。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

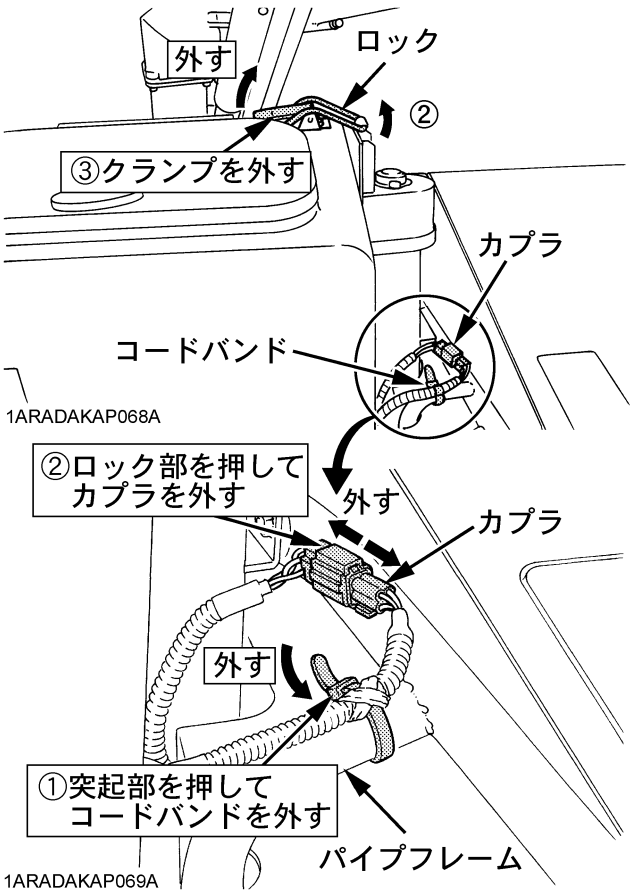
◆ 取外しかた

1. グレンタンク内に残っているもみは，すべて排出します。(73 ページ参照)
2. 主変速レバーを **[N]（中立）** 位置，副変速レバーを **[N]（中立）** 位置にし，各作業クラッチ（刈取，脱こく，もみ排出）レバーを **[切]** 位置にします。
3. アンローダ受けを上位置にして，アンローダをアンローダ受けに収納し，エンジンを停止します。



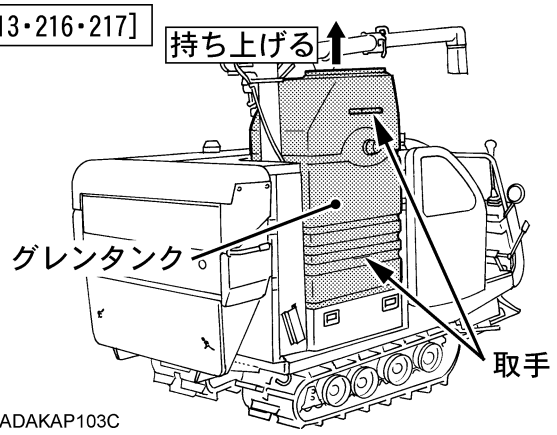
4. カプラを取外します。
   (1) 突起部を押してパイプフレームからコードバンドを外します。
   (2) ロック部を押して，カプラを外します。

5. タンクのクランプを外します。



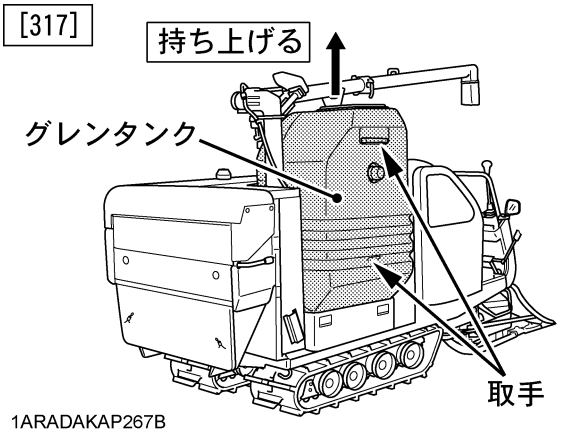
6. グレンタンクの取手を持ち，タンクを手前に引きながら持ち上げて取外します。

[213・216・217]



1ARADAKAP103C

[317]



1ARADAKAP267B

◆ 取付けかた

取外しかたの逆の手順で取付けます。

重　要

＊ タンクは確実に取付けてください。

補　足

＊ コードバンドはパイプフレームと共締めしてください。

[G 仕様]

各部の掃除と注油のしかた

機械の故障などトラブルが発生しないように，各部の手入れをじゅうぶん行なってください。

警　告

＊ エンジンを必ず止めてください。
＊ 取外したり，オープンした回転部のカバー類は衣服などが巻込み危険ですので必ず取付けてください。
＊ 各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。

注　意

＊ 刈取部を上げた状態で作業するときは，刈取下降ロックレバーで必ずロックしてください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
＊ 空運転するときには必ずこぎ胴をセットして，カッタを閉じてください。
＊ オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。(クローラなどのゴム製品が劣化します。)
＊ バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがありますので，取除いてください。
＊ 刈刃やカッタの掃除・注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。

重　要

＊ 水洗いするときは，電装品に水をかけないようにしてください。故障の原因になります。
＊ 掃除口を閉じるときは，掃除口にもみの付着がないことを確めてから閉じてください。また，掃除の後，ふたを忘れるともみが飛散します。
＊ 機内はよく乾燥させてから掃除してください。濡れているともみが機内に付着して残留もみが多くなります。
＊ 湿田で作業したあとは，必ず刈取部の搬送通路部分やクローラ部分の泥を取除いてください。
＊ 取外したボルト・ナットは，必ず締付けてください。

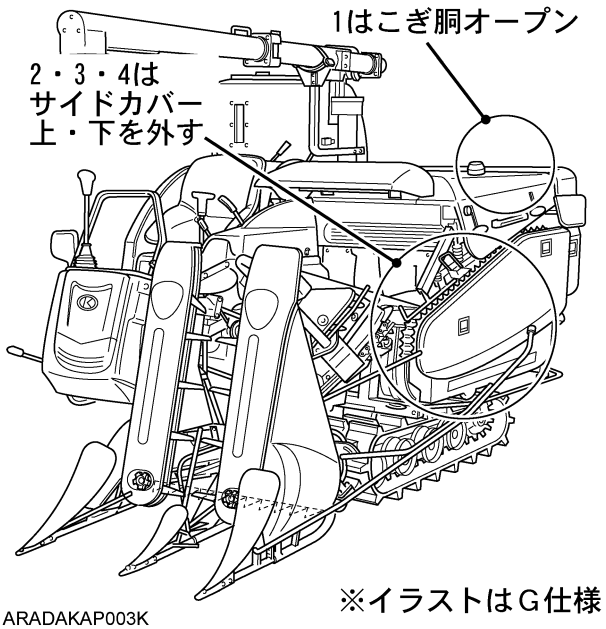
■各部の掃除

品種や稲・麦の混合を避けたいときや収穫シーズンが終わったときには，機内の残留こく粒をきれいに取除いておきましょう。

◆ 掃除のしかた

刈取作業が終わり，もみの排出がすべて終わったあと脱こく部を約３分間空運転します。そのあと，いったん機体各部を収納状態（33 ページ参照）にし，脱こく・刈取クラッチレバーを**［切］**位置にしてエンジンを止めます。
掃除をするときには，各部をオープン（開閉）又は，掃除口を開いてください。

◆ 掃除箇所

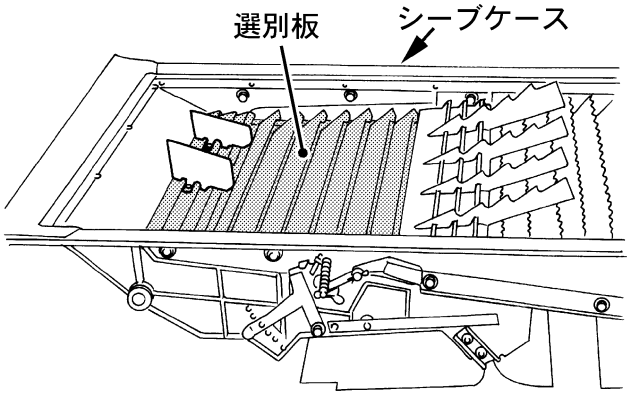


※イラストはＧ仕様

1ARADAKAP003K

1. 脱こく部内（シーブケース内選別板上）

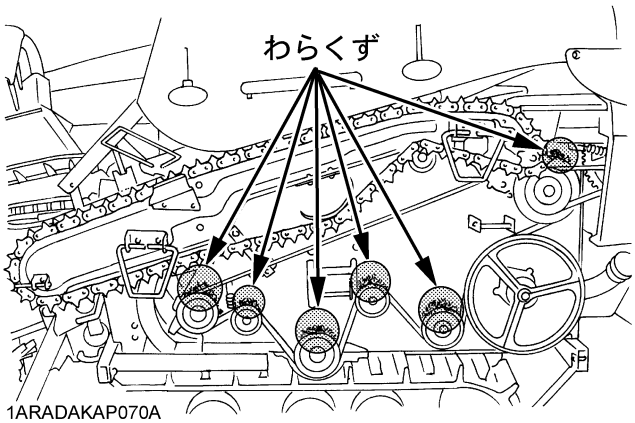
受あみ（上，下）を取外してください。



1ARADAKAP058B

2. ベルトカバー内

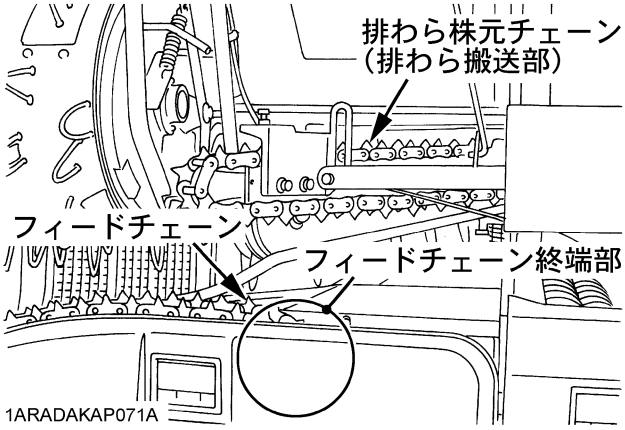
左サイドカバー上，下を取外してください。



1ARADAKAP070A

3. フィードチェーン終端部・排わら搬送部

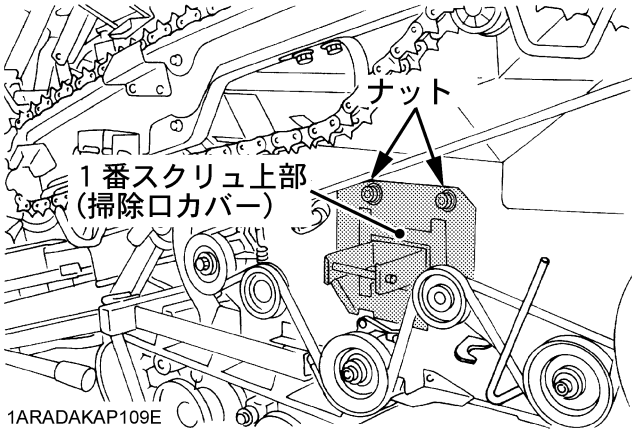
自動エンジン停止装置がはたらいたとき**（わら詰まりのとき）**に掃除してください。



1ARADAKAP071A

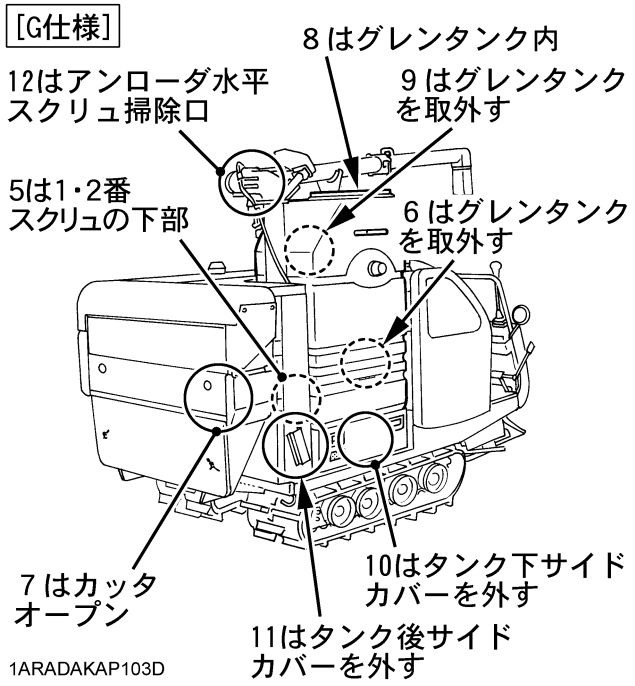
4. １番スクリュ上部掃除口

ナット２本を取外し，１番スクリュ上部の掃除口カバーを取外してください。



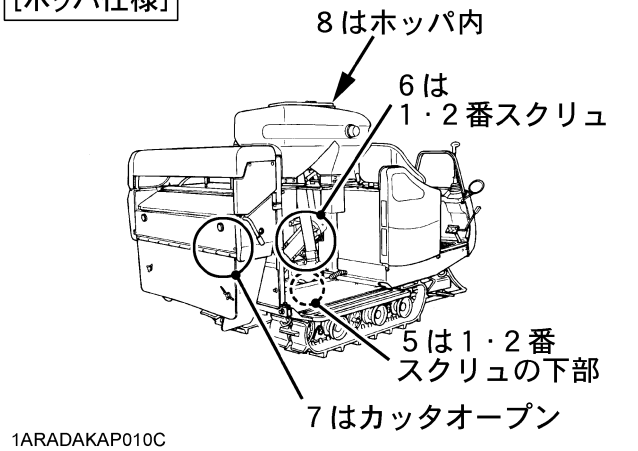
1ARADAKAP109E

[G仕様]



1ARADAKAP103D

[ホッパ仕様]

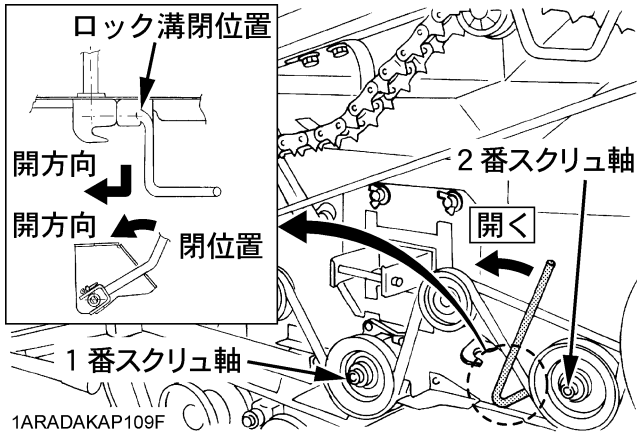


1ARADAKAP010C

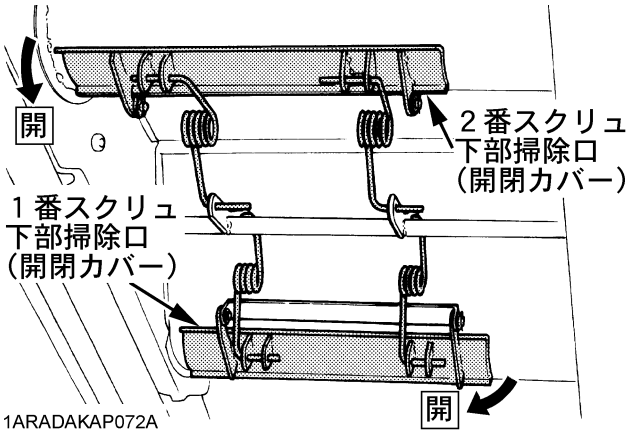
5. １・２番横スクリュ下部掃除口

掃除口開閉レバーを操作して，１・２番横スクリュ下部にある掃除口の開閉カバーを開いてください。

開くときは，開閉レバーを閉位置のロック溝から後方に動かします。



1ARADAKAP109F



1ARADAKAP072A

重　要

＊ 掃除口開閉レバーを使用しないときは，ロック溝の閉位置にしておいてください。走行中に掃除口開閉レバーが開いて破損するおそれがあります。

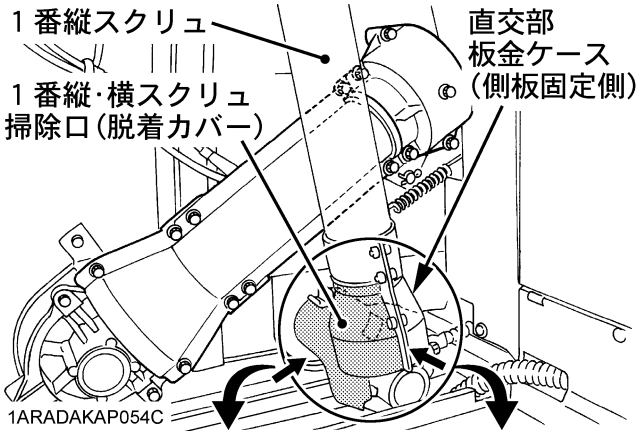
補　足

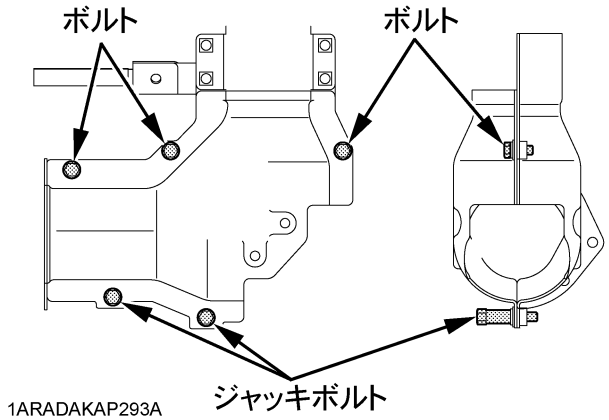
＊ クローラに付着している泥は取除いてください。掃除口開閉レバーに接触し，開閉しなくなります。

6. １・２番スクリュ掃除口

● １番縦・横スクリュ掃除口

ボルトを取外して，１番縦･横スクリュ掃除口の脱着カバーを取外します。



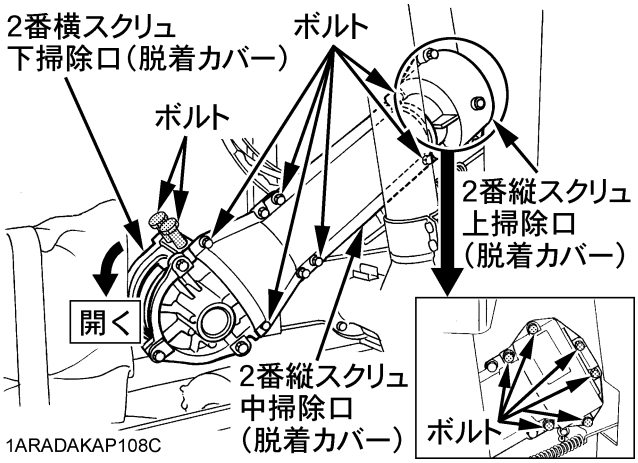


補　足

＊ 脱着カバーを取付けるときは，ボルト３本とジャッキボルト２本で確実に取付けてください。１番直交部板金ケースと掃除口カバーの間にすき間があるともみ漏れの原因になります。

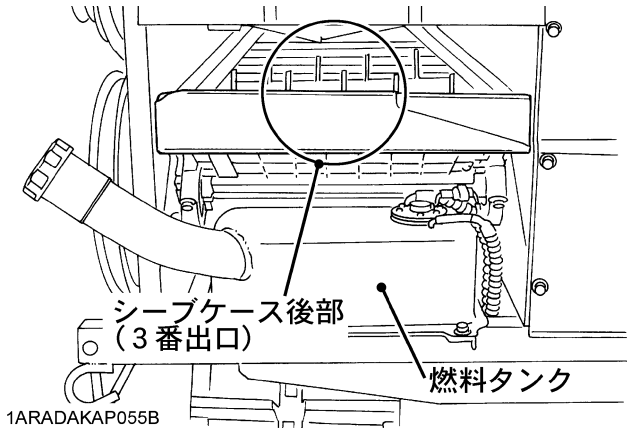
● ２番縦・横スクリュ掃除口

(1) ボルト２本を取外して２番横スクリュ下の開閉カバーを開きます。
(2) ボルト６本を取外して，２番縦スクリュ中の掃除口の脱着カバーを取外します。
(3) ボルト６本を取外して，２番縦スクリュ上の掃除口の脱着カバーを外します。



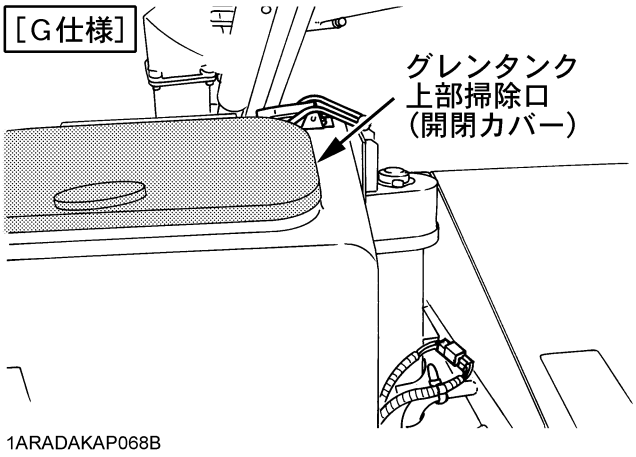
7. シーブケース後部（３番出口）と燃料タンク周辺

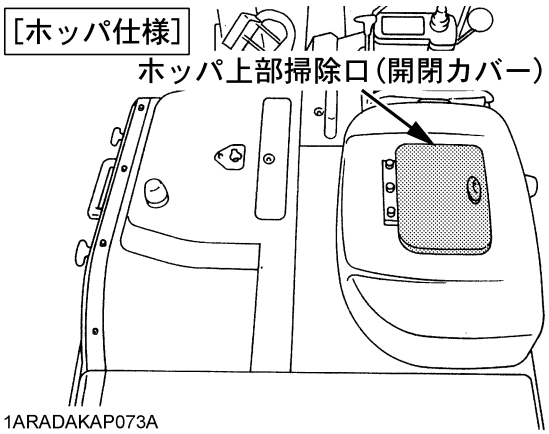
カッタをオープンしてください。



8. ホッパ内・グレンタンク内

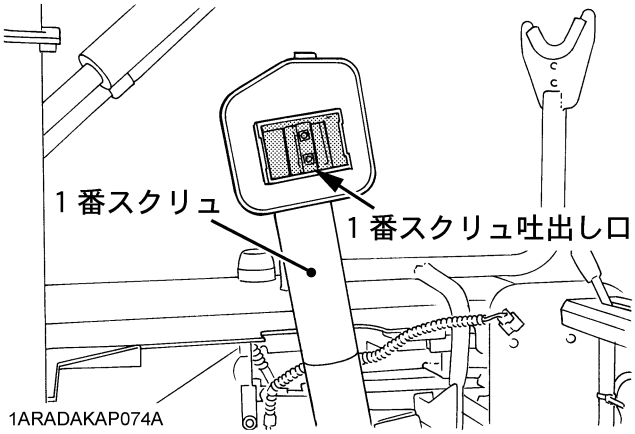
開閉カバーを開いてください。





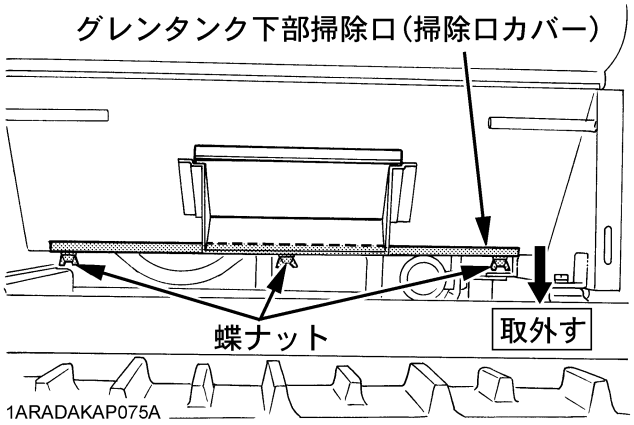
9. １番スクリュ吐出口［G 仕様］

グレンタンクを取外します。

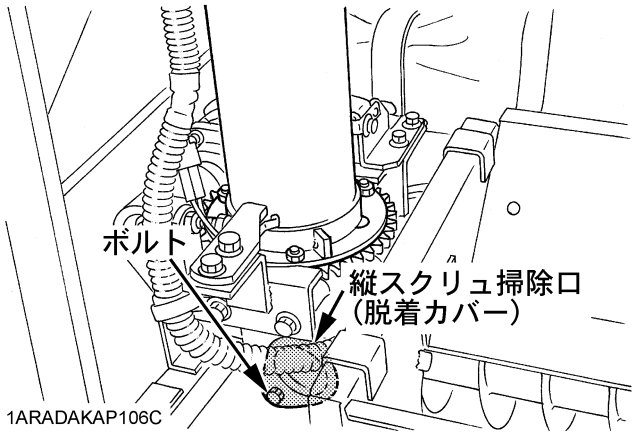


10. グレンタンク下部掃除口［G 仕様］

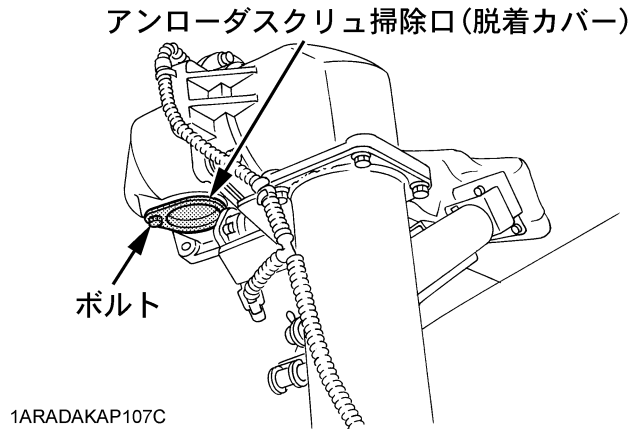
蝶ナット３本を取外して脱着カバーを取外します。



11. 縦スクリュ掃除口［G 仕様］
ボルトを取外して脱着カバーを取外してください。



12. アンローダ水平スクリュ掃除口［G 仕様］
ボルトを取外して脱着カバーを取外してください。



◆ 掃除後の処置
掃除終了後は，取外したり，オープンした掃除口カバーや安全カバーは必ず取付けてください。

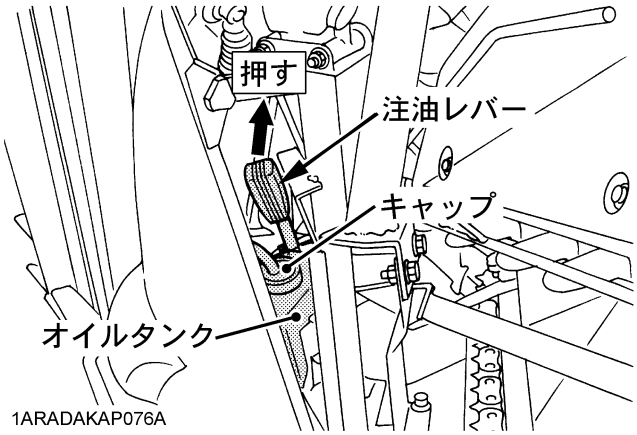
■各部の注油
機体各部の掃除が終わったあと又は，刈取作業を始める前には各部の注油やグリースの塗布を行なってください。

[213・216・217]

◆ 集中注油装置による注油
集中注油装置の注油レバーを押して各作動部（刈刃や各チェーン）に注油してください。

補　足
＊ 気温が10℃以下になると均等に注油されなくなります。寒い地域では，気温の上がる昼間に注油してください。
＊ 各チェーン部に巻付いたわらくずやごみは注油の前にきれいに取除いてください。
＊ 刈刃へ注油するときは，注油レバーを強く押して勢いよく注油してください。

● 注油のしかた
1. 平たんな場所に刈取部を地面から５～15cmの位置にしたあと，駐車ブレーキを掛けてエンジンを停止します。
2. 引起しサイドカバー左を取外し，オイルタンクのオイル量を確認して不足しているときは補給します。
3. 注油レバーを３～４回強く押して注油します。



重　要
＊ 指定のオイル以外は使用しないでください。また，廃油などゴミの混入しているオイルを使用すると，ノズルの詰まりやバルブ不良の原因となります。

オイルの種類	オイルタンク容量
クボタ純オイル D10W30 又は，D30	約 0.5L

補　足

＊ オイルタンクに給油したあとは，オイルを吸い上げるまで注油レバーを押してください。
＊ 集中注油装置を最初に動かすときは，各部にオイルがじゅうぶん注油されるまで注油レバーを押してください。このとき，左刈刃と左引起しチェーンのオイルの量が，多く出ます。

4. エンジンを再始動したあと，エンジン回転数を中速回転（約 1600 ～ 1800rpm）にし，脱こく・刈取クラッチレバーを**【入】**位置にして刈取部・脱こく部を動かします。

補　足

＊ チェーンは中速回転で注油してください。その際，２番警報が出ますが，異常ではありません。
＊ 注油したときチェーンが停止していると，オイルが１箇所に集中するため，ベルトやカバーにオイルが付着したり，チェーンのスリップの原因となります。

[213・216・217]

[317]

◆ 自動集中注油装置による注油

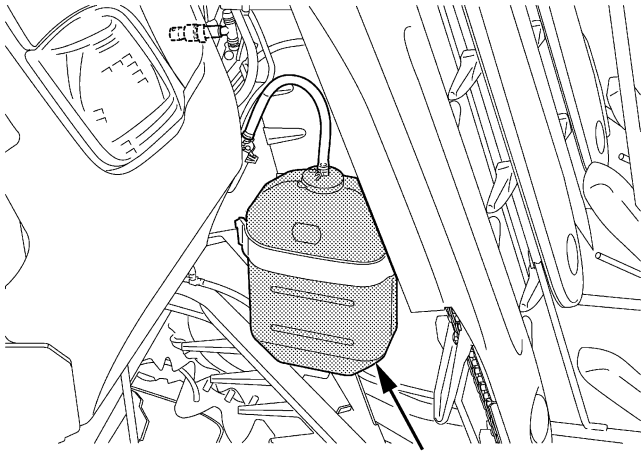
自動集中注油装置の注油スイッチを押して各作動部（刈刃や各チェーン）に注油してください。

補　足

＊ 気温が10℃以下になると均等に注油されなくなります。寒い地域では，気温の上がる昼間に注油してください。
＊ 各チェーン部に巻付いたわらくずやごみは注油の前にきれいに取除いてください。

● 注油のしかた

1. 平たんな場所に刈取部を地面から５～15cmの位置にしたあと，駐車ブレーキを掛けてエンジンを停止します。
2. 引起しサイドカバー右を取外し，オイルタンクのオイル量を確認して不足しているときは補給します。



重　要

＊ 指定のオイル以外は使用しないでください。また，廃油などゴミの混入しているオイルを使用すると，ノズルの詰まりやバルブ不良の原因となります。

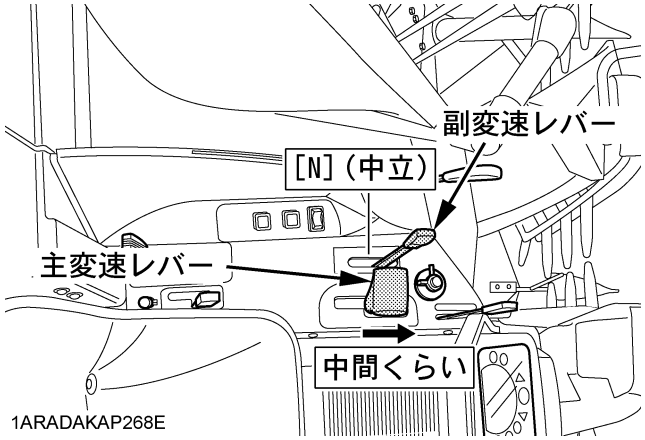
オイルの種類	オイルタンク容量
クボタ純オイル D10W30 又は，D30	約４Ｌ

3. エンジンを再始動したあと，エンジン回転数を中速回転（2000rpm）にし，脱こく・刈取クラッチレバーを**【入】**位置にして刈取部・脱こく部を動かします。

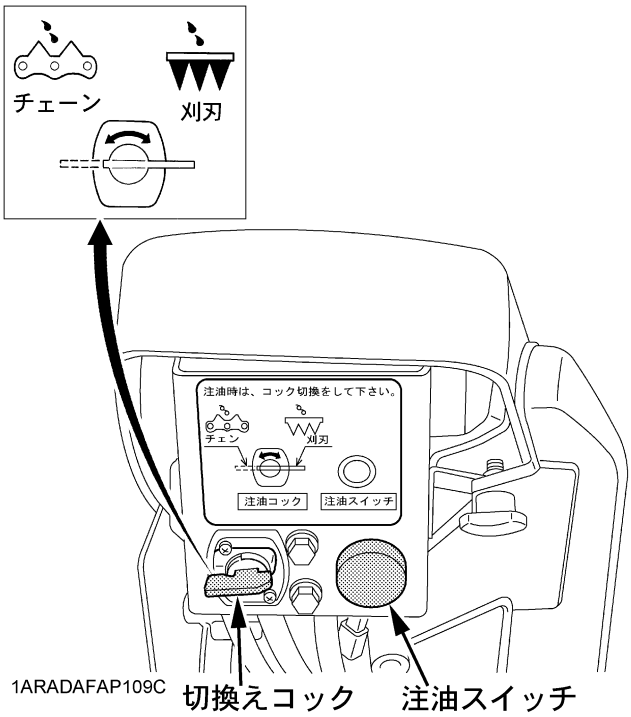
補　足

＊ チェーンは中速回転で注油してください。その際，２番警報が出ますが，異常ではありません。
＊ 注油したとき刈取部を停止していると，オイルが１箇所に集中するため，ベルトやカバーにオイルが付着したり，ベルトのスリップの原因となります。

4. 副変速レバーを**【N】（中立）**位置にしたあと，駐車ブレーキを解除して主変速レバーを前進側へ中間の位置ぐらいまで倒します。



5. 切換えコックの位置を確認（**チェーン**位置 / **刈刃**位置）して注油スイッチを押します。注油は切換えコックを切換えて各部チェーン・刈刃の両方共に行ないます。
   - チェーン位置…７～10 秒間**連続**で押す。
   - 刈刃位置……５～７秒間**断続**で押す。



重　要

＊ オイルタンク内のオイルが空の状態で注油スイッチを押すとポンプモータの故障の原因となります。
＊ 万一ポンプとオイルタンク間のホースにエアが入り，注油スイッチを押してもオイルが送られない場合は，エア抜きキャップを押し，エア抜きしてから作動してください。
＊ 必要以上に注油しないでください。機械が汚れるばかりでなく，故障の原因になります。

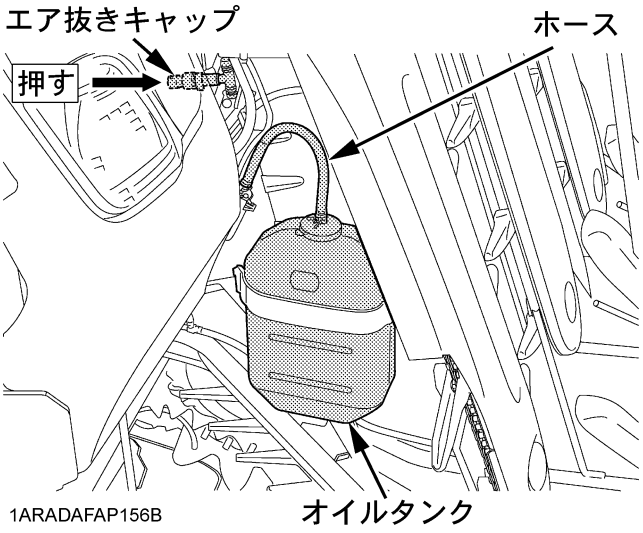
補　足

＊ 最初の１回目は配管内部にオイルがゆきわたり，配管内部にオイルが充満したことを確認したあと注油してください。配管内にオイルがゆきわたるまで約 30 秒かかります。

◆ エア抜きの方法

図示のエア抜きキャップを押してから，注油スイッチを押して，油を送出してください。

1. 注油後２～３分間そのままの状態で運転します。
2. 主変速レバーを **[N]（中立）** 位置にし，エンジンを停止したあと，引起しサイドカバー右を取付けます。



[317]

◆ 注油・グリース塗布

集中注油で注油が行なえる箇所以外の注油は，油差しで行なってください。

1. 集中注油

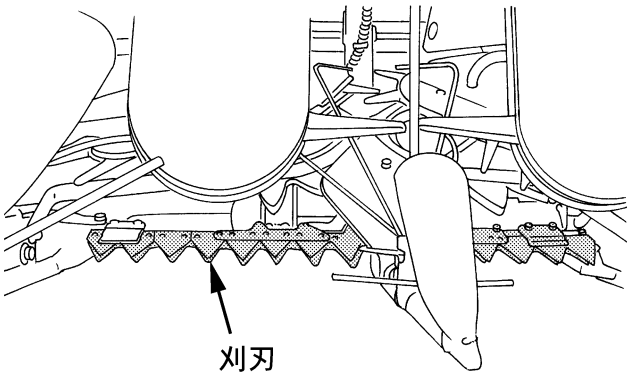
下記箇所の注油は集中注油装置で行なってください。

補　足

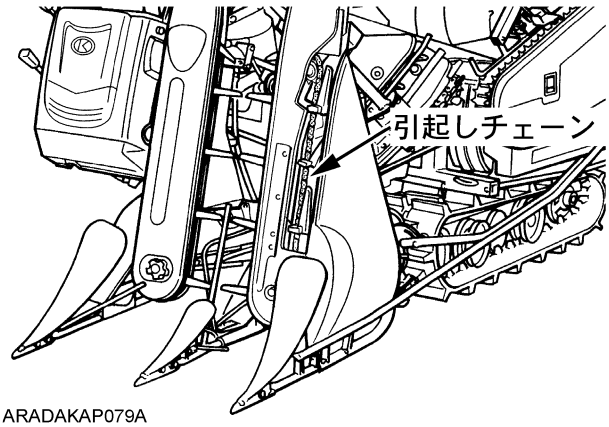
＊ **[211]** は集中注油装置が装備されていませんので油差しで注油を行なってください。

[213・216・217]

● **刈刃**



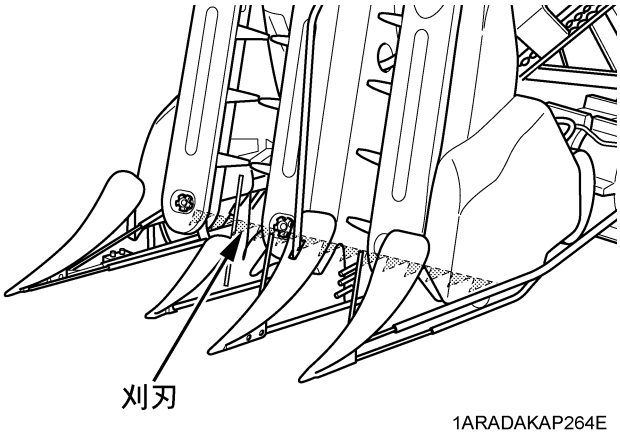
● **引起しチェーン**



[213・216・217]

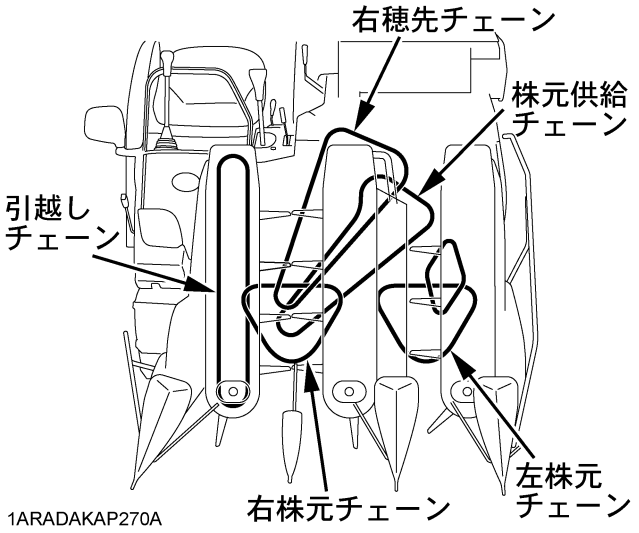
[317]

● **刈刃**

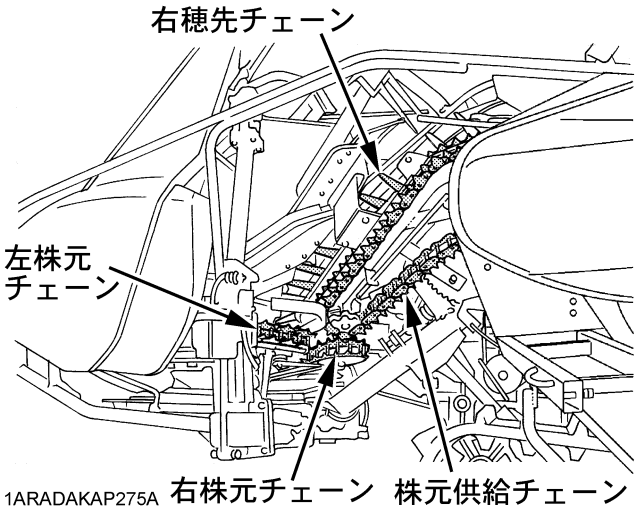


1ARADAKAP264E

● **右穂先チェーン・右株元チェーン・左株先チェーン・引起しチェーン・株元供給チェーン**



1ARADAKAP270A



1ARADAKAP275A

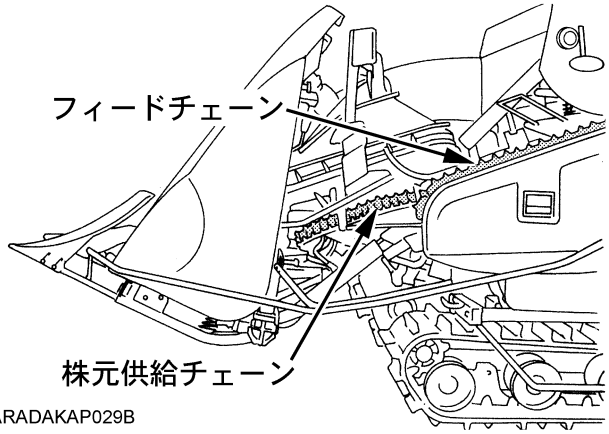
[317]

2. 手差し注油

下記箇所は油差しを使用して行なってください。

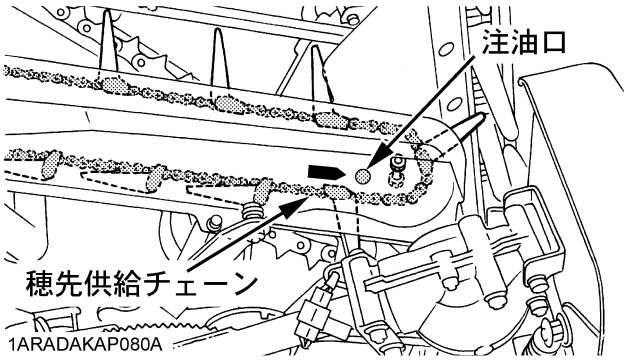
[211・213・216・217]

● **株元供給チェーン**
● **フィードチェーン**



1ARADAKAP029B

● **穂先供給チェーン**

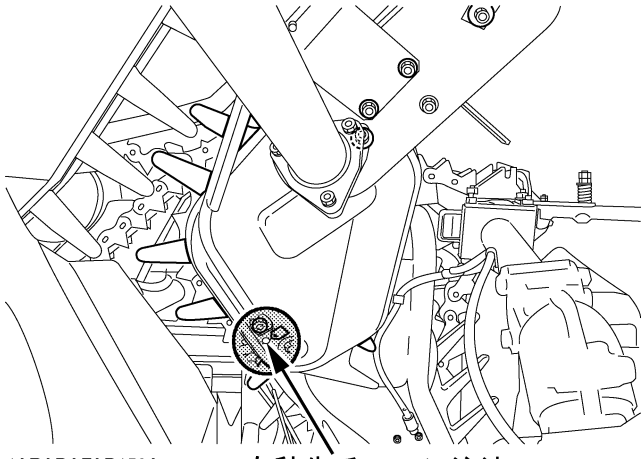


1ARADAKAP080A

[211・213・216・217]

[317]

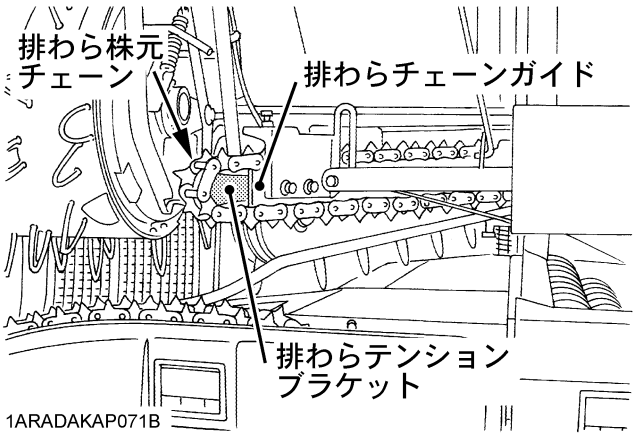
● **左穂先チェーン**



1ARADAFAP159A

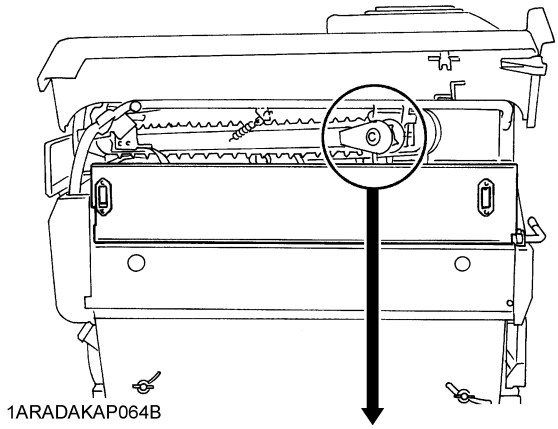
[317]

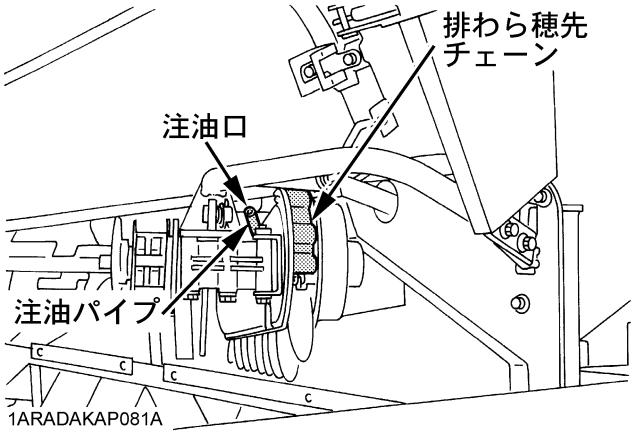
● **排わら株元チェーン**
● **排わら株元チェーンテンション部（排わらテンションブラケット）**



● **排わら穂先チェーン**

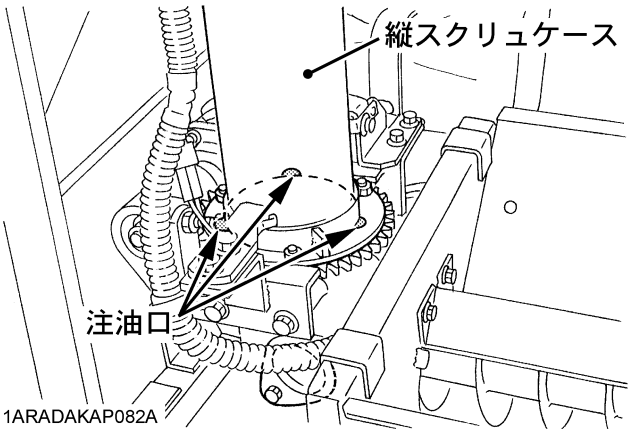
エンジンを始動したあと，脱こく部を中速回転しながら，脱こく上部カバーを上げて注油パイプの注油口から注油してください。





● **縦スクリューケース下部**

[G 仕様]

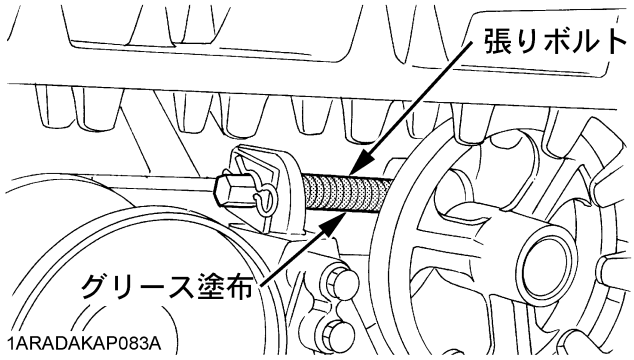


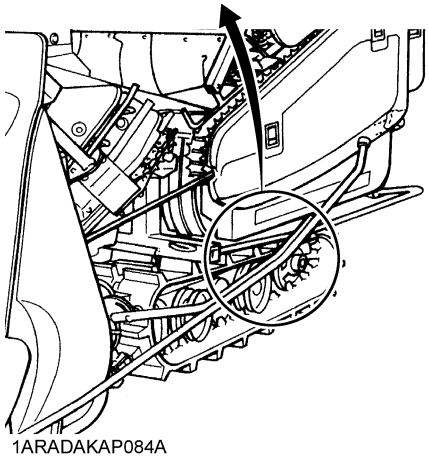
[G 仕様]

3. グリース塗布

クローラの張り調整を行なう前にグリースを塗布してください。

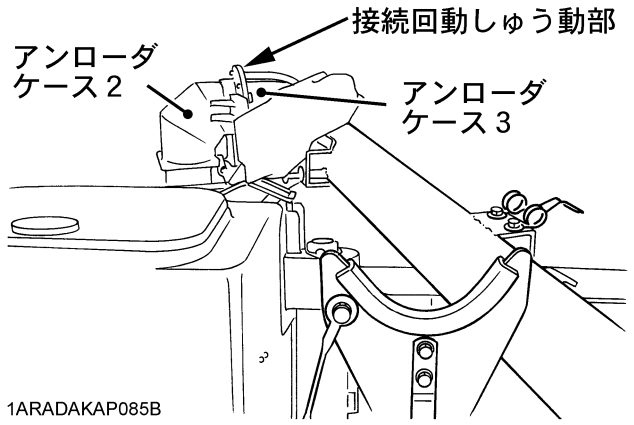
● **クローラ張りボルト（左，右）**





● **アンローダケース２・３回動しゅう動部**

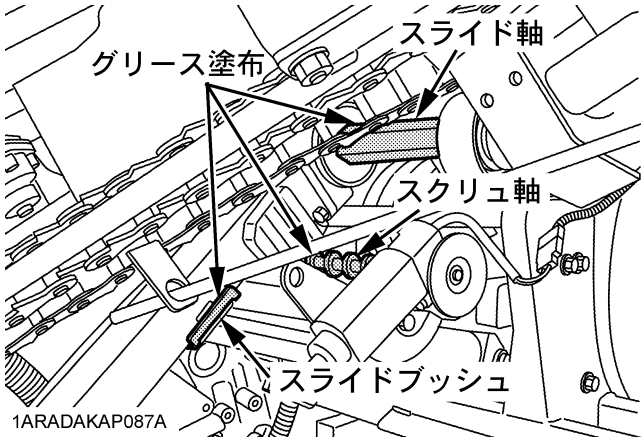
[G 仕様]



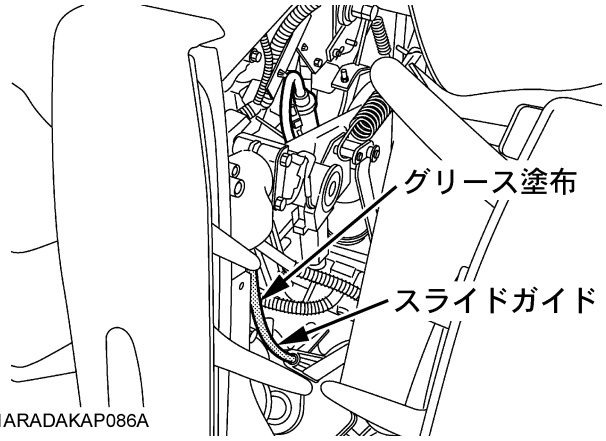
[G 仕様]

● **スライド軸・スクリュ軸・スライドブッシュ**

[213・216・217]

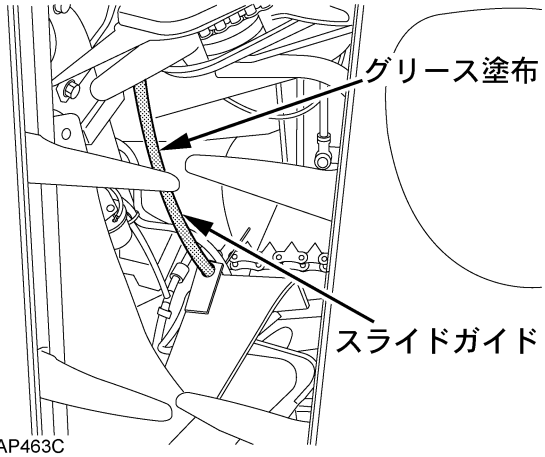


● **スライドガイド**



[213・216・217]

[317]



[317]

定期点検

定期点検は，コンバイン作業を行なう人が定期的に行なう点検です。
コンバインは，使用時間と使用状況に応じて劣化が進み，その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくと故障や事故の原因となり，ひいてはコンバインの寿命を短くしてしまいます。コンバインの持つ性能がいつまでもじゅうぶん発揮できるよう，定期的に点検を行ないましょう。

警　告

＊ 各部の調整・点検・交換を行なうときは，エンジンを必ず停止させ，各レバー類を［切］位置にして，回転部を止めてから作業をしてください。
＊ 取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込み危険ですので，点検後は必ず取付けてから作業をしてください。

注　意

＊ 点検・作業するときは，駐車ブレーキを掛けてください。また刈取部は一番下まで降してください。
もし刈取部を上げた状態で作業するときは，枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
＊ エンジンルーム内の点検のためカバーを外すときは，内部がじゅうぶん冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してください。
＊ オイル交換中は火気厳禁。
＊ 刈刃やカッタの掃除や注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。
＊ 機械は平たんで，周りにわらくずなどの燃えやすいごみのない場所へおいてください。バッテリ，マフラやエンジン周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因となります。
＊ 燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。

補　足

＊ 専門的な技術や特殊工具を必要とする場合及び定期点検一覧表の参照ページ欄に☆印のある項目は，購入先にご相談ください。

■オイル･フィルタ類の交換とチェーン･ベルト･クローラの張り調整

1. 新車時はコンバインの回転・しゅう動部の各部品はなじみがついていませんのでならし運転期間中に細かい金属粉が生じ，部品の極度な摩耗につながるおそれがあります。よって，オイル・フィルタ類は初期 50 時間で交換してください。
2. チェーンやベルト類・クローラはならし運転中に初期伸びが発生します。初期 20 又は，50 時間で張り調整をしてください。
（交換したときも同様です。）

■廃棄物の処理について

警　告

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理してください。

■洗車時の注意

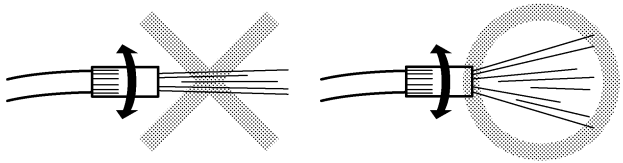
高圧洗車機の使用方法を誤まると人をケガさせたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

注　意

機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，２ｍ以上離して洗車してください。
もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，

1. **電気配線部被覆の損傷・断線により，火災を引き起こすおそれがあります。**
2. **油圧ホースの破損により，高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。**
3. **機械の破損・損傷・故障の原因になります。**
   例）
   (1) シール・ラベルの剥がれ
   (2) 電装部品，エンジン・ラジエータ室内，キャビン室内等への浸入による故障
   (3) クローラ，タイヤ，オイルシール等のゴム類，化粧カバー等の樹脂部品，ガラス等の破損
   (4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ

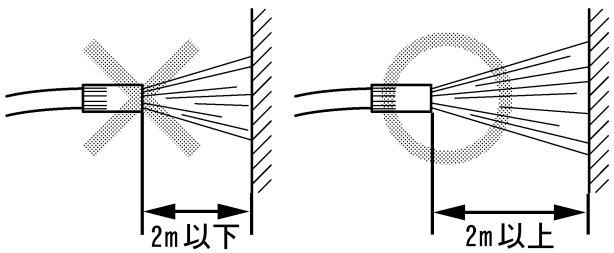
直射洗車厳禁



直射　　拡散

1AGACBRAP067A

近距離洗車厳禁



1AGACBRAP068A

■使用者が行なってはいけない修理

下記部品に異常があるときは購入先に連絡してください。

- 電気系統（自動制御関係）
- 結束部（ケッセツブカンビ）
- エンジン本体
- トランスミッションケース
- ギヤ(ベベルギヤを含む)を内蔵したケース類
- 油圧系統
- 電気部品と電気系統
- 刈取部の動力伝達系統

■定期点検一覧表

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
◆エンジン部				
ファン駆動ベルト	調整	50 時間（初回及び交換後）又は，100 時間ごと	全型式	139 ☆
	交換	250 時間ごと		
エアクリーナエレメント	掃除	50 時間ごと	全型式	126
	交換	300 時間ごと（調整が 6 回目のときに交換）		
インレットパイプ（エアクリーナー）	締付け	使用時間が 150 時間又は，６ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	128
	交換	使用時間が 300 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
フューエルフィルタアッシ	交換	200 時間ごと	全型式	130
オイルフィルタカートリッジ	交換	初回：35 時間後，それ以降 200 時間ごと（エンジンオイル交換が 2 回目のとき同時交換）	全型式	130
フューエルパイプ	締付け	使用時間が 150 時間又は，６ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	128 ☆
	交換	使用時間が 300 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
燃料こしあみ	掃除	100 時間ごと	全型式	120
オイルドレーンゴムホース	締付け	使用時間が 150 時間又は，６ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	128 ☆
	交換	使用時間が 300 時間又は，2 年ごとの早いほうで交換		
ラジエータホース	締付け	使用時間が 150 時間又は，６ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	128 ☆
	交換	使用時間が 300 時間又は，2 年ごとの早いほうで交換		
防じんあみ，ラジーエータフィン，オイルクーラフィン	掃除	50 時間ごと	全型式	129
◆走行・操作部				
走行（ミッション）駆動ベルト	調整	20 時間（初回および交換後）又は，50 時間ごと	211	139 ☆
	交換	100 時間ごと		
	調整	20 時間（初回および交換後）又は，100 時間ごと	213・216・217・317	
	交換	250 時間ごと		
駐車ブレーキ	調整	50 時間ごと	全型式	133
アクセルワイヤ	調整	50 時間（初回および交換後）又は，100 時間ごと	全型式	☆
	交換	250 時間ごと		
パワーステアリングレバー	調整	50 時間（初回および交換後）又は，100 時間ごと	全型式	134
刈取変速ワイヤ	調整	50 時間（初回および交換後）又は，100 時間ごと	全型式	☆
	交換	250 時間ごと		

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重　要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
◆走行・操作部				
クローラ	調整	20 時間（初回および交換後）又は，100 時間ごと	全型式	168 ☆
	交換	500 時間ごと		
ミッション・HST オイル フィルタカートリッジ	交換	初回：50 時間後，それ以降 200 時間ごと（ミッション・HST オイル交換が３回目のとき同時交換）	全型式	131 ☆
ミッションオイルフィルタ	洗浄	300 時間ごと	全型式	131 ☆
	交換	600 時間ごと		
◆刈取部				
刈取駆動ベルト	調整	20 時間（初回および交換後）又は，50 時間ごと	211・213	140 ☆
	交換	100 時間ごと		
	調整	20 時間（初回および交換後）又は，100 時間ごと	216・217	140 ☆
	交換	250 時間ごと		
	調整	20 時間（初回および交換後）又は，100 時間ごと	317	140 ☆
	交換	300 時間ごと		
補助搬送（突起付）ベルト	調整	20 時間（初回および交換後）又は，100 時間ごと	全型式	141 ☆
	交換	500 時間ごと		
引起しチェーン	交換	自動テンションのラチェット歯の終端部で交換	全型式	145 ☆
引起し爪	交換	300 時間ごと	全型式	
引起しローラ	交換	300 時間ごと	全型式	☆
穂先供給チェーン	調整	20 時間（初回および交換後）又は，100 時間ごと	211・213・216・217	146 ☆
	交換	300 時間ごと		
穂先供給搬送爪	交換	300 時間ごと		
株元供給チェーン	調整	50 時間（初回および交換後）又は，100 時間ごと		146 ☆
	交換	300 時間ごと		

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重　要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
◆刈取部				
右穂先チェーン	点検	20 時間（初回および交換後）又は，100 時間ごと	317	147 ☆
	交換	300 時間ごと		
右穂先搬送爪	交換	300 時間ごと		
右株元チェーン	点検	50 時間（初回および交換後）又は，100 時間ごと		147 ☆
	交換	300 時間ごと		
株元供給チェーン	点検	50 時間（初回および交換後）又は，100 時間ごと		147 ☆
	交換	300 時間ごと		
左穂先チェーン	点検	20 時間（初回および交換後）又は，100 時間ごと		147 ☆
	交換	300 時間ごと		
左穂先搬送爪	交換	300 時間ごと		
左株元チェーン	調整	50 時間（初回および交換後）又は，100 時間ごと		147 ☆
	交換	300 時間ごと		
刈刃	調整	50 時間（初回および交換後）又は，100 時間ごと	全型式	148
	交換	200 時間ごと	211・213・216・217	
	交換	300 時間ごと	317	
刈刃駆動ベアリング	点検	20 時間ごと	211・213・216・217	☆
	交換	100 時間ごと		
刈刃クランクプイン，ローラ，ベアリング	交換	300 時間ごと	317	☆
株元センサ	交換	500 時間ごと	全型式	☆
株元センサ（上，下）	交換	500 時間ごと	全型式	☆
パッカ	交換	500 時間ごと（パッカ交換時は，トルクリミッタ調整）	211・213・216・217	169 ☆
		500 時間ごと	317	☆
刈取スライドブッシュ	点検	50 時間ごと	211・213・216・217	169 ☆
	交換	100 時間ごと		

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重　要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
◆脱こく部				
脱こく駆動ベルト	調整	20 時間（初回および交換時）又は，50 時間ごと	211	141 ☆
	交換	150 時間ごと		
	調整	20 時間（初回および交換時）又は，100 時間ごと	213・216・217・317	
	交換	250 時間ごと		
こぎ胴駆動ベルト	調整	20 時間（初回および交換後）又は，100 時間ごと	全型式	142 ☆
	交換	250 時間ごと		
トウミ駆動ベルト	調整	20 時間（初回および交換後）又は，100 時間ごと	全型式	141 ☆
	交換	250 時間ごと		
１番・２番・揺動・フィードチェーン駆動ベルト	調整	20 時間（初回および交換後）又は，100 時間ごと	全型式	142 ☆
	交換	250 時間ごと		
フィードチェーン	調整	20 時間（初回および交換後）又は，100 時間ごと	全型式	147 ☆
	交換	400 時間ごと		
排わら穂先チェーン	交換	250 時間ごと	全型式	☆
排わら穂先搬送爪	交換	150 時間ごと	全型式	☆
排わら株元チェーン	交換	250 時間ごと	全型式	☆
わら切刃	交換	200 時間ごと	全型式	154
こぎ歯	交換	250 時間ごと	全型式	☆
樹脂受けあみ（弓金含む）	交換	250 時間ごと	全型式	96
1 番縦スクリュ軸	交換	250 時間ごと	全型式	☆
1 番横スクリュ軸	交換	250 時間ごと	全型式	☆
トシュツコウ（1，２バン）	交換	250 時間ごと	全型式	☆
トシュツコウ（2，２バン）	交換	250 時間ごと	全型式	☆
２番ライナ２	交換	150 時間ごと	全型式	☆
ケース（２バン）	交換	250 時間ごと	全型式	☆
２番縦スクリュ軸	交換	250 時間ごと	全型式	☆
２番横スクリュ軸	交換	250 時間ごと	全型式	☆
プレート（２番フタ）	交換	250 時間ごと	全型式	☆
フロントハンプ	交換	250 時間ごと	全型式	☆
吐出口ブーツ	交換	破損しているとき	ホッパ仕様	160 ☆

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重　要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
◆グレンタンク部［G 仕様］・カッタ部・電装部				
グレンタンク駆動ベルト	調整	20 時間（初回および交換後）又は，100 時間ごと	G 仕様	143 ☆
	交換	250 時間ごと		
もみ排出クラッチワイヤ	調整	50 時間（初回および交換後）又は，100 時間ごと		135 ☆
	交換	250 時間ごと		
底スクリュ軸	交換	250 時間ごと	G 仕様	☆
縦スクリュ軸	交換	250 時間ごと	G 仕様	☆
水平スクリュ軸	交換	250 時間ごと	G 仕様	☆
吐出口ブーツ	交換	破損しているとき	G 仕様	160 ☆
カッタ刃	交換	150 時間ごと	全型式	157
バッテリ	充電	作業前に点検し，インジケータが黒いときは充電	全型式	161 ☆
	交換	インジケータが白いときは交換		
ワイヤーハーネス・バッテリーコード	点検	50 時間ごと	全型式	165 ☆
	交換	破損しているとき		
ヒューズ・スローブローヒューズ	点検	100 時間ごと	全型式	165 ☆
	交換	破損しているとき		
ランプ（電球）	点検	100 時間ごと	全型式	166 ☆
	交換	破損しているとき		
ホーンスイッチ	点検	100 時間ごと	全型式	166 ☆
	交換	破損しているとき		

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重　要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

■給･注油（水）点検一覧表

種類	点検箇所	処置	点検・交換時期（アワメータ表示時間） 点検	交換	容量・規定量（L）	種類	参照ページ
燃料	燃料タンク	給油	作業前又は，作業後	－	・容量……約 14	ディーゼル軽油	120
オイル	エンジン	補給・交換	作業前又は，作業後	・初回 …35 時間目 ・２回目以降 …100 時間ごと	＊規定量 オイルゲージの**下限**と**上限**の間…… 約 1.35 ～ 2.05 **[211・213]** 約 2.2 ～ 3.2 **[216・217・317]**	クボタ純オイル D30 又は，D10W30	121
	集中注油オイルタンク	補給	作業前又は，作業後	－	・容量……約 0.5 **[211・213・216・217]** 約 4.0**[317]**	クボタ純オイル D30 又は，D10W30	103
	HST・トランスミッションケース	補給・交換	100時間ごと	・初回 …50 時間目 ・２回目以降 …100 時間ごと	＊規定量 検油口からオイルがにじむまで ……約 3.0	クボタ純オイル スーパー UDT	122
	フィードチェーン駆動ケース	補給	100時間ごと	－	・容量……約 0.3	クボタ純オイル M80B 又は，M90	124
	こぎ胴駆動ケース	補給	100時間ごと	－	・容量……約 0.15	クボタ純オイル M80B 又は，M90	124
	引起しチェーン	注油	作業前及び，作業後（洗車後）	－	適量	クボタ純オイル D30 又は，D10W30	103
	供給チェーン（株元，穂先）**[211・213・216・217]**	注油	作業前及び，作業後（洗車後）	－	適量	クボタ純オイル D30 又は，D10W30	103
	左穂先チェーン**[317]**	注油	作業前及び，作業後（洗車後）	－	適量	クボタ純オイル D30 又は，D10W30	103
	穂先供給チェーン**[317]**	注油	作業前及び，作業後（洗車後）	－	適量	クボタ純オイル D30 又は，D10W30	103
	フィードチェーン	注油	作業前及び，作業後（洗車後）	－	適量	クボタ純オイル D30 又は，D10W30	103
	排わらチェーン（株元，穂先）	注油	作業前及び，作業後（洗車後）	－	適量	クボタ純オイル D30 又は，D10W30	103
	排わら（株元，穂先，入力）チェーンテンション部	注油	作業前及び，作業後（洗車後）	－	適量	クボタ純オイル D30 又は，D10W30	103
水・液	冷却水（リザーブタンク）	補水	作業前又は，作業後	冬季停止時は排出又は，不凍液を入れる	＊規定量 タンク側面の**L（下限）**と**H（上限）**の間 L ……約 0.15 H ……約 0.25	清水又は，クボタ不凍液	125

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重 要

［各部への補給と交換］
＊ 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するオイル・グリースは，指定の**クボタ純オイル・スペアグリース**を使用してください。
＊ 補給や交換の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

種類	点検箇所	処置	点検・交換時期（アワメータ表示時間）		容量・規定量（L）	種類	参照ページ
			点検	交換			
グリース	**◆刈取部**						
	刈刃ギヤケース	補給	分解時	－	適量	クボタスペアグリース	☆
	パッカ駆動ケース						
	刈取りギヤケース						
	供給ギヤケース						
	引起しギヤケース						
	スライドケース **[211・213・216・217]**		100時間ごと				
	ベベルケース **[211・213・216・217]**						
	スライド軸 **[213・216・217]**	塗布	作業前及び，作業後（洗車後）	－			
	スクリュ軸（スライド） **[213・216・217]**						
	スライドブッシュ **[211・213・216・217]**						
	刈取り昇降アーム **[211・213・216・217]**						
	スライドガイド（こぎ深さ）						
	◆脱こく部						
	排わらベベルケース	補給	分解時	－	適量	クボタスペアグリース	☆
	１番縦・横スクリュ						
	２番縦・横スクリュ						

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重 要

［各部への補給と交換］

＊ 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するオイル・グリースは，指定の**クボタ純オイル・スペアグリース**を使用してください。
＊ 補給や交換の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

種類	点検箇所	処置	点検・交換時期（アワメータ表示時間）		容量・規定量（L）	種類	参照ページ
			点検	交換			
グリース	**◆グレンタンク部**						
	グレンタンク駆動ケース	補給	分解時	－	適量	クボタ スペアグリース	☆
	アンローダケース１						
	アンローダケース２						
	アンローダケース３						
	アンローダケース２・３ 接続回動しゅう動部	塗布					

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重　要

［各部への補給と交換］

＊ 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するオイル・グリースは，指定の**クボタ純オイル・スペアグリース**を使用してください。
＊ 補給や交換の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

■燃料･オイル･グリースの点検･補給･交換

注　意

＊ 燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
＊ 燃料を補給する前に給油口やタンク周辺のごみを取除いてください。

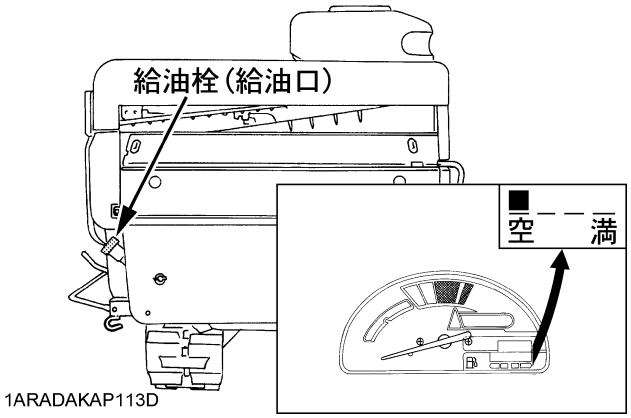
重　要

＊ 補給・交換を行なうときは，機械の故障の原因となりますので下記事項を守ってください。
- 廃油は使用しないでください。
- 今まで使用していたオイルと異なるメーカ，あるいは粘度 No. の異なるものを使用する場合は，オイルを全部排出してから，新しいオイルと交換してください。
- 給油口やその周辺からゴミなど異物や水の混入を防ぐため掃除してください。
- 使用するオイル･グリースは**クボタ純オイル・スペアグリース**を使用してください。

＊ 点検するときは機体を水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示しません。

■燃料

メータユニットの燃料計の４段階目が点滅したときは，給油してください。（点滅時残量約２ L）



重　要

＊ 給油口の燃料こしあみは外さないでください。燃料タンクにゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。

◆ 給油

燃料を給油するときは平たんな場所でエンジンを止め，燃料キャップを外してください。また，メインスイッチのキーを **[入]** 位置にすると燃料が満タン近くになったとき**満タンお知らせ機能**がはたらき，ブザーが鳴ると同時に液晶の燃料計が点滅します。

補　足

＊ **満タンお知らせ機能**では，ブザーが５回鳴り燃料計が２回点滅します。
＊ ブザーが鳴ったあと，約 1.5L で満タンになりますので，あふれさせないように注意してください。
＊ **満タンお知らせ機能**は下記の条件のときは，はたらかない場合があります。
- 給油中に機体を揺らしたり，急激に給油したとき
- 液晶の燃料計が全て点灯（満タン付近）している状態で給油したとき
- 機体が傾いた状態で給油したとき

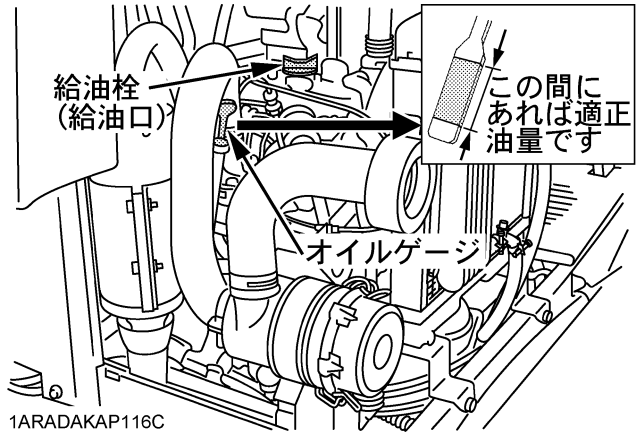
■エンジンオイル

エンジンルームをオープンしてください。

◆ 点検・補給

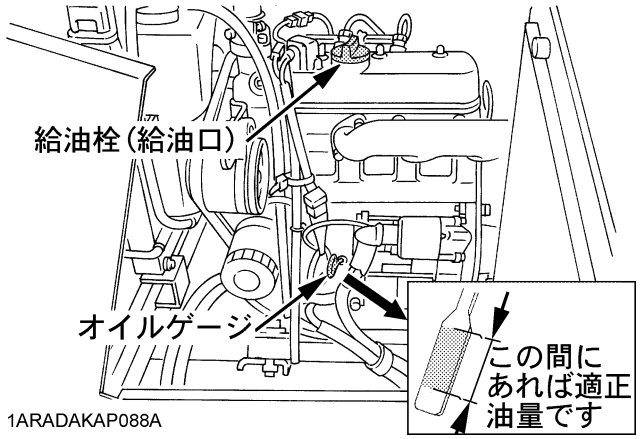
エンジン停止後，数分たってからオイルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度いっぱいまで差し込んでから抜き，ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。

[211・213]



[211・213]

[216・217・317]

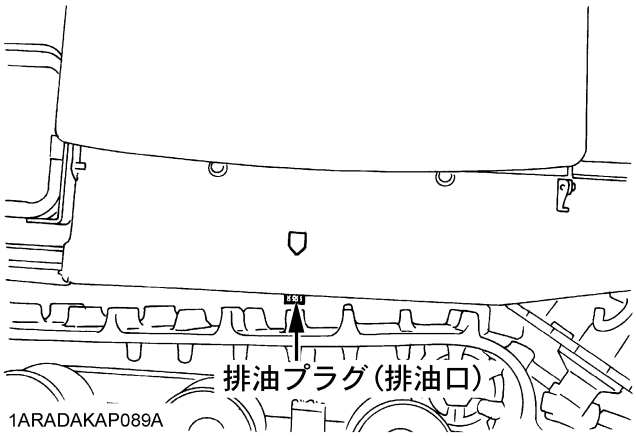


[216・217・317]

◆ 交換

● 排油のしかた

1. 給油栓を外します。
2. 排油プラグを外し，排油口からオイルを排出します。



3. 排油プラグを取付けたあと，給油栓を取付けます。

重　要

＊ 排油プラグを締め忘れると油もれが発生し，クローラの劣化やエンジントラブルの原因となります。

● 給油のしかた

排油プラグを締付けて，給油口から規定量のオイルを給油し，給油栓を締付けてください。

重　要

＊ 指定以外のオイルを使用すると，出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。また，気温によりオイルを選んでください。

気温	オイルの種類	規定オイル容量
15℃未満のとき	クボタ純オイル ディーゼルエンジン用 D10W-30	・上限線 **[211・213]**約2.05L **[216・217・317]** 約3.2L ・下限線 **[211・213]**約1.35L **[216・217・317]** 約2.2L
15℃以上のとき	クボタ純オイル ディーゼルエンジン用 D30又はD10W-30	

＊ クボタ純オイルの入手が困難な場合は，API分類でCC級以上のオイルをお使いください。この場合は気温により下表のように使い分けてください。

気温	オイルの種類
0℃以下	SAE10W又は10W-30
0～25℃	SAE20又は10W-30
25℃以上	SAE30又は10W-30

※10W-30はオールシーズン用です。

■トランスミッションオイル

警　告

＊ 点検・補給・交換するとき，刈取部を上げて行なうときは，刈取下降ロックレバーを上げて，刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

点検を行なうときは，刈取部を最下降位置にし，アンローダ**[G仕様]**は収納状態にしてください。

重　要

＊ 点検するとき，刈取部が上昇していたり機体が傾いていると，正確な量を示しません。

◆ 点検・補給

検油ボルトを外してオイルが検油口から出てくれば適正量です。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。

◆ 交換

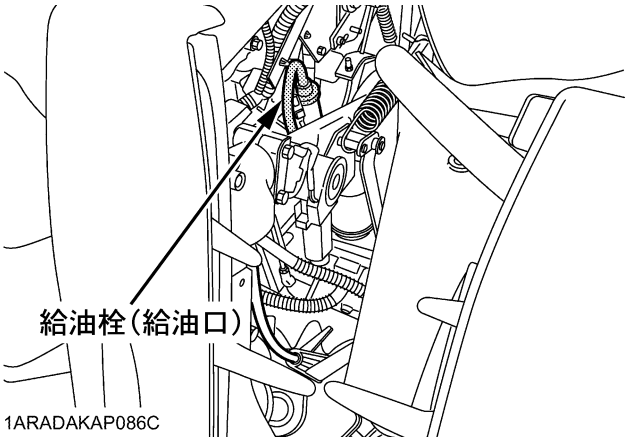
● 排油のしかた

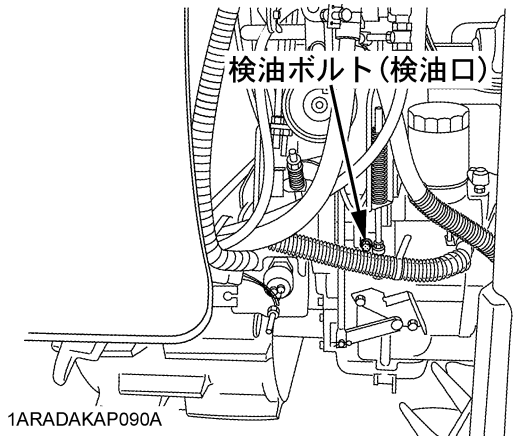
給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。

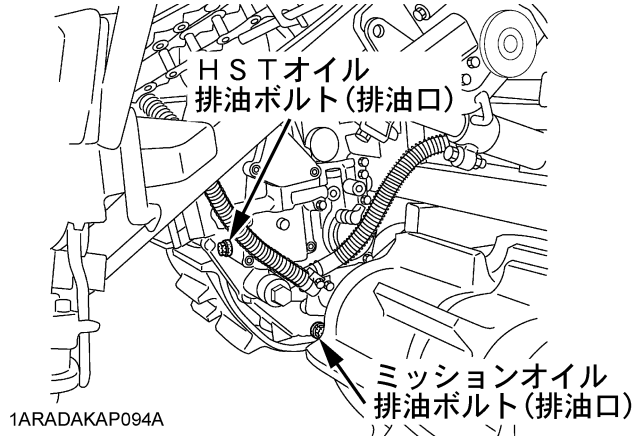
● 給油のしかた

排油プラグを締付けて，検油口からオイルが出てくるまで給油口から規定量のオイルを給油し，給油栓を取付けて検油ボルトを締付けてください。

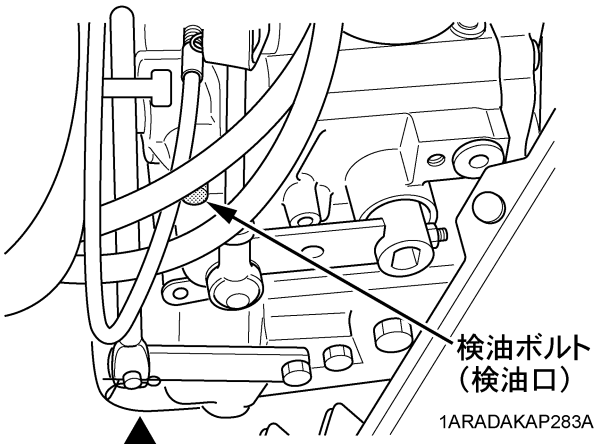
[211・213・216・217]

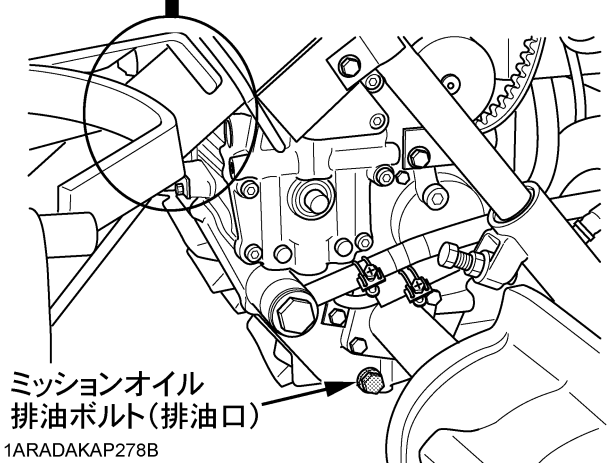






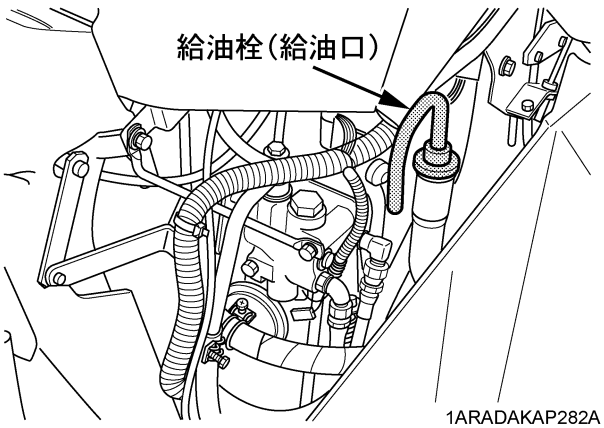
[211・213・216・217]





[317]

[317]



オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイル NEW・UDT 又は，スーパー UDT	約 3.0L

重　要

＊ 給油したあとエンジンを約１分回転させて，再度点検を行ない検油口からオイルが出るまでオイルを追加補給してください。

■フィードチェーン駆動ケースオイル

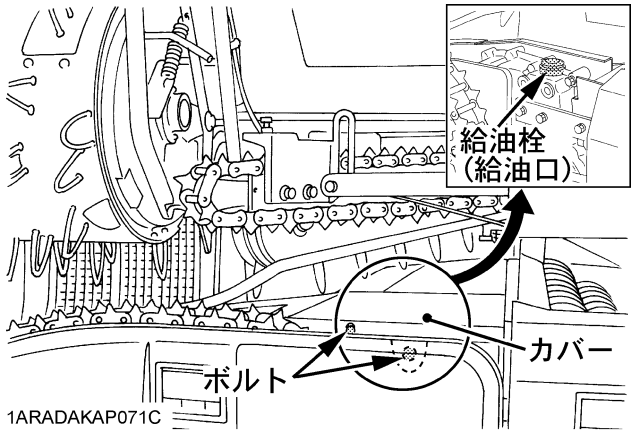
警　告

＊ 中でこぎ歯が高速で回転しているので接触するとケガをします。こぎ胴オープンするときは，エンジンを必ず止めてください。

こぎ胴をオープンし，左サイドカバー上・下を外したあと，ボルト２本を取外してカバーを外します。

◆ 補給

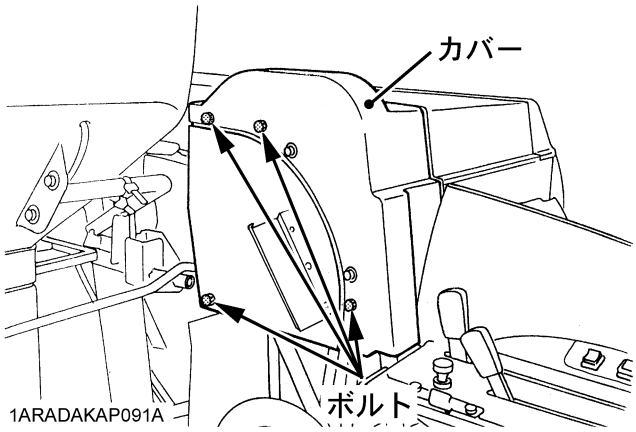
給油栓を外して，オイルを適量補給してください。



オイルの種類	オイル容量
クボタ純オイル M90 又は，M80B	約 0.3L

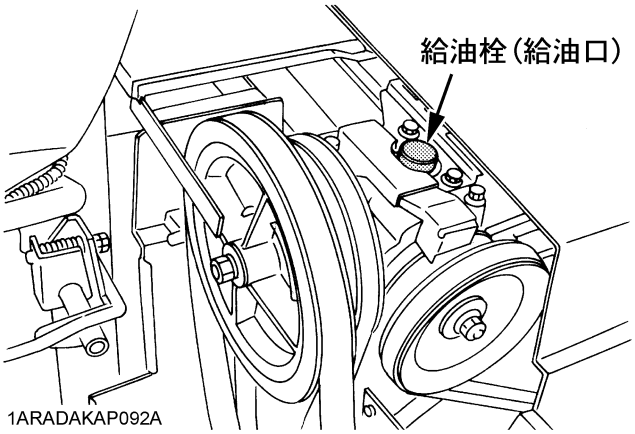
■こぎ胴駆動ケースオイル

エンジンルームをオープンしたあと，ボルト４本を取外してカバーを外します。



◆ 補給

給油栓を外して，オイルを適量補給してください。



オイルの種類	オイル容量
クボタ純オイル M90 又は，M80B	約 0.15L

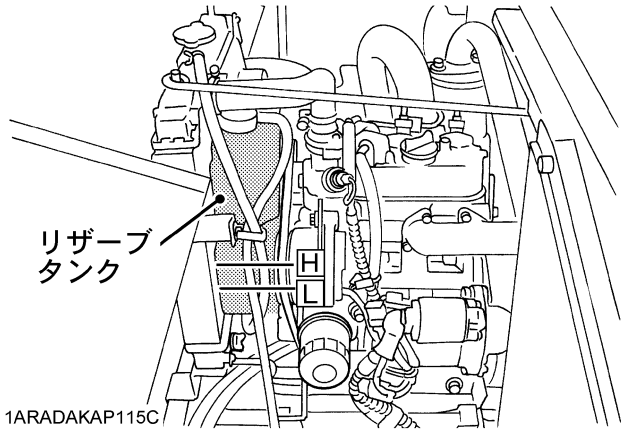
■ラジエータ冷却水の点検・交換

注　意

＊ ラジエータキャップやリザーブタンクは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出することがありますので，エンジン停止後じゅうぶん冷えてからにしてください。
＊ 異なるメーカの不凍液を混用しないでください。

◆ 点検

エンジンルームをオープンしたあと，リザーブタンクの水量が**[L]**（下限）と**[H]**（上限）の間にあるか確かめます。**[L]**（下限）の線より下にあるときは，リザーブタンクのキャップを外して清水を補給してください。



重　要

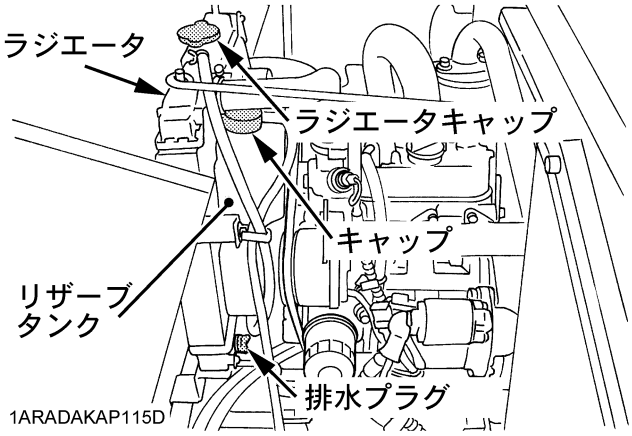
＊ 冷却水が自然に不足したときは，必ず清水を補給してください。不凍液を補給すると濃度が濃くなりエンジンやラジエータの故障の原因となります。

補　足

＊ **[H]**（上限）の線以上は補給しないでください。
＊ **[H]**（上限）で約 0.25L です。

◆ 交換

1. ラジエータの冷却水は排水プラグを外したあと，ラジエータキャップを外して排水します。
2. リザーブタンクの冷却水はタンクのキャップ（吸引パイプ付）を取外したあと，リザーブタンクを上側に抜いて取外し，排水します。
3. 水道水でごみやさびが出なくなるまで洗います。



4. 排水プラグを締付けたあと，目標温度（外気温）の比率分（混合比）の不凍液をラジエータ及びリザーブタンクに入れます。

重　要

＊ 不凍液の混合比を誤まると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
＊ 不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
＊ クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は２年間です。必ず２年で交換してください。
＊ 排水プラグを締め忘れると水もれが発生したり，排水プラグ部を機体に取付け忘れると，ホースが破損するおそれがあります。

補　足

＊ 不凍液混合比は，寒冷地ほど高くなります。購入先に相談して，下表を参照して混合比を決めてください。また，不凍液はエチレングリコール（EG）タイプの**ロングライフクーラント**をご使用ください。

● **不凍液混合比率表**

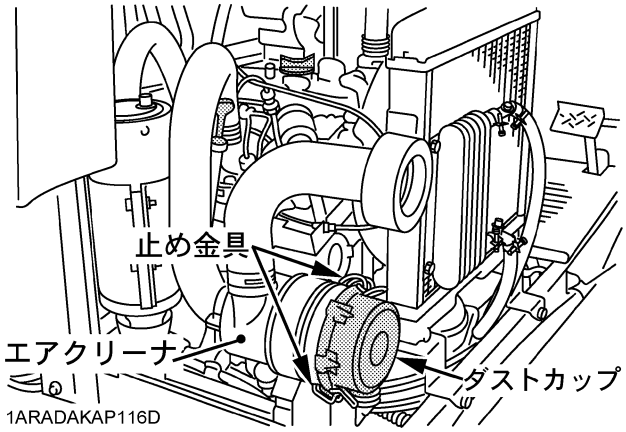
外気温度（℃）		-5	-8	-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-43
比率	水（%）	85	80	75	70	65	60	55	50	45
	不凍液（%）	15	20	25	30	35	40	45	50	55

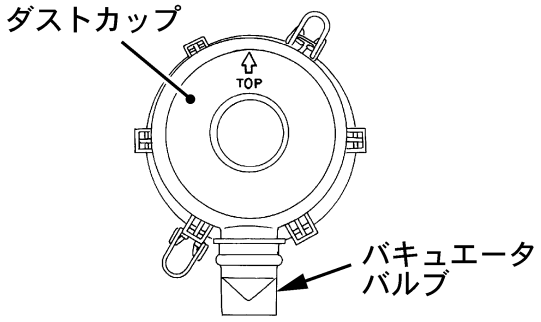
※ 冷却水容量……0.96L
※ 新しい冷却水と交換を行なったあとは，必ず不凍液を入れて，５分間エンジンを空回転し，不凍液の混合を早めてください。そのあと，リザーブタンクの水量を確かめておいてください。

5. ラジエータキャップ及びリザーブタンク，キャップを取付けます。

■エアクリーナの点検･掃除･交換

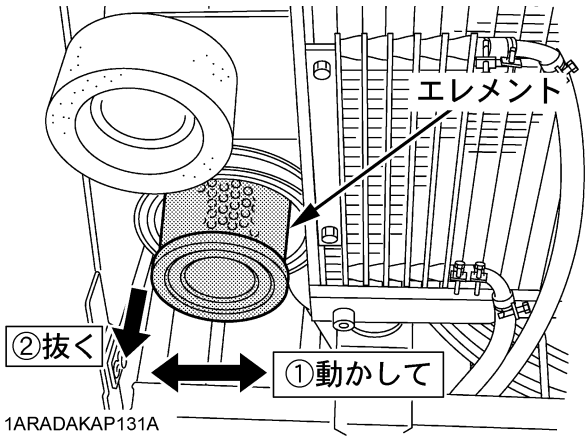
エンジンルームをオープンした後，上，下２箇所の止め金具を外してダストカップを取外してください。ダストカップ内側のゴミはバキュエータバルブをつまんで取除いてください。





◆ 点検・掃除・交換

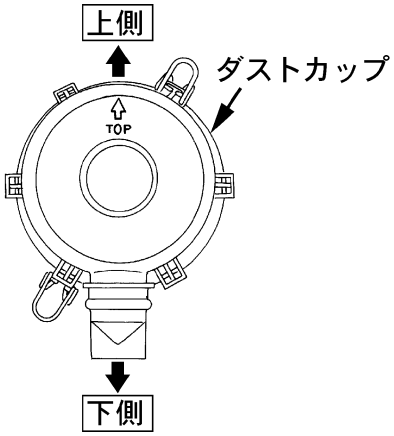
エレメントの点検を行ない，掃除又は，交換を行なってください。エレメントの掃除は，エレメントの内側から空気を吹きつけるか，又は軽く振ってゴミを取除いてください。汚れのひどい場合や300時間経過しているときは，交換してください。エレメントを取外すときは，エレメントを上下，左右に動かして，ポンという音がしたら抜取ります。



1ARADAKAP131A

重　要

＊ 高性能サイクロン併用乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。
＊ エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると，エンジンの出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。点検は運転前に欠かさず行なってください。
＊ エレメントは傷がつかないように取扱ってください。特に掃除時は，たたいたり固い物に当てて変形させるとエンジンの故障の原因となりますのでしないでください。
＊ エレメントを取付けたあと，ダストカップの取付け方向に注意してください。
＊ ダストカップを取付けるときは，傾かないように取付けてください。傾いた状態で取付けるとすき間からほこりが侵入してエンジンの故障の原因となります。



1ARADAKAP093B

＊ エレメントを掃除する場合，エアの圧力は0.69Mpa(7.0kgf/cm²)をこえないよう注意し，エアガンのノズルとエレメントの間は適当にあけてください。
また，エアはエレメントの内側から外側に通してください。
＊ カーボンや油分が付着しているときは，クボタ指定の純正エレメント洗浄剤で洗浄してください。

補　足

＊ エレメント洗浄剤
ND-1500（品番：15221-8665-1）

■パイプ･ホース類の点検･交換

注　意

＊ 運転中ラジエータホースが外れると熱湯が吹き出し，ヤケドをするおそれがあります。
＊ 燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起し火災の原因となります。

◆ 点検

エンジン，エアクリーナ，ラジエータ，燃料タンク各部にある各パイプやホースを点検し，油もれや水もれが発生しているときは，パイプやホースの交換やバンドを締付けてください。

重　要

＊ オイルドレーンゴムホースが破損していると，エンジンが焼付を起します。
＊ 油もれや水もれをしていなくても，**２年経過しているときや劣化の激しい場合**は交換してください。

◆ 交換

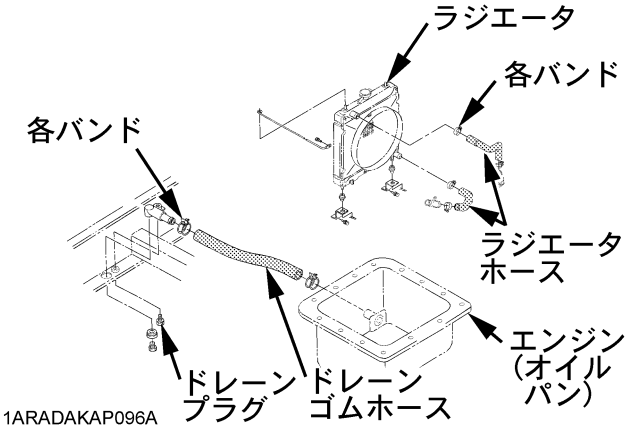
交換時の取付け不良やバンドの締付忘れ，締付不足がないよう取付けてください。

重　要

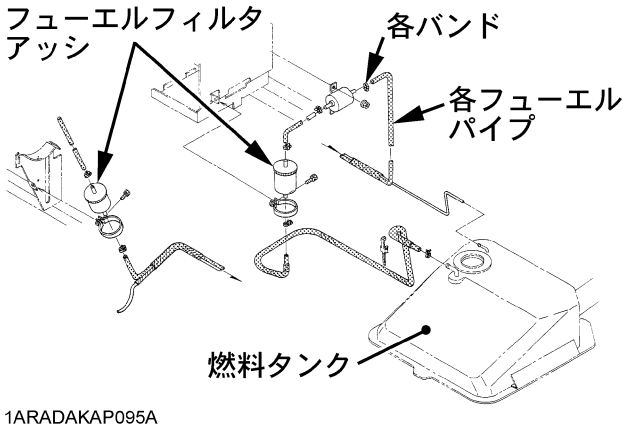
＊ 交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。

補　足

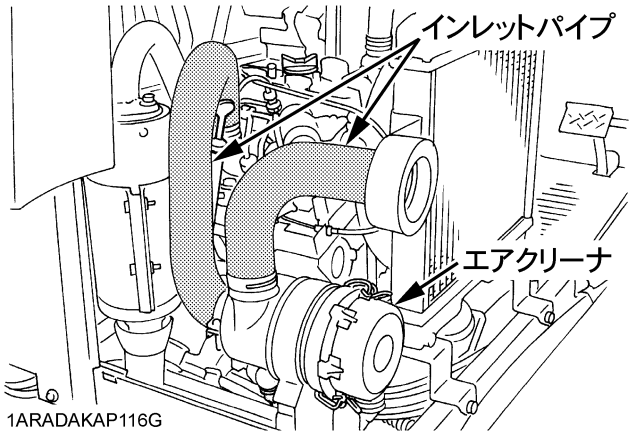
＊ 交換を行なうときは，購入先に連絡してください。
＊ フューエルパイプ交換後は，スイッチキーを**［入］**位置にすると約 5 ～ 10 秒で自動的にエア抜きされます。



1ARADAKAP096A



1ARADAKAP095A



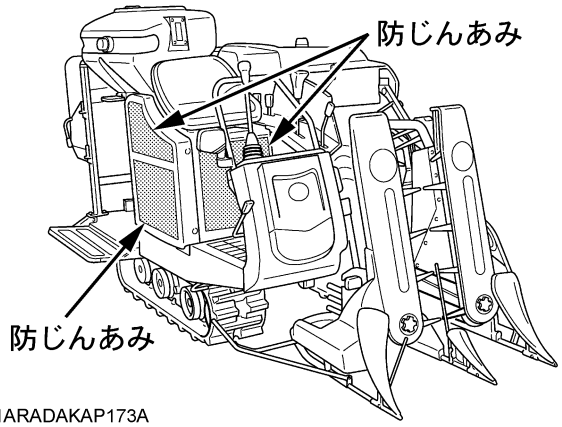
1ARADAKAP116G

■防じんあみ，ラジエータフィン・オイルクーラフィンの掃除

◆ 掃除

エンジンルームをオープンしたあと，圧縮空気を使用するなどして防じんあみやラジエータ部及びエンジンに付着しているゴミなどを掃除してください。

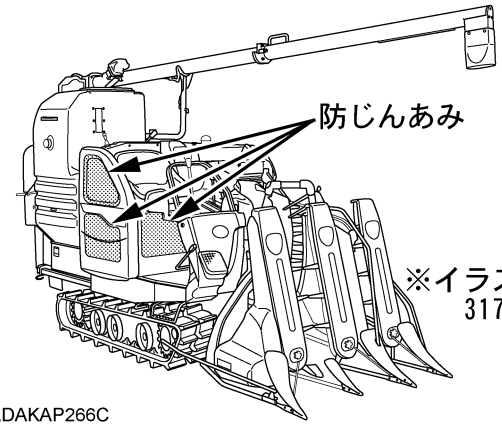
[ホッパ仕様]



1ARADAKAP173A

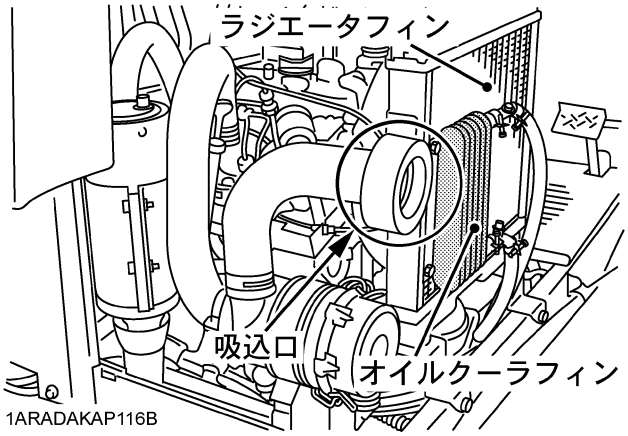
[ホッパ仕様]

[G 仕様]



1ARADAKAP266C

[G 仕様]



1ARADAKAP116B

重　要

＊ ヘラやドライバなど固いものや高圧洗車機を使用して，ラジエータフィンやオイルクーラは掃除しないでください。ラジエータフィンを傷め，ラジエータの機能を低下させる原因になります。

＊ エアクリーナの吸入口から水が入ると，エンジンの不調又は，故障の原因となりますので，水が入らないように吸入口を水を通さないもので覆ってください。

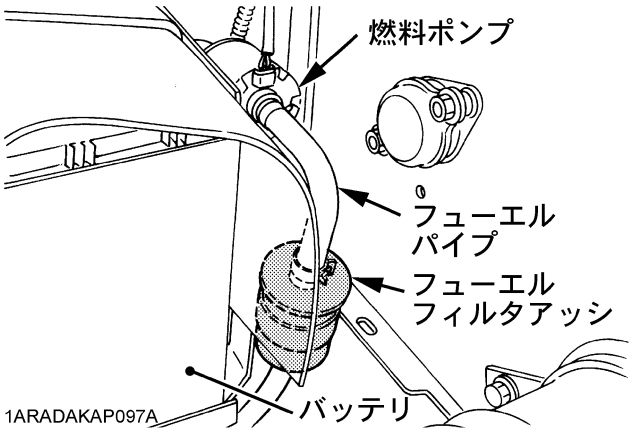
補　足

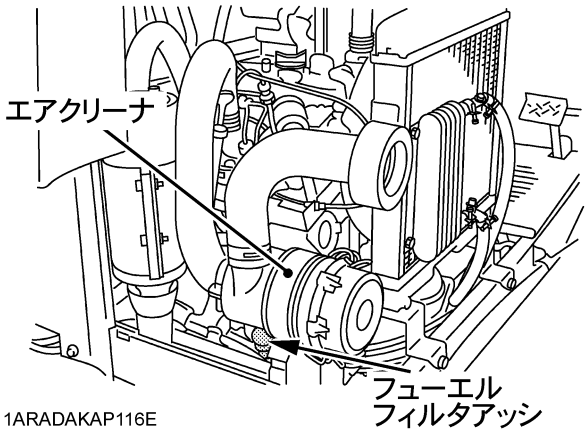
＊ ラジエータフィンのほこりが取れにくい場合は，オイルクーラを取外してから掃除してください。

■フューエルフィルタアッシの交換

◆ 交換

運転時間が 200 時間ごとにフューエルフィルタアッシを交換してください。フューエルフィルタアッシはバッテリの後側とエアクリーナの下側にそれぞれあります。





重　要

＊ フィルタ下部に水が溜まっているときは，早目に交換してください。

＊ 燃料タンクにゴミなどの異物や水が混入すると，フィルタの目詰まりが早くなったり，フィルタ内に水が溜まりやすくなりエンジンの故障の原因となります。

補　足

＊ 交換後は，スイッチキーを**【入】**位置にすると約 5 ～ 10 秒で自動的にエア抜きされます。

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

２回目のエンジンオイルの交換(121 ページ参照)と同時に交換してください。交換するときは，エンジンルームをオープンしてください。

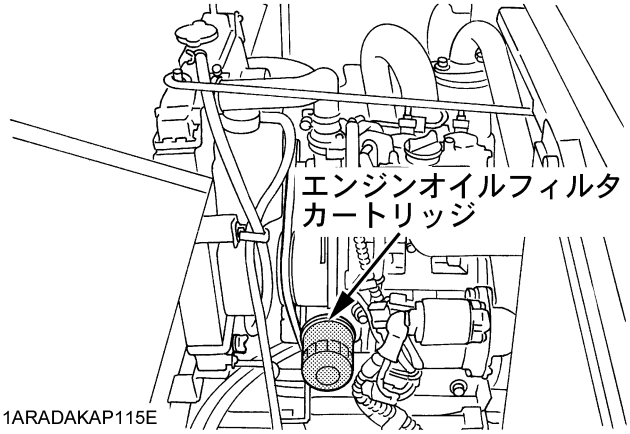
◆ 交換

1. 専用工具を使ってカートリッジを取外します。

補　足

＊ 取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

2. 新しいフィルタカートリッジを取付けます。
3. オイルゲージの上限線までオイルを補給したあと，５分程度エンジンを運転して各部及び油圧（オイルランプ）に異常がないことを確認してから，エンジンを止め，再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確めておいてください。



重　要

＊ 新しいカートリッジは 0 リングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。
＊ エンジンオイルフィルタカートリッジを交換するときに，ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり，エンジンの故障の原因となります。

補　足

＊ オイルフィルタカートリッジを交換すると，オイルフィルタカートリッジに入る量だけエンジンオイルの油面が下がります。

■ミッション・HST オイルフィルタカートリッジの交換・ミッションオイルフィルタの洗浄・交換

警　告

＊ 平たんな場所で刈取部を最下降位置にしてください。

ミッション・HST オイルフィルタカートリッジの交換とミッションオイルフィルタの洗浄又は，交換は同時に行なってください。

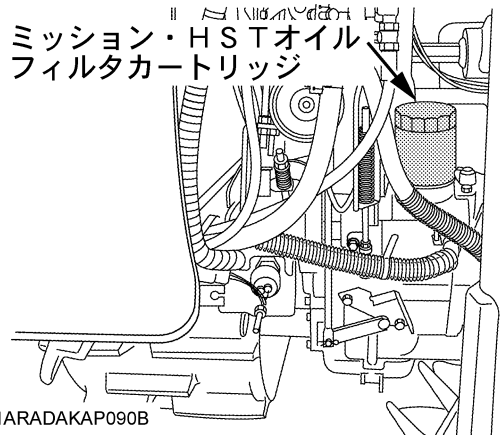
◆ 交換

1. 刈取部を下降します。
2. ミッションオイルを排出します。
（122 ページ参照）
3. 専用工具を使ってミッション･HST オイルフィルタカートリッジを取外します。

補　足

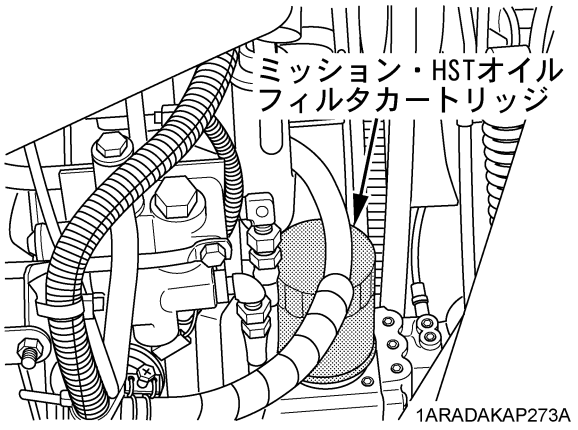
＊ 取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。
＊ ミッション・HST オイルフィルタカートリッジを取外すとき，少しゆるめたあと，左・右に４～５回程度動かして，オイル抜きを行なってください。

[211・213・216・217]



[211・213・216・217]

[317]



[317]

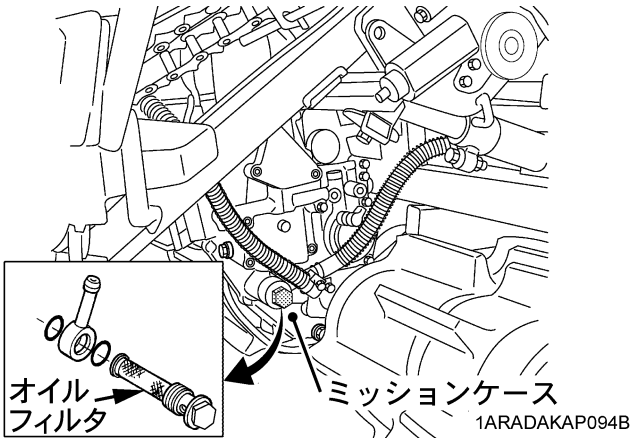
4. 新しいフィルタカートリッジを取付けます。

重　要

＊ 新しいカートリッジはOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。
＊ オイルフィルタカートリッジを交換するときに，ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり，ミッションや HST の故障の原因となります。

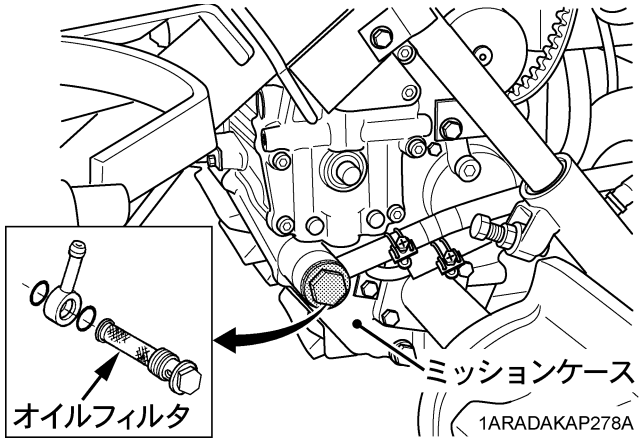
5. オイルフィルタ（ボルト部一体型）を取外します。
6. 新しいオイルフィルタを取付けます。

[211・213・216・217]



[211・213・216・217]

[317]



[317]

重　要

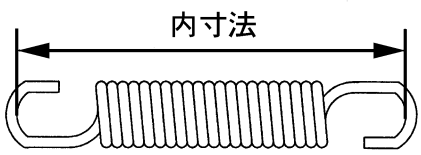
＊ 給油したあとエンジンを約 1 分間以上負荷をかけずに回転させて，再度点検を行ない検油口からオイルが出るまでオイルを追加補給してください。

7. 122 ページを参照し，オイルを規定量給油します。

■各部ワイヤ・ロッドの点検・調整

補　足

＊ スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。

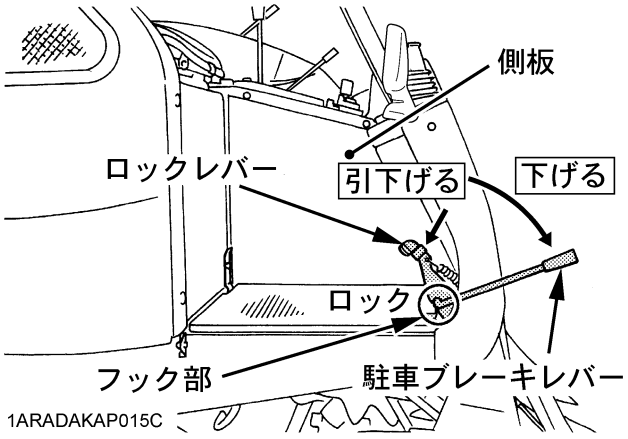


1ARADAFAP214A

■駐車ブレーキ

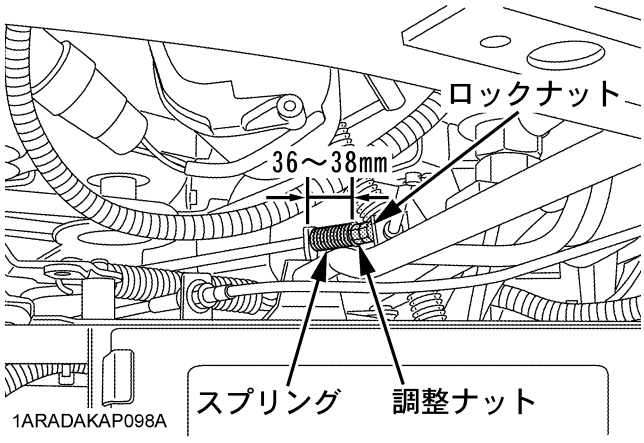
駐車ブレーキレバーをフック部にかけた状態で，スプリングの長さを 36 ～ 38mm **[211・213・216・217]**，31 ～ 33mm **[317]** に調整します。

1. エンジンルームをオープンしたあと，ステップ左側の側板を取外します。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
3. ロックナットを締付けたあと，側板を取付けてエンジンルームを閉じます。
4. 調整後，駐車ブレーキが正常に作動するか再確認します。



1ARADAKAP015C

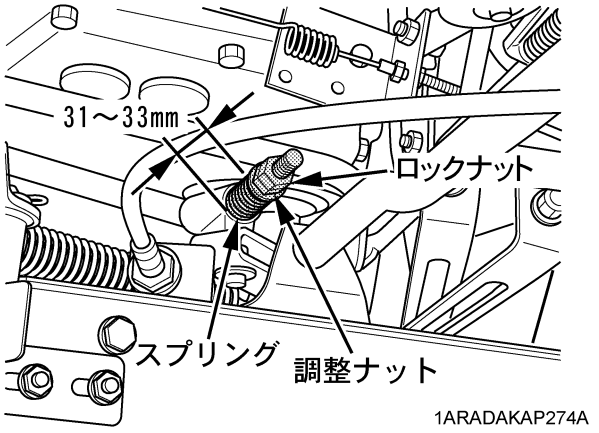
[211・213・216・217]



1ARADAKAP098A

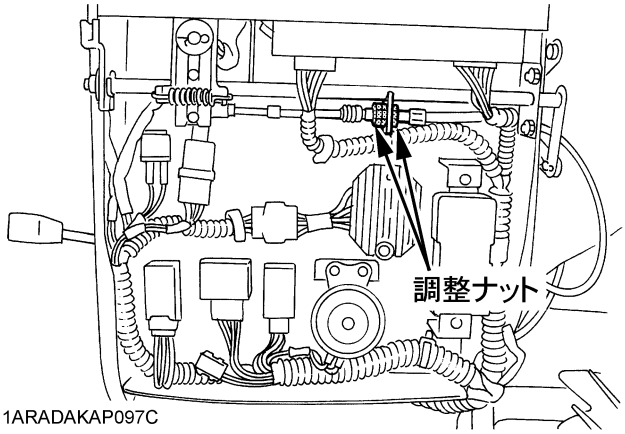
[211・213・216・217]

[317]



[317]

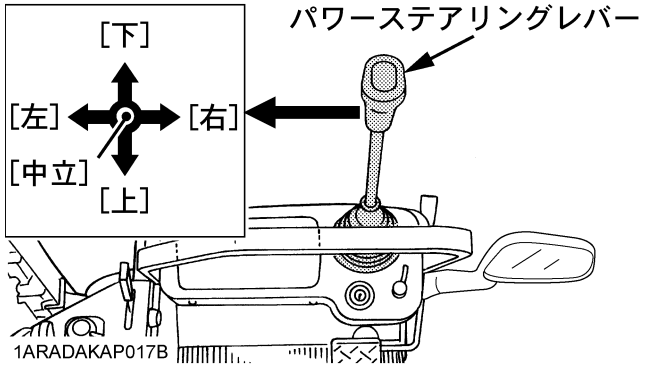
[211・213・216・217]



[211・213・216・217]

5. ミッションオイルを給油します。

■パワーステアリングレバーの点検・調整

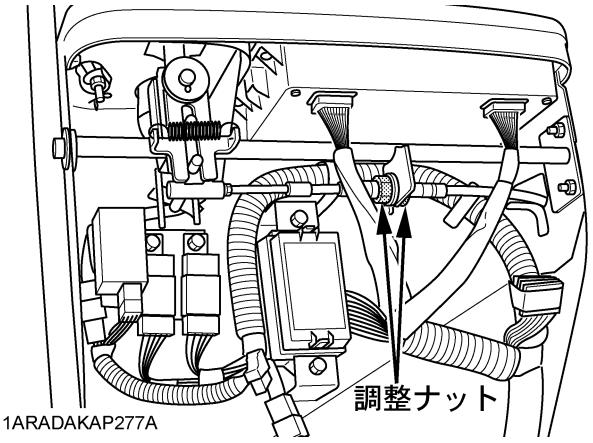


● 操行操作（サイドクラッチ）

パワーステアリングレバーが［ **中立** ］位置のとき，直進性が悪いときは調整してください。

1. フロントカバーを取外します。
2. 調整ナット２個をゆるめて調整を行います。
3. 調整ナットを締付けたあと，側板を取付けてエンジンルームを閉じます。
4. フロントカバーを取付けます。

[317]



[317]

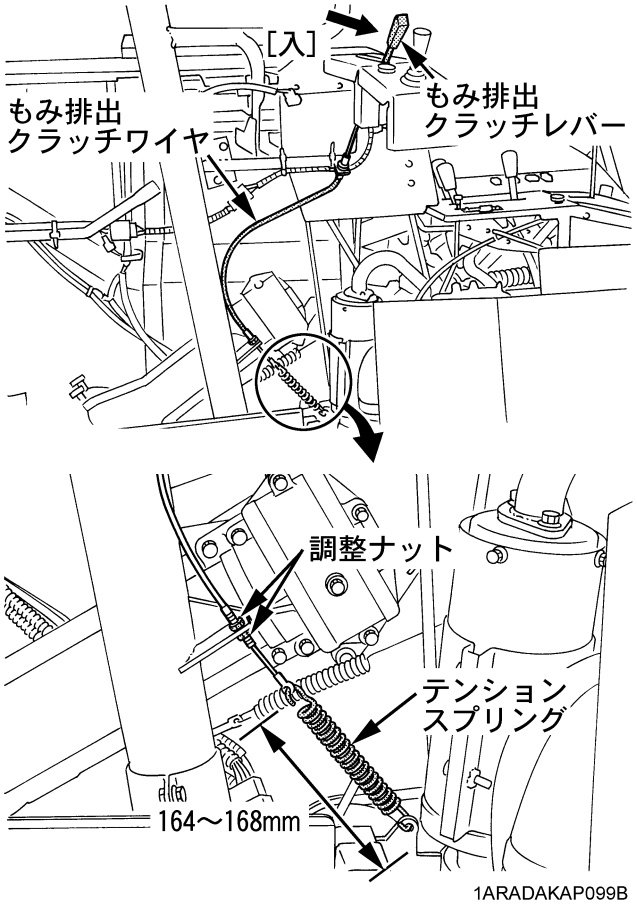
■もみ排出クラッチワイヤ

[G 仕様]

◆ 点検・調整

もみ排出クラッチレバーが［入］位置の状態で，テンションスプリングの長さを164～168㎜に調整します。

1. グレンタンクを取外します。(97 ページ参照)
2. もみ排出クラッチレバーを［入］位置にしたあと，調整ナット２個をゆるめて調整を行います。
3. 調整ナット２個を締付けたあと，グレンタンクを取付けます。

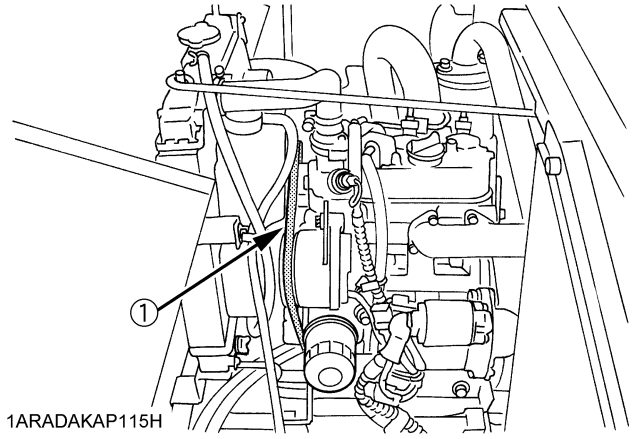


[G 仕様]

■各部ベルトの点検･調整

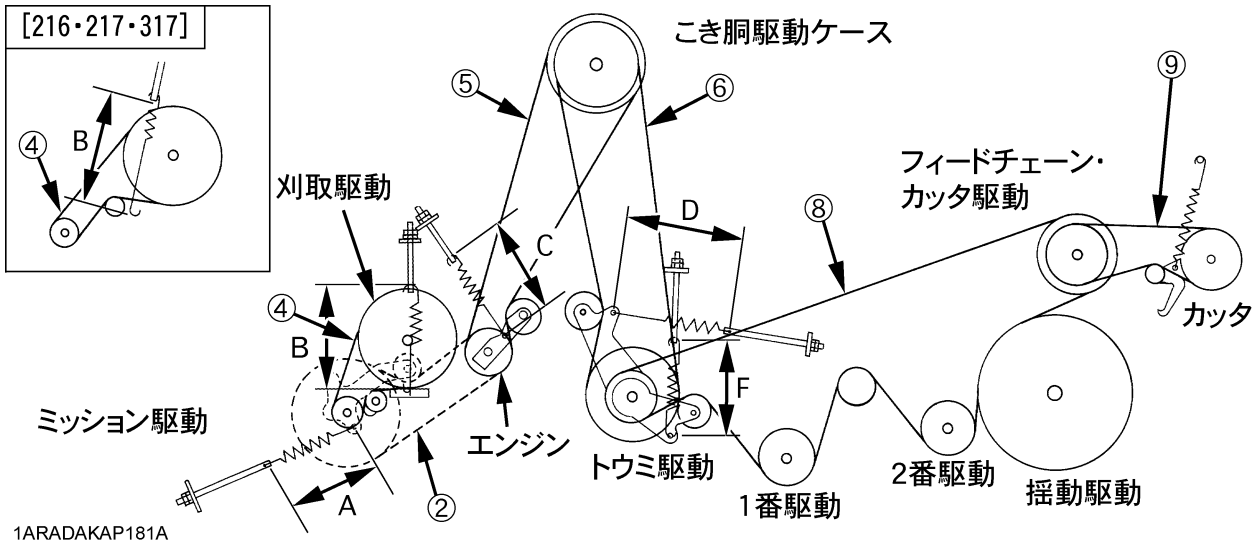
下表を参照して，各部ベルトの張り調整を行なってください。

点検個所	図番	名称	適応機種	サイズ	本数（本／台）	張り調整		
						※テンションスプリング取付け長さ（mm）		たわみ量（mm）
運転席・刈取部周辺	①	ファン駆動ベルト	211・213	A34.5 ブイベルト	1	－		5 ～ 10
			216・217・317	A35.0 ブイベルト				
	②	走行（ミッション）駆動ベルト	211	特 B38	1	A	203 ～ 207	－
			213・216・217	特 B39				
			317	特 B50			208 ～ 212	
	③	補助搬送（突起付）ベルト	211・213・216・217	－	2	－		3 ～ 6
			317		3			
	④	刈取駆動ベルト	211・213	特 A35	1	B	182 ～ 188	－
			213SLW・216・217	特 A34				
			216SLW	特 A33				
			317	特 B46 コグ			162 ～ 168	
脱こく部・カッタ部周辺	⑤	脱こく駆動ベルト	211	特 B76	1	C	206 ～ 210	－
			213・216・217	特 C76			208 ～ 214	
			317	特 C77				
	⑥	トウミ駆動ベルト	全機種	特 B76	1	D	245 ～ 250	－
	⑦	こぎ胴駆動ベルト	211	特 C50	1	E	125 ～ 130	－
			213・216・217・317	特 B50				
	⑧	１番・２番・揺動・フィードチェーン駆動ベルト	全機種	特 B108	1	F	145 ～ 150	－
	⑨	カッタ駆動ベルト	全機種	特 B39	1	スプリングの掛け換え		－
グレンタンク部	⑩	グレンタンク駆動ベルト	213・216・217G 仕様	特 A40	1	G	164 ～ 168	－
			317	特 A43				－



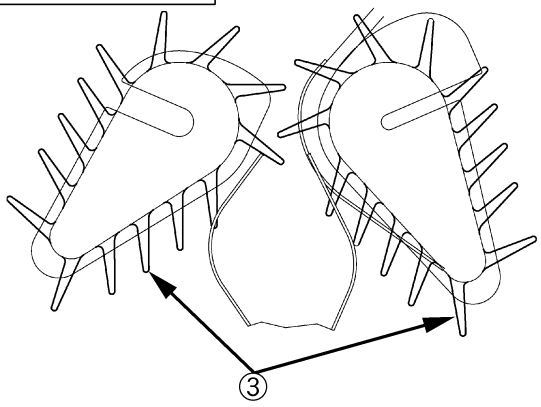
1ARADAKAP115H

[216・217・317]



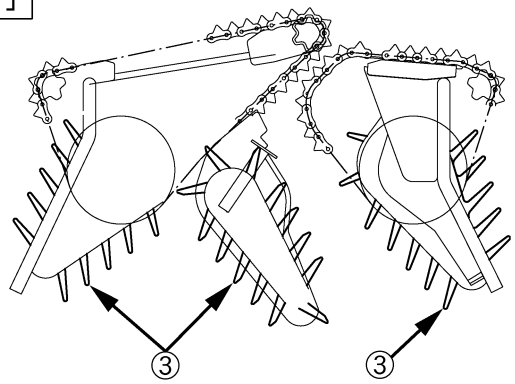
1ARADAKAP181A

[211・213・216・217]



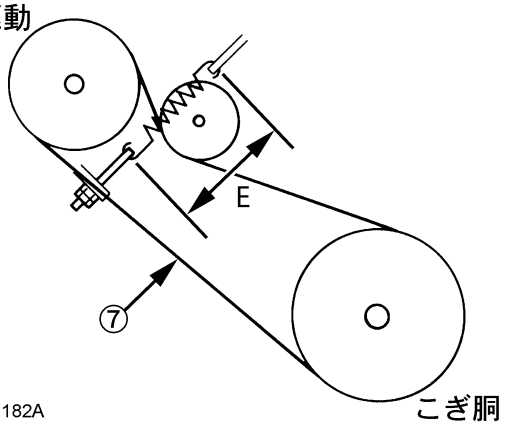
1ARADAFAP246C

[317]



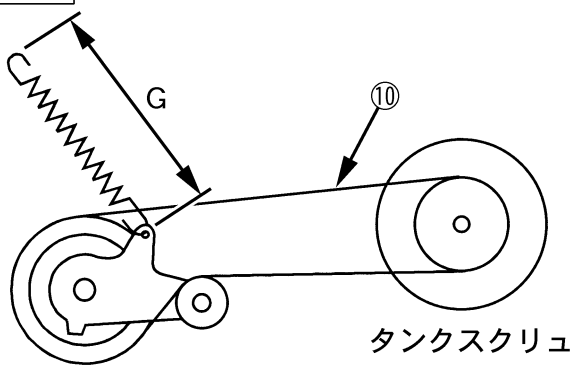
1ARADAFAP247C

こぎ胴駆動



1ARADAKAP182A

[G仕様]

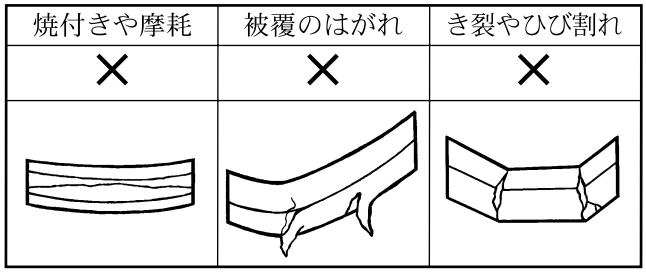


1ARADAKAP184A

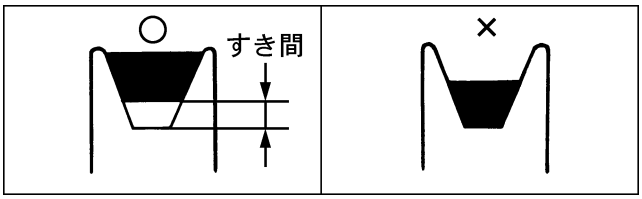
◆ 点検

各部のベルトを点検するときは，下記の事項をよく確認してください。

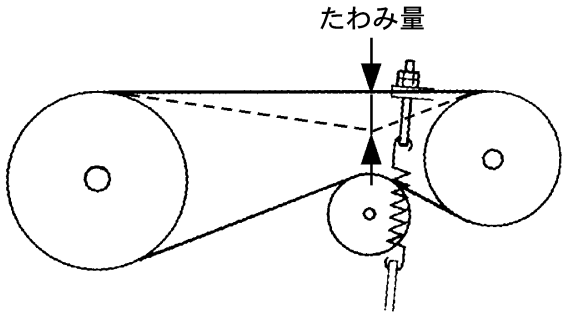
1. ベルトの焼付きや摩耗，被覆のはがれ，き裂やひび割れ



2. ベルトの底部とプーリ溝部のすき間



3. ベルトの伸び（たわみ量）



1AEADAFAP441A

上記の事項を確認したとき，異常があればベルト交換又は，ベルトの張り調整を行なってください。ベルトの交換は購入先へ連絡して行なってください。

重　要

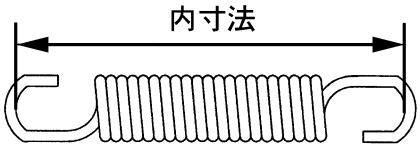
＊ ベルトは必ずクボタ純正品を使用してください。

◆ 調整

ベルトが伸びているとき（スリップが発生しやすい）は，張り調整を行なってください。

補　足

＊ スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。

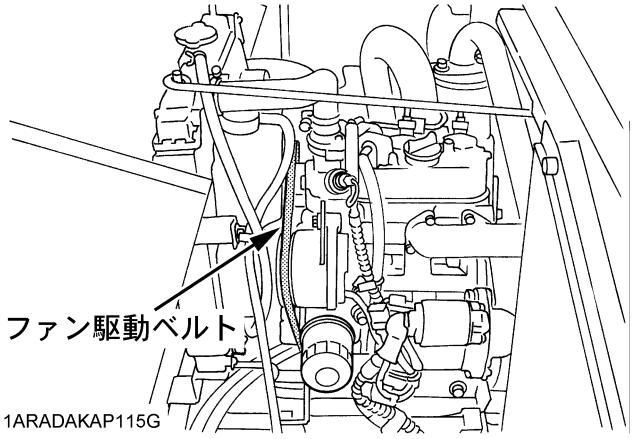


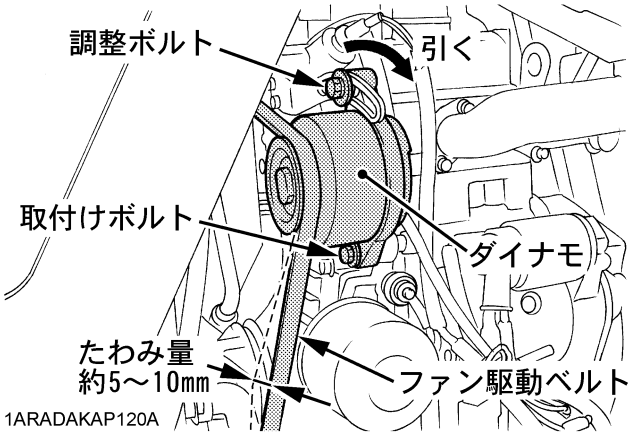
1ARADAFAP214A

■ファン駆動ベルト

指先でベルトの中央部を押したとき(約 60 ～ 70N {6 ～ 7kg} の荷重) のたわみ量を 5 ～ 10mm に調整します。

1. エンジンルームをオープンします。
2. ダイナモの取付けボルトと調整ボルトをゆるめます。
3. ダイナモを引っ張ります。
4. 調整ボルトを締付けたあと取付けボルトを締付けます。



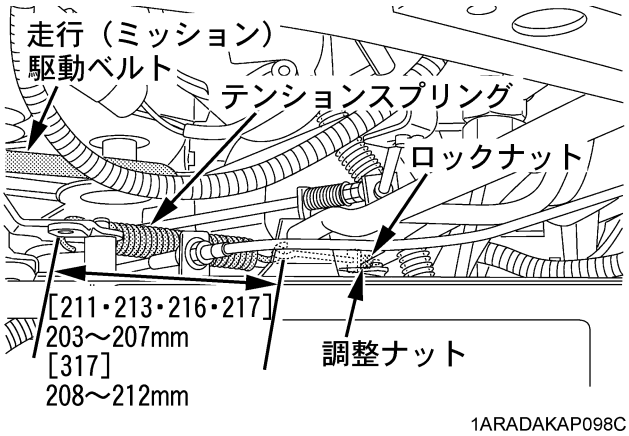


5. エンジンルームを閉じます。

■走行（ミッション）駆動ベルト

テンションスプリングの長さを203～207mm**[211・213・216・217]**, 208 ～ 212mm**[317]**に調整します。

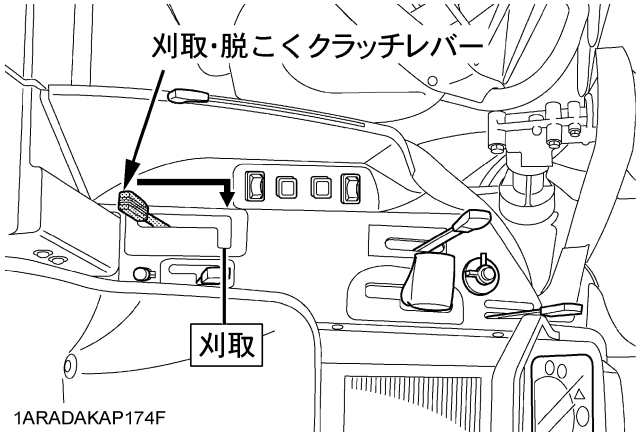
1. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
2. ロックナットを締付けます。



■刈取駆動ベルト

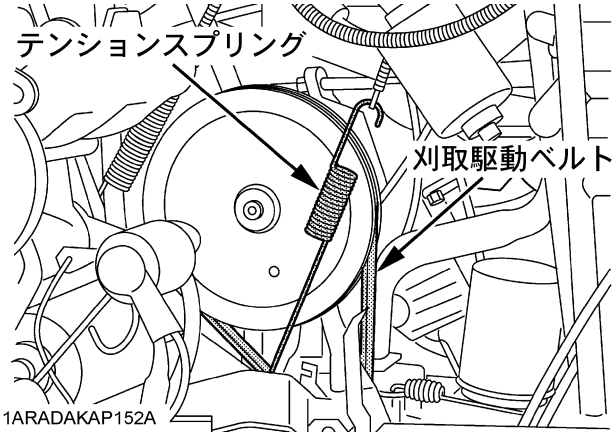
テンションスプリングの長さを182～188mm**[211・213・216・217]**, 162 ～ 168mm**[317]**に調整します。

1. 脱こく・刈取クラッチレバーを **[刈取]** 位置にします。
2. エンジンルームをオープンしたあと，ステップ左側の側板を開きます。
3. スイッチキーを **[入]** 位置にしたあと、主変速レバーを前進側に操作すると、テンションスプリングが張ります。
4. 調整ナット２個をゆるめて，調整を行ないます。
5. 主変速レバーを **[中立]** 位置にしたあと、スイッチキーを **[切]** 位置にします。
6. 調整ナットを締付けたあと，側板を閉じてエンジンルームを閉じます。

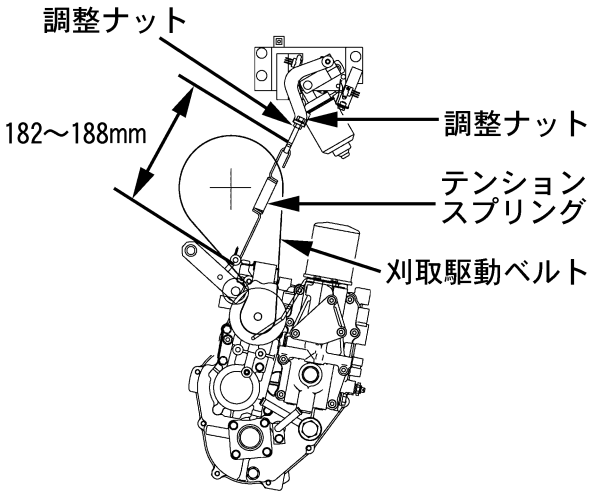


1ARADAKAP174F

[211・213・216・217]



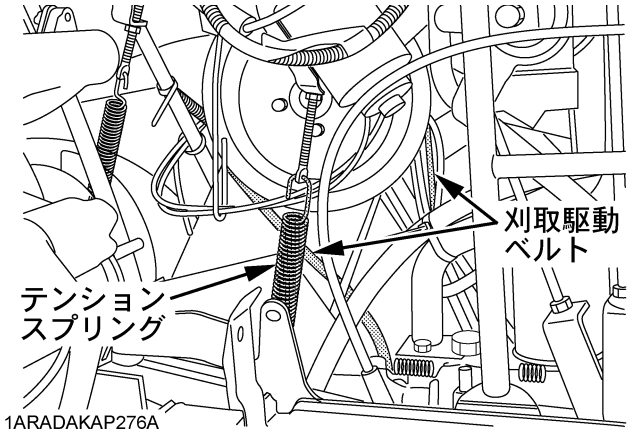
1ARADAKAP152A



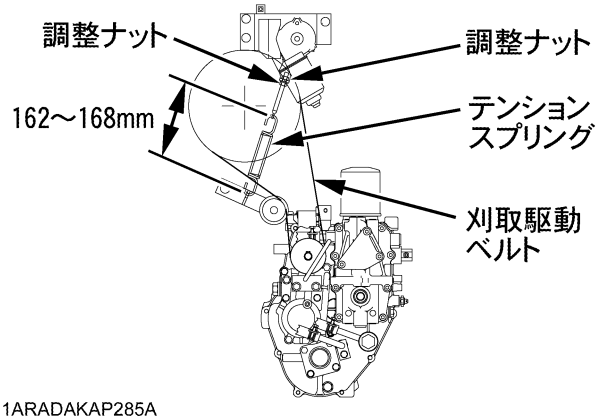
1ARADAKAP209A

[211・213・216・217]

[317]



1ARADAKAP276A



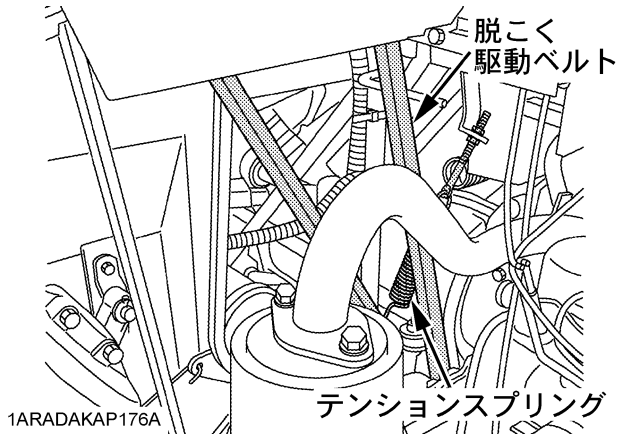
1ARADAKAP285A

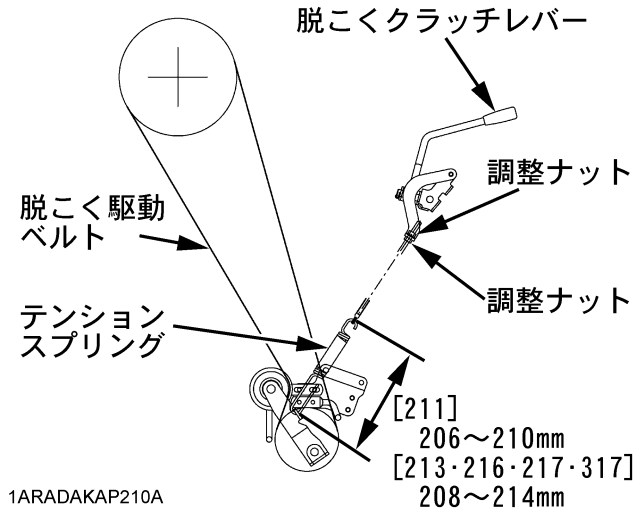
[317]

■脱こく駆動ベルト

テンションスプリングの長さを，
206 ～ 210mm**[211]**，210 ～ 214mm**[213・216・217・317]** に調整します。

1. 刈取・脱こくクラッチレバーを **[脱こく]** 位置にします。
2. エンジンルームをオープンします。
3. 調整ナット２個をゆるめて調整を行ないます。
4. 調整ナットを締付けます。
5. エンジンルームを閉じます。





■トウミ駆動ベルト

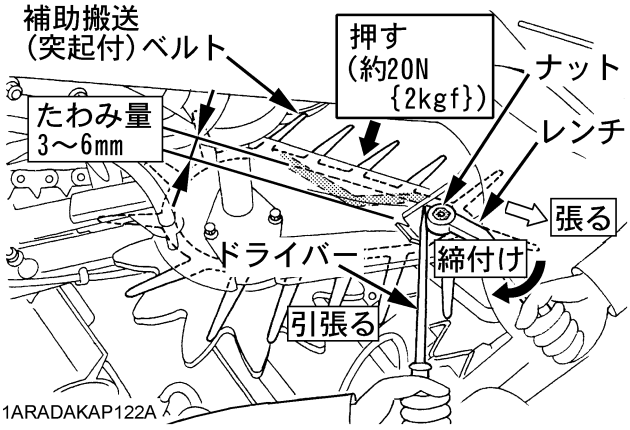
テンションスプリングの長さを 245 ～ 250mm に調整します。

1. プレートをはさんだ調整ナット２個をゆるめて，調整を行ないます。
2. 調整ナットを締付けます。

■補助搬送（突起付）ベルト

指先でベルトの中央部を引いたとき（約 20N{ 2 kg} の荷重）のたわみ量を３～６ mm に調整します。

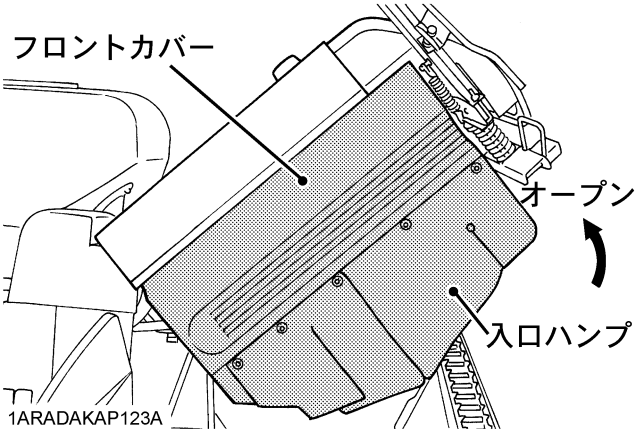
1. 引起しサイドカバー右・左を取外します。
2. ナットをゆるめます。
3. 下図のように固い棒（鉄の棒など）を切欠き部に差込み，張り方向に押しながらレンチでナットを締付けます。
4. 引起しサイドカバー右・左を取付けます。

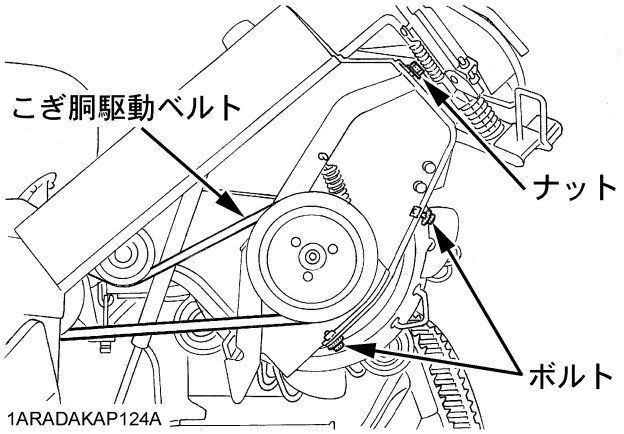


■こぎ胴駆動ベルト

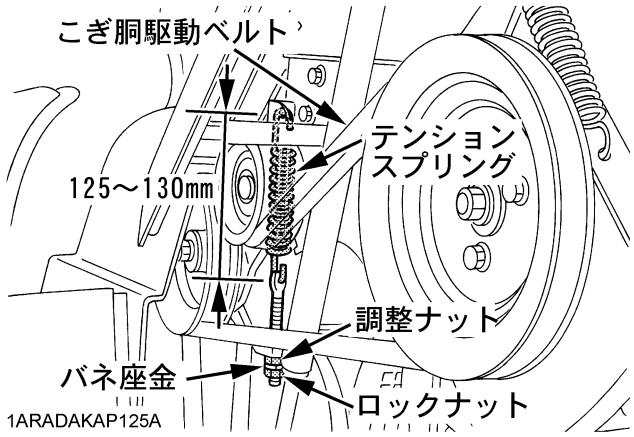
テンションスプリングの長さを125～130㎜に調整します。

1. こぎ胴をオープンします。
2. ボルト２本とナット１個をゆるめたあと，フロントカバー（入口ハンプと一体）を取外します。





3. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
4. ロックナットを締付けたあと，フロントカバーを取付けてこぎ胴を閉じます。



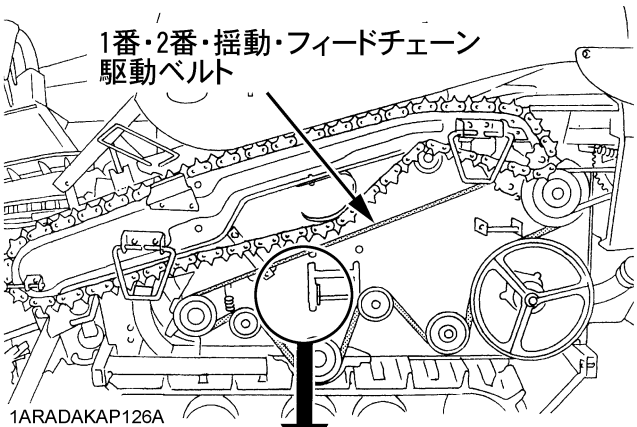
補　足

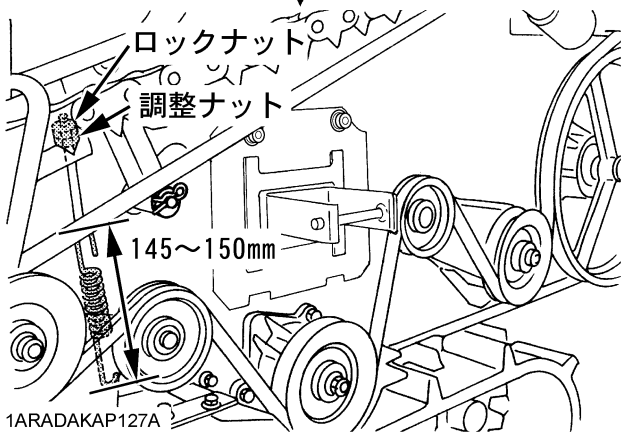
＊ 調整ナットとロックナットを締付けたあと，バネ座金のスキマがなくなっていることを確認してください。

■１番・２番・揺動・フィードチェーン駆動ベルト

テンションスプリングの長さを145～150㎜に調整します。

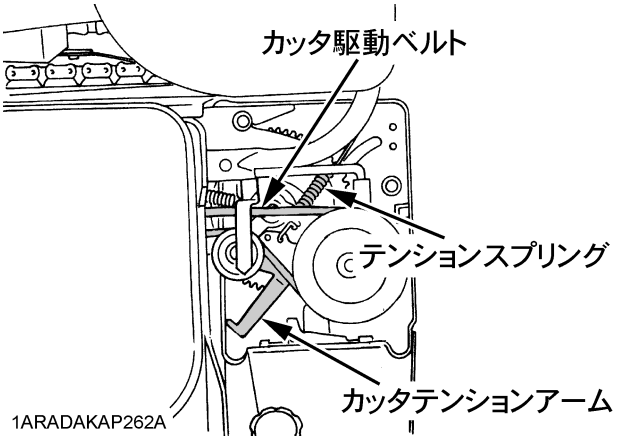
1. 左サイドカバー上・下を取外します。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
3. ロックナットを締付けたあと，左サイドカバー上・下を取付けます。

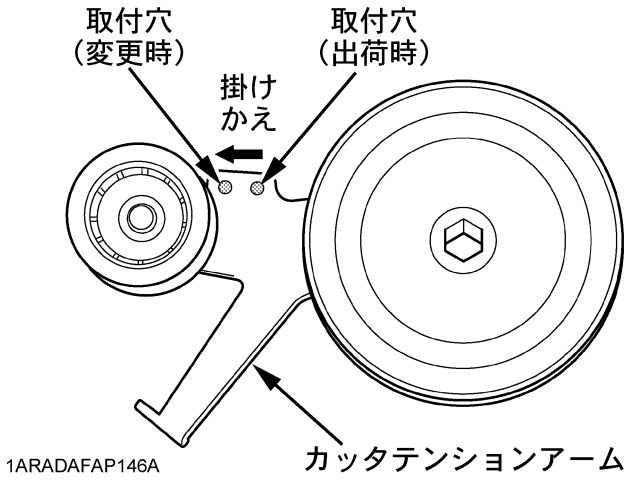




■カッタ駆動ベルト

ベルトの張りが弱いときは, テンションスプリングを取付けているカッタテンションアーム側の取付穴の位置を変更（掛けかえ）してください。

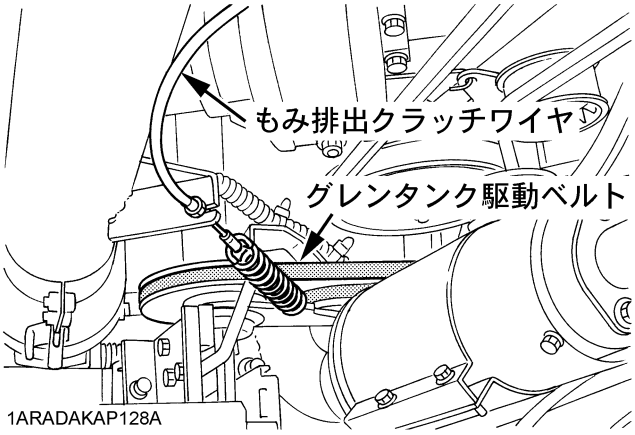




■グレンタンク駆動ベルト

[G 仕様]

グレンタンク駆動ベルトの張り調整は, もみ排出クラッチワイヤの張り調整と同じです。(135 ページ参照)



[G 仕様]

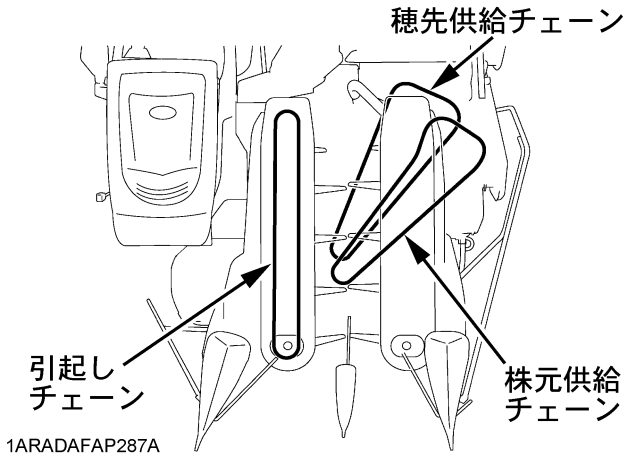
■各部チェーンの点検･調整

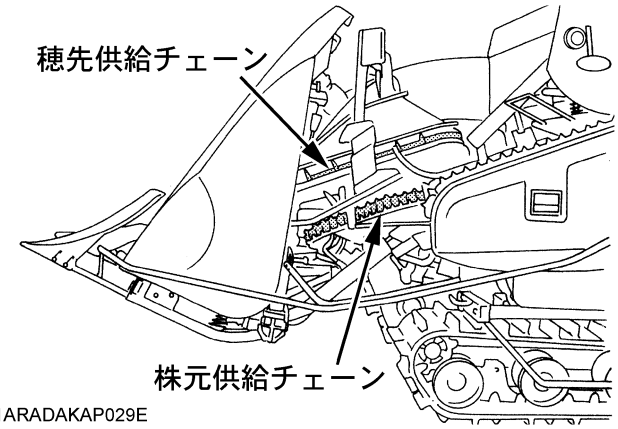
◆ 点検

各部のチェーンを点検して, ゆるみがあるときは調整してください。

● 点検箇所

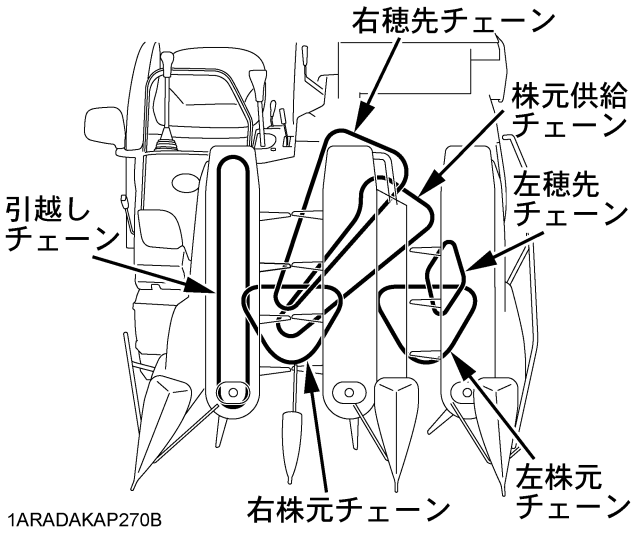
[211・213・216・217]

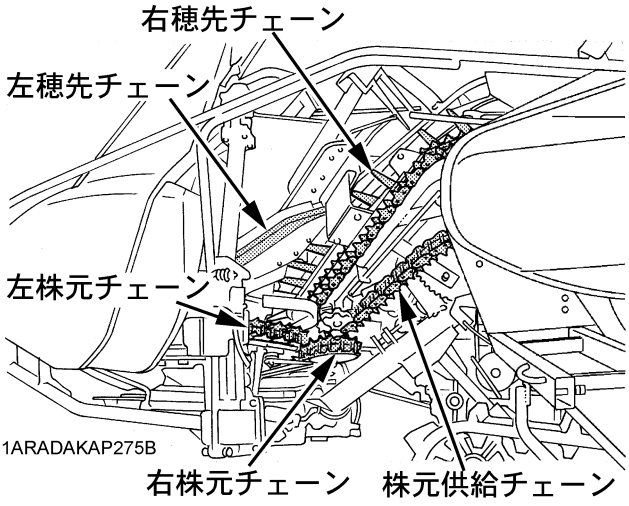




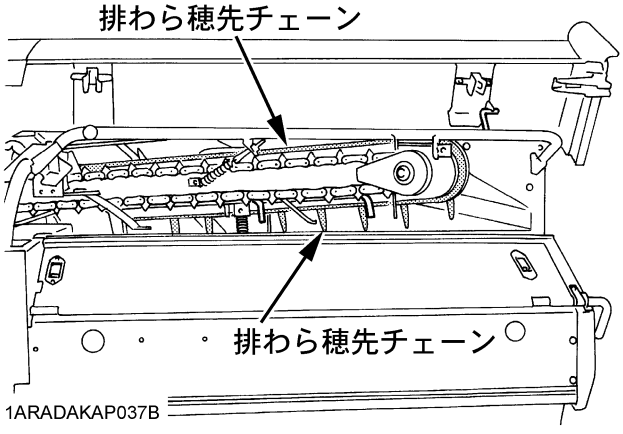
[211・213・216・217]

[317]





[317]

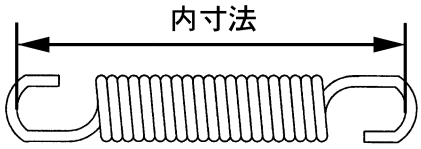


◆ 調整

チェーンが伸びているときは，張り調整を行なってください。

補　足

＊ スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。

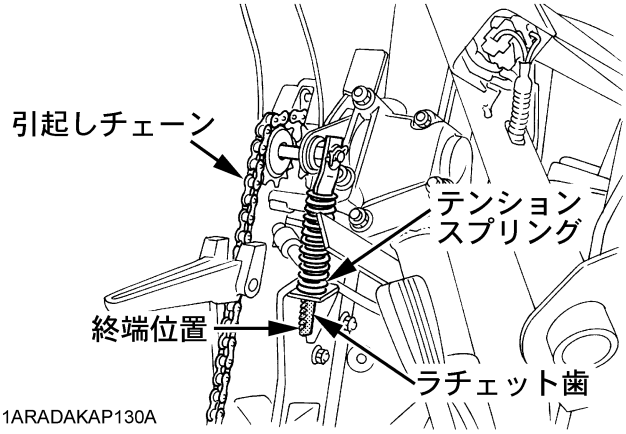


1ARADAFAP214A

■引起しチェーン

引起しチェーンの張り調整は自動（自動テンション）で行ないますが，ラチェット歯の終端位置までチェーンが伸びたときは，購入先に連絡して交換してください。点検するときは引起しカバーを取外してください。

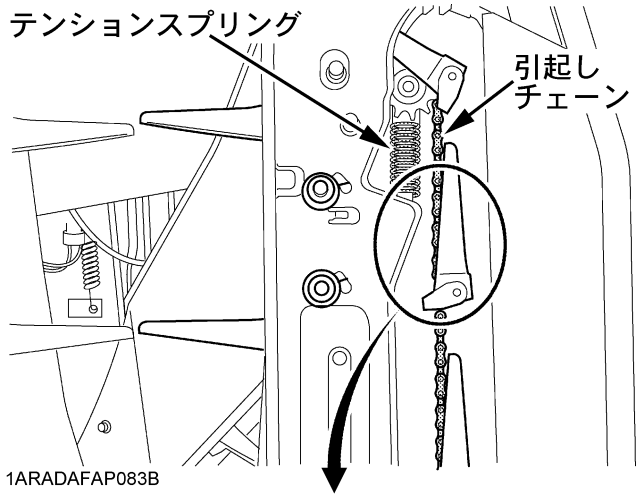
[211・213・216・217]

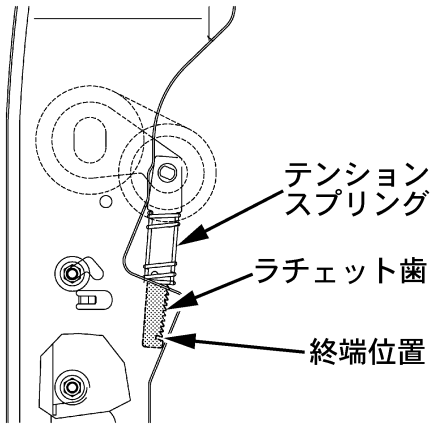


1ARADAKAP130A

[211・213・216・217]

[317]





[317]

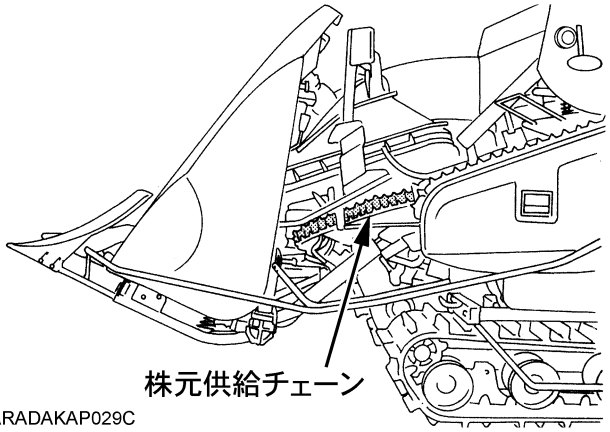
補　足

＊ チェーンが，伸びるとラチェット歯がスプリングに引張られ上昇します。

■株元供給チェーン

[211・213・216・217]

株元供給チェーンの張り調整は自動（自動テンション）で行ないますが，伸びたときは，購入先に連絡して交換してください。

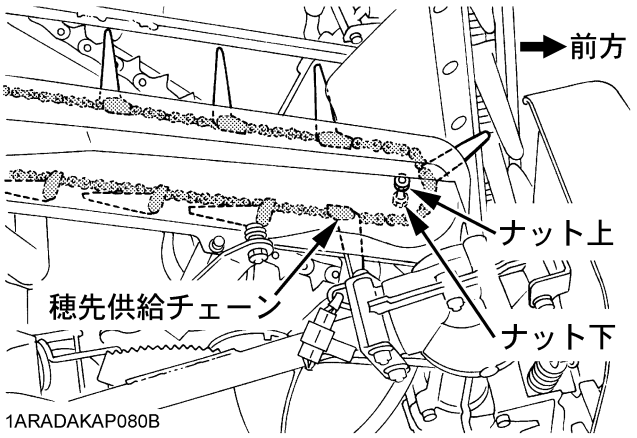


[211・213・216・217]

■穂先供給チェーン

[211・213・216・217]

定期点検のときにナット上，下をゆるめてください。自動的にチェーンが張られます。また，ナット上，下をゆるめてもチェーンが張られないときは，購入先に連絡して交換してください。

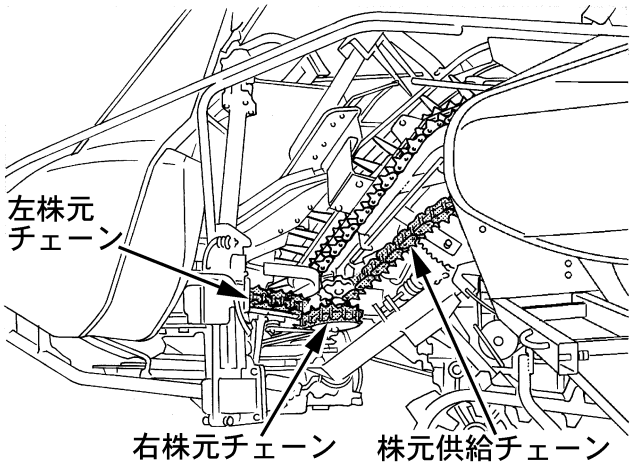


[211・213・216・217]

■左株元チェーン・右株元チェーン・株元供給チェーン

[317]

左，右株元チェーン，株元供給チェーンの張り調整は自動（自動テンション）で行ないますが，伸びたときは購入先に連絡してください。



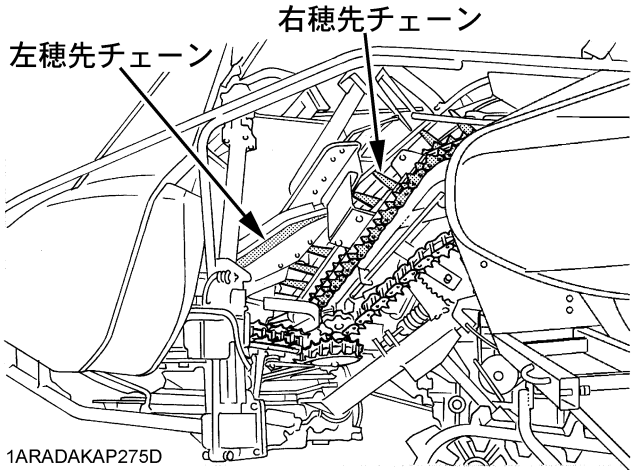
1ARADAKAP275C

[317]

■左穂先チェーン・右穂先チェーン

[317]

自動テンションになっていますがチェーンが伸びたときは，購入先に連絡してください。



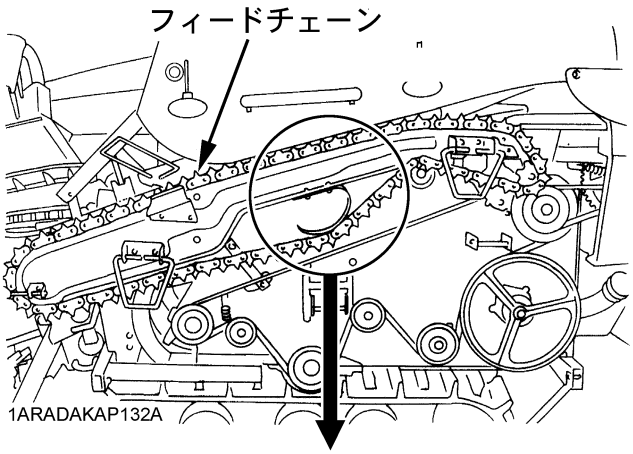
1ARADAKAP275D

[317]

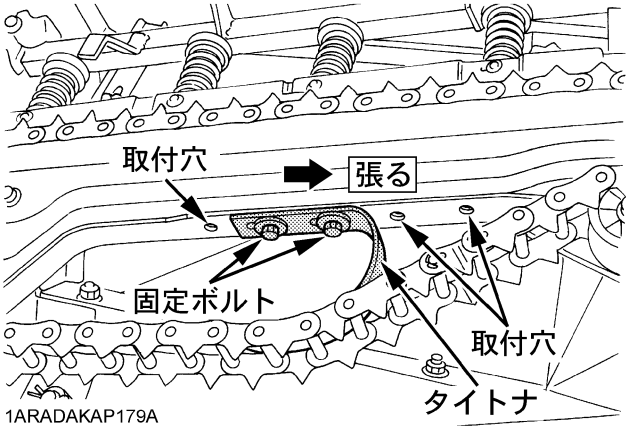
■フィードチェーン

タイトナを動かしてチェーンを張ってください。

1. 左サイドカバー上，下を取外します。
2. タイトナの固定ボルトを２本をゆるめます。
3. 張り方向へ引張ります。
4. 固定ボルト２本を締付けたあと，左サイドカバー上，下を取付けます。



1ARADAKAP132A



1ARADAKAP179A

補　足

＊ 長穴だけで調整ができなくなったときは，張り方向側に固定ボルトの取付穴を１穴分動かしてタイトナを取付けます。

＊ 出荷時のタイトナの取付穴位置は，**[211・213]** は前から２，３番目，**[216・217]** は前から１，２番目，**[317]** は前から３，４番目です。

■刈刃の点検・調整

[211・213・216・217]

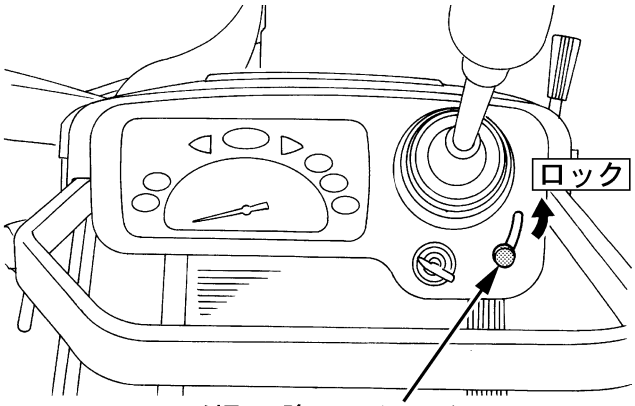
注　意

＊ 平たんな場所で刈取部を上げて，刈取下降ロックレバーを［ロック］位置にして刈取部を必ずロックし，落下防止の歯止めをしてください。
＊ 刃部に手を掛けないでください。不用意に刃が動くと危険です。
＊ 刈刃を左，右に動かすときは，刃先を持たないでください。
＊ 脱着作業は手袋をして，２人で刈刃の両端を持って行なってください。

刈刃の刃先が摩耗してきたり，欠けてくると作物の刈跡が悪くなったり，引抜きを起こすことがありますので，早目の点検・調整・交換を行なってください。

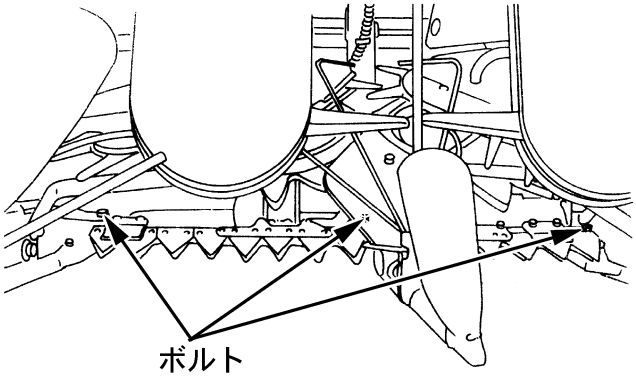
◆ 点検・取外し

1. 刈取部を上げたあと刈取下降ロックレバーを**［ロック］**位置にし，エンジンを停止します。

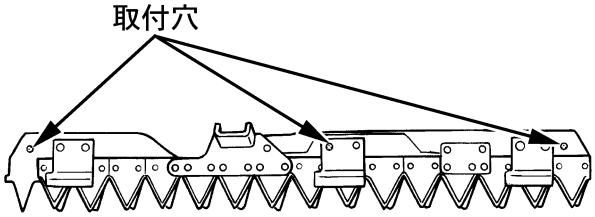


1ARADAKAP018B　刈取下降ロックレバー

2. ボルト３本を取外して刈刃全体を外します。

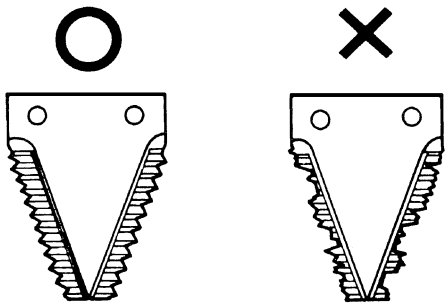


1ARADAKAP077B



1ARADAKAP133A

3. 刈刃の刃先と刈刃の動きを確認し，動きがかたいときは，注油，グリース塗布やすき間調整を行ないます。また，刃先が摩耗したり，欠けているときは購入先に連絡して交換してください。



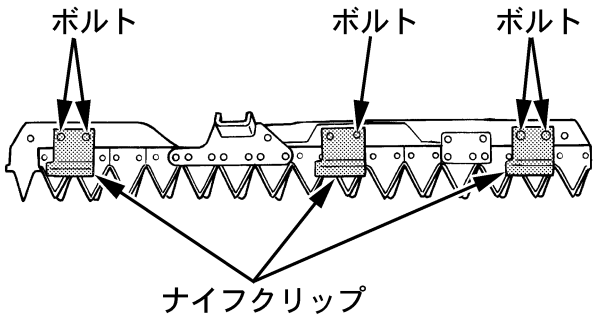
◆ すき間調整

すき間を測定するときは，すき間ゲージを使用してください。

補　足

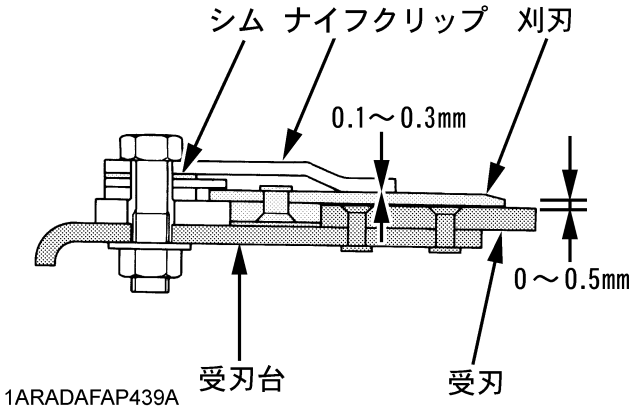
＊ 専用工具については，購入先にご相談ください。

1. ボルト・ナットを取外して各ナイフクリップ（３箇所）を受刃台から外します。

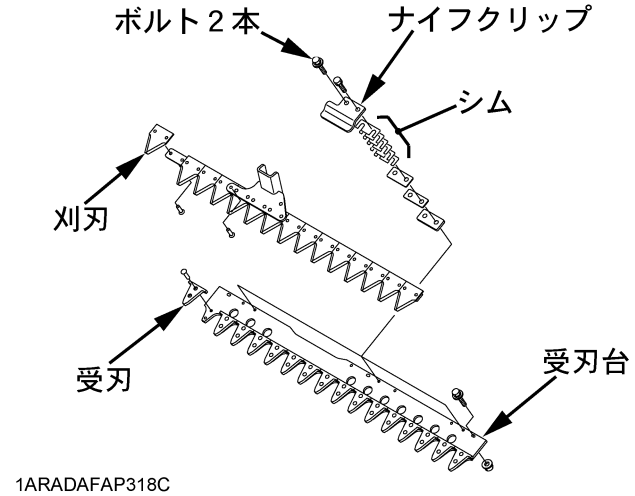


1ARADAKAP133B

2. 刈刃を取外したあと，ワイヤブラシなどで泥やさびを取除きます。
3. ナイフクリップと一緒に組付けているシムを増減して，刈刃と受刃のすき間を０～ 0.5㎜に調整します。

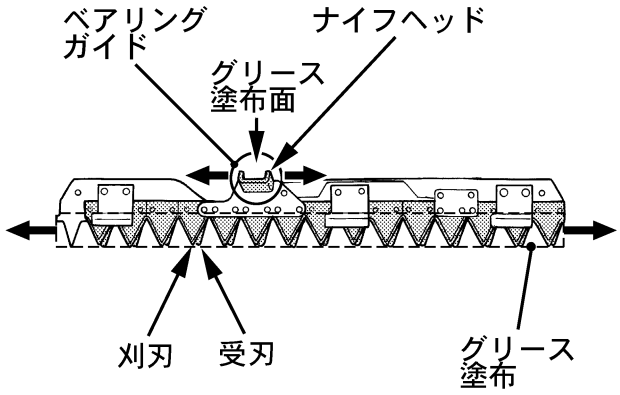


1ARADAFAP439A



1ARADAFAP318C

4. ナイフクリップ（３箇所）をボルトで締付けます。このとき，締付けたあとの刈刃とナイフクリップのすき間が 0.1 ～ 0.3㎜ になるように調整します。
5. ナイフヘッドを持ち，刈刃を左，右に動かします。動かないときは再調整を行ない，異常がなければ受刃，刈刃，ナイフヘッドのベアリングガイドにグリースを塗布します。



1ARADAKAP133C

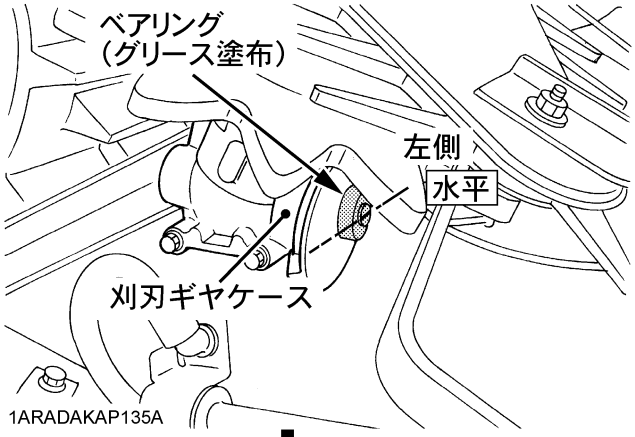
◆ 取付け

1. ナイフヘッドが取付く刈刃ギヤケースのベアリングにグリースを塗布します。

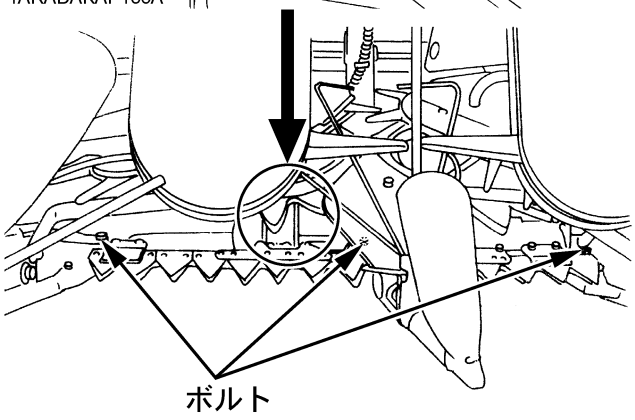
補　足

＊ ベアリングが固くて回転しないときは，ベアリングのシール部に注油して組付けてください。

2. ベアリングの位置が下図位置にあることを確認したあと，ナイフヘッドの溝にベアリングを合わせ刈刃全体をセットしてボルト３本で締付けます。



1ARADAKAP135A



1ARADAKAP077C

[211・213・216・217]

[317]

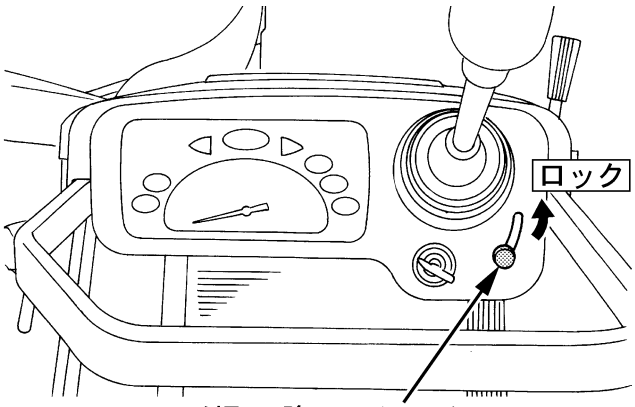
注　意

＊ 平たんな場所で刈取部を上げて，刈取り下降ロックスイッチを［ロック］位置にして刈取部を必ずロックし，落下防止の歯止めをしてください。
＊ 刃部に手を掛けないでください。不用意に歯が動くと危険です。
＊ 刈刃を左，右に動かすときは，刃先を持たないでください。
＊ 脱着作業は手袋をして，２人で刈刃の両端を持って行なってください。

刈刃の刃先が摩耗してきたり，欠けてくると作物の刈跡が悪くなったり，引抜きを起こすことがありますので，早目の点検・調整・交換を行なってください。

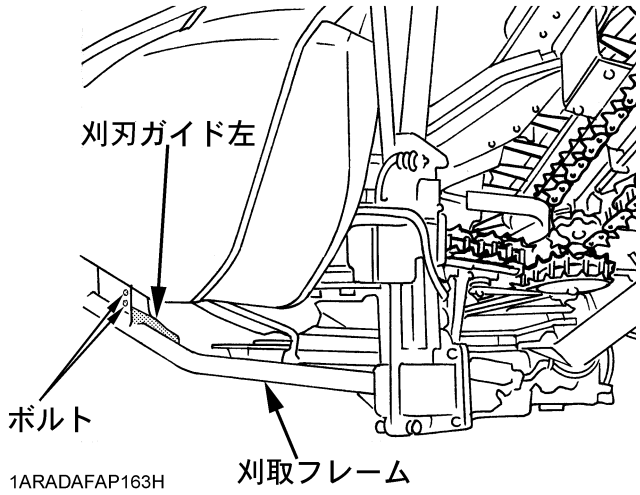
◆ 点検・取外し

1. 刈取部を上げたあと刈取下降ロックスイッチを**[ロック]**位置にし，エンジンを停止します。

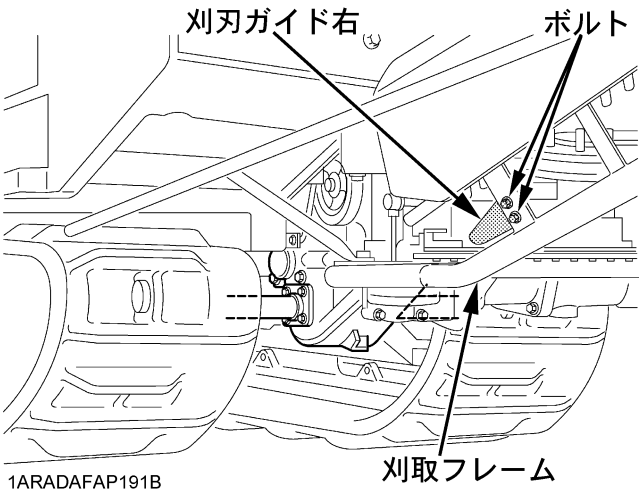


1ARADAKAP018B　刈取下降ロックレバー

2. 左，右の刈取りフレームに取付けている刈刃ガイド左，右の取付けボルト各２本を取外して刈刃ガイドを外します。

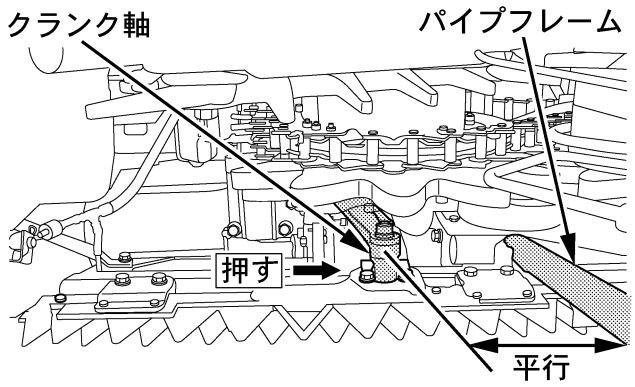


1ARADAFAP163H



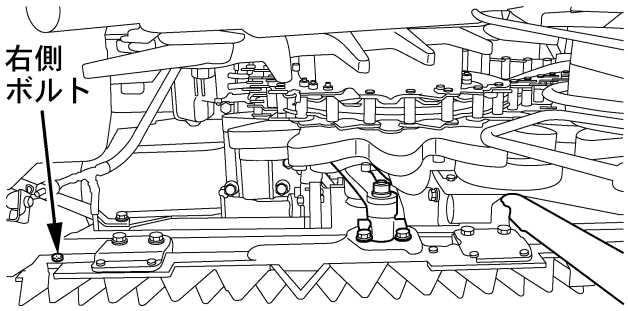
1ARADAFAP191B

3. クランク軸を押して，下図のようにパイプのフレームとクランク軸が平行状態になるように調整します。

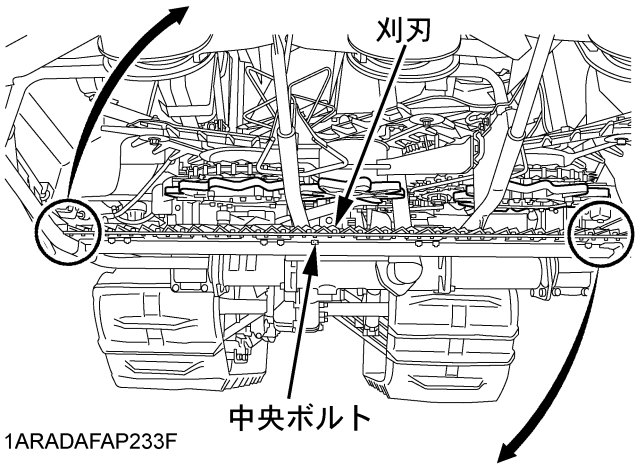


1ARADAFAP326D

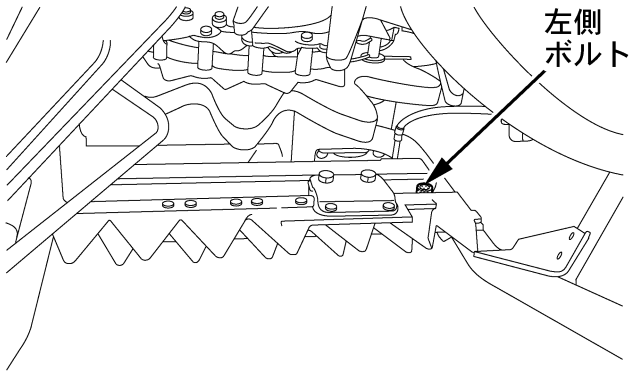
4. 刈刃を取付けているボルト３本を取外します。このときボルトは，左，右は上から，中央は下から取外します。



1ARADAFAP326E

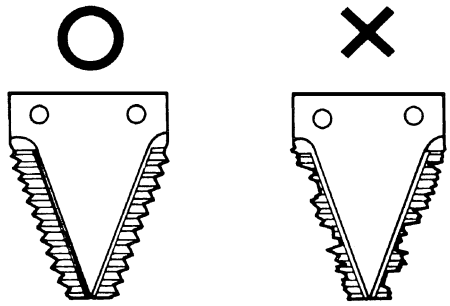


1ARADAFAP233F



1ARADAFAP327B

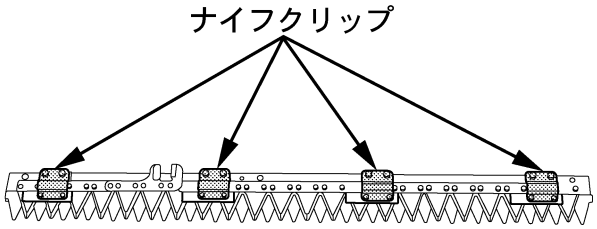
5. 刈刃の刃先と刈刃の動きを確認し，動きがかたいときは，注油，グリース塗布やすき間調整を行ないます。また，刃先が摩耗したり，欠けているときは購入先に連絡して交換してください。



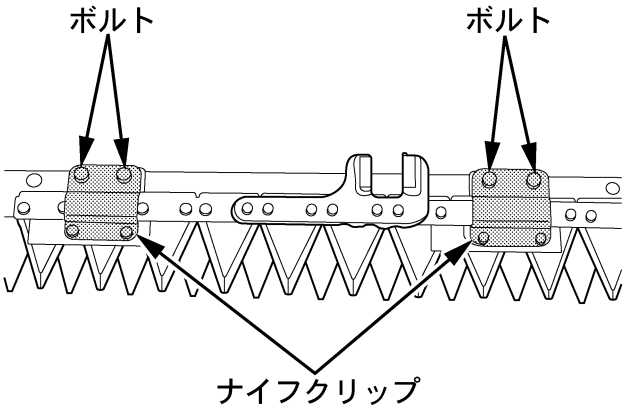
◆ すき間調整

調整は刈刃アッシの右側又は，左側のどちらかを行なってからもう片方を行なってください。また，すき間を測定するときは，すき間ゲージを使用してください。

1. ボルト・ナットを取外して全てのナイフクリップを受刃台から外します。



1ARADAFAP328B

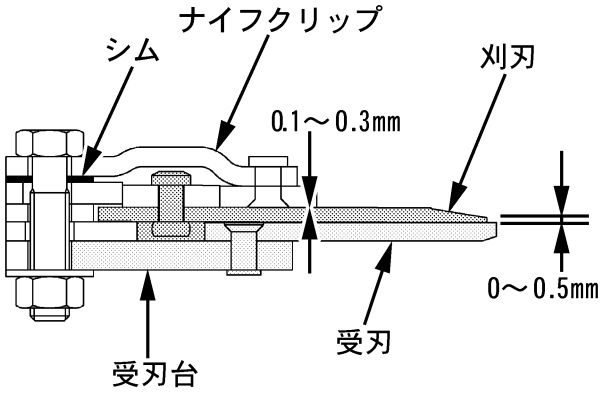


1ARADAFAP329B

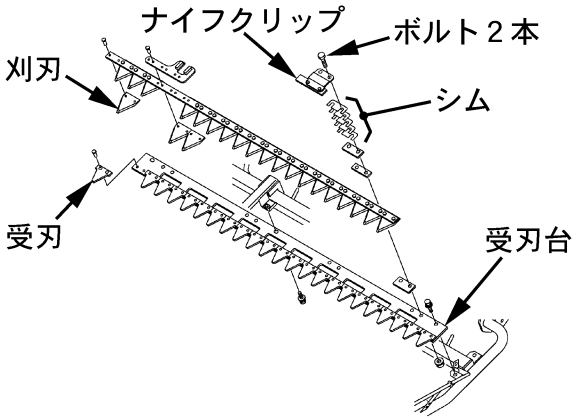
補　足

＊ 刈刃や受刃台上面に付着している泥（土）を掃除して取除いてください。

2. ナイフクリップとスライドプレート２の間にあるシムを増減して調整したあと，ボルト・ナットを締付けたときの刈刃と受刃のすき間を０～ 0.5㎜ に調整します。

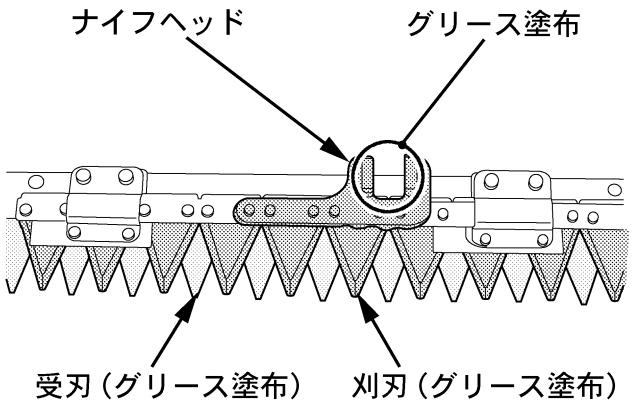


1ARADAFAP319C



1ARADAFAP320D

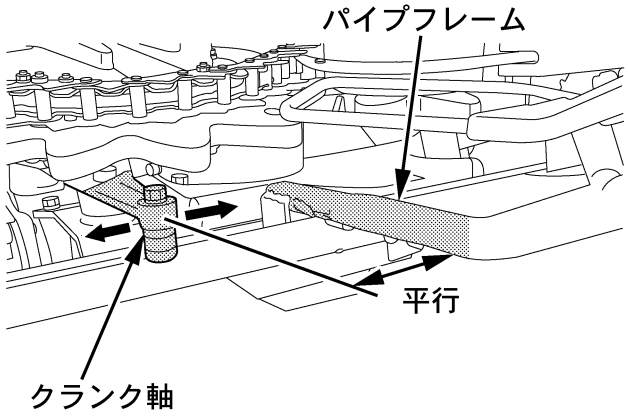
3. ナイフヘッドを持ち，刈刃を左，右に動かします。動かないときや軽く動くときは再調整を行ない，異常がなければ受刃，ナイフヘッドのローラガイドにグリースを塗布します。



1ARADAFAP329C

◆ 取付け

1. クランク軸とパイプのフレームを平行状態に調整します。調整は，クランク軸を右又は，左に動かして行ないます。



1ARADAFAP330B

2. 取外しの逆の手順で刈刃完備を本機側に取付けます。
   (1) 刈刃完備を持上げて，ナイフヘッドにローラをはめ込みます。
   (2) 本機側の刈刃フレームに刈刃完備をボルト３本で左，右は上から，中央は下からそれぞれ取付けます。
   (3) 刈刃ガイド左，右を刈取りフレームに取付けボルト各２本でそれぞれ取付けます。このとき，刈刃ガイドが受刃の先端に対して，下方向になるように締付けます。
   (4) 刈刃完備を取付けたあと，各部のすき間・刈刃の反りや作動状態を確認し，異常があるときは再調整を行ないます。

[317]

■わら切刃の点検･交換

注　意

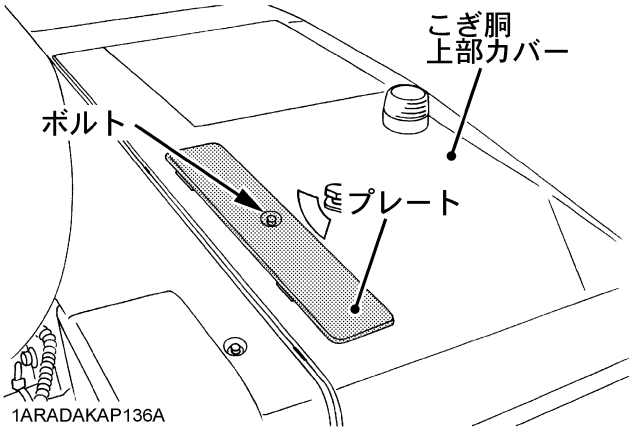
＊ 刃部に手を掛けないでください。
＊ 危険ですので，手袋をして，脱着作業をしてください。

わら切刃が切れなくなると，こぎ胴室内に発生するわらくずを細かく切断できなくなるため，わらくずの移動が悪くなります。また，必要以上の動力を消費するばかりでなく，排じん選別室に送られたわらくずが２番スクリュに巻きついたりします。

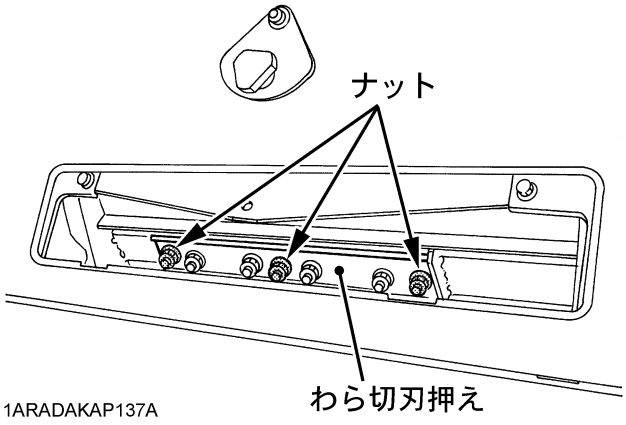
◆ 点検

● 穂先側

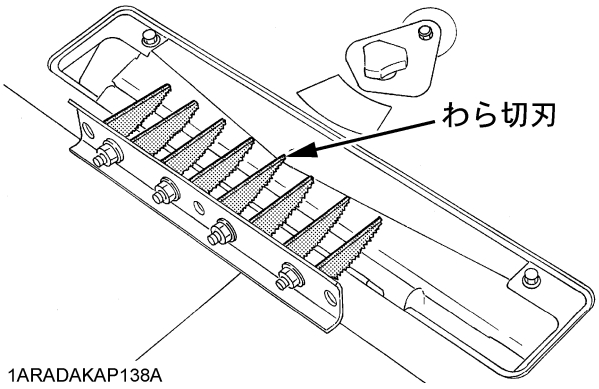
1. こぎ胴上部カバーの上側にあるカバーをボルト１本取外して外します。



2. わら切刃押えの取付けナット（左，右両端と中央の３箇所）を取外します。

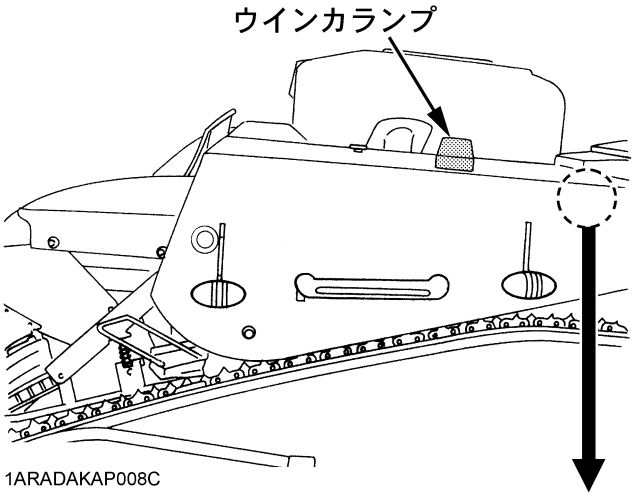


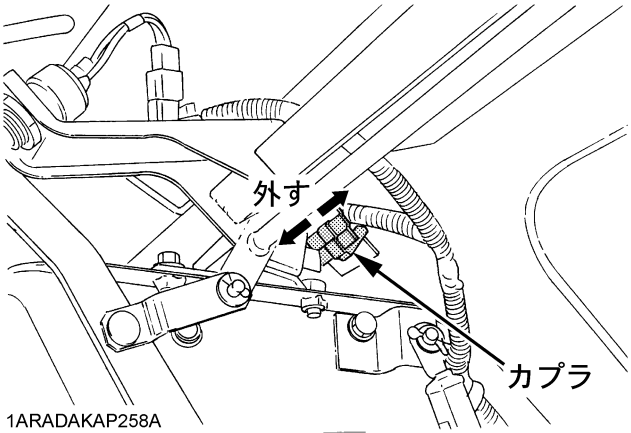
3. わら切刃押えを取り出したあと，わら切刃の刃先を確認します。刃先が磨耗したり，欠けているときは交換してください。



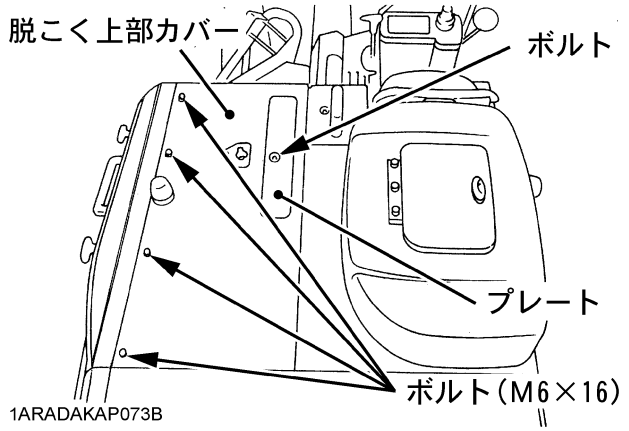
● 株元側［216・217・317］

1. こぎ胴をオープンして，ウインカランプ用ハーネスのカプラを外したあと，こぎ胴を閉じます。



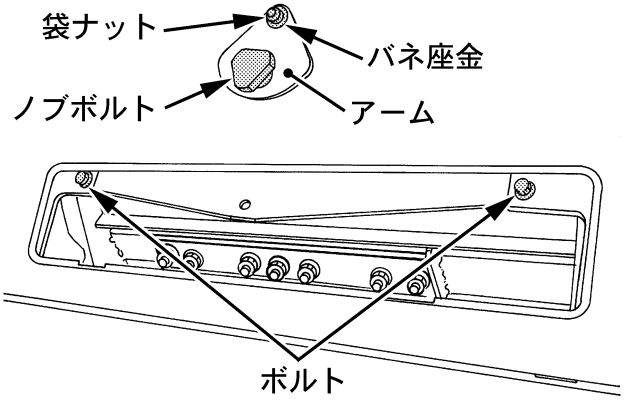


2. 脱こく上部カバーを取付けているボルト４本（M6 × 16）とプレートを取付けているボルト１本を取外します。



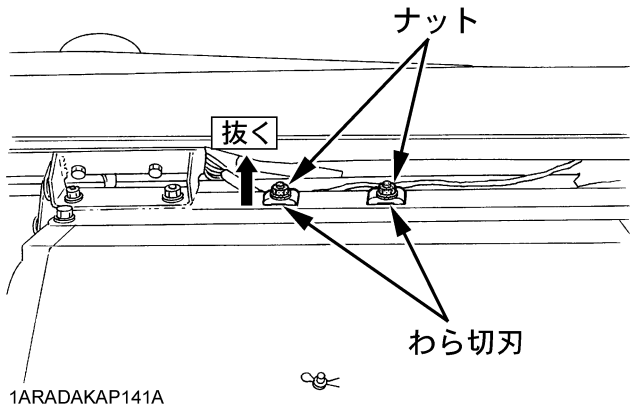
1ARADAKAP073B

3. ボルト２本とこぎ室送じんレバーのアームを取付けているノブボルト及び，袋ナット，バネ座金を取外します。このとき，アームも取外します。



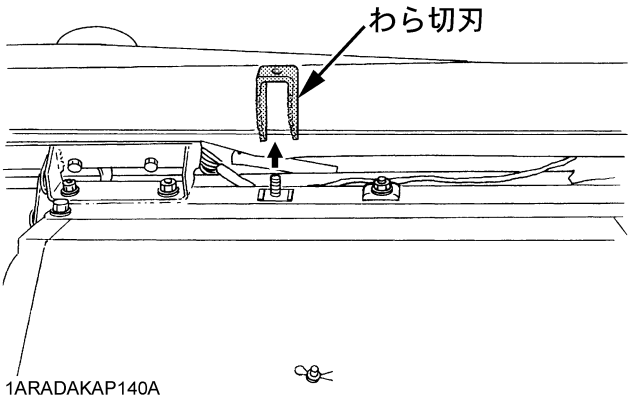
1ARADAKAP137B

4. 脱こく上部カバーを取外すと下図のように，わら切刃を２箇所ナットで取付けていますので，ナットを取外したあと，わら切刃を抜き出します。

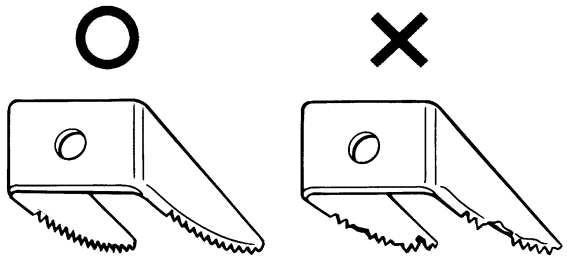


1ARADAKAP141A

5. わら切刃を抜出したあと，わら切刃の刃先を確認します。刃先が磨耗したり，欠けているときは交換してください。



1ARADAKAP140A


1ARADAKAP139A

◆ 交換・取付け

それぞれのわら切刃を固定しているボルト（穂先側）・ナットを取外し，わら切刃を交換します。

● 穂先側

1. 刃先を下側にしてわら切押えを位置決めボルトに差込みます。
2. ナットを３箇所取付けます。
3. カバーを取付けたあとボルトを締付けます。

● 株元側［216・217・317］

1. 刃先を上側にして取付位置に差込んだあと，ナットを取付けます。
2. こぎ胴上部カバーをボルト６本で取付けたあと，こぎ室送じんレバー部をノブボルト及び，アーム，袋ナット，バネ座金で取付ます。
3. プレートをボルトで取付けます。
4. ウィンカ用ハーネスのカプラを取付けます。

重　要

＊ わら切刃を取付けるときは，取付方向や傾きの出ないように注意して取付けてください。

■カッタ部の点検･調整

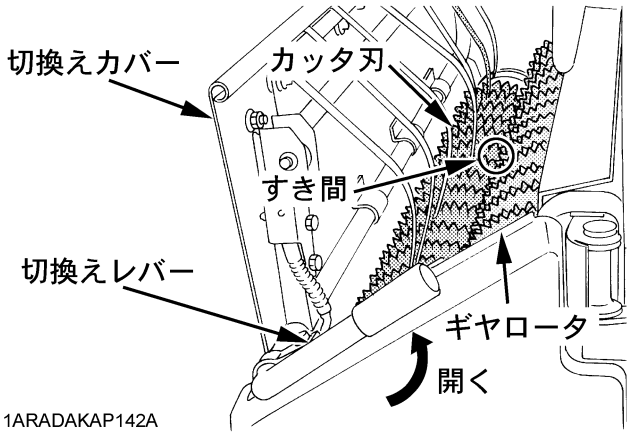
警　告

＊ 平たんな場所でエンジンを必ず停止して行なってください。
＊ 手袋を使用し，直接カッタ刃に触れないでください。

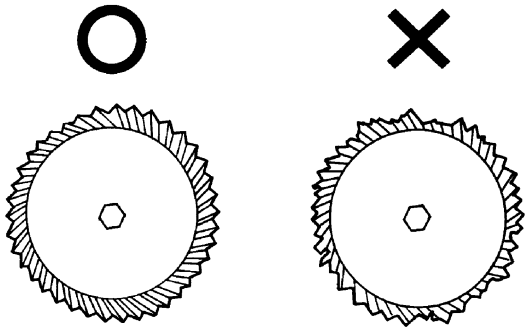
補　足

＊ わらくずなどは取除いてください。

カバーロック金具を引き，切換えカバーを開いて切断刃（カッタ刃）とギヤロータのラップ代とすき間を確認します。刃先が摩耗したり，欠けているときは交換してください。また，切断刃（カッタ刃）とギヤロータのラップ代やすき間が大きかったり，小さかったりする場合は調整してください。



1ARADAKAP142A



1ARADAFAP225A

補　足

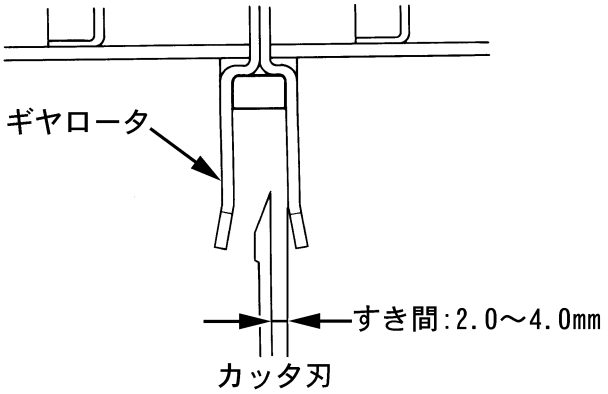
＊ 切換えカバーをきちんと閉じないと，自動エンジン停止装置がはたらき，エンジンが始動しません。

◆ 切断刃と供給刃のすき間の点検・調整

ギヤロータと切断刃（カッタ刃）のすき間を確認し，すき間が 2.0 ～ 4.0mm の範囲から外れているときは，すき間調整を行ないます。

● 点検

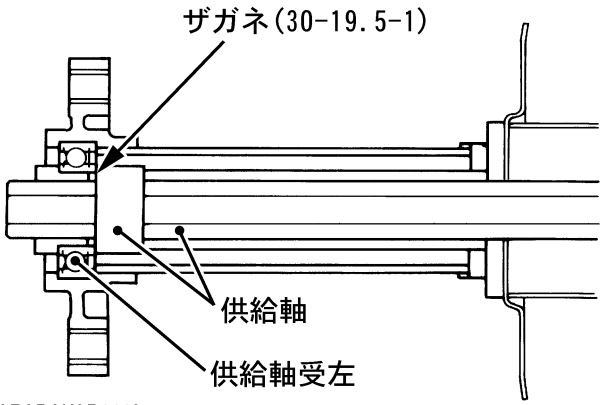
1. カッタ切換えカバーを開きます。
2. カッタ刃とギヤロータのすき間を確認し，2.0 ～ 4.0mm の範囲から外れているときは調整を行ないます。



1ARADAKAP143A

● 調整

カッタ刃とギヤロータがくっついていたり，離れているときはすきま調整を行ないます。
供給軸受左と供給軸の間に座金（30-19.5-1）を使用して，すき間を 2.0 ～ 4.0mm に調整します。



1ARADAKAP144A

重　要

＊ すき間が適正範囲（2.0 ～ 4.0mm）外になると，刃物の接触が発生し破損するおそれがあります。また，わらの切断精度が悪くなります。
＊ すき間は，株元側と穂先側の両端部で測定してください。

■カッタ刃の交換

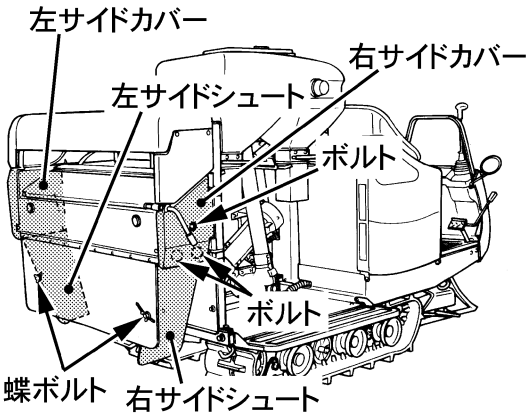
警　告

＊ カッタ刃を交換するときは，エンジンを必ず止めてください。
＊ 手袋を使用し，直接カッタ刃に触れないでください。
＊ 切断軸完備を外すときは，２人でカッタ刃のない両端を持って脱着作業をしてください。

重　要

＊ 軸の締付けトルクは 49.0 ～ 58.8N・m(500 ～ 1200kgf・cm) です。確実に締付けてください。組付け時，刃物・パイプ端面に砂など異物が付着しますと，刃物間寸法が出ない場合がありますので注意してください。
＊ 軸を垂直に立てて組んでください。組付け後の軸振れが無くなります。
＊ 刃の向き，組合せが逆にならないよう回転方向に注意してください。
＊ 組付け後，刃と刃が接触していないか軽く回して確かめてください。

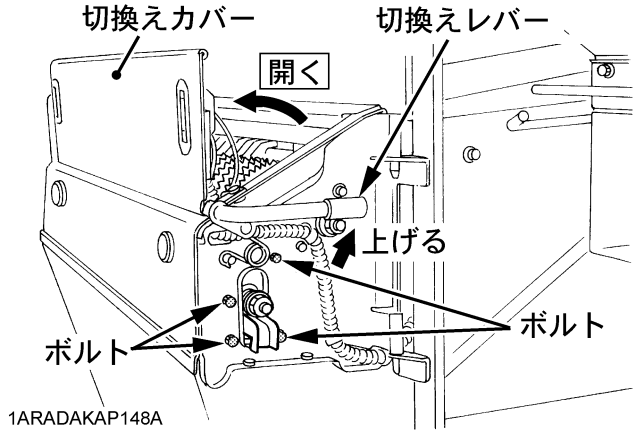
1. 左サイドカバー，右サイドカバー（ボルト１本取付け）を外します。
2. ボルト各２本と蝶ボルト２本を取外して左，右のサイドシュートを外します。



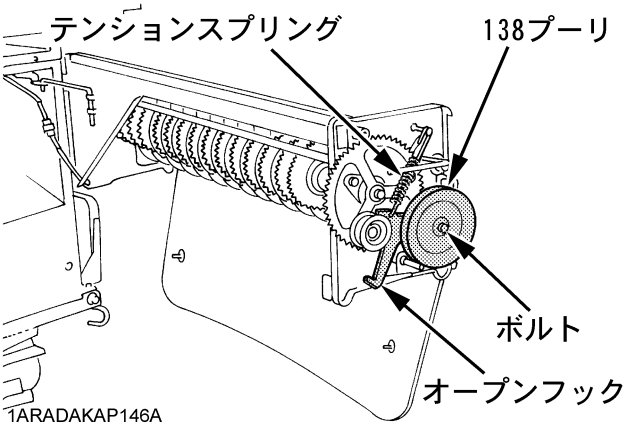
1ARADAKAP010H

※イラストはホッパ仕様

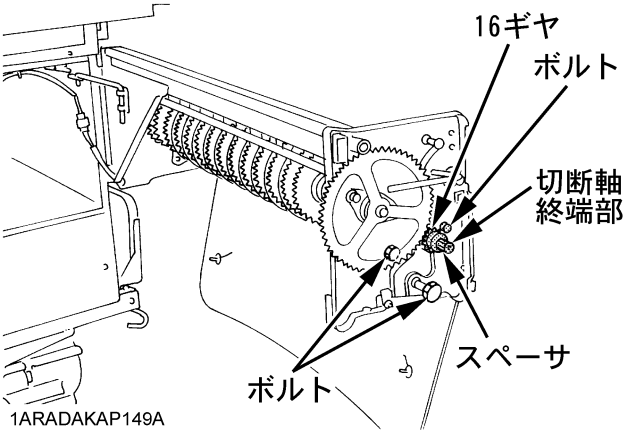
3. カッタをオープンします。(91 ページ参照)
4. 切換えレバーを上げて切換えカバーを開きます。
5. ボルト４本を取外します。



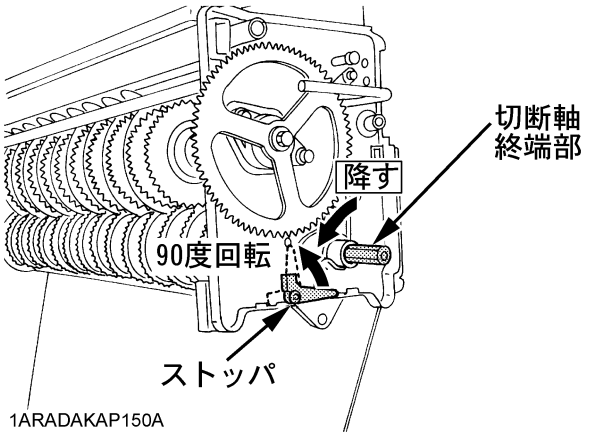
6. ボルトを取外して 138 プーリを外したあと，オープンフックとテンションスプリングを外します。

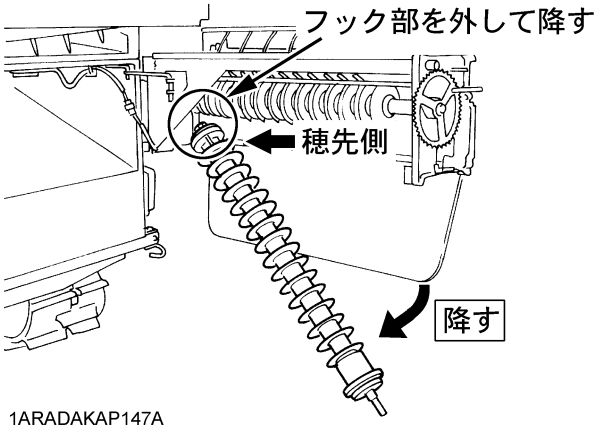


7. スペーサと 16 ギヤを取外したあと，切断軸の終端を支えながらボルト３本を取外すと切断軸が下がります。



8. ストッパを 90 度上側に回転させて，切断軸を地面にゆっくりと降します。
9. 穂先側の切断軸の終端側を持ち上げてフックをフレームから外し，切断軸を２人で取外します。

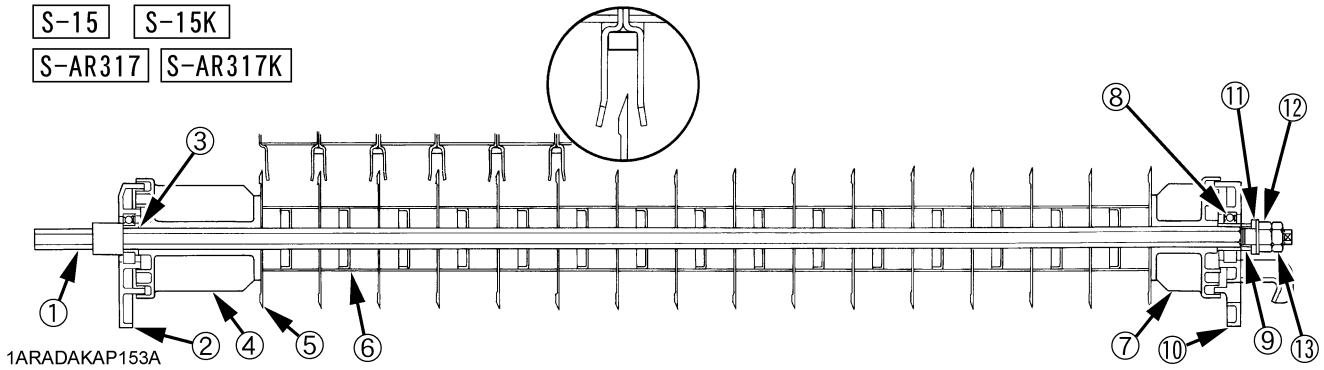




10. 次表と図を参照して分解します。
11. カッタ刃の交換が終わると，逆の手順で組付けます。

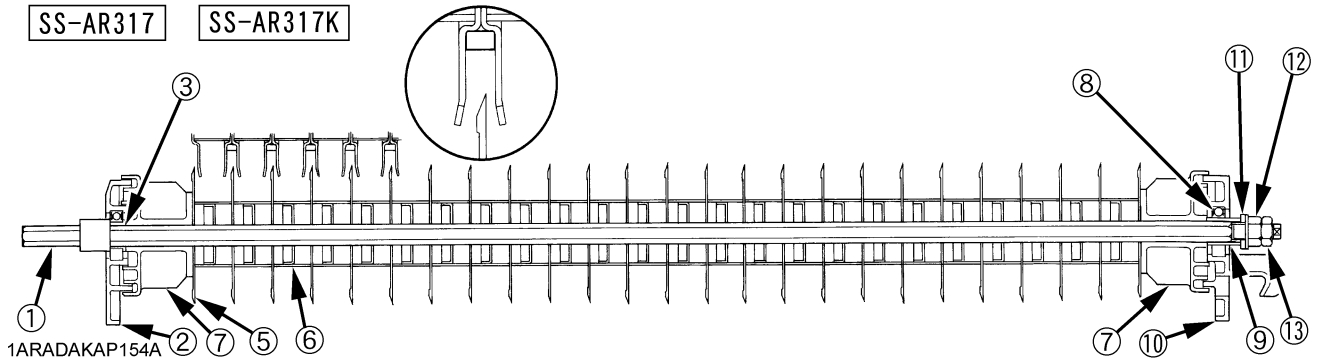
図番	品番	品名	個数	
			S-15・S-15K・S-AR317・S-AR317K	SS-15・SS-15K・SS-AR317・SS-AR317K
①	57764-3111-1	シャフト（セツダン）	1	1
②	57783-2112-3	セツダンジクウケヒダリ	1	1
③	57783-2118-1	ベアリングカラー	1	1
④	57764-3112-1	ハネ（119，カキダシ）	1	-
⑤	57775-2223-1	セツダンバ（130）	16	25
⑥	57748-2120-1	パイプ，コンプ（55）	15	-
	57738-2120-1	パイプ，コンプ（36）	-	24
⑦	57764-3113-1	ハネ（67.5，カキダシ）	1	2
⑧	57764-2119-1	ザガネ（30-19.5-1）	1	1
⑨	57783-2124-2	32 スリーブ	1	1
⑩	57783-2143-2	セツダンジクウケミギ	1	1
⑪	57783-2144-1	32-16.5 ヒラザガネ	1	1
⑫	57783-2126-1	M16 サラバネツキナット	1	1
⑬	02052-50160	ナット	1	1

S-15 S-15K
S-AR317 S-AR317K



1ARADAKAP153A

SS-15 SS-15K
SS-AR317 SS-AR317K



1ARADAKAP154A

■吐出口ブーツの点検･交換

吐出口ブーツが破損したときは交換してください。

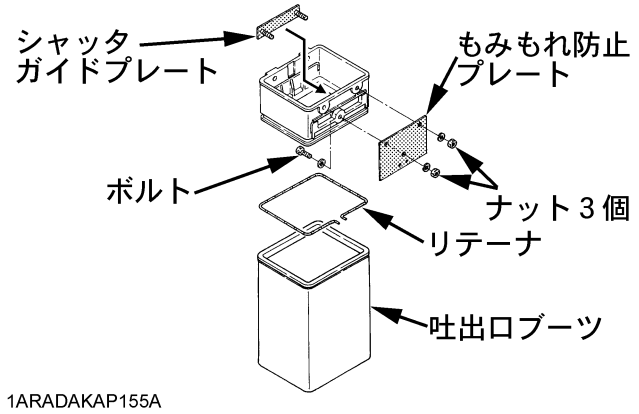
◆ 交換

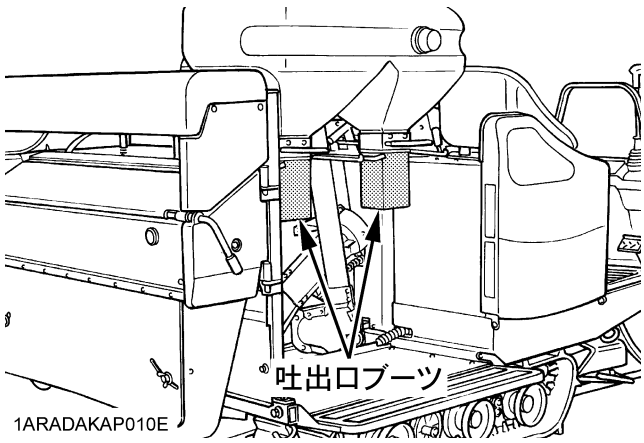
[ホッパ仕様]

1. もみもれ防止プレートを取付けているボルト，シャッタガイドプレートとナットをそれぞれ取外し，プレートを外します。
2. リテーナを外して，吐出口ブーツを取外します。
3. 破損したブーツを取外し，新しいブーツを取付けます。

補　足

＊ ブーツを取付けるとき，ブーツの取付け方向を間違えないでください。





重　要

＊ ブーツは必ずクボタ純正のものを使用してください。

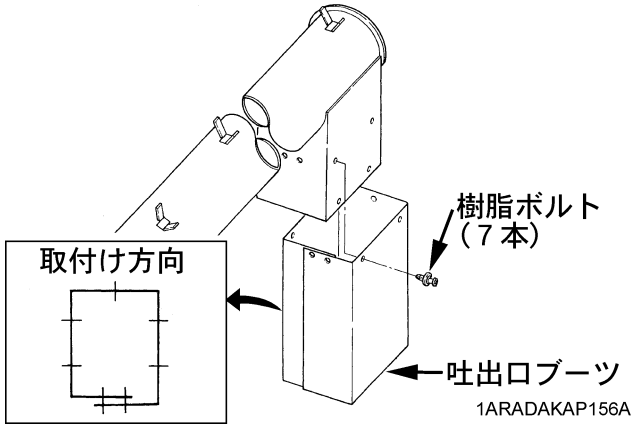
[ホッパ仕様]

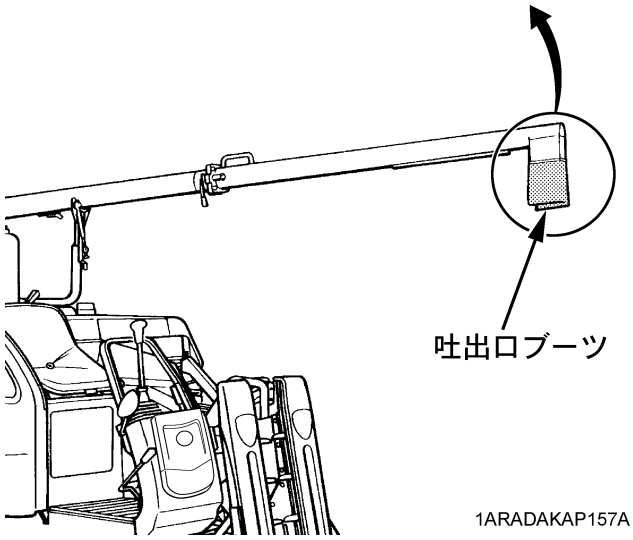
[G 仕様]

1. ブーツを取付けている樹脂ファスナー８本を外します。
2. 破損したブーツを取外し，新しいブーツを取付けます。

補　足

＊ ブーツを取付けるとき，ブーツの重なりの方向を間違えないでください。





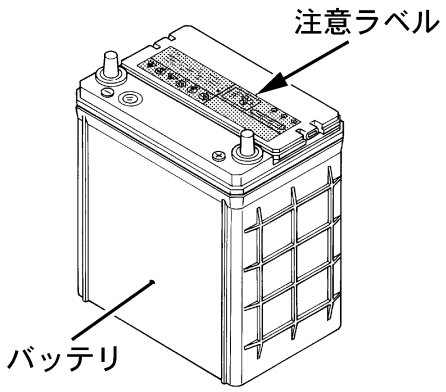
重　要

＊ ブーツは必ずクボタ純正品を使用してください。

[G 仕様]

■バッテリの点検･交換

バッテリ上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。



1ARADAFAP388A

危　険

＊ バッテリの近くに裸火（マッチ，ライター，タバコの火など）を近づけたり，（+）端子と（−）端子が金属工具などの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。
＊ バッテリを取扱うときは，必ず保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明やヤケドの原因となります。
＊ 充電器やブースターケーブルを使用するときの取扱いは，それぞれの取扱説明書に従って行なってください。取扱いを誤まると引火爆発するおそれがあります。
＊ この 12V バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。
＊ 急速充電は厳禁です。
＊ 開封は厳禁です。（密封タイプ）

警　告

＊ バッテリを乾いた布などで掃除しないでください。静電気により引火爆発するおそれがあります。

補　足

＊ 出荷時は，補水不要のバッテリです。

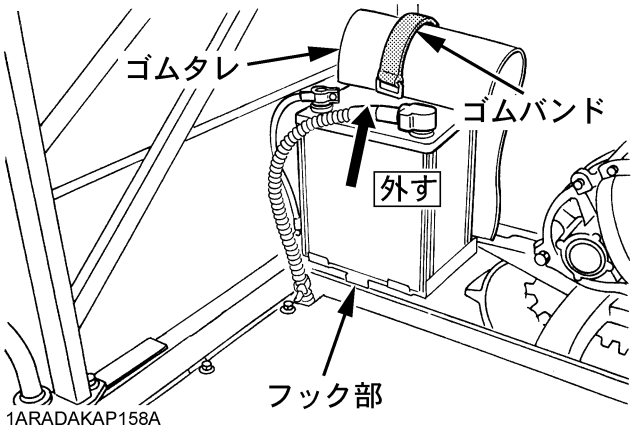
◆ 点検

危　険

バッテリが破損や傾いたりして，液もれが発生しているとき……
＊ バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。
＊ バッテリの電解液（希硫酸）が目に入った場合は，ただちに多量の清水で洗浄したあと，速やかに医師（眼科医）の治療を受けてください。失明の原因となります。

1. **[G 仕様]** はグレンタンクを取外します。
2. ゴムバンドをフックから外して，ゴムタレをめくります。

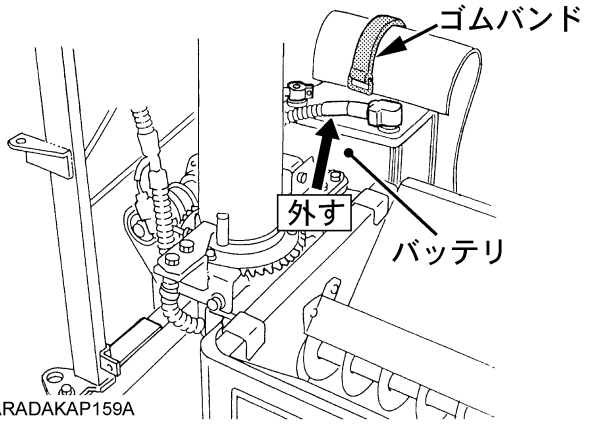
[ホッパ仕様]



1ARADAKAP158A

[ホッパ仕様]

[G 仕様]



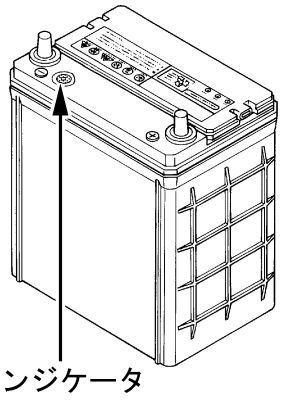
1ARADAKAP159A

[G 仕様]

3. バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

(1) バッテリ上面にあるインジケータの色で充電状態を確認します。下表を参照し，処置を行なってください。

表示の色	充電状態	処　　置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換



1ARADAFAP389A

補　足

＊ インジケータは真上から確認してください。

(2) バッテリが破損して液もれが発生しているときは，交換してください。

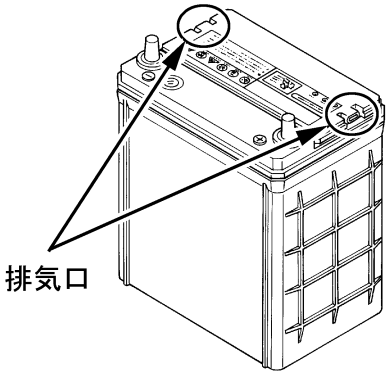
重　要

＊ 液もれが発生すると車体が腐食する原因となります。

(3) ふたの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

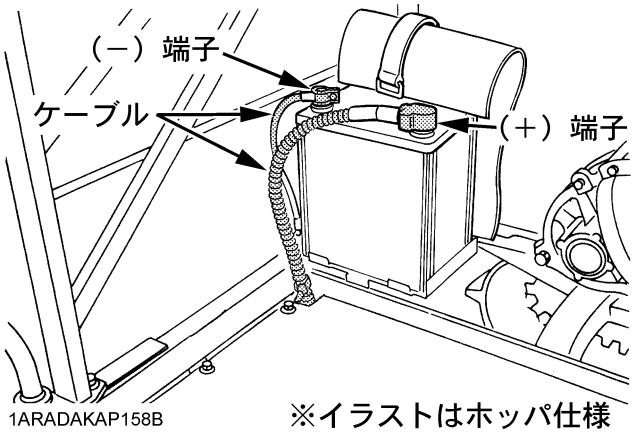
重　要

＊ 排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。



1ARADAFAP390A

(4) バッテリケーブルの破損や（＋）端子，（－）端子にゆるみや腐食がないか確認し，ケーブルの交換や端子の増締めや掃除を行ないます。



1ARADAKAP158B

※イラストはホッパ仕様

◆ 補充電・交換

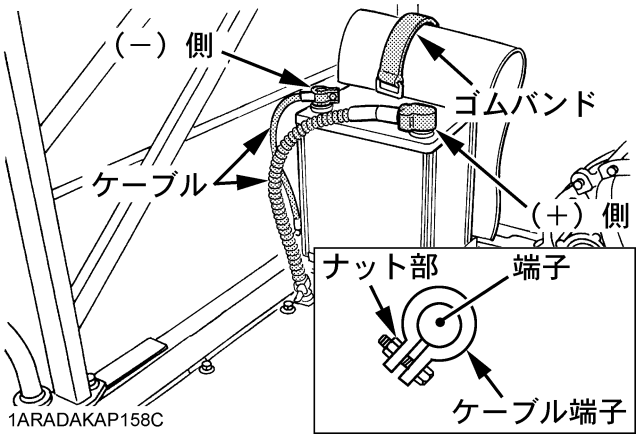
警　告

＊ バッテリは，以下の順序で取換えてください。順序を誤まると，ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。
・取外し…(－)端子側(アース側)から外す。
・取付け…(－)端子側（アース側）を最後に接続する。
＊ バッテリを転倒させたり，衝撃を与えたりしないでください。電解液（希硫酸）のもれにより，失明やヤケドをするおそれがあります。
＊ バッテリを機体に取付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。
＊ バッテリの取付け方向を間違えないでください。（＋）と（－）が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し，火災の原因となるおそれがあります。
＊ バッテリを投げたり，落としたり，斜めにしたり，衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明やヤケドの原因となることがあります。

次のような状態が発生したときは補充電を行なってください。また，補充電を行なっても短時間で再発するときや状態が良くならないときは，バッテリの寿命ですので交換を行なってください。

- スタータモータの回転が，いつもより弱い。
- アクセルの加減で，ヘッドランプの明るさが変わる。
- ホーンの音が，いつもより低い。

1. バッテリを機体から取外します。
   (1) ゴムバンドの端部金具をフックから外し，ゴムタレをめくり上げます。
   (2) ケーブル端子のナットをゆるめて，端子からケーブル端子を取外します。取外すときは，必ず（－）側から取外してください。



重　要

＊ バッテリを斜めにしたり，横倒しにして運ばないでください。電解液（希硫酸）がこぼれ，衣服の損傷の原因となります。

2. 補充電を行なうときは，平たんで風通しの良い場所を選んで行ないます。また，充電は，バッテリの（＋）を充電器の（＋）側に，バッテリの（－）を充電器の（－）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。

補　足

＊ 急速充電を行なったときは，作業後必ず補充電を行なってください。

3. 補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

重　要

＊ バッテリを交換するとき，バッテリは下記指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。
バッテリ形式：**34B19L-MF**
＊ バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。
＊ バッテリはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。

補水が必要なバッテリの場合

(補水が不要なバッテリの説明と異なる部分の説明です。)

◆ 点検・補水

注　意

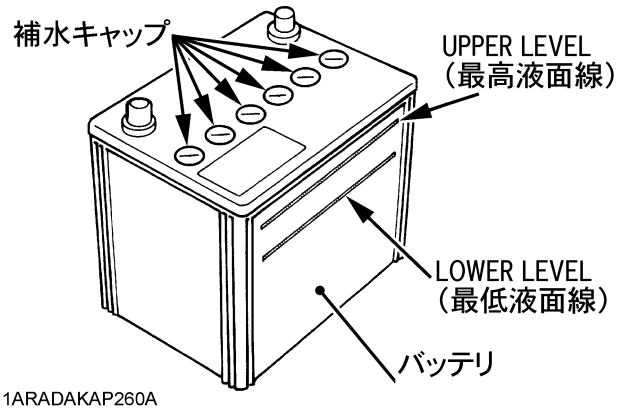
バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下の事を守ってください。

＊ バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐに UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。

＊ バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。

バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

1. バッテリ液の量を点検し，**【UPPER LEVEL】**（最高液面線）と**【LOWER LEVEL】**（最低液面線）の間に液量があるか確認し，不足しているときは補水キャップを外して補水します。



1ARADAKAP260A

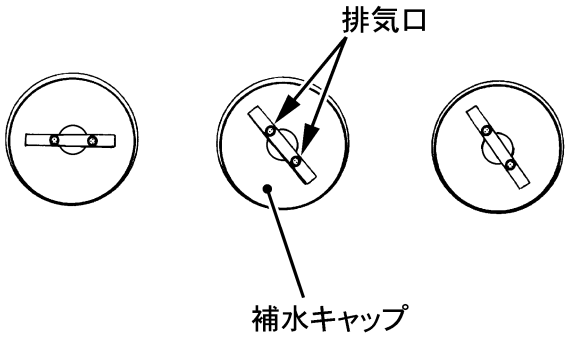
重　要

＊ バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短くなります。
＊ バッテリ液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。
＊ バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。

2. 補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

重　要

＊ 排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。



1ARADAKAP261A

◆ 補充電・交換

注　意

＊ 補充電中は補水キャップ全てを取外して行ないますので裸火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。

1. 補充電を行なうときは，平たんで風通しの良い場所を選んで補水キャップを全て取外した状態で行ないます。
また，充電は，バッテリの（＋）を充電器の（＋）側に，バッテリの（－）を充電器の（－）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。
2. 補充電が終ると補水キャップを全て取付けてください。

■電気の各配線コード･各ヒューズの点検･交換

注　意

＊ 配線コード被覆の損傷やコネクタ（端子）の接触不良によるろう電やショート（短絡）は火災の原因となります。

◆ 各配線コードの点検・交換

各配線コードのコネクタ（端子）の接続状態を点検し，ゆるみや外れがあるときは確実に差込んでください。また，被覆の損傷状態を点検し，被覆が破れているときは，販売店へ連絡して交換してください。

◆ 各ヒューズの交換

ヒューズ切れによる異常が発生したときは，ヒューズを交換してください。

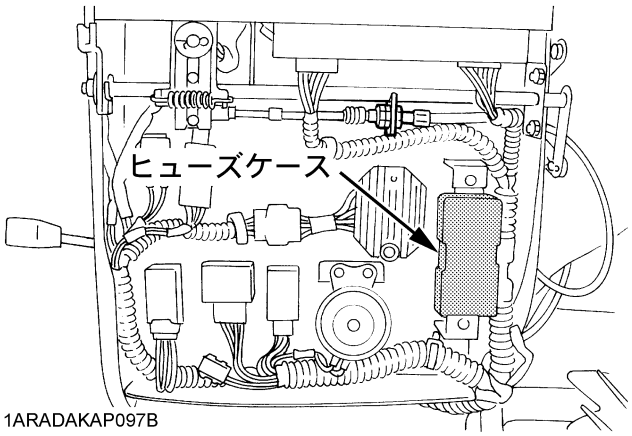
重　要

＊ 新しいヒューズは必ず指定容量のヒューズを使用してください。異なる容量のヒューズを使用すると故障の原因となります。
＊ ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，購入先に連絡してください。

● 本機

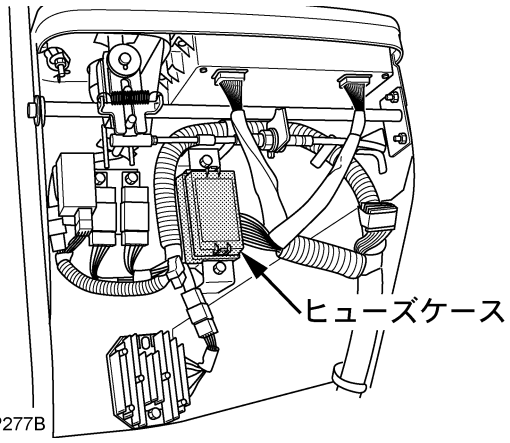
1. フロントカバーを外します。
2. ヒューズケースのふたを外します。
3. ヒューズを外します。
4. 切れたものと同容量のヒューズを交換します。

[211・213・216・217]



[211・213・216・217]

[317]



[317]

受けもっている回路	容量	備考
マイコン，AES	20A	---
レギュレーター，ホーン，燃料ポンプ	10A	---
マイコン	10A	---
ライト，フラッシャ	15A	---
こぎ深さモータ	20A	---
刈取りクラッチモータ	20A	---
結束機	20A	結束機付
刈取りスライドモータ	20A	213･216･217
アンドローダ旋回モータ	20A	G 仕様
アンドローダ昇降モータ	20A	G 仕様

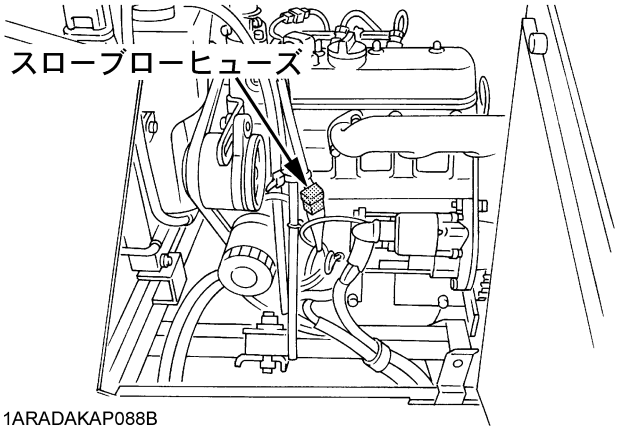
補　足

＊ 予備ヒューズはケースの裏側に，10A，15A，20A が各 1 本入っております。

5. ヒューズケースのふたを取付けたあと，フロントカバーを取付けます。

● スローブローヒューズの点検・交換

スローブローヒューズは，過電流が流れたときに各配線が損傷しないように保護するためのものです。エンジンがかからないときは点検し，切れているときは新しいヒューズと交換してください。

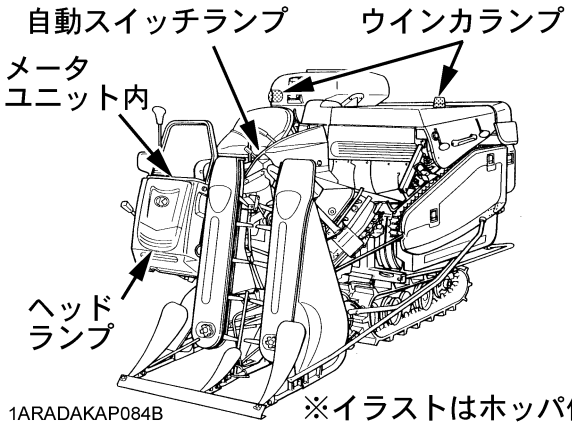


1ARADAKAP088B

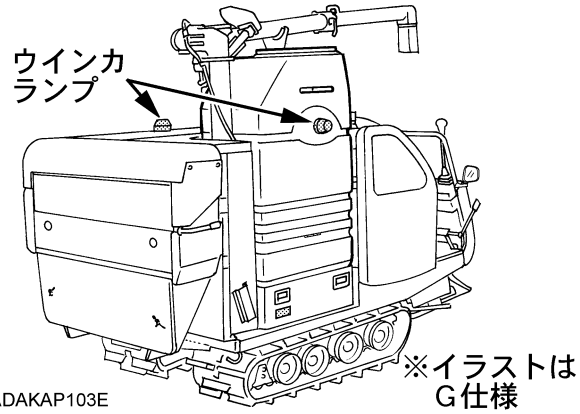
■ランプ（電球）の点検･交換

■ホーンスイッチの点検

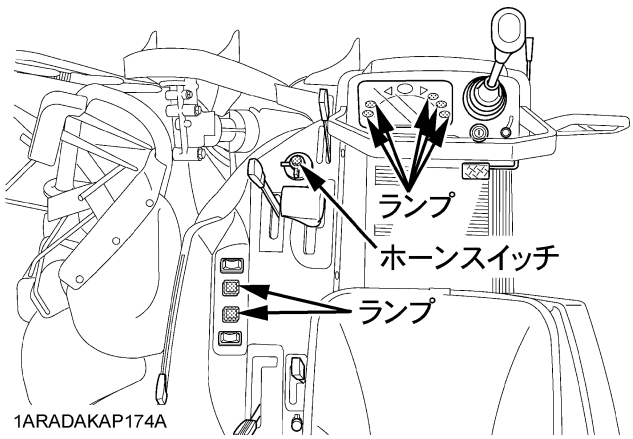
ランプ（電球）切れがないか点検し，切れているときは交換してください。また，ホーンスイッチを押して点検し，鳴らないときは，配線やヒューズを確認してください。



1ARADAKAP084B ※イラストはホッパ仕様



1ARADAKAP103E ※イラストは
G仕様



1ARADAKAP174A

■パッカのトルクリミッタの調整

[211・213・216・217]

トルクリミッタは右側のパッカに取付けてあり，パッカに過負荷がかかるとクラッチがスリップし，パッカの回転を止めて機械の破損を防止する安全装置です。
パッカの分解掃除や交換を行なったときは必ず調整してください。

◆ 調整

1. 刈刃ケース後方の窓からレンチを差込んでパッカの取付けナットをゆるめます。
2. 手でいっぱいに締付けたあと，レンチで 1.5 回転締付けます。

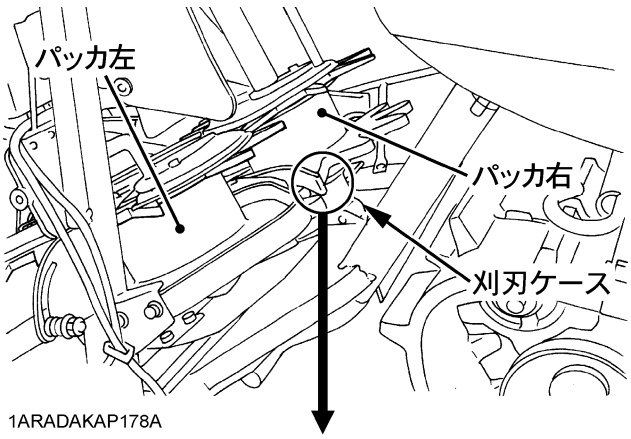
補　足

＊ スリップ時のトルクは，98 ～ 128N・m（10 ～ 13kgf・m）です。

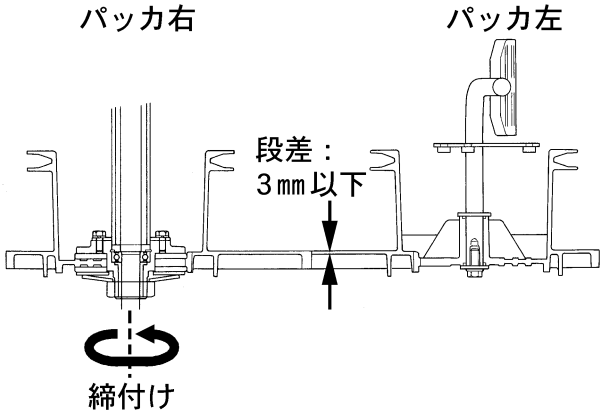
3. パッカの左と右の段差を測定し，3 mm 以下であれば正常です。

重　要

＊ 3 mm 以上段差があるときは，わら詰まりやパッカ部の損傷の原因となりますので，購入先へ連絡してください。



1ARADAKAP178A

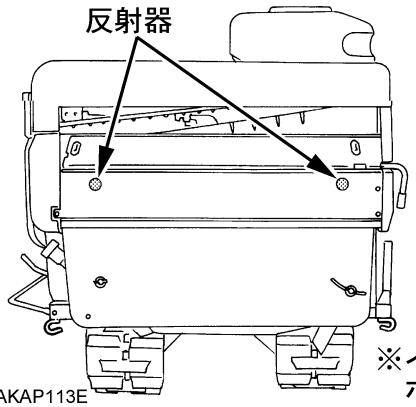


1ARADAFAP445A

[211・213・216・217]

■反射器の点検・交換

汚れや破損がないか点検し，掃除又は，交換を行なってください。



1ARADAKAP113E

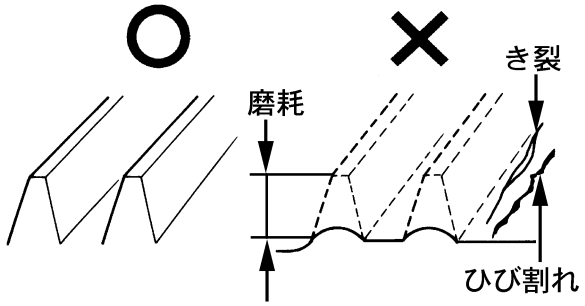
■クローラの点検･調整

注　意

＊ 平たんな場所で，必ずエンジンを停止して行ってください。

◆ 点検

クローラのラグが磨耗していたり，き裂やひび割れが入っているときは購入先へ連絡して早目に交換してください。また，クローラのたわみが大きいときは張り調整を行ってください。

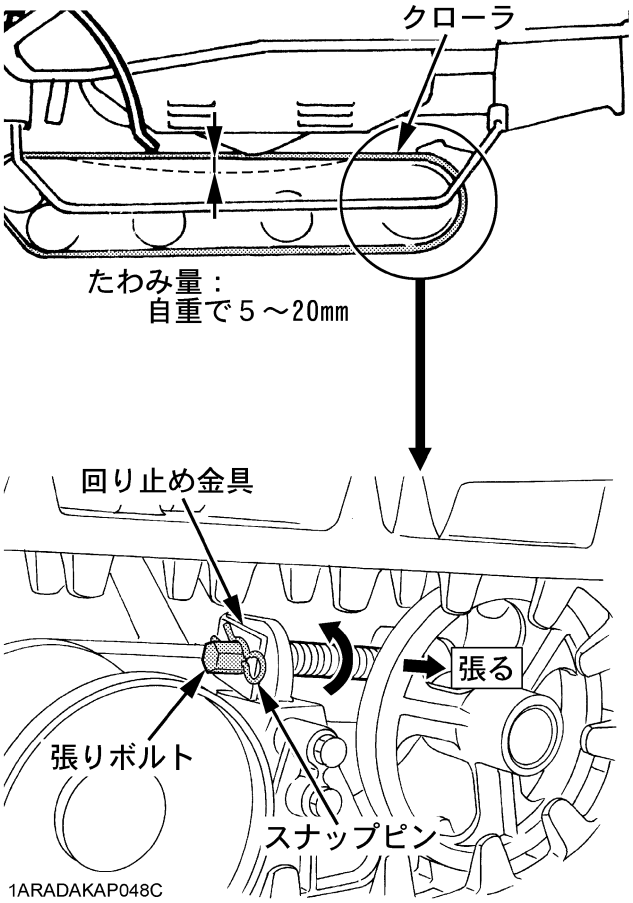


1ARADAKAP161A

◆ 調整

クローラのたわみ量を，自重で５～20㎜に調整します。

1. エンジンを始動し，機体を約1m後進させてエンジンを停止します。
2. クローラ後部にある張りボルトの回り止め金具を，スナップピンを抜いて取外します。
3. 張りボルトを左に回してクローラを張りながら，クローラを上・下させて，たわみ量を調整します。



4. 左，右両方共に行ない調整後は，回り止め金具を取付けてスナップピンを差込みます。

重　要

＊ クローラを張り過ぎると車輪の折損の原因になります。

＊ クローラがゆるみ過ぎると脱輪したスプロケット及び芯金が早期に磨耗することがあります。初期伸びがあるため初期 20 時間目に増し張りしてください。

■刈取スライドの点検･注油

[213・216・217]

注　意

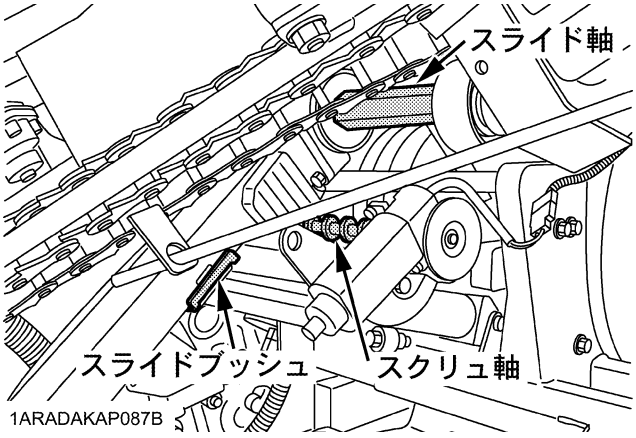
＊ 平たんな場所で，刈取下降ロックをして必ずエンジンを停止してください。

刈取部を地面から約 10cm 上げたあとエンジンを停止します。そのあと，刈取下降ロックレバーを**［ロック］**位置にし，スイッチキーを**［入］**位置にしてください。

◆ 点検

刈取部をスライドスイッチで**左⟷右**に動かして，スライドする時間が正常時（約 12 秒以内）より遅いときは，スライド装置各部に注油してください。

◆ 注油個所



重　要

＊ スライドを連続して５往復以上しないでください。
また，スライドが停止したら，スイッチからすぐ手を離してください。モータが加熱し故障の原因になります。

[213・216・217]

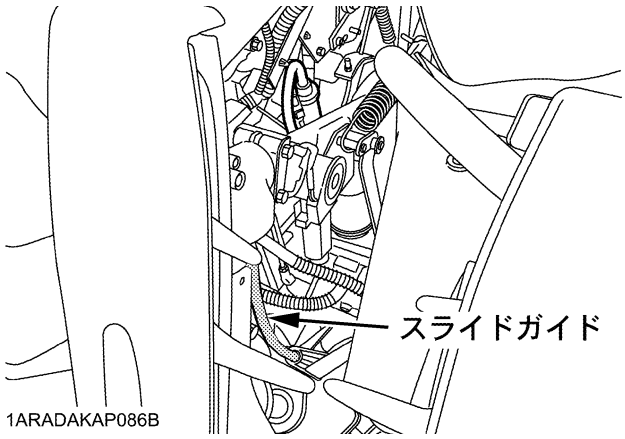
■スライドガイドの点検･注油

[211・213・216・217]

◆ 点検

スイッチキーを**[入]**位置にしたあと，手動こぎ深さスイッチを**浅⟷深**に動かすと，供給搬送部が**上⟷下**します。このとき，異音がするときはスライドガイドの作動範囲にグリースの塗布又は，注油をしてください。

◆ 注油個所



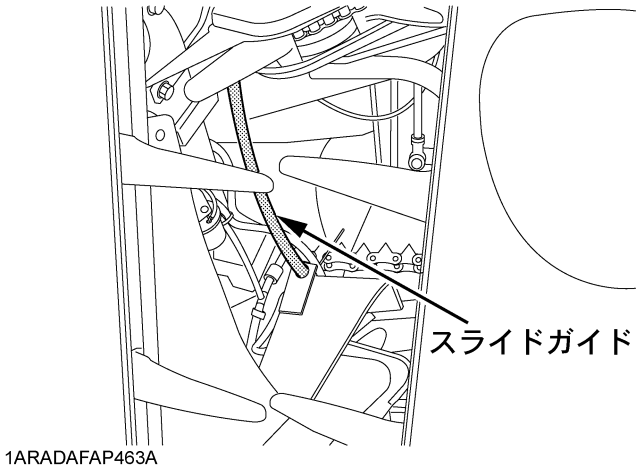
[211・213・216・217]

[317]

◆ 点検

スイッチキーを**[入]**位置にしたあと，手動こぎ深さスイッチを**浅⟷深**に動かすと，供給搬送部が**上⟷下**します。このとき，異音がするときはスライドガイドの作動範囲にグリースの塗布又は，注油をしてください。

◆ 注油個所



[317]

刈取作業後の手入れ

刈取作業が終わったあとは，機械の点検・整備を怠らず翌日又は，翌年の刈取作業に備えてください。

■毎日の作業後

注 意

＊ 機体に本機カバーをかけるときは，エンジン･マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災のおそれがあります。

1. 平たんな場所にコンバインを停めます。
2. 機体各部のわらくずを取除いたあと，必要なときは各部に注油を行ないます。
（103 ページ参照）
3. アンローダを収納します。**[G 仕様]**
4. 刈取部を地面に接地させます。
5. メインスイッチのスイッチキーを抜取ります。
6. 本機カバーをかけます。

■長期格納時

刈取のシーズンが終了して翌年まで長期間使用しないとき，格納する前の各部の点検・整備を念入りに行なってください。

◆ 各部の掃除・注油と補修

機体を平たんな場所に停めて下記事項を行なってください。

- 各部に付着した泥などの汚れをきれいに水洗いし，乾いた布で水分をふき取ってください。
- 機体の樹脂部品に付着した汚れは，中性洗剤を使用してきれいに落としてください。
- 各回転部分や切刃部・ベルト・チェーンなどに巻付いた雑草やわらくずを，完全に取除いてください。

重　要

＊ 機体を洗う場合は，電装部品に水がかからないようにしてください。
＊ 各グリースニップルには，高圧水を直接かけないでください。水が浸入し，故障の原因となります。
＊ 作業シーズン終了後及び長期格納する前には，メンテナンスの**［給・注油（水）一覧表］**（117 ページ参照）して，各部の給・注油（水）を行なってください。

補　足

＊ 各部にもみやわらくずが残っていると，ネズミの巣になったり，配線部をかじられて，故障の原因となるのできれいに取除いてください。
＊ **［213・216・217］**の刈取スライド軸，スライドブッシュの当たり面付近には，さびが発生しないように洗車後はじゅうぶんグリースを塗布してください。
＊ 各チェーン，各回転部分や摩擦しゅう動部分には，さびが発生しないように洗車後にじゅうぶん注油してください。
＊ 塗料のはがれた所には補修塗料を塗って，さびが発生しないようにしてください。

◆ ラジエータ冷却水

ラジエータ冷却水は冬期のエンジン凍結割れを防止するため，排水又は，不凍液（ロングライフクーラント）を清水に混ぜた冷却水を入れておいてください。

● 排水しておくとき

1. ラジエータ及びリザーブタンクの冷却水を排水します。（125 ページ参照）
2. ラジエータキャップに**水なし**と書いた札を掛けておいてください。

● 不凍液を入れておくとき

冷却水の補給・交換を行なって，ラジエータ及びリザーブタンクには，不凍液の混ざった適正な混合比の冷却水を規定量入れておきます。
（125 ページ参照）

重　要

＊ 冷却水には，不凍液（ロングライフクーラント）を適正量入れ（混合比は最高でも 50% 以下），よく水と混ぜ合せてからお使いください。（冷却水容量……約 0.9L）
＊ 不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
＊ 不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
＊ クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は 2 年間です。必ず 2 年で交換してください。

◆ バッテリ

危　険

＊ 保管や持運びの際にバッテリに火気を近付けたり，ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

注　意

＊ バッテリを点検するときには，エンジンを停止し，メインスイッチを［切］にしてください。

長期間使用しない場合は，できるだけバッテリを機体から取外してください。また，以下の点に注意して保管してください。

- 保管前に点検し，必要に応じて補充電を行なってください。（バッテリ液補水タイプは，補水してから補充電を行なってください。）
- バッテリは保管中でも自己放電するので夏は１カ月，冬は２カ月に１回それぞれ点検し，必要に応じて補充電を行なってください。
- 次のような場所に保管してください。
  (1) 直射日光が当らない（温度が低く変化の少ない）乾燥している場所
  (2) 雨露が少なく，水没のおそれがない場所
  (3) バッテリの有害なガスや液，粉じんの発生が起こらない場所

機体に取付けている場合は，（－）側のケーブルを必ず取外してください。

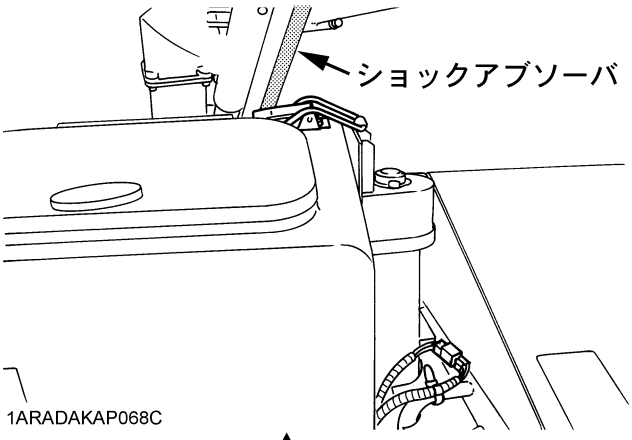
◆ 各レバー・その他

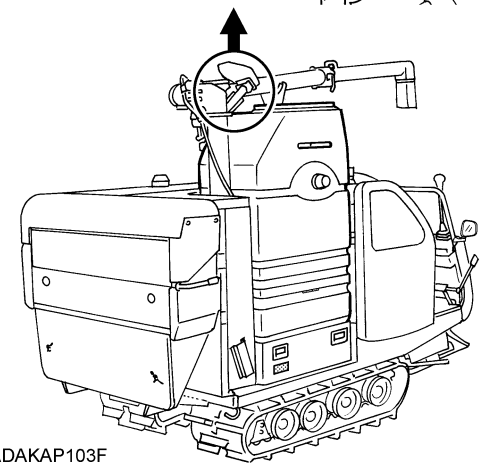
点検・整備が終わったあと，納屋などに停めておくときは刈取部を地面に接地させて，下記事項を行なってください。

- デバイダカバーを取付けたあと，分草かんを収納します。
- アンローダ受けを下げてアンローダを折りたたみ収納します。**［G 仕様］**

補　足

＊ アンローダの位置がアンローダ受けより下の位置で長期放置しますと，ショックアブソーバのガス抜けが起こりアンローダの上昇ができなくなるおそれがあります。





- アクセルレバーをいっぱい戻して（**［🐢］**位置）止めておいてください。
- 駐車ブレーキを掛けます。
- 脱こく・刈取クラッチレバーは**［切］**位置にしておいてください。
- メインスイッチのスイッチキーは，必ず抜取って保管してください。
- 本機カバーをかけます。

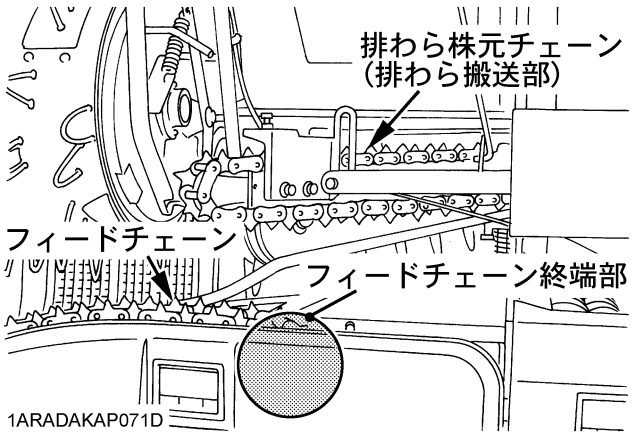
コンバインの不調と処置

わらが詰まる

■自動エンジン停止装置がはたらいたとき

◆ フィードチェーン終端部・排わら搬送部

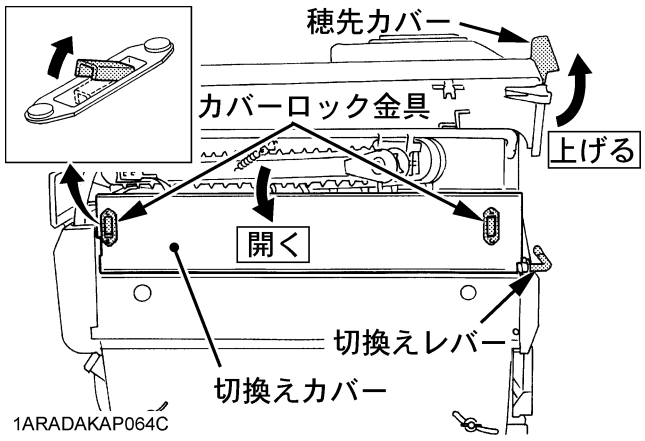
自動エンジン停止装置がはたらき，警報パネルの排ワラランプが点灯したときには，掃除してください。

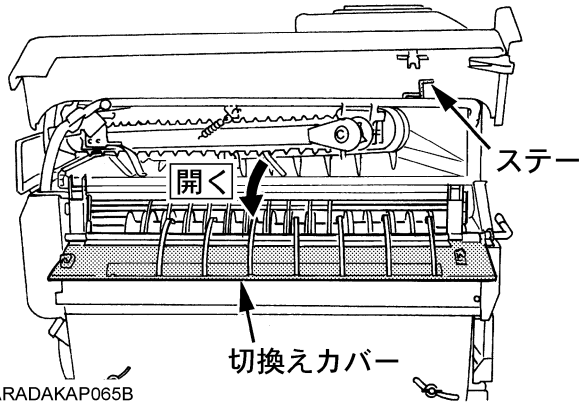


◆ カッタ部・排わらチェーン部

自動エンジン停止装置がはたらき，メータユニットのカッタランプが点灯したときには，次の手順で掃除してください。

1. 切換えレバーを操作して切換えカバーを開きます。
2. 上部カバーを上げて，穂先カバーを上に開きます。
3. カバーロック金具を引き，切換えカバーを後方へ倒します。





補　足

＊ 必要に応じて，このあとカッタオープンして掃除を行なってください。

＊ 切換えカバーを開けたままでは，エンジンをかけても脱こく・刈取クラッチレバーを**【入】**位置にするとエンジンが止まります。点検・掃除後は，必ずカバーロック金具を引きながら切換えカバーを閉め，カバーロック金具を確実にロックしてください。

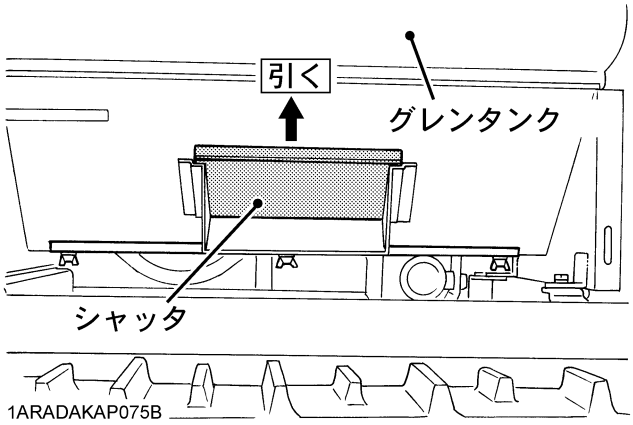
もみが詰まる

■アンローダからもみが排出されないとき

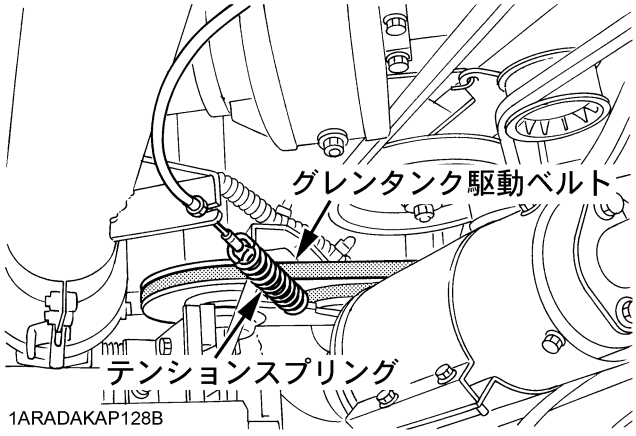
[G 仕様]

下記事項を点検し，もみ排出クラッチレバーを**[切]**位置にしたあと，エンジンを必ず止めてから処置してください。

1. 異物がかみ込んでいるときは，アンローダの各掃除口を点検（99 ページ参照）し，異物があれば取除きます。
2. グレンタンク駆動ベルトがスリップしているときは，シャッタを引きもみを排出したあと，グレンタンクを取外し（97 ページ参照），グレンタンク駆動ベルトのテンションスプリングの調整（143 ページ参照）をします。調整を行なってもスリップが止まらないときは，ベルト交換を行なってください。



1ARADAKAP075B



1ARADAKAP128B

[G 仕様]

泥やわらが詰まる

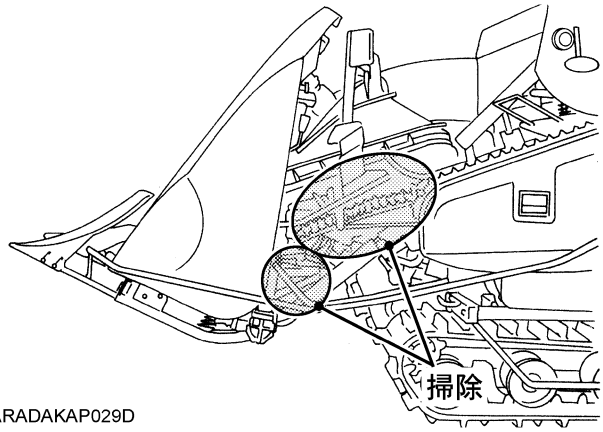
■株元搬送通路の泥やわらの取除きかた

警 告

＊ エンジンを必ず止めてください。
＊ 取外したり，オープンした回転部のカバー類は衣服などが巻込み危険ですので必ず取付けてください。
＊ 各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。

湿田や倒伏作物，雑草の多いほ場で刈取り作業を行なったとき，刈取部の搬送通路が泥やわらくずでふさがったときは，取除いてください。

1. エンジンを停止します。
2. 刈刃後方やパッカ下部などの搬送通路を掃除します。



1ARADAKAP029D

アンローダの旋回異常が発生したとき

[G 仕様]

アンローダに過負荷がかかったとき，機械の破損を防止するためにアンローダの旋回異常が発生することがあります。異常が発生したときは，縦スクリュケースとタンクスクリュケースの接続部の下記点検箇所を確認したあと，処置を行なってください。

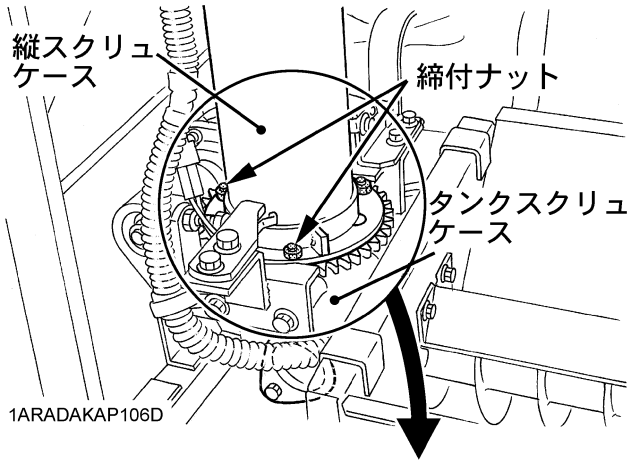
◆ スクリュケース締付ナット（3 箇所）

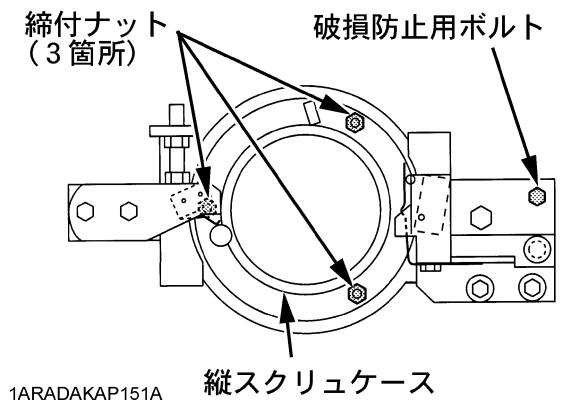
点検を行ない，ゆるんでいるときは，増締めを行なってください。

1. グレンタンクを取外します。
2. タンク後サイドカバーを取外します
3. ナット 3 箇所を増締めします。
4. タンク後サイドカバーを取付けます。
5. グレンタンクを取付けます。

◆ 破損防止用ボルト

点検を行ない，破損防止用ボルトが折れているときは，購入先に連絡してボルト交換を行なってください。





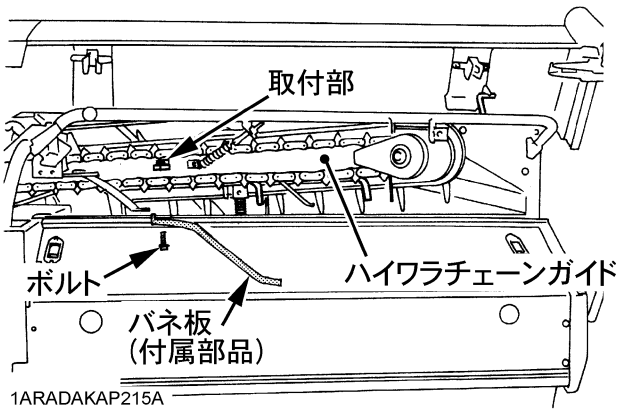
[G 仕様]

わらがカッタフレームの右側に乗る

わらがカッタフレームの右側に乗るときは，付属部品のバネ板を取付けてください。

◆ 取付けかた

下図の位置にボルトを外して取付けます。



付表

主要諸元

農機型式名			クボタ　R9701			
商品名			AR211			
区分			－	W	LW	LW2
機体寸	全長 (mm)		2660			
	全幅 (mm)		1420			
	全高 (mm)		1530			
機体質量 (kg)			690	700	710	730
エンジン部	型式名		Z482-C-2			
	種類		水冷４サイクル２気筒立形ディーゼル			
	総排気量 (L{cc})		0.479 {479}			
	出力／回転速度 (kW{PS}/rpm)		7.7 {10.5} /2900			
	使用燃料		ディーゼル軽油			
	燃料タンク容量 (L)		14			
	始動方式		セルモータ式			
	バッテリ (V･Ah)		12・27			
走行部	クローラ 中心距離 (mm)		740	730	730	800
	クローラ 幅×接地長 (mm)		280 × 950	330 × 950	330 × 1030	400 × 1030
	クローラ 平均接地圧 (kPa{kgf/cm²})		12.7 {0.13}	10.9 {0.11}	9.8 {0.10}	7.8 {0.08}
	最低地上高 (mm)		145			
	変速方式		油圧モータ式〔HST〕			
	変速段数		前進無段・後進無段〔副変速各２段〕			
	走行速度 (m/s)〔エンジン定格回転速度時〕	前進	〔副変速〕 移動 ： 0 ～ 1.1　　作業：0.2 ～ 0.5			
		後進	〔副変速〕 移動 ： 0 ～ 0.73　　作業：0 ～ 0.33			
	旋回方式		BCT			
刈取部	刈取り条数 (条)		2			
	刈幅〔デバイダ先端間隔〕 (mm)		795 ～ 845			
	刈取装置形式		往復動刃式			
	刃幅 (mm)		750			
	刈高さ範囲 (mm)		35 ～ 150			
	こぎ深さ調節方式		電動モータ式			
脱こく部	脱こく方式		下こぎ・単胴・軸流式			
	こぎ胴	径×幅 (mm)	390 × 430			
		回転速度 (rpm)	510			
	２番還元方式		スクリュ式			
	揺動板	幅×長さ (mm)	440 × 970			
	選別方式		揺動・圧風・全幅吸引			

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

農機型式名			クボタ　R9701			
商品名			AR211			
区分			－	W	LW	LW2
こく粒処理部	ホッパ	容量　(L{袋})	100 {約 2}　〔１袋約 50L〕			
		吐出口数　(口)	2			
排わら処理装置	工場出荷仕様		・50mm 切断カッタ　: S-15〔標準切断刃〕 ・35mm 切断カッタ　: SS-15〔標準切断刃〕**【LWN 仕様除く】** ・カッタ後部標準結束機　: K-A217SY **【LWN 仕様除く】** ・カッタ 後部ストンパ結束機　: K-A217SR **【LWN 仕様除く】**			
	オプション		・単体標準結束機　: K-A217Y ・単体ストンパ結束機　: K-A217R ・カッタ＋標準結束機　: SK-A217Y ・カッタ＋単体ストンパ結束機　: SK-A217R ・カッタ後部ドロッパ　: D-15 ・標準結束機後部寄せ装置　: YK-A43			
諸装置	自動化装置	自動こぎ深さ制御	○	○	○	○
		自動エンジン停止装置	○	○	○	○
	刈取オートクラッチ〔刈取部上昇時搬送駆動停止装置〕		○	○	○	○
	集中注油装置〔手動〕		－	－	－	－
	警報装置		充電，負荷 ，水温，オイル，もみ満杯，カッタ詰まり，結束ひも切れ			
適応作物範囲〔全長〕　(mm)			550 ～ 1300			
倒伏適応性　(度)			追刈り：85 以下・向刈り：70 以下			
作業能率〔計算値〕　(a/hr{分 /10a})			9 ～ 5 {61 ～ 102}			

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。
＊結束機又は，カッタ＋結束機は，LWN 仕様以外装着できません。

付表

農機型式名		ホッパ仕様	クボタ　R9701			
		グレンタンク仕様	クボタ　9801G			
商品名			AR213（G）			
区分		ホッパ仕様	W	LW	LW2	SLW
		グレンタンク仕様	－	LW	LW2	－
機体寸法	全長 (mm)		2660			
	全幅 (mm)	ホッパ仕様	1480			
		グレンタンク仕様	1540			
	全高 (mm)	ホッパ仕様	1590			
		グレンタンク仕様	1870			
機体質量 (kg)		ホッパ仕様	730	740	760	800
		グレンタンク仕様	－	810	830	－
エンジン部	型式名		D662-C-3			
	種類		水冷４サイクル３気筒立形ディーゼル			
	総排気量 (L{cc})		0.656 {656}			
	出力／回転速度 (kW{PS}/rpm)		9.2 {12.5} /2600			
	使用燃料		ディーゼル軽油			
	燃料タンク容量 (L)		14			
	始動方式		セルモータ式			
	バッテリ (V･Ah)		12・27			
走行部	クローラ 中心距離 (mm)	ホッパ仕様	730	730	800	800
		グレンタンク仕様	－	730	800	－
	クローラ 幅×接地長 (mm)	ホッパ仕様	330 × 950	330 × 1030	400 × 1030	400 × 1050
		グレンタンク仕様	－	330 × 1030	400 × 1030	－
	クローラ 平均接地圧 (kPa{kgf/cm²})	ホッパ仕様	11.4 {0.11}	10.7 {0.11}	9.0 {0.09}	9.3 {0.09}
		グレンタンク仕様	－	11.7 {0.12}	9.9 {0.10}	－
	最低地上高 (mm)		145			220
	変速方式		油圧モータ式〔HST〕			
	変速段数		前進無段・後進無段〔副変速各２段〕			
	走行速度 (m/s) 〔エンジン定格回転速度時〕	前進	〔副変速〕 移動 ： 0 ～ 1.3　　作業：0.3 ～ 0.68			
		後進	〔副変速〕 移動 ： 0 ～ 0.87　　作業：0 ～ 0.49			
	旋回方式		BCT			
刈取部	刈取り条数 (条)		2			
	刈幅〔デバイダ先端間隔〕 (mm)		795 ～ 845			
	刈取装置形式		往復動刃式			
	刃幅 (mm)		750			
	変速段数 (段)		2			
	刈高さ範囲 (mm)		35 ～ 150			
	こぎ深さ調節方式		電動モータ式			
	刈取横スライド量 (mm)		135			
脱こく部	脱こく方式		下こぎ・単胴・軸流式			
	こぎ胴	径×幅 (mm)	390 × 430			
		回転速度 (rpm)	510			
	２番還元方式		スクリュ式			
	揺動板	幅×長さ (mm)	440 × 970			
	選別方式		揺動・圧風・全幅吸引			

＊この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

農機型式名		ホッパ仕様	クボタ　R9701			
		グレンタンク仕様	クボタ　9801G			
商品名			AR213（G）			
区分		ホッパ仕様	W	LW	LW2	SLW
		グレンタンク仕様	－	LW	LW2	－
こく粒処理部	グレンタンク仕様	タンク容量（L{袋}）	330｛約 6.5｝〔１袋約 50L〕			
		アンローダ 排出方式	スクリュコンベア式			
		アンローダ 排出時間（ｓ）	～ 150			
		アンローダ 旋回範囲（度）・旋回方式	254〔アンローダ収納位置から左回り〕・電動モータ式			
		アンローダ 昇降範囲（度）・昇降方式	-13.5 ～ 45 ・電動モータ式			
		アンローダ 排出高さ〔作業時〕（mm）	960 ～ 3810			
		アンローダ 排出長さ〔作業時〕（mm）	2010 ～ 2730			
	ホッパ仕様	ホッパ 容量（L{袋}）	130｛約 2.5｝〔１袋約 50L〕			
		ホッパ 吐出口数（口）	2			
排わら処理装置		工場出荷仕様	・50mm 切断カッタ ： S-15〔標準切断刃〕 ・35mm 切断カッタ ： SS-15〔標準切断刃〕**【LWN 仕様除く】** ・カッタ後部標準結束機 ： K-A217SY **【LWN 仕様除く】** ・カッタ 後部ストンパ結束機 ： K-A217SR **【LWN 仕様除く】**			
		オプション	・単体標準結束機 ： K-A217Y ・単体ストンパ結束機 ： K-A217R ・カッタ＋標準結束機 ：SK-A217Y ・カッタ＋単体ストンパ結束機 ： SK-A217R ・カッタ後部ドロッパ ： D-15 ・標準結束機後部寄せ装置 ： YK-A43			
諸装置	自動化装置	自動こぎ深さ制御	○	○	○	○
	自動化装置	自動エンジン停止装置	○	○	○	○
	刈取オートクラッチ〔刈取部上昇時搬送駆動停止装置〕		○	○	○	○
	刈取スライド装置		○	○	○	○
	集 中 注 油 装 置〔手動〕		○	○	○	○
	警報装置		充電，負荷 ，水温，オイル，もみ満杯，カッタ詰まり，結束ひも切れ			
適応作物範囲〔全長〕（mm）			550 ～ 1300			
倒伏適応性（度）			追刈り：85 以下・向刈り：70 以下			
作業能率〔計算値〕（a/hr{分/10a}）			13 ～ 5 ｛45 ～ 102｝			

＊この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。
＊結束機又は，カッタ＋結束機は，LWN 仕様以外装着できません。

付表

農機型式名		ホッパ仕様	クボタ　R9701			
		グレンタンク仕様	クボタ　9801G			
商品名			AR216（G）			
区分		ホッパ仕様	W	LW	LW2	SLW
		グレンタンク仕様	－	LW	LW2	－
機体寸法	全長 (mm)		2660			
	全幅 (mm)	ホッパ仕様	1480			
		グレンタンク仕様	1540			
	全高 (mm)	ホッパ仕様	1590			
		グレンタンク仕様	1870			
機体質量 (kg)		ホッパ仕様	740	750	770	810
		グレンタンク仕様	－	820	840	－
エンジン	型式名		D782-C-4			
	種類		水冷４サイクル３気筒立形ディーゼル			
	総排気量 (L{cc})		0.778 {778}			
	出力／回転速度 (kW{PS}/rpm)		11.4 {15.5} /2600			
	使用燃料		ディーゼル軽油			
	燃料タンク容量 (L)		14			
	始動方式		セルモータ式			
	バッテリ (V･Ah)		12・27			
走行部	クローラ 中心距離 (mm)	ホッパ仕様	730	730	800	800
		グレンタンク仕様	－	730	800	－
	幅×接地長 (mm)	ホッパ仕様	330 × 950	330 × 1030	400 × 1030	400 × 1050
		グレンタンク仕様	－	330 × 1030	400 × 1030	－
	平均接地圧 (kPa{kgf/cm²})	ホッパ仕様	11.4 {0.12}	10.5 {0.11}	9.1 {0.09}	9.5 {0.10}
		グレンタンク仕様	－	11.8 {0.12}	10.0 {0.10}	－
	最低地上高 (mm)		145			220
	変速方式		油圧モータ式〔HST〕			
	変速段数		前進無段・後進無段〔副変速各２段〕			
	走行速度 (m/s) 〔エンジン定格回転速度時〕	前進	〔副変速〕 移動 ： 0 ～ 1.3　　作業：0.35 ～ 0.75			
		後進	〔副変速〕 移動 ： 0 ～ 0.87　　作業：0 ～ 0.49			
	旋回方式		BCT			
刈取部	刈取り条数 (条)		2			
	刈幅〔デバイダ先端間隔〕 (mm)		795 ～ 845			
	刈取装置形式		往復動刃式			
	刃幅 (mm)		750			
	変速段数 (段)		2			
	刈高さ範囲 (mm)		35 ～ 150			
	こぎ深さ調節方式		電動モータ式			
	刈取横スライド量 (mm)		135			
脱こく部	脱こく方式		下こぎ・単胴・軸流式			
	こぎ胴	径×幅 (mm)	390 × 430			
		回転速度 (rpm)	510			
	２番還元方式		スクリュ式			
	揺動板	幅×長さ (mm)	440 × 970			
	選別方式		揺動・圧風・全幅吸引			

＊この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

農機型式名			ホッパ仕様	クボタ　R9701			
			グレンタンク仕様	クボタ　9801G			
商品名				AR216（G）			
区分			ホッパ仕様	W	LW	LW2	SLW
			グレンタンク仕様	－	LW	LW2	－
こく粒処理部	グレンタンク仕様	タンク容量 (L{袋})		370｛約 7.5｝〔１袋約 50L〕			
		アンローダ	排出方式	スクリュコンベア式			
			排出時間 (s)	～ 180			
			旋回範囲（度）・旋回方式	254〔アンローダ収納位置から左回り〕・電動モータ式			
			昇降範囲（度）・昇降方式	-13.5 ～ 45 ・電動モータ式			
			排出高さ〔作業時〕 (mm)	960 ～ 3810			
			排出長さ〔作業時〕 (mm)	2010 ～ 2730			
	ホッパ仕様	ホッパ	容量 (L{袋})	130｛約 2.5｝〔１袋約 50L〕			
			吐出口数 (口)	2			
排わら処理装置		工場出荷仕様		・50mm 切断カッタ ： S-15〔標準切断刃〕**【N 仕様除く】** ・35mm 切断カッタ ： SS-15〔標準切断刃〕**【N 仕様除く】** ・カッタ後部標準結束機 ： K-A217SY **【W・N 仕様除く】** ・カッタ 後部ストンパ結束機 ： K-A217SR **【W・N 仕様除く】**			
		オプション		・単体標準結束機 ： K-A217Y **【N 仕様のみ】** ・単体ストンパ結束機 ： K-A217R **【N 仕様のみ】** ・カッタ＋標準結束機 ：SK-A217Y **【N 仕様のみ】** ・カッタ＋単体ストンパ結束機 ： SK-A217R **【N 仕様のみ】** ・カッタ後部ドロッパ ： D-15 ・標準結束機後部寄せ装置 ： YK-A43			
諸装置	自動化装置	自動こぎ深さ制御		○	○	○	○
		自動エンジン停止装置		○	○	○	○
		アンローダ自動旋回装置 **【グレンタンク仕様】**		○	○	○	○
	刈取オートクラッチ〔刈取部上昇時搬送駆動停止装置〕			○	○	○	○
	刈取スライド装置			○	○	○	○
	集中注油装置〔手動〕			○	○	○	○
	警報装置			充電，負荷 ，水温，オイル，もみ満杯，カッタ詰まり，結束ひも切れ			
適応作物範囲〔全長〕 (mm)				550 ～ 1300			
倒伏適応性 (度)				追刈り：85 以下・向刈り：70 以下			
作業能率〔計算値〕 (a/hr{分/10a})				14 ～ 5 {41 ～ 102}			

＊この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。
＊結束機又は，カッタ＋結束機は，LWN 仕様以外装着できません。

付表

農機型式名			ホッパ仕様	クボタ　R9701	
			グレンタンク仕様	クボタ　9801G	
商品名				AR217（G）	
区分			ホッパ仕様	LW	LW2
			グレンタンク仕様	LW	LW2
機体寸法	全長 (mm)			2660	
	全幅 (mm)		ホッパ仕様	1480	
			グレンタンク仕様	1540	
	全高 (mm)		ホッパ仕様	1590	
			グレンタンク仕様	1870	
機体質量 (kg)			ホッパ仕様	750	770
			グレンタンク仕様	820	840
エンジン部	型式名			D782-C-5	
	種類			水冷４サイクル３気筒立形ディーゼル	
	総排気量 (L{cc})			0.778 {778}	
	出力／回転速度 (kW{PS}/rpm)			12.1 {16.5} /2800	
	使用燃料			ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量 (L)			14	
	始動方式			セルモータ式	
	バッテリ (V･Ah)			12・27	
走行部	クローラ	中心距離 (mm)	ホッパ仕様	730	800
			グレンタンク仕様	770	800
		幅×接地長 (mm)	ホッパ仕様	330 × 1030	400 × 1030
			グレンタンク仕様	330 × 1030	400 × 1030
		平均接地圧 (kPa{kgf/cm²})	ホッパ仕様	10.8 {0.11}	9.2 {0.09}
			グレンタンク仕様	11.8 {0.12}	10.0 {0.10}
	最低地上高 (mm)			145	
	変速方式			油圧モータ式〔HST〕	
	変速段数			前進無段・後進無段〔副変速各２段〕	
	走行速度 (m/s)〔エンジン定格回転速度時〕		前進	〔副変速〕 移動 ： 0 ～ 1.4　　作業：0.4 ～ 0.8	
			後進	〔副変速〕 移動 ： 0 ～ 0.93　　作業：0 ～ 0.52	
	旋回方式			BCT	
刈取部	刈取り条数 (条)			2	
	刈幅〔デバイダ先端間隔〕 (mm)			795 ～ 845	
	刈取装置形式			往復動刃式	
	刃幅 (mm)			750	
	変速段数 (段)			2	
	刈高さ範囲 (mm)			35 ～ 150	
	こぎ深さ調節方式			電動モータ式	
	刈取横スライド量 (mm)			135	
脱こく部	脱こく方式			下こぎ・単胴・軸流式	
	こぎ胴		径×幅 (mm)	390 × 430	
			回転速度 (rpm)	510	
	２番還元方式			スクリュ式	
	揺動板		幅×長さ (mm)	440 × 970	
	選別方式			揺動・圧風・全幅吸引	

＊この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

農機型式名			ホッパ仕様	クボタ　R9701	
			グレンタンク仕様	クボタ　9801G	
商品名				AR217（G）	
区分			ホッパ仕様	LW	LW2
			グレンタンク仕様	LW	LW2
こく粒処理部	グレンタンク仕様	タンク容量　(L{袋})		370｛約 7.5｝〔１袋約 50L〕	
		アンローダ	排出方式	スクリュコンベア式	
			排出時間　(s)	～ 180	
			旋回範囲（度）・旋回方式	254〔アンローダ収納位置から左回り〕・電動モータ式	
			昇降範囲（度）・昇降方式	-13.5 ～ 45 ・電動モータ式	
			排出高さ〔作業時〕　(mm)	960 ～ 3810	
			排出長さ〔作業時〕　(mm)	2010 ～ 2730	
	ホッパ仕様	ホッパ	容量　(L{袋})	130｛約 2.5｝〔１袋約 50L〕	
			吐出口数　(口)	2	
排わら処理装置		工場出荷仕様		・50mm 切断カッタ　: S-15〔標準切断刃〕**【N 仕様除く】** ・35mm 切断カッタ　: SS-15〔標準切断刃〕**【N 仕様除く】** ・カッタ後部標準結束機　: K-A217SY **【N 仕様除く】** ・カッタ 後部ストンパ結束機　: K-A217SR **【N 仕様除く】**	
		オプション		・単体標準結束機　: K-A217Y **【N 仕様のみ】** ・単体ストンパ結束機　: K-A217R **【N 仕様のみ】** ・カッタ＋標準結束機　: SK-A217Y **【N 仕様のみ】** ・カッタ＋単体ストンパ結束機　: SK-A217R **【N 仕様のみ】** ・カッタ後部ドロッパ　: D-15 ・標準結束機後部寄せ装置　: YK-A43	
諸装置	自動化装置	自動こぎ深さ制御		○	○
		自動エンジン停止装置		○	○
		アンローダ自動旋回装置 **【グレンタンク仕様】**		○	○
	刈取オートクラッチ〔刈取部上昇時搬送駆動停止装置〕			○	○
	刈取スライド装置			○	○
	集中注油装置〔手動〕			○	○
	防じんカバー			○	○
	警報装置			充電，負荷，水温，オイル，もみ満杯，カッタ詰まり，結束ひも切れ	
適応作物範囲〔全長〕　(mm)				550 ～ 1300	
倒伏適応性　(度)				追刈り：85 以下・向刈り：70 以下	
作業能率〔計算値〕　(a/hr{分/10a})				15 ～ 5｛38 ～ 102｝	

＊この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。
＊結束機又は，カッタ＋結束機は，LWN 仕様以外装着できません。

付表

農機型式名				クボタ　R0301G	
商品名				AR317G	
区分				LW	LW2
機体寸法	全長		(mm)	3100	
	全幅		(mm)	1610	
	全高		(mm)	1930	
機体質量			(kg)	960	980
エンジン部	型式名			D782-C-5	
	種類			水冷４サイクル３気筒立形ディーゼル	
	総排気量		(L{cc})	0.778 {778}	
	出力／回転速度		(kW{PS}/rpm)	12.1 {16.5} /2800	
	使用燃料			ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量		(L)	14	
	始動方式			セルモータ式	
	バッテリ		(V･Ah)	12・27	
走行部	クローラ	中心距離	(mm)	810	880
		幅×接地長	(mm)	330 × 1116	400 × 1116
		平均接地圧	(kPa{kgf/cm²})	12.8 {0.13}	10.8 {0.11}
	最低地上高		(mm)	171	
	変速方式			油圧モータ式〔HST〕	
	変速段数			前進無段・後進無段〔副変速各２段〕	
	走行速度〔エンジン定格回転速度時〕		(m/s) 前進	〔副変速〕 移動 ： 0 ～ 1.1　作業：0.2 ～ 0.6	
			後進	〔副変速〕 移動 ： 0 ～ 0.8　作業： 0 ～ 0.4	
	旋回方式			BCT	
刈取部	刈取り条数		(条)	3	
	刈幅〔デバイダ先端間隔〕		(mm)	1150 ～ 1200	
	刈取装置形式			往復動刃式	
	刃幅		(mm)	1100	
	変速段数		(段)	2	
	刈高さ範囲		(mm)	35 ～ 150	
	こぎ深さ調節方式			電動モータ式	
脱こく部	脱こく方式			下こぎ・単胴・軸流式	
	こぎ胴	径×幅	(mm)	390 × 430	
		回転速度	(rpm)	510	
	２番還元方式			スクリュ式	
	揺動板	幅×長さ	(mm)	440 × 970	
	選別方式			揺動・圧風・全幅吸引	

＊この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

農機型式名				クボタ　R0301G	
商品名				AR317G	
区分				LW	LW2
こく粒処理部	グレンタンク仕様	タンク容量　(L{袋})		430 {約 8.5}　〔１袋約 50L〕	
		アンローダ	排出方式	スクリュコンベア式	
			排出時間　(s)	～ 210	
			旋回範囲（度）・旋回方式	254〔アンローダ収納位置から左回り〕・電動モータ式	
			昇降範囲（度）・昇降方式	-13.5 ～ 45 ・電動モータ式	
			排出高さ〔作業時〕　(mm)	1020 ～ 3870	
			排出長さ〔作業時〕　(mm)	2010 ～ 2730	
排わら処理装置		工場出荷仕様		・60mm 切断カッタ　: S-AR317〔標準切断刃〕 ・35mm 切断カッタ　: SS-AR317〔標準切断刃〕**【LWN 仕様除く】** ・カッタ後部標準結束機　: K-A217SY **【LWN 仕様除く】** ・カッタ 後部ストンパ結束機　: K-A217SR **【LWN 仕様除く】**	
		オプション		・単体標準結束機　: NK-15Y ・単体ストンパ結束機　: NK-15R ・カッタ＋標準結束機　: SK-15Y ・カッタ＋単体ストンパ結束機　: SK-15R ・カッタ後部ドロッパ　: D-15 ・標準結束機後部寄せ装置　: YNK-2	
諸装置	自動化装置	自動こぎ深さ制御		○	○
		自動エンジン停止装置		○	○
		アンローダ自動旋回装置		○	○
	刈取オートクラッチ〔刈取部上昇時搬送駆動停止装置〕			○	○
	集中注油装置〔電動〕			○	○
	警報装置			充電，負荷，水温，オイル，もみ満杯，カッタ詰まり，シーブ詰まり，結束ひも切れ	
適応作物範囲〔全長〕　(mm)				550 ～ 1300	
倒伏適応性　(度)				追刈り：85 以下・向刈り：70 以下	
作業能率〔計算値〕　(a/hr{分/10a})				18 ～ 8 {35 ～ 70}	

＊この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。
＊結束機又は，カッタ＋結束機は，LWN 仕様以外装着できません。

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

＊ 保証書	1
＊ 取扱説明書	1
＊ 本機カバー	1
＊ 小物部品	1 セット
＊ デバイダ	1 式
＊ デバイダカバー	1
＊ スローブローヒューズ（50A）	1
＊ バネ板（175 ページ参照）	1

オプション（別売品）（純正品を使いましょう）

◆ 刈取部

■スイスイデバイダ

倒伏した作物が能率よく刈取りできます。

品　番	品　名	対象型式
5H279-00000	ARM217 スイスイデバイダ	211・213・216・217
5H562-00000	ARM323 スイスイデバイダ	317

◆ 脱こく部

■キャノピ

雨よけ，日よけです。

品　番	品　名	対象型式
5H278-00000	CP217 キャノピ	211・213・216・217
5H590-00000	CP317 キャノピ	317

◆ こく粒処理部

■アンローダリモコン

もみ排出がスイッチ操作で行なえます。また，アンローダの昇降，旋回やもみの排出の操作がアンローダの先端で行なえます。

品　番	品　名	対象型式
5H276-9110-0	パワークラッチ，キット（AR217）	G 仕様

■作業灯ランプ

● 脱こく部入口とホッパ吐出口を照らします。

品　番	品　名	対象型式
5H215-9201-0	ランプ，アッシ（サギョウトウ）	ホッパ仕様

● アンローダ先端部から照らします。

品　番	品　名	対象型式
5H250-9202-0	ランプ，アッシ(G,サギョウトウ)	G 仕様

※アンローダリモコンを取付けた場合は下記品番で注文してください。

品　番	品　名	対象型式
52200-4184-2	ランプ２　アッシ	G 仕様

◆ 排わら処理部

■単体標準結束機

品　番	品　名	対象型式
57904-00000	K-A217Y	LWN 仕様

■単体ストンパ結束機

品　番	品　名	対象型式
57920-00000	K-A217R	LWN 仕様

■ 35mm・50mm・60mm 切断カッタ

品　番	品　　名	対象型式
5F541-00000	S-AR216 カッタ（50mm 切断）	211・213・216・217
5F543-00000	SS-AR216 スーパカッタ（35mm 切断）	
5F551-00000	S-AR317 カッタ（60mm 切断）	317
5F553-00000	SS-AR317 スーパカッタ（35mm 切断）	

■カッタ後部標準結束機

品　番	品　名	対象型式
57902-00000	K-A217SY	LWN 仕様

■カッタ後部ストンパ結束機

品　番	品　名	対象型式
57908-00000	K-A217SR	LWN 仕様

■カッタ後付けドロッパ

品　番	品　名	対象型式
57256-00000	D-15 ドロッパ	全型式

■カッタ＋標準結束機

品　番	品　名	対象型式
57903-00000	SK-A217Y	LWN 仕様

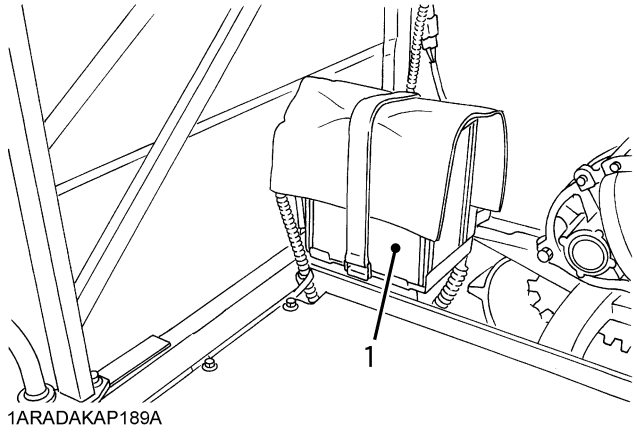
■カッタ＋ストンパ結束機

品　番	品　名	対象型式
57910-00000	SK-A217R	LWN 仕様

消耗部品(純正部品を使いましょう)

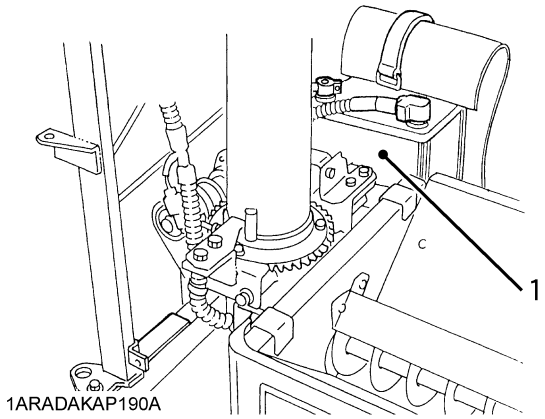
◆ バッテリ

[ホッパ仕様]



[ホッパ仕様]

[G 仕様]

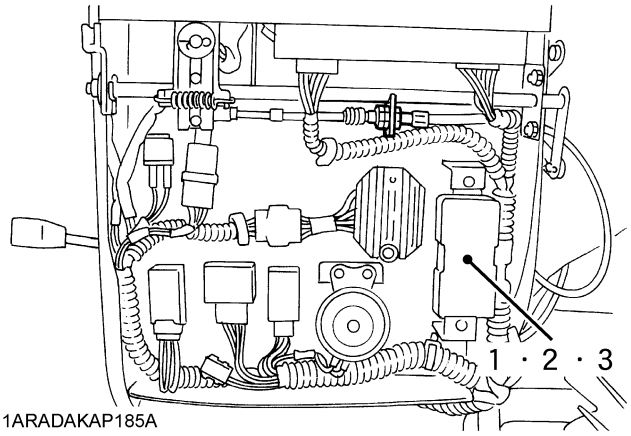


[G 仕様]

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	バッテリ (34B19L)	07908-46300	全型式
	バッテリ (34B19L-MF)	5H215-4191-0	

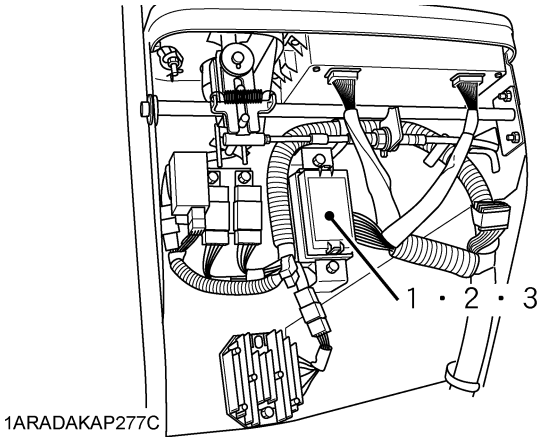
◆ ヒューズ

[211・213・216・217]



[211・213・216・217]

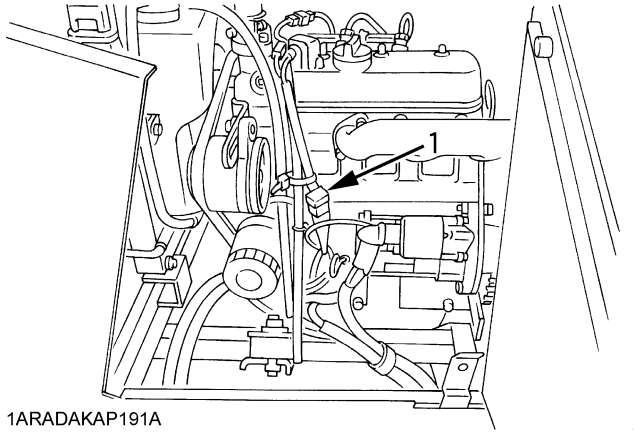
[317]



[317]

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	10A オートヒューズ	5H050-4162-0	全型式
2	15A オートヒューズ	5H050-4163-0	
3	20A オートヒューズ	5H050-4164-0	

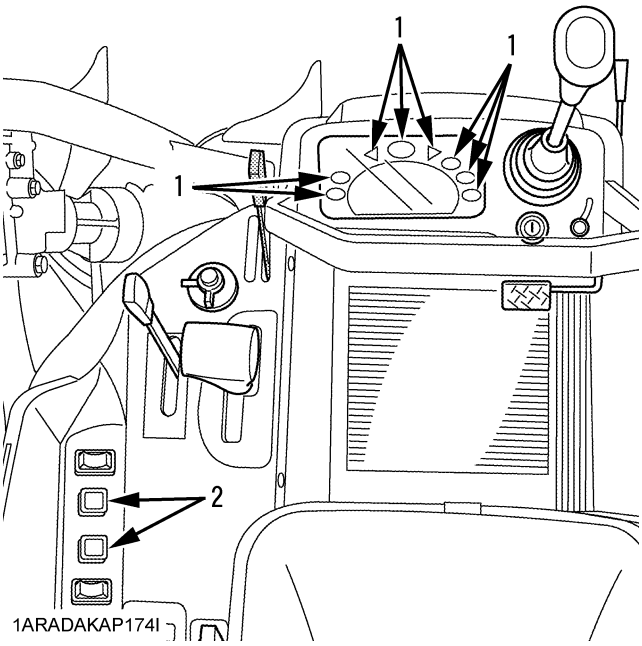
◆ スローブローヒューズ



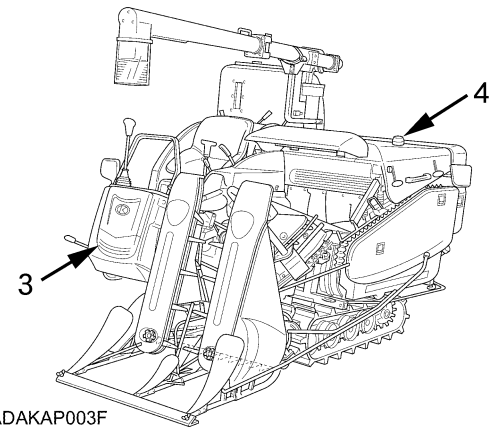
1ARADAKAP191A

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	スローブローヒューズ	34670-3453-0	全型式

◆ ランプ（電球）

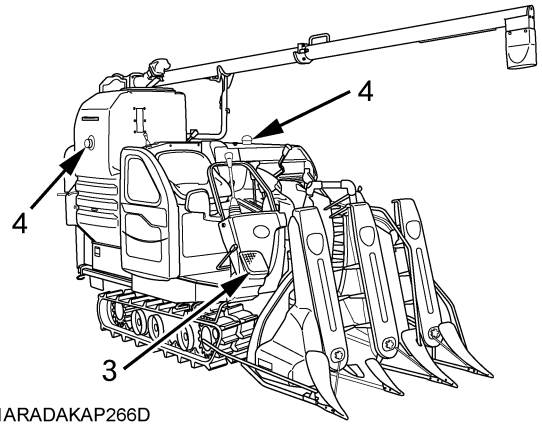


1ARADAKAP174I



1ARADAKAP003F

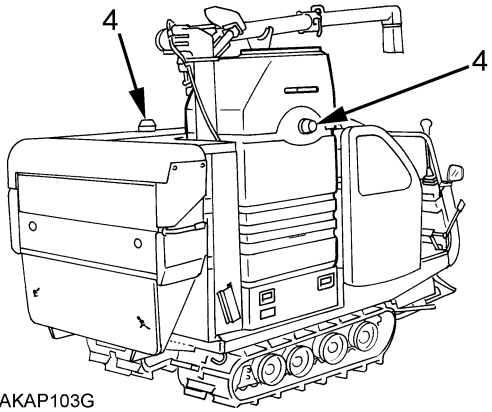
[317]



1ARADAKAP266D

[317]

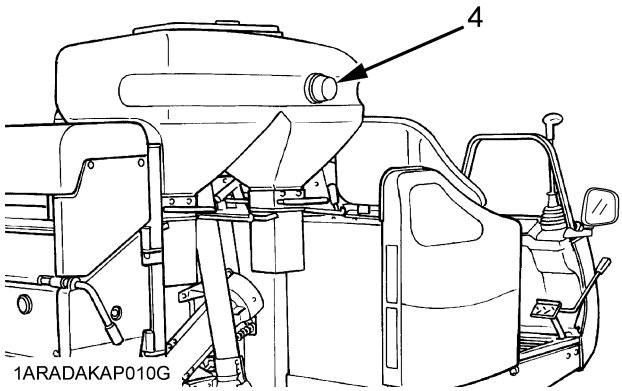
[G 仕様]



1ARADAKAP103G

[G 仕様]

[ホッパ仕様]

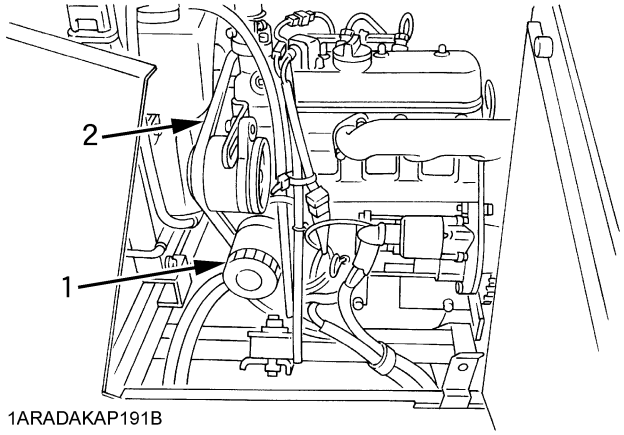


1ARADAKAP010G

[ホッパ仕様]

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	バルブ	52300-4142-0	全型式
2	ランプバルブ	5H215-4121-0	
3	ランプバルブ	5H276-4172-0	211・213・216・217
		57613-4172-0	317
4	ランプバルブ	36200-7517-0	全型式

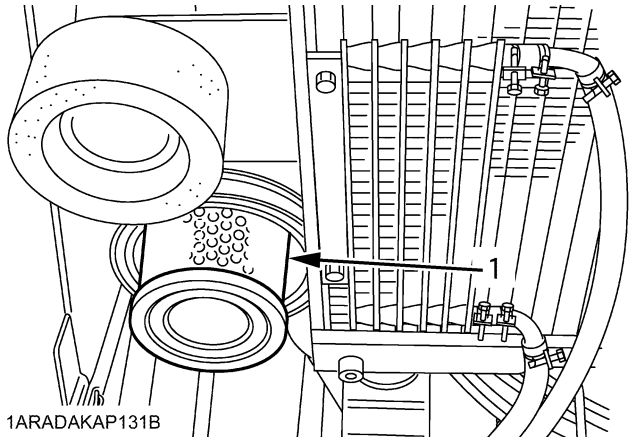
◆ オイルフィルタカートリッジ
◆ ファン駆動ベルト



1ARADAKAP191B

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	フィルタ（オイル，カートリッジ）	15853-9917-0	全型式
2	34.5 ブイベルト	15881-9701-0	211・213
	V ベルト（35.0）	16883-9701-0	216・217・317

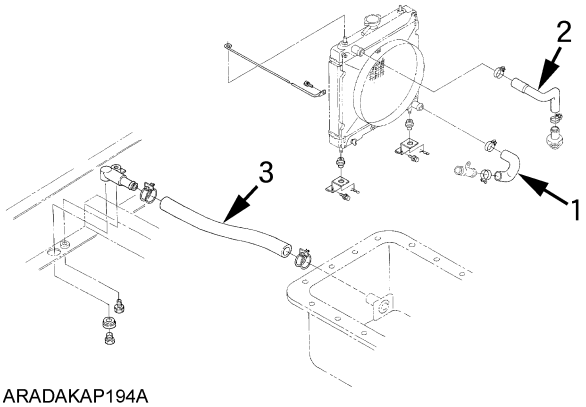
◆ エアクリーナエレメント



1ARADAKAP131B

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	エレメント，アッシ	6A100-8263-0	全型式

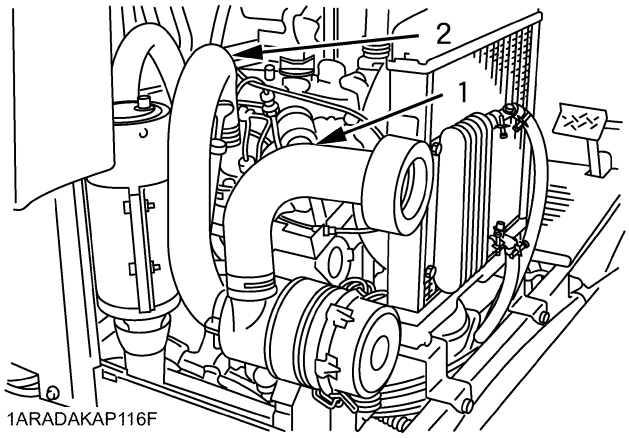
◆ ラジエータホース，オイルドレーンゴムホース



1ARADAKAP194A

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ホース（ウォータパイプ１）	52170-2539-0	全型式
2	ホース（ウォータパイプ２）	52170-2544-0	
3	チューブ（ハイユ）	52170-2591-0	211
		5H235-2591-0	213・216・217・317

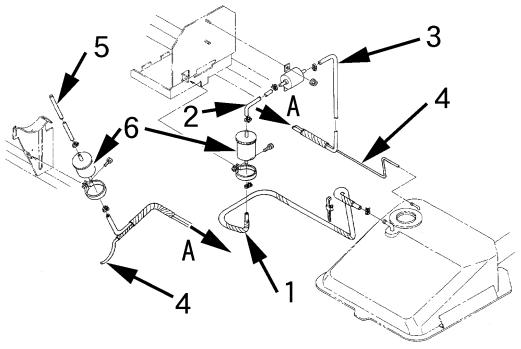
◆ インレットパイプ



1ARADAKAP116F

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	チューブ（インレットパイプ１）	5H215-2542-2	211
		5H235-2542-2	213・216・217・317
2	チューブ（インレットパイプ２）	5H215-2543-3	211
		5H235-2543-0	213・216・217・317

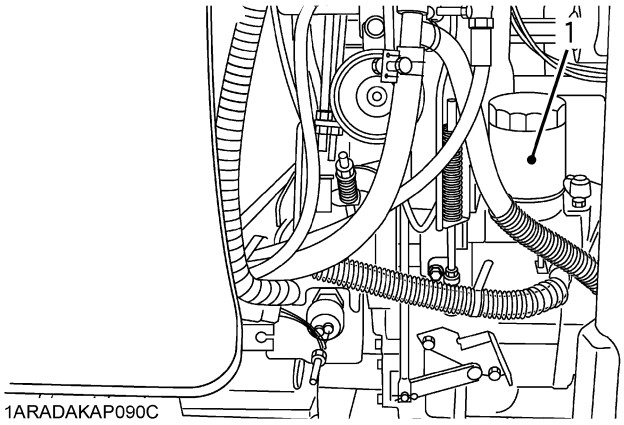
◆ フューエルパイプ
◆ フューエルフィルタアッシ



1ARADAKAP193A

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	フューエルチューブ	09661-70750	211・213・216・217
		09661-70800	317
2	フューエルチューブ	09661-70110	全型式
3	フューエルチューブ	09661-71500	
4	フューエルチューブ	09661-42000	211・213・216・217
		09661-42100	317
5	フューエルチューブ	09661-70220	211・213・216・217
		09661-70280	317
6	フューエルフィルタアッシ	12581-4301-2	全型式

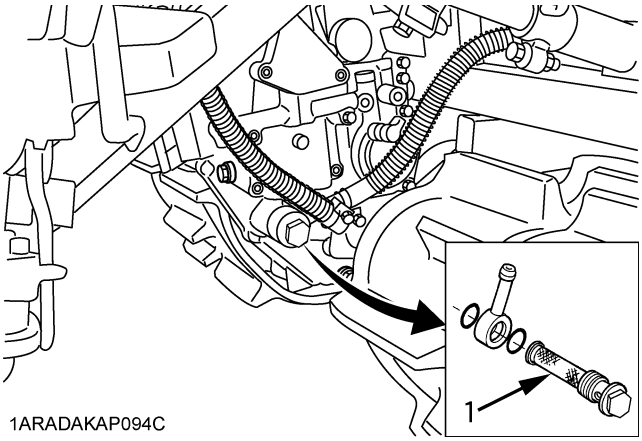
◆ ミッション･HSTオイルフィルタカートリッジ



1ARADAKAP090C

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	フィルタ（オイル）カートリッジ	5H550-1895-0	全型式

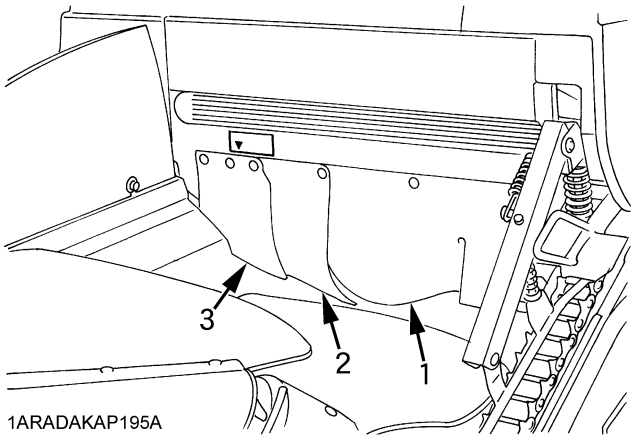
◆ ミッションオイル



1ARADAKAP094C

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	フィルタ（ミッション，100）	5H700-2738-0	全型式

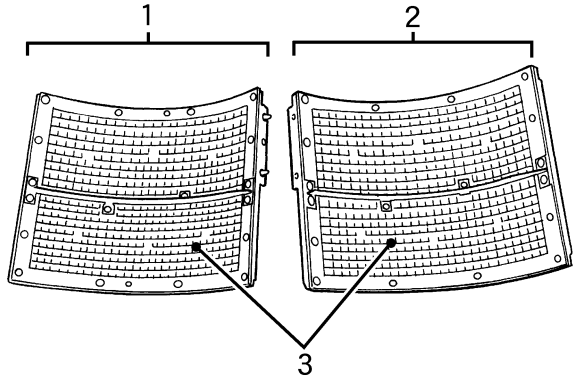
◆ 脱こく入口ハンプ



1ARADAKAP195A

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ハンプ（1，フロント）	53696-6121-0	211・213・216・217
		5K264-6121-0	317
2	ハンプ（2，フロント）	53696-6122-0	211・213・216・217
		5K264-6122-0	317
3	ハンプ（3，フロント）	53696-6123-0	211・213・216・217
		5K264-6123-0	317

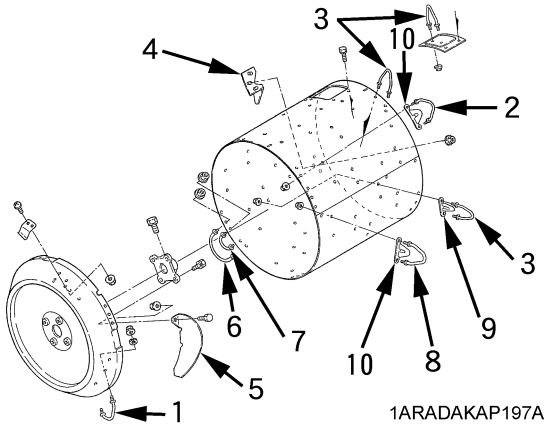
◆ 受あみ



1ARADAKAP196A

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	コンケーブ, アッシ（1）	53696-2101-0	211・213
		53698-2101-0	216・ 217・317
2	コンケーブ, アッシ（2）	53696-2102-0	211・213
		53698-2102-0	216・ 217・317
3	コンケーブ (9＋11.5)	53696-2122-0	211・213
	コンケーブ (10＋11.5＋13)	53698-2122-0	216・ 217・317

◆ こぎ歯

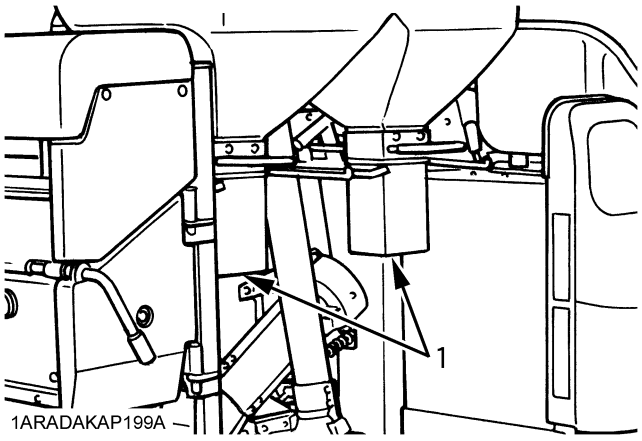


1ARADAKAP197A

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ダイ１セイソシ	53582-7212-0	全型式
2	ダイ２ホキョウシ	53582-7217-0	
3	ナミハ	53582-7219-0	
4	プレート（コキハ）	53696-2215-0	
5	イタセイソシ	53567-2145-0	
6	ダイ３セイソシ	53582-7214-0	
7	ダイ３セイソシショウ	53514-7215-0	
8	ダイ１ホキョウシ	53582-7216-0	
9	イタホキョウシ	53567-2146-0	
10	イタコキハ	53567-2147-0	

◆ 吐出口ブーツ

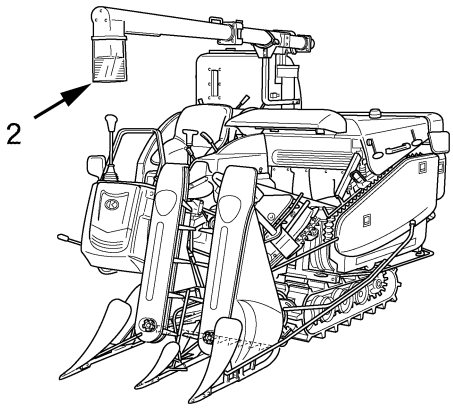
[ホッパ仕様]



1ARADAKAP199A

[ホッパ仕様]

[G 仕様]



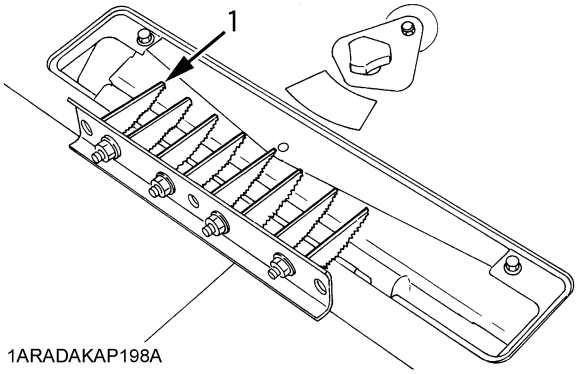
1ARADAKAP003J

[G 仕様]

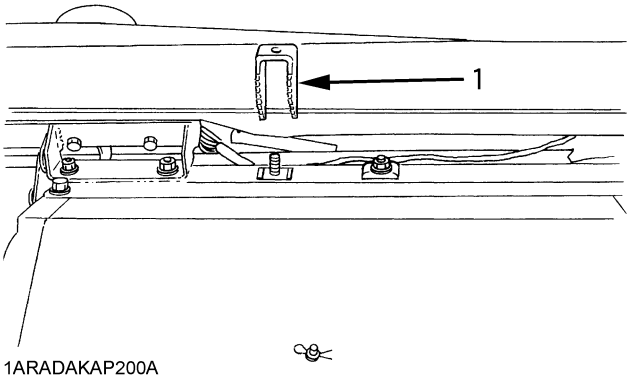
図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ブーツ（ホッパ）	53696-5323-0	ホッパ仕様
2	ブーツ	5G021-1421-0	G 仕様

◆ わら切刃

[穂先側]



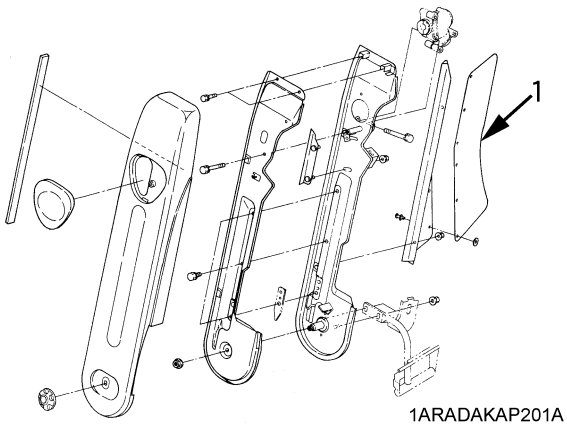
[株元側[216･217･317]]



図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ワラキリハ	53567-1319-0	全型式

◆ ハンプ

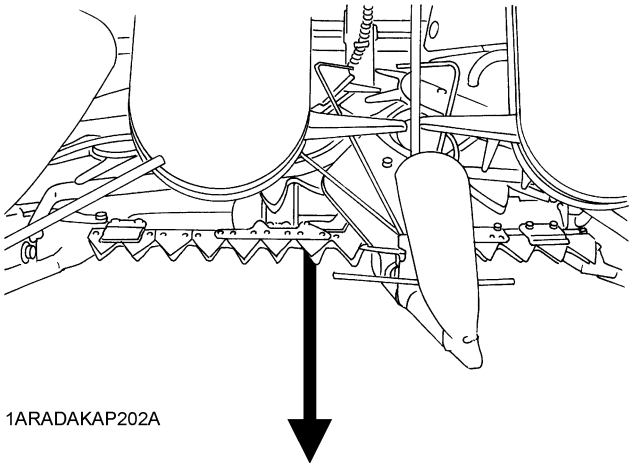
● 引起しフレーム左側

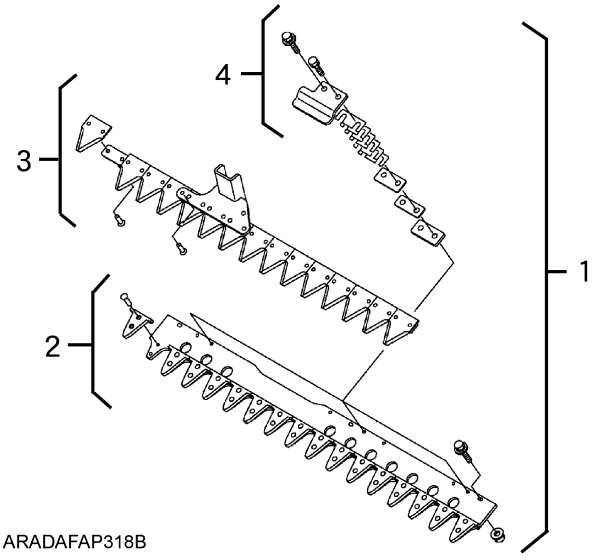


図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ハンプ（1. アンナイ）	5H215-5329-0	211・213・216・217

◆ 刈刃

[211・213・216・217]

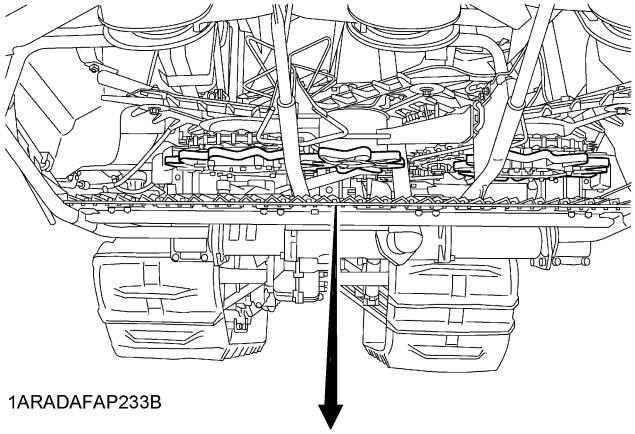




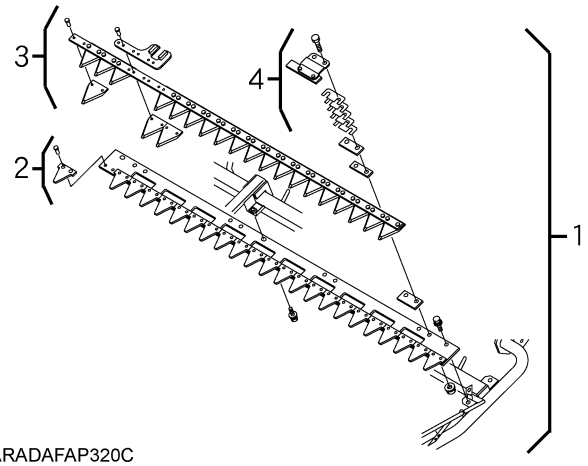
図番	品　　名	品　番
1	刈刃アッシ	5H276-5820-0
2	受刃コンプ	5H552-5830-0
3	刈刃コンプ	5H276-5840-0
4	ナイフヘッド	5H215-5841-0

[211・213・216・217]

[317]



1ARADAFAP233B



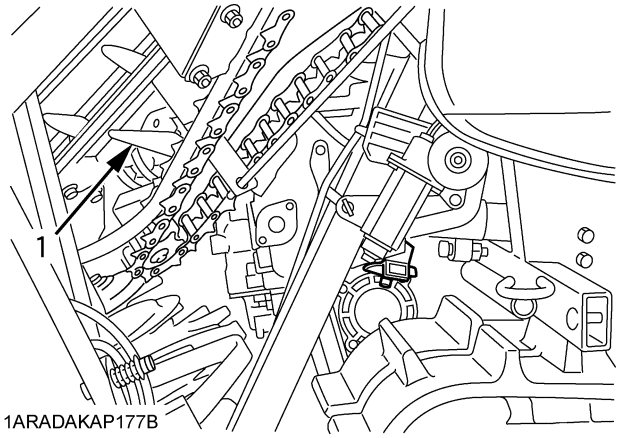
1ARADAFAP320C

図番	品　　名	品　番
1	刈刃アッシ	5H550-5801-0
2	受刃コンプ	5H550-5820-0
3	刈刃コンプ	5H550-5810-0
4	ナイフヘッド	5H550-5813-0

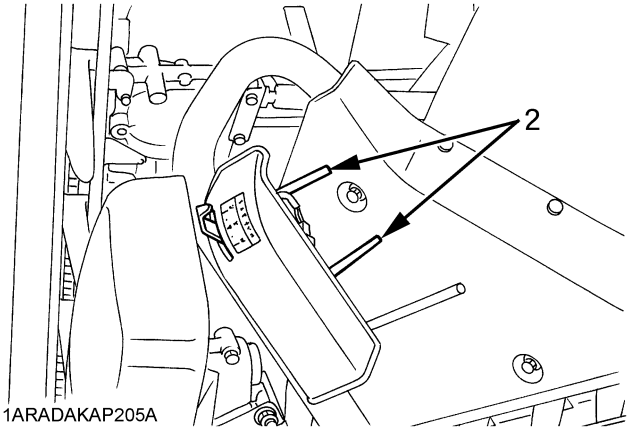
[317]

◆ 株元センサ
◆ 穂先センサ

[211・213・216・217]



1ARADAKAP177B

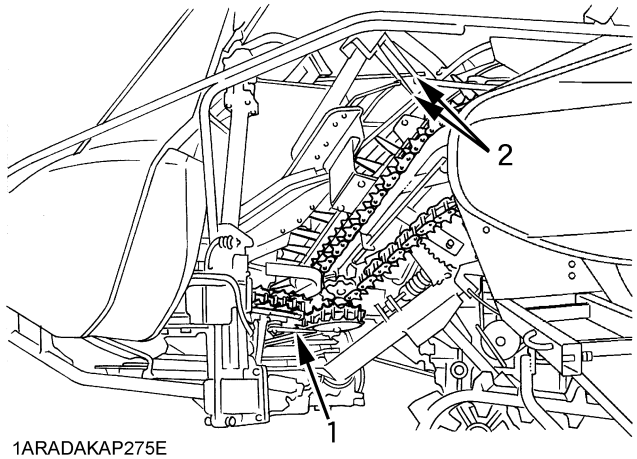


1ARADAKAP205A

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ホサキセンサ アッシシタ	56713-9560-0	全型式
2	センサ，アッシ (ホサキ)	5H215-7530-0	

[211・213・216・217]

[317]



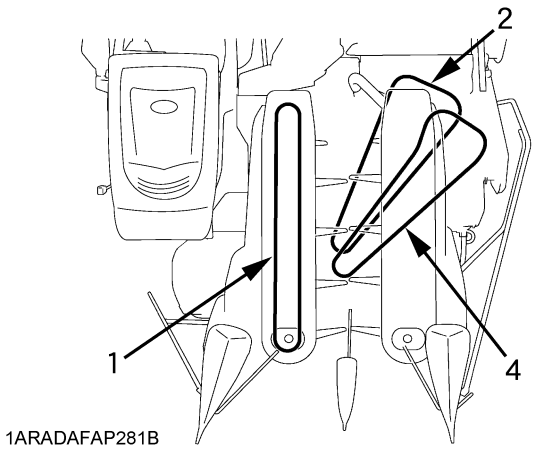
1ARADAKAP275E

図番	品　　名	品　番
1	スイッチ, アッシ（カブモト 100）	5H601-7503-0
2	センサ, アッシ（ホサキ）	5H550-7534-0

[317]

◆ 引起しチェーン
◆ 穂先供給チェーン
◆ 株元供給チェーン［211・213・216・217］
◆ 右株元・左株元チェーン［317］

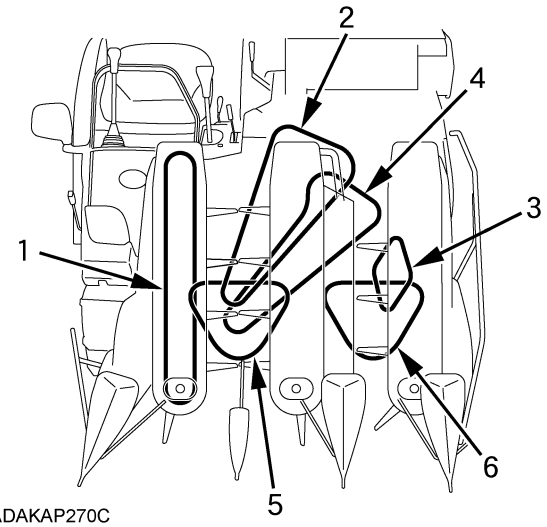
[211・213・216・217]



1ARADAFAP281B

[211・213・216・217]

[317]

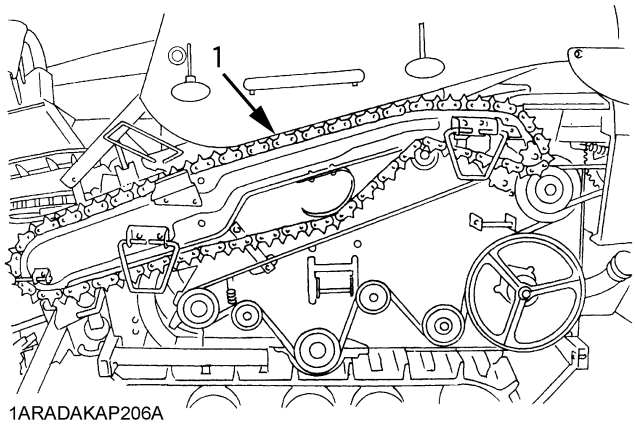


1ARADAKAP270C

[317]

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	チェーン, アッシ（ヒキオコシ）	5H235-5301-0	全型式
2	チェーン, アッシ（ホサキ）	5H215-6680-0	211・213・ 216・217
	チェーン, アッシ（ホサキ）	5H550-6670-0	317
3	チェーン, アッシ（ホサキ）	5H550-6801-0	317
4	チェーン, アッシ （キョウキュウ）	5H215-6620-0	211・213・ 216・217
		5H550-6620-0	317
5	チェーン （ミギカブモト）	5H550-6135-0	317
6	チェーン （ヒダリカブモト）	5H550-6159-0	317

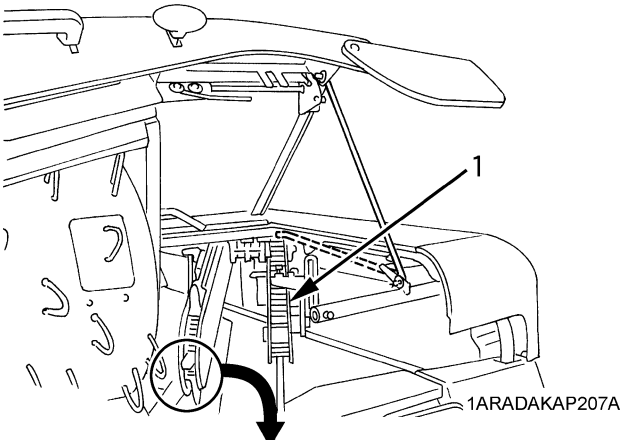
◆ フィードチェーン



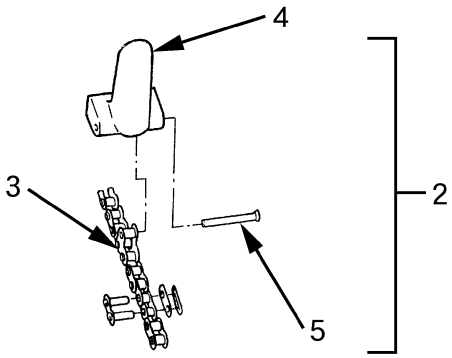
1ARADAKAP206A

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	チェーン (フィード，85L)	53696-4212-0	211・213・ 216・217
	チェーン (フィード)	5K264-4212-0	317

◆ 排わら穂先・株元チェーン



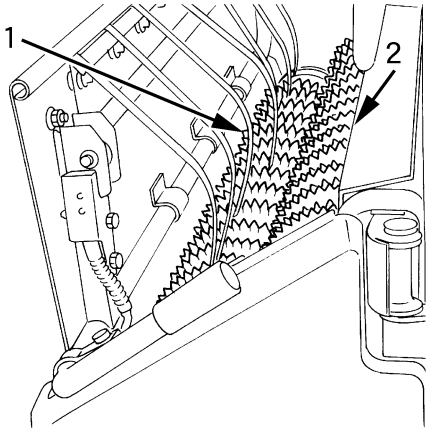
1ARADAKAP207A



1ARADAKAP211A

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	チェーン（ハイワラ）	53696-4319-2	全型式
2	チェーン，アッシ （ハイワラホサキツメ）	53696-4340-0	
3	チェーン，アッシ （ハイワラホサキ）	53696-4341-0	
4	搬送爪	53961-4421-0	
5	穂先爪ピン	55411-6363-0	

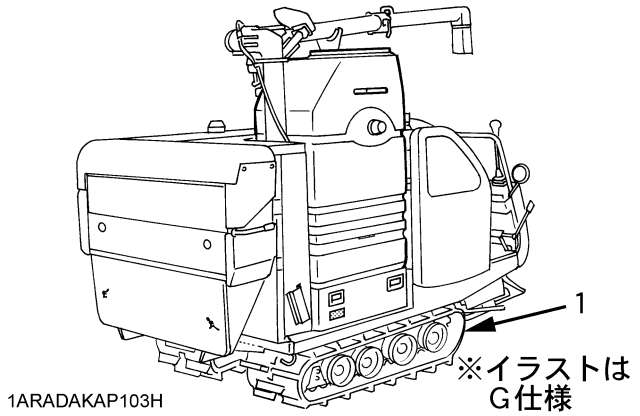
◆ カッタ刃・供給刃



1ARADAKAP208A

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	セツダンバ（130）	57775-2223-0	全型式
2	ロータ（130，ギヤ）	57764-2115-0	

◆ クローラ



1ARADAKAP103H

[211・213・216・217]

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	クローラ（280-34）	5H215-2151-0	標準
	クローラ（330-34）	5H216-2151-0	W
	クローラ（330-36）	5H217-2151-0	LW
	クローラ（400-36）	5H213-2151-0	W2

[211・213・216・217]

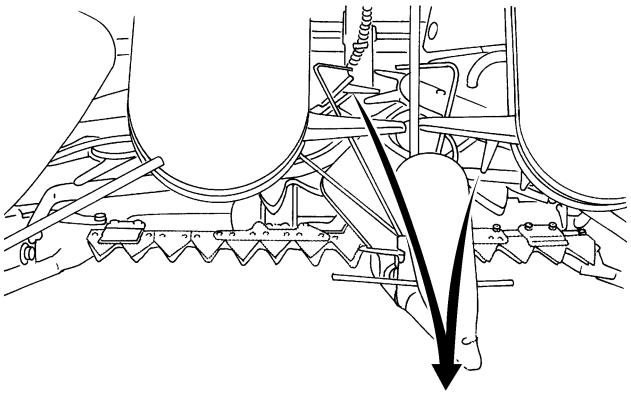
[317]

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	クローラ（330-39）	5H554-2151-0	LW
	クローラ（400-39）	5H554-2151-0	LW2

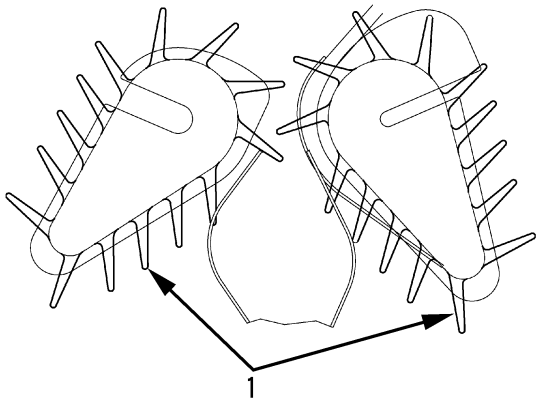
[317]

◆ 突起付ベルト

[211・213・216・217]



1ARADAKAP077E

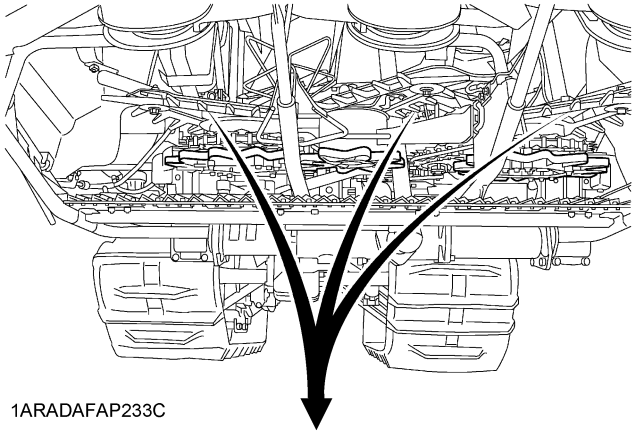


1ARADAFAP246B

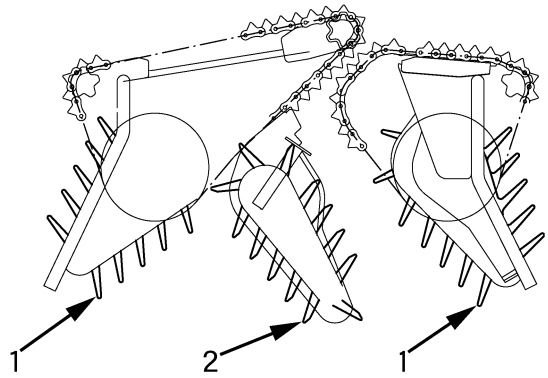
図番	品　　名	品　　番
1	ベルト（32，トッキ）	5H215-6181-0

[211・213・216・217]

[317]



1ARADAFAP233C

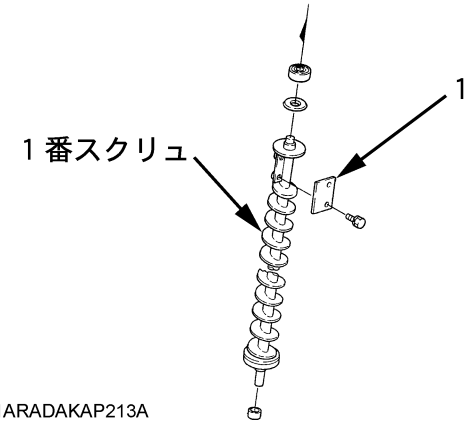


1ARADAFAP247B

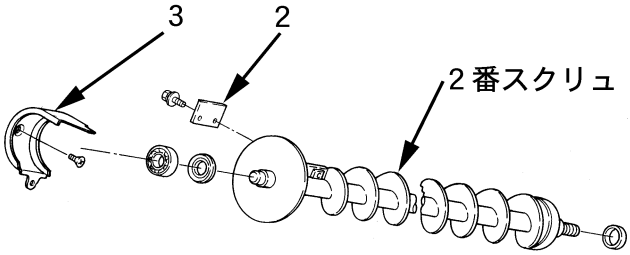
図番	品　　名	品　　番
1	ベルト（32，トッキ）	5H215-6181-0
2	ベルト（29，トッキ）	5H550-6181-0

[317]

◆ 1・2番ハネ
◆ 2番ライナ



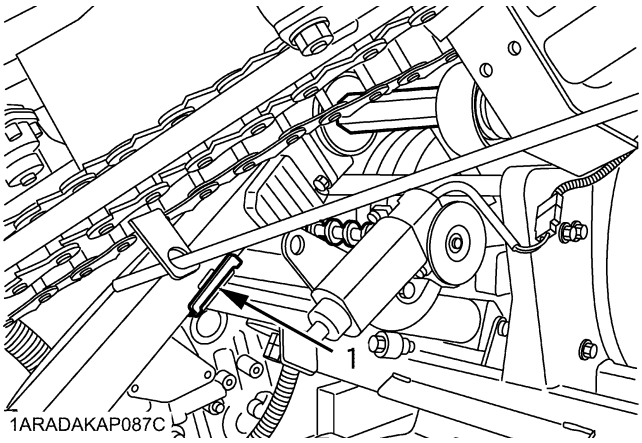
1ARADAKAP213A



1ARADAKAP214A

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	プレート（1バンハネ）	53696-5212-0	全型式
2	プレート（2バンハネ）	53696-3152-0	
3	カナグ （2，2バンライナ）	53696-3158-2	

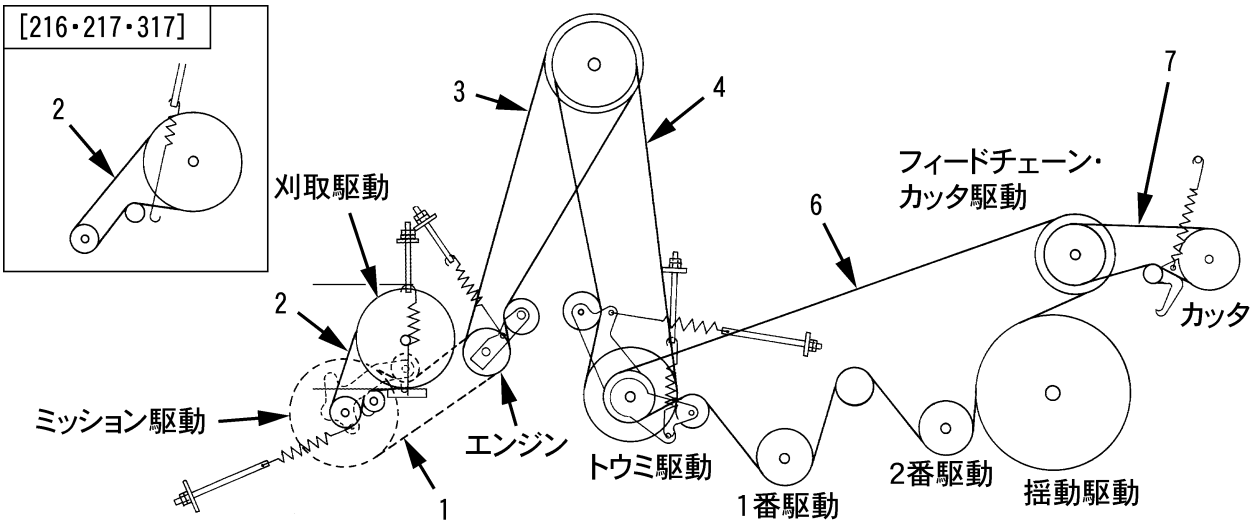
◆ スライドブッシュ



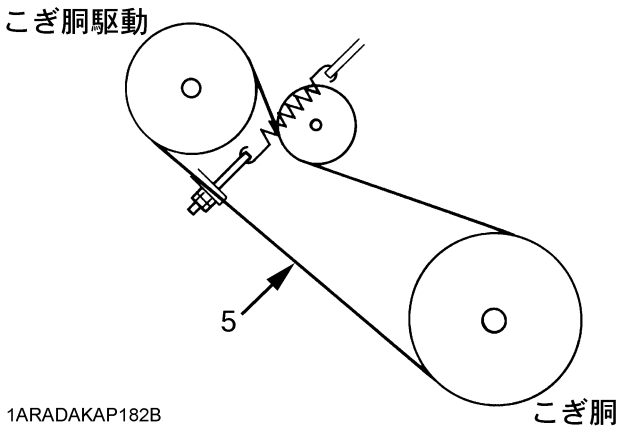
1ARADAKAP087C

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ブッシュ（スライド）	5H552-4915-0	211・213・ 216・217

◆ 各ベルト

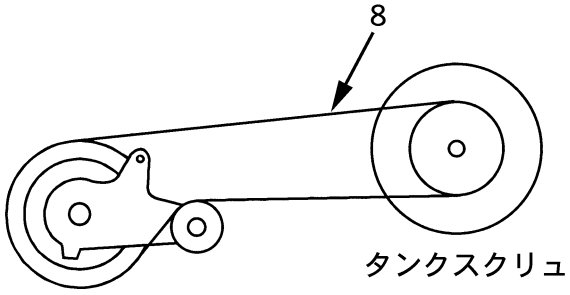


1ARADAKAP181B



1ARADAKAP182B

G仕様



1ARADAKAP184B

	図番	品　　名	品　番	対象型式		図番	品　　名	品　番	対象型式
運転席・刈取部周辺	1	Vベルト（特B38）	5H274-1145-0	211	脱こく部・カッタ部周辺	4	Vベルト（特B76）	53696-6512-0	211・213・216・217
		Vベルト（特B39）	5H225-1145-2	213・216・217				5K264-6512-0	317
		Vベルト（特B50）	5H554-1145-0	317		5	Vベルト（特C50）	53696-6513-0	211
	2	Vベルト（特A35）	51579-4812-0	211			Vベルト（特B50）	53698-6513-0	213・216・217
		Vベルト（特A35）	5H275-1275-0	213				5K252-1572-0	317
		Vベルト（特A34）	5H276-1275-0	213SLW・216・217		6	Vベルト（特B108）	53696-6514-0	213・216・217
		Vベルト（特A33）	5H215-1275-0	216SLW					
		Vベルト（特B46）	5H554-1275-0	317				5K264-6514-0	317
脱こく部・カッタ部周辺	3	Vベルト（特B76）	5H215-1215-0	211		7	Vベルト（特B39）	57764-4119-0	全型式
		Vベルト（特C76）	5H235-1215-0	213・216・217		8	Vベルト（特A40）	5H250-1151-0	213・216・217
		Vベルト（特C77）	5H554-1215-0	317			Vベルト（特A43）	5H554-1151-0	317

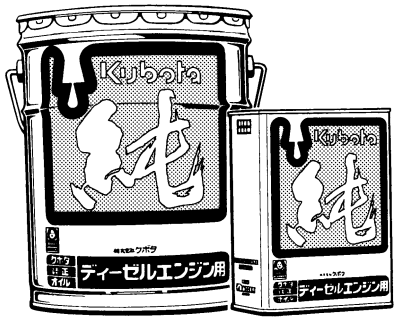
クボタ純オイル

■オイルはクボタ純オイルをお使いください。

オイルは，コンバインの開発研究から生まれたクボタ純オイルを，必ずお使いください。
市販のオイルをご使用になりますと，あなたの大切なコンバインの寿命を縮めることがあります。

お買求めは，購入先へご用命ください。

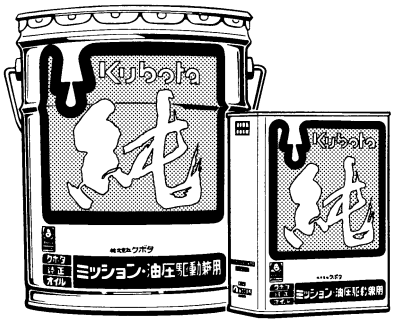
● **D30 又は D10W30（ディーゼルエンジン用）**



20L　4L

1ARADAFAP393A

● **スーパー UDT**
（油圧駆動・ミッション油圧・各ギヤ兼用）



20L　4L

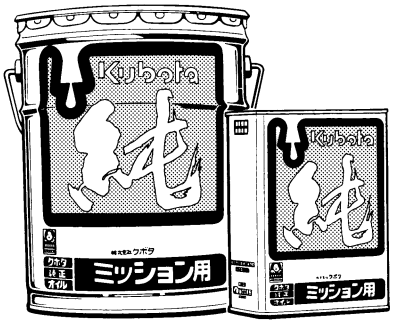
1ARADAFAP394A

● **M80B（ミッション油圧兼用）**

20L　4L

1ARADAFAP395A

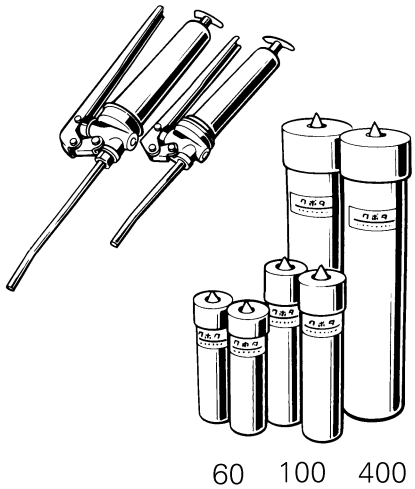
● **M90（一般ミッション・各ギヤ用）**



20L　4L

1ARADAFAP396A

■クボタスペアグリース



60　100　400

1ARADAFAP397A

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点は まず，購入先へ ご相談ください。

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名	担当	電話（　　）　　－

ご購入日	型式	車台番号

エンジン型式	機番	その他装着型式	機番

万一ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

クボタ機械サービス株式会社

北海道営業技術推進部：電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目１番１号
秋田営業技術推進部：電(018)845-1644	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部：電(022)384-5162	〒981-1221	名取市田高字原182番地の１
東京営業技術推進部：電(048)862-1588	〒338-0832	さいたま市桜区西堀５丁目２番36号
新潟営業技術推進部：電(025)285-1263	〒950-0992	新潟市上所上１丁目14番15号
金沢営業技術推進部：電(076)275-1121	〒924-0038	白山市下柏野町956-１
名古屋営業技術推進部：電(0586)24-5111	〒491-0031	一宮市観音町１番地の１
大阪営業技術推進部：電(06)6470-5860	〒661-8567	尼崎市浜１丁目１番１号
岡山営業技術推進部：電(086)279-4511	〒703-8216	岡山市宍甘275番地
米子営業技術推進部：電(0859)39-3181	〒689-3547	米子市流通町430-12
株式会社四国クボタ 営業技術課：電(087)874-8500	〒769-0102	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３
福岡営業技術推進部：電(092)606-3725	〒811-0213	福岡市東区和白丘１丁目７番３号
熊本営業技術推進部：電(096)357-6181	〒861-4147	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１
本社営業技術部：電(072)241-8092	〒590-0823	堺市石津北町64番地

株式会社クボタ

機械札幌事務所：電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目１番１号
機械東日本事務所：電(048)862-1121	〒338-0832	さいたま市桜区西堀５丁目２番36号
機械西日本事務所：電(06)6470-5970	〒661-8567	尼崎市浜１丁目１番１号
機械福岡事務所：電(092)606-3161	〒811-0213	福岡市東区和白丘１丁目７番３号

AR211/213/216/217/317

AJ . H . 12 - 12 . 20 . AK

Kubota

安全宣言

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が
一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

株式会社クボタ
〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
TEL.06-6648-2111
FAX.06-6648-3862

品番 5H276-8542-3